

UHF TRANSCEIVER ID-31

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この電子版取扱説明書は、詳細な機能について説明しています。
基本的な内容については、冊子版取扱説明書をご覧ください。

レピータリストを更新したい場合は
こちらをクリック



はじめに

1 レピータ / デュプレックス運用について

2 DR モード<準備編>

3 DR モード<基本編>

4 DR モード<応用編>

5 GPS/GPS-A の操作

6 ボイスメモリーの使いかた

7 メモリーの使いかた

8 スキャンについて

9 プライオリティースキャン

10 MENU 画面について

11 各種機能の使いかた

12 microSD カードの使いかた

困ったときは

さくいん

はじめに

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。
 D-STARは、一般社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。
 APRSは、Bob Bruninga氏WB4APRの登録商標です。
 Adobe、Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標です。
 その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
 アイコム株式会社の著作物の全部、または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製を禁止します。

電子版取扱説明書(本書)について

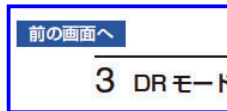
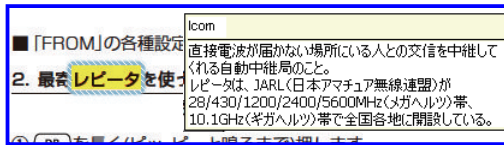
本書では、ID-31の性能を十分に発揮していただけるよう、本製品の機能について、詳細に説明しています。
 また、電子文書の便利な機能をご利用いただけます。

◎前に表示していた画面(ページ)に移動します

各ページ左上の「前の画面へ」をクリックすると、前に表示していたページに移動します。

◎用語解説を表示します

黄色でハイライトされた用語にマウスポインターを合わせると、その解説を表示します。



◎キーの位置をイラスト上でお知らせします

赤色の下線(“ ”)にマウスポインターを合わせると、該当キーの場所をイラストに赤色の丸印で表示してお知らせします。

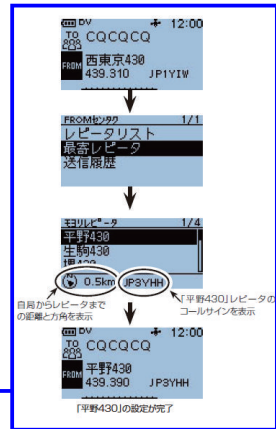
- ② 上下キーで“FROM”を選択し、決定キーを押します。
- ③ 上下キーで“最寄レピータ”を選択し、決定キーを押します。

例:文中の「上下キー」にマウスポインターを合わせると、該当キーが赤色の丸印で囲まれます。



◎操作手順と連動した画面を掲載しています

ページの右半分には、具体的な設定や操作の例を、順を追って掲載しています。



◎クリックすると参照ページに移動します

(P4-34)

*位置情報(P4-34)“だいたい”に設定されていると、レピータまでの距離が5km以内になると、方向が表示されません。

Adobe® Reader®の機能について

Adobe® Reader®を利用して、次の機能をお使いいただけます。

◎キーワード検索ができます

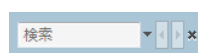
「編集(E)」メニューの中の「簡易検索(E)」または「高度な検索(V)」をクリックすると、検索画面が表示されます。

PDFファイル内で、キーワードを検索するときに便利な機能です。

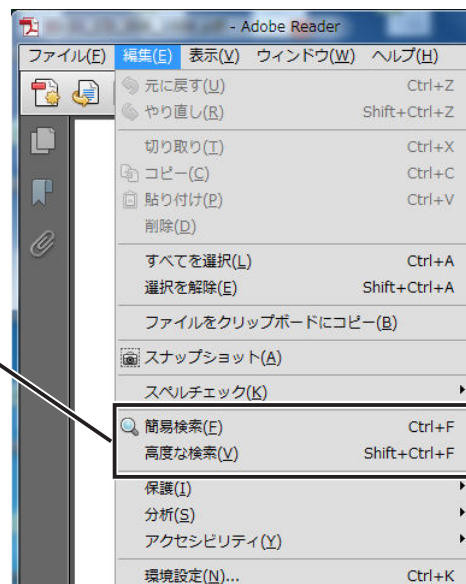
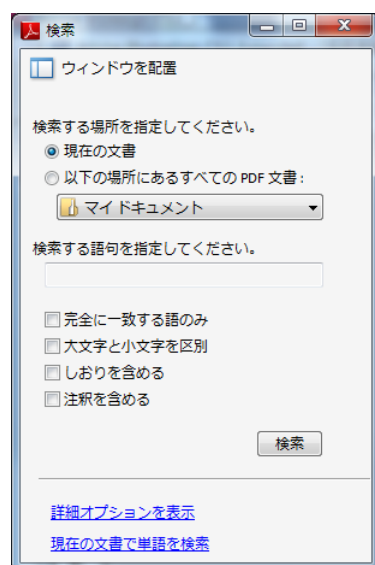
※メニュー画面は、お使いのAdobe® Reader®のバージョンによって異なる場合があります。

クリックすると、簡易検索画面または高度な検索画面を表示します。

◎簡易検索画面



◎高度な検索画面



◎任意のページを印刷できます

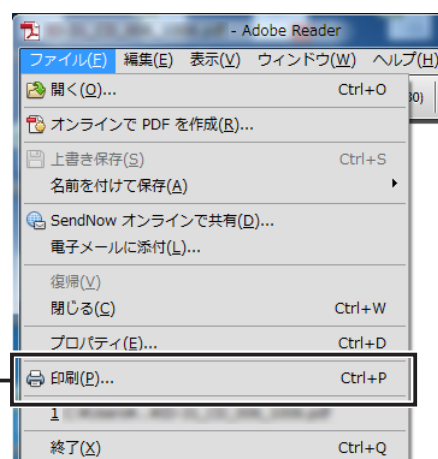
「ファイル(F)」メニューの中の「印刷(P)」をクリックして、印刷するページや用紙サイズを設定してください。

※設定はプリンターによって異なりますので、お使いのプリンターの取扱説明書をご覧ください。

※用紙サイズをA4に設定して印刷すると、等倍サイズで印刷できます。

※メニュー画面は、お使いのAdobe® Reader®のバージョンによって異なる場合があります。

クリックすると、印刷設定画面を表示します。



■ オートレピータ機能での交信	1-2
◇レピータ周波数の設定	1-2
◇レピータ局を介して交信する	1-3
◇レピータ局の中継が必要かどうかを確認する	1-3
■ デュプレックス運用について	1-4
◇オフセット周波数の設定	1-4
◇デュプレックスモードの設定	1-5
◇デュプレックスモードで交信する	1-5
■ 送信時のオフバンド表示について	1-5

1 レピータ / デュプレックス運用について

■ オートレピータ機能での交信

ID-31は、オートレピータ機能を搭載しています。
周波数を**439.000MHz~440.000MHz**に設定するだけで、自動的にトーンエンコーダー(88.5Hz)とデュプレックス(DUP-)が設定され、**レピータ**運用ができます。

◎初期設定では、オートレピータ機能が「ON」に設定されています。MENU画面内の「**オートレピータ**」項目で「OFF」に設定できます。(P10-48)

機能設定 > オートレピータ

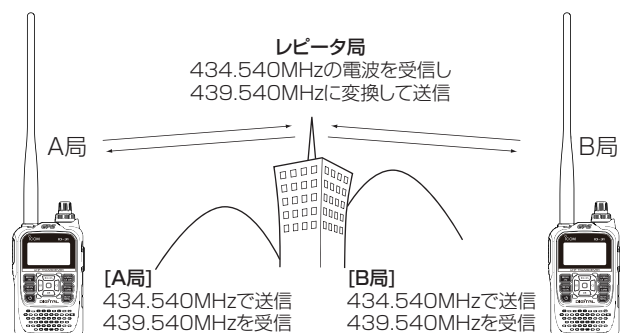
◎**トーン周波数**(初期値: 88.5Hz)と**オフセット周波数**(初期値: 5MHz)は、MENU画面内の「**レピータトーン周波数**」項目、「**オフセット周波数**」項目で変更できます。

(P10-11)

DUP/トーン設定 > レピータトーン周波数

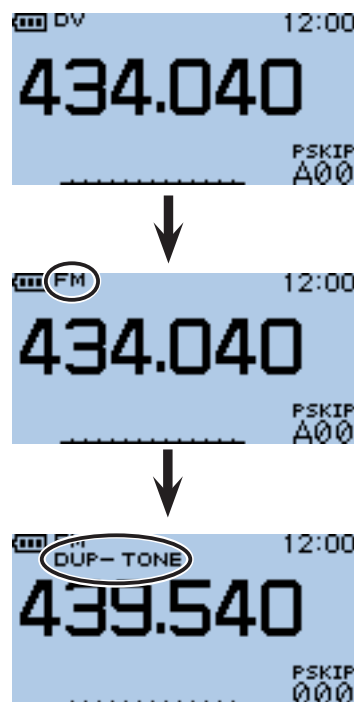
DUP/トーン設定 > オフセット周波数

◎430MHz帯では、各地区にレピータが設置されていますので、レピータ局の周波数は、運用の前にJARL NEWSや各専門誌、インターネットなどでご確認ください。



◇ レピータ周波数の設定

- ① **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)を押して、VFOモードにします。
- ② **[FM/DV]** (FM/DV SCAN)を数回押して、FMモードを選択します。
- ③ **[DIAL]**を回して、レピータ局から受ける電波の周波数を設定します。
 - オートレピータ機能により、周波数を合わせるだけで、レピータ運用モードになります。
 - ※レピータの周波数によっては、手動で設定する必要がありますので、本製品のオートレピータ機能が動作する周波数範囲をご確認ください。
- ④ トーンエンコーダーとデュプレックスが設定され、「**DUP- TONE**」がディスプレイに表示されます。

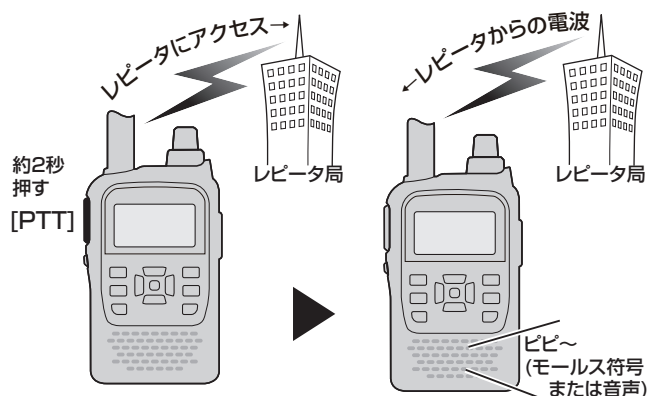
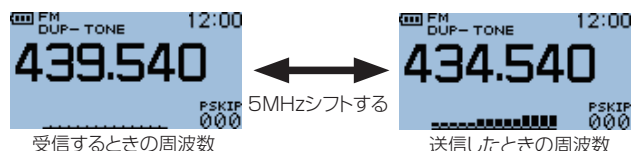


【ご参考】

- レピータアクセス用トーン周波数(P10-11)とオフセット周波数(P10-11)を変更すると、オートレピータ機能のトーン周波数とオフセット周波数も変更されます。
設定されたオフセット周波数によっては、送信したとき、「オフバンド表示」(P1-5)になることがあります。
- D-STAR®レピータへのアクセスについては、「DRモード<基本編>」(3章)をご覧ください。

◇ レピータ局を介して交信する

- ① 約2秒だけ [PTT] を押します。
 - 発射した電波がレピータ局に届いていれば、[PTT]をはなした直後に、ID信号(モールス符号または音声)を受信できます。
 - ※ [PTT]をはなすタイミングが遅いと、レピータから送信されたID信号を受信できない場合があります。
- ② シンプレックス運用と同じように、送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。

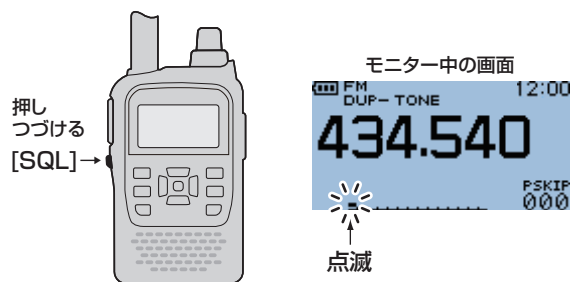


◇ レピータ局の中継が必要かどうかを確認する

レピータ局の運用中に、レピータを中継しなくても交信できるかどうか確認できます。

[SQL]を押しているあいだ、交信相手の信号が受信(モニター)できれば、レピータ局を使用しなくても交信できます。

- ※モニターしているあいだは、信号がなくても"送信/受信表示ランプ"が緑色に点灯し、"S/RFメーター表示部"の1ドットだけが点滅します。
- ※モニターしているあいだも、周波数表示がオフセット周波数分だけシフトします。
- ※交信相手の信号が受信できるときは、439.000MHz以下の周波数に移って交信してください。




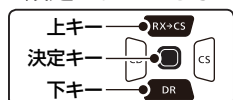
1 レピータ / デュプレックス運用について



■ デュプレックス運用について

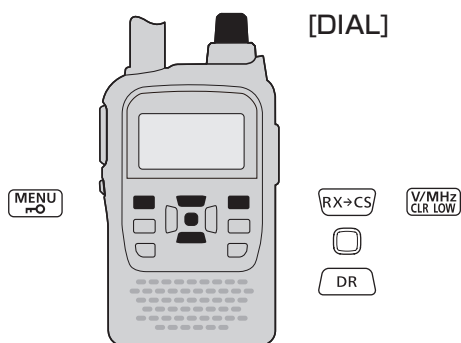
デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス)とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数を**オフセット周波数**分ずらして交信することです。

◇ オフセット周波数の設定


- ① **[MENU]**  を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「オフセットシュウハスウ」画面を表示します。
● 設定されているオフセット周波数が表示されます。



- ③ **[DIAL]**を回して、オフセット周波数を設定します。
(設定例: 0.500.00MHz)
● 0.000.00MHz~59.995.00MHzの範囲で設定します。
● 設定している**チューニングステップ**(TS)で切り替わります。
● **[V/MHz]**  を押すごとに、下記のようにチューニングステップが切り替わります。
→TS → 1MHz → 10MHz
- ④ **[MENU]**  を押して、MENU画面を解除します。
● オフセット周波数が設定されます。



オフセット周波数を初期値に戻すには

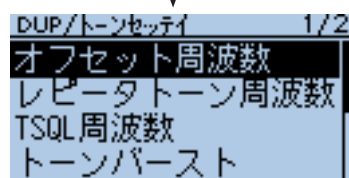
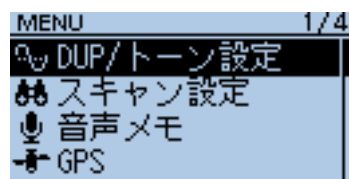
上記の手順③で**QUICK MENU**  を押し、**決定キー**を押すと、「ピピッ」と鳴って初期値に戻ります。

【ご注意】

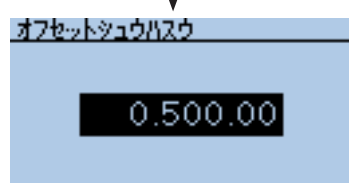
DRモード中は、オフセット周波数を変更できません。

【ご参考】

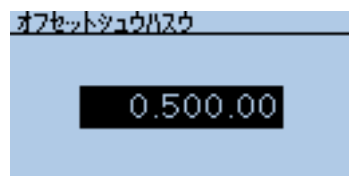
オフセット周波数を変更すると、オートレピータ機能(☞P1-2)のオフセット周波数も変更されます。設定されたオフセット周波数によっては、送信したときに「オフバンド表示」(☞P1-5)になることがあります。



現在設定されている
オフセット周波数



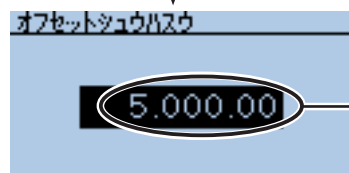
[DIAL]を回して設定し、
決定キーを押して確定



QUICK MENUを押す



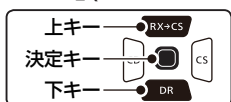
決定キーを押す



初期値に戻る

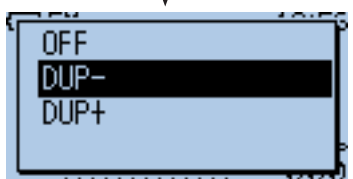
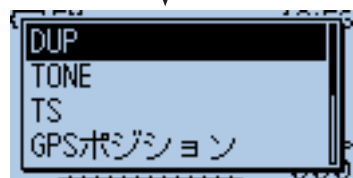
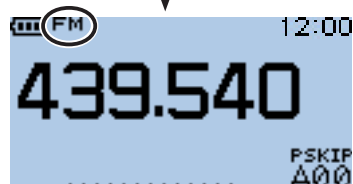
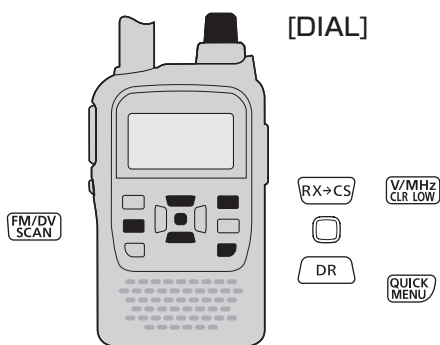
◇ デュプレックスモードの設定

- ① **[V/MHz]** [V/MHz CLR LOW] を押して、VFOモードにします。
- ② **[FM/DV]** [FM/DV SCAN] を押して、FMモードを選択します。
- ③ **[DIAL]** を回して、運用周波数を設定します。
- ④ **[QUICK MENU]** を押します。
- ⑤ **上下キー** で選択、**決定キー** で確定、の操作を繰り返して「**DUP**」(デュプレックスモードの設定)画面を表示します。



- ⑥ **上下キー** で "DUP-" か "DUP+" を選択し、**決定キー** で確定します。

- OFF : シンプレックス運用をします。
- DUP-(マイナス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分低くなります
- DUP+(プラス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分高くなります

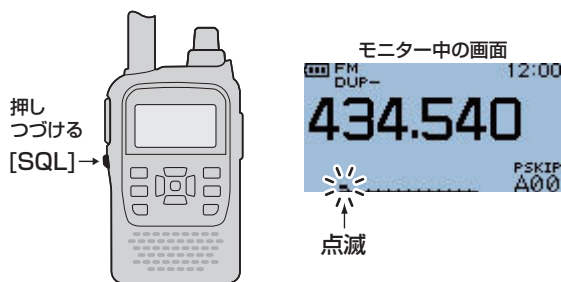


◇ デュプレックスモードで交信する

- ① 交信の前に **[SQL]** を押して、他局が送信周波数を使用していないか確認します。
 - 設定しているオフセット周波数分、受信周波数がシフトします。
- ② 送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。

【ご注意】

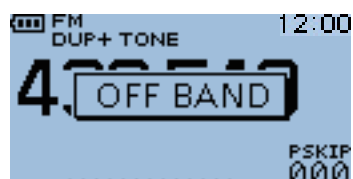
オートレピータ機能(☞P1-2)が、「ON」に設定されている場合、439.000MHz~440.000MHz以外の周波数に変更すると、デュプレックスモードは解除されます。



■ 送信時のオフバンド表示について

レピータ局にアクセスしたときや、デュプレックスモードで送信したとき、右のような表示になる場合は、オフセット周波数(☞P1-4)を設定しなおしてください。

※アマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数(シフト幅)に設定されているため、送信できないことを知らせる表示です。



■ D-STAR®とは	2-2
■ DRモードとは	2-2
■ DRモードでできること	2-2
■ 送信するまでの流れ	2-3
■ 自局コールサインの登録	2-4
◇自局のコールサインを登録する	2-4

DRモード以外の運用モードでデジタル通信するには

デジタル通信するには、DRモード以外に、VFOモードやメモリーモード、コールチャンネルモードでも運用することができます。

ID-31の取扱説明書では、簡単に設定できるDRモードでの運用を中心に説明しておりますので、DRモード以外の運用モードでデジタル通信をする場合は、右記の手順で設定してください。

レピータ運用時の設定のしかた

- ① アクセスレピータの周波数を設定する (☞P1-2)
- ② オフセット周波数を設定する (☞P1-4)
- ③ デュプレックスを設定する (☞P1-5)
- ④ コールサインを設定する (☞P10-34)

シンプレックス運用時の設定のしかた

- ① 周波数を設定する (☞冊子版取扱説明書の24ページ)
- ② コールサインを設定する (☞P10-34)

2 DRモード<準備編>

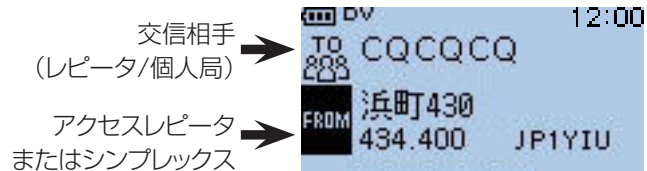
■ D-STAR®とは

- D-STAR®とは、JARL（一般社団法人日本アマチュア無線連盟）が開発した、アマチュア無線の「音声通信」、「データ通信」をデジタル方式でおこなう通信方式です。
- D-STAR®システムは4.8kbpsのデジタル音声通信が運用できます。

■ DRモードとは

DR(D-STAR® REPEATER)モードとは、D-STAR®運用をするときにレピータなどを簡単に設定するモードです。DRモードでは、右図のように「FROM」(アクセスレピータ/シンプレックス)と「TO」(交信相手)を設定して送信するだけで、簡単に運用できます。

- デジタルレピータへの連続送信を10分に制限しています。連続送信が制限時間の約30秒前になると、ビープ音(ピー)が鳴り、送信を停止する前にビープ音(ピーピーピー)を鳴らして警告します。

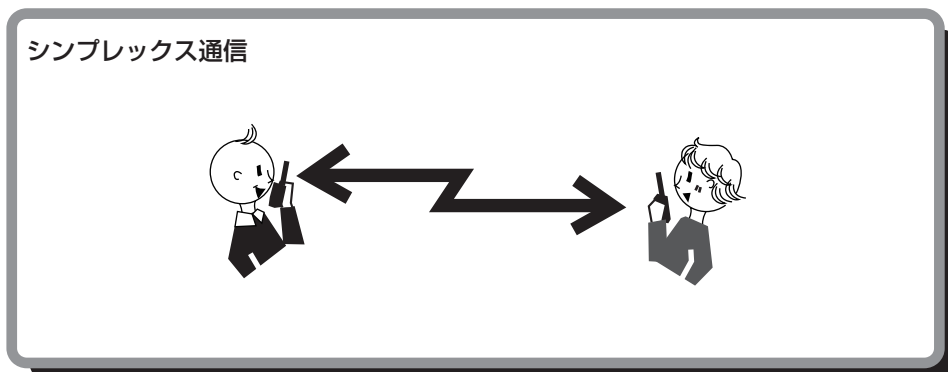
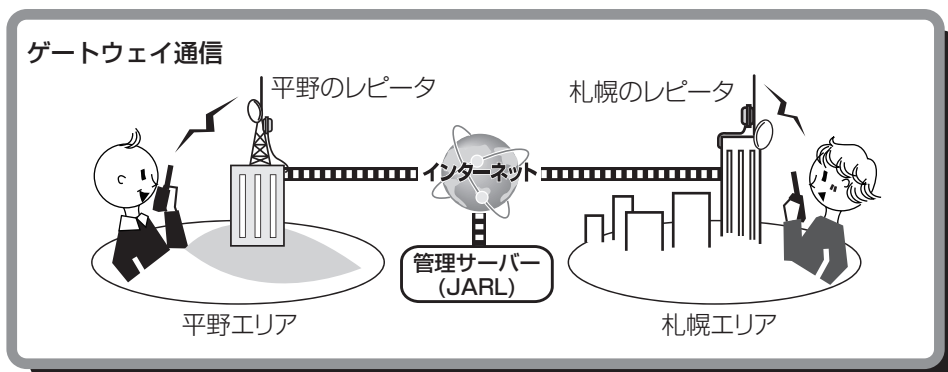
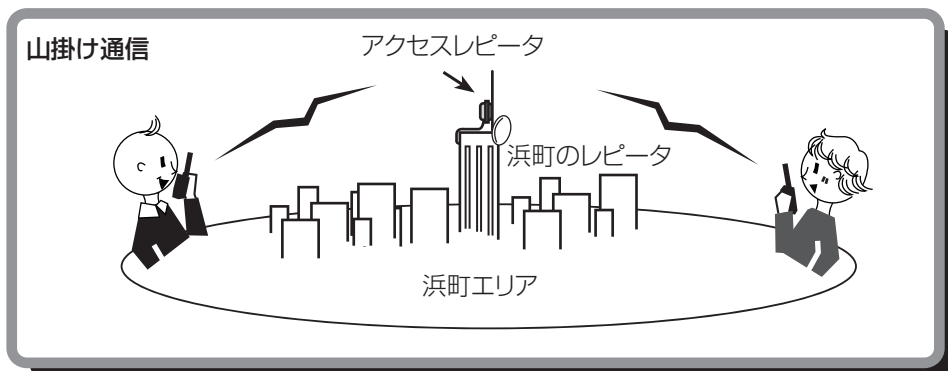


DRモードの画面

■ DRモードでできること

DRモードでは、下記3つの通信が簡単に設定できます。

- **山掛け通信** : 1つのレピータだけを使う中継通信のこと
- **ゲートウェイ通信** : インターネット回線網を利用して、遠くの人と交信すること
- **シンプレックス通信** : 直接交信すること



レピータ送信時のご注意
DV(デジタル音声)モードでレピータを運用するときは、レピータからの電波が停止してから、送信するようにしてください。レピータが受信状態に戻る前に送信すると、正常に通信できなくなることがあります。

《重要》
インターネット回線網を利用した通信(ゲートウェイ通信)を運用するには、コールサインを一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)に登録していただく必要があります。登録方法については、別紙の「D-STAR管理サーバー登録について」をご覧ください。JARLホームページ <https://www.d-star.info/>

■ 送信するまでの流れ

D-STAR®で交信するには、下記の流れにしたがって登録や設定をしてください。

各ステップのタイトル、または灰色のボックスをクリックすると、詳細な説明ページに移ります。



◇ DRモードの<基本編>、<応用編>では下記のことも説明しています

D-STAR®で交信するとき知っておくと便利な情報や設定については、項目ごとに説明しています。

タイトルをクリックすると、詳細な説明ページに移ります。

応答する	聞こえてきた相手にすばやく応答できる方法を説明します。(☞P3-4)
その他の設定	自動応答機能やスピーチ機能、簡易データ通信などの便利な機能を説明します。(☞P4-10~P4-16)
レピータ情報	あらかじめプリセットされているレピータの情報を紹介します。(☞P4-39)
レピータの新規登録	レピータ情報を新規で登録する方法を説明します。(☞P4-21)
困ったときは	D-STAR®専用のトラブルシューティングを紹介します。「困ったときは」をご覧ください。

2 DRモード<準備編>

■ 自局コールサインの登録

D-STAR®で交信するには、あらかじめ自局のコールサインを登録する必要があります。


◇ 自局のコールサインを登録する

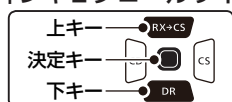
自局のコールサインは6つまで登録できます。(「MY1～MY6」)









コールサイン(8文字以内)のあとに、メモ(4文字以内)を入力できます。

メモには、名前やリグ名、移動運用先などを登録します。

《例》コールサインメモリーチャンネル「MY1」に
JA3YUA /ID31を登録する

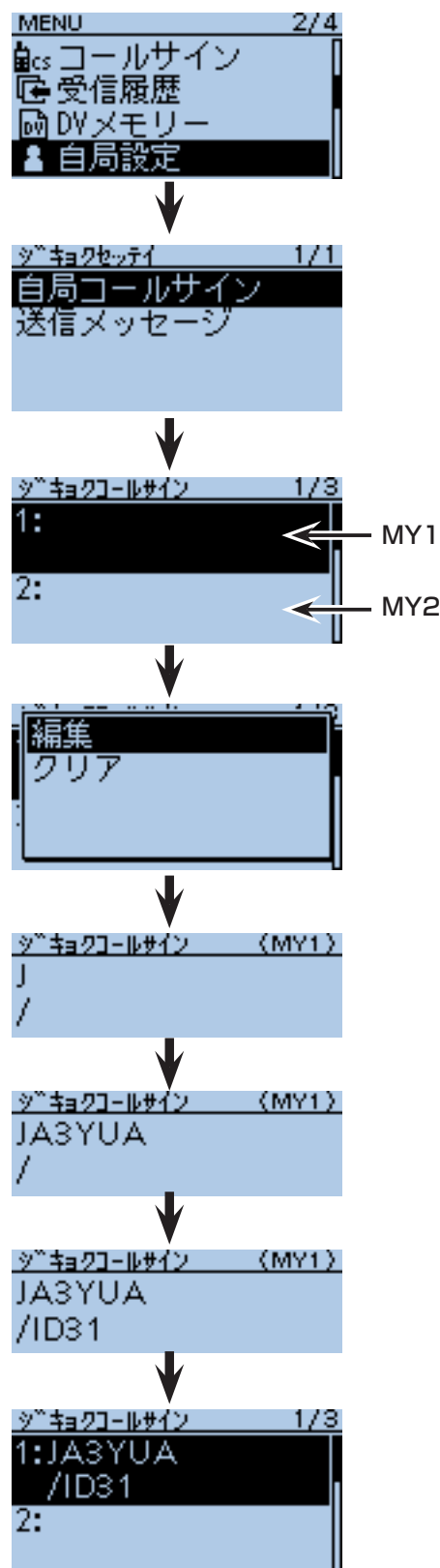
- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、
の操作を繰り返して
「ジヨクコールサイン」画面を表示します。



- ③ 上下キーでコールサインメモリーチャンネル「1:」
(MY1)を選択します。
- ④  を押します。
- ⑤ 上下キーで「編集」を選択します。
- ⑥ 決定キーを押して、編集モードに入ります。
- ⑦ [DIAL]  を回し、1桁目の文字を選択します。(例 J)
 - 入力できる文字は、英数字(A～Z, 0～9)と「/」です。
 - [CLR]  を押すと、選択した文字を削除できます。
 -  を押すと、スペースを入力できます。
- ⑧  または  を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑨ 手順⑦、⑧を繰り返し、8文字以内(スペース含む)で自局のコールサインを入力します。
(例 2桁目:A、3桁目:3、4桁目:Y、5桁目:U、6桁目:A)
 - メモを入力するときは、手順⑩に進みます。
 - メモを入力せずに、コールサインの登録を完了するときは、手順⑫に進んでください。
- ⑩  を押してカーソルを「/」の右側に移動します。
- ⑪ 手順⑦、⑧を繰り返し、4文字以内(スペース含む)でメモを入力します。
(例 「/」の右側の1桁目～4桁目:ID31)
- ⑫ 決定キーを押して、入力した自局のコールサインを登録します。
- ⑬ 決定キーを押して、運用に使うコールサインメモリーチャンネルを確定させます。
 - 確定時は「ピピッ」と鳴ります。
- ⑭ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。

ご注意

複数のD-STAR®機をお持ちの場合は、「**■ 複数のD-STAR®機を運用するには**」(P4-40)で、登録のしかたをご確認ください。



■ 山掛け通信のしかた	3-2
◇山掛け通信でCQを出す	3-2
■ ゲートウェイ通信のしかた	3-3
◇ゲートウェイ通信でCQを出す	3-3
■ 聞こえてきた局に応答するには	3-4
■ 相手局コールサインの登録	3-5
◇受信履歴から相手局のコールサインを登録する	3-5
■ 「FROM」の各種設定方法	3-7
◇「FROM」を「レピータリスト」から設定する	3-8
◇「FROM」を「最寄レピータ」から設定する	3-9
◇「FROM」を「送信履歴」から設定する	3-11
◇「FROM」を「DRモードスキャン」から設定する	3-12
■ 「TO」の各種設定方法	3-13
◇「TO」を「個人局」から設定する	3-14
◇「TO」を「受信履歴」から設定する	3-15
◇「TO」を「送信履歴」から設定する	3-16
◇「TO」を「ダイレクト入力(UR)」から設定する	3-17
◇「TO」を「ダイレクト入力(RPT)」から設定する	3-18
■ 「UR?」、「RPT?」の受信表示について	3-19
◇「UR?」を表示する	3-19
◇「RPT?」または「RX」を表示する	3-19
◇「L」を表示する	3-19
■ シンプレックス通信のしかた	3-20
◇シンプレックス通信でCQを出す	3-20

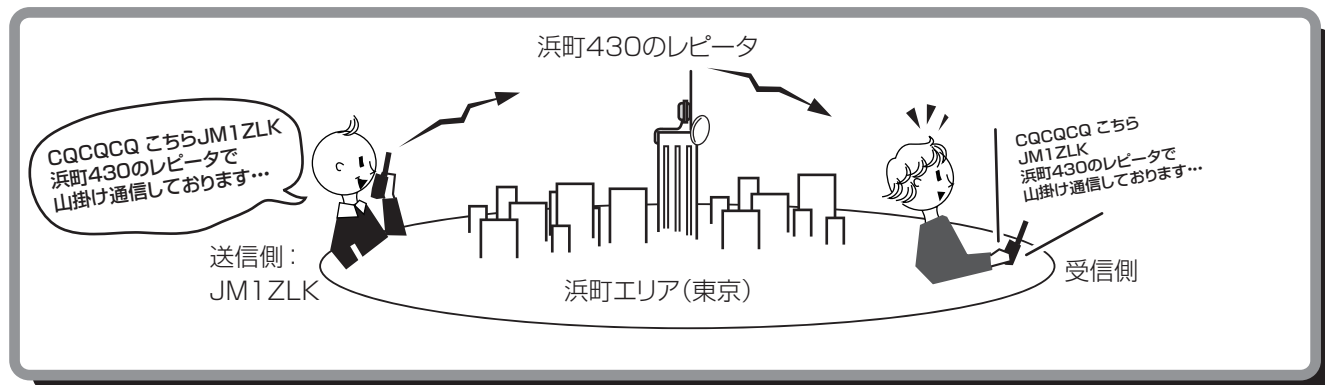
ご注意

説明に使用しているレピータリストは、お客様の無線機にプリセットされた内容と異なる場合がありますのでご了承ください。

3 DRモード<基本編>

■ 山掛け通信のしかた

FMのレピータと同じように1つのレピータだけを使う中継通信ができます。
自分があるエリアと同じエリアの人と交信できます。



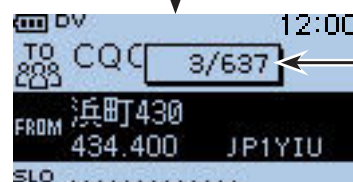
◇ 山掛け通信でCQを出す

山掛け通信でCQを出すまでの設定のしかたを説明します。
※山掛け通信を本製品では「山掛けCQ」と表示しています。
《例》浜町430のレピータにアクセスし、自局と同じエリアの局にCQを出す

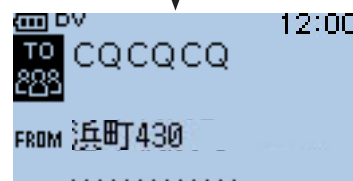
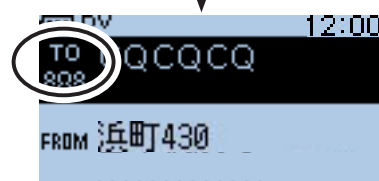
- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● DRモードを表示します。
- ② **上下キー**で“FROM”を選択します。
- ③ **[DIAL]**を回して、“浜町430”を選択します。
- ④ **上下キー**で“TO”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑤ **上下キー**で“山かけCQ”を選択し、**決定キー**を押します。
● [TO]に“CQCQCQ”が表示されます。
- ⑥ **[PTT]**を押しながら、内蔵マイクに向かって話します。
※送信/受信表示ランプが赤色に点灯します。
※送信出力をS/RFメーターに表示します。
- ⑦ **[PTT]**から指をはなすと、受信状態に戻ります。



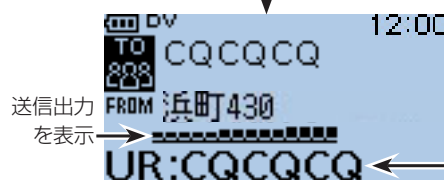
内蔵マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。
内蔵マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



レピータリストで、637個のうちの3番目に登録されているという意味



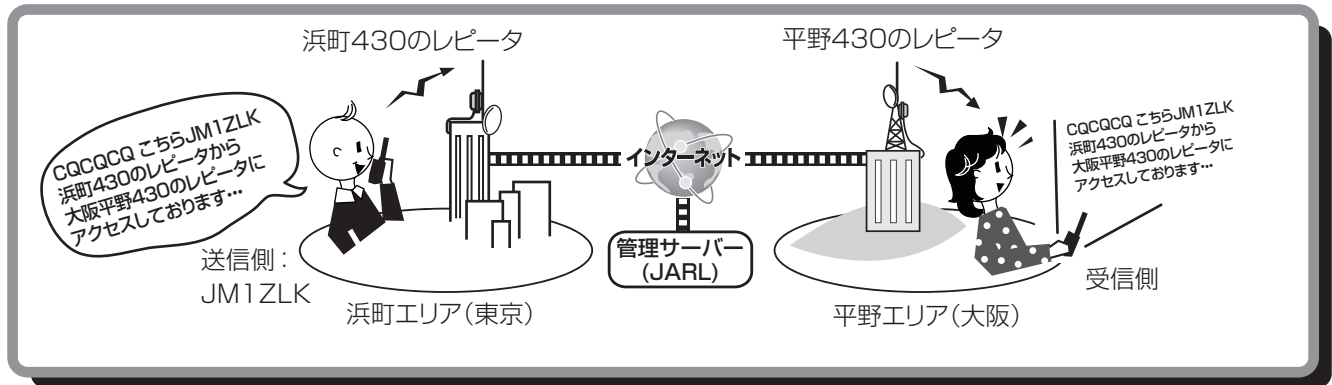
設定完了



送信すると、「TO」に設定した「CQCQCQ」をスクロール表示します

■ ゲートウェイ通信のしかた

インターネットに接続しているD-STAR®レピータを使って、自分がいるエリアと異なるエリアの人と交信できます。



◇ ゲートウェイ通信でCQを出す

ゲートウェイ通信でCQを出すまでの設定のしかたを説明します。(ゲートウェイ通信でCQを出すことを、「エリアCQ」といいます)

《例》浜町430のレピータにアクセスし、自局と異なるエリア(大阪 平野430)の局にCQを出す

- ① **[DR]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● DRモードを表示します。
- ② **上下キー**で“FROM”を選択します。
- ③ **[DIAL]** を回して、“浜町430”を選択します。
- ④ **上下キー**で“TO”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑤ **上下キー**で“エリアCQ”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑥ **上下キー**で“03:近畿”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑦ **上下キー**で“平野430”を選択し、**決定キー**を押します。
● [TO]に“平野430”が表示されます。
- ⑧ **[PTT]** を押しながら、内蔵マイクに向かって話します。
※送信/受信表示ランプが赤色に点灯します。
※設定した送信出力をS/RFメーターに表示します。
- ⑨ **[PTT]** から指をはなすと、受信状態に戻ります。



内蔵マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で話してください。
内蔵マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

レピータリストで、637個のうちの3番目に登録されているという意味

「平野430」のレピータは大阪府にあるので、「03:近畿」を選択

「平野430」のレピータコールサインを表示

設定完了

送信すると、「/」と「TO」に設定した「JP3YHH」をスクロール表示します

送信出力を表示

3 DRモード<基本編>

■ 聞こえてきた局に回答するには

相手局のコールサインをワンタッチで設定して、すばやく応答できます。

《例》JM1ZLKからの呼び出しに回答する

信号を受信すると、右記のような画面が表示されます。

- ① **[RX→CS]**を押しながら**[DIAL]**を回して応答したい相手局を選択します。

直前に聞こえた局に回答する場合は、**[RX→CS]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(**[DIAL]**の操作は不要です)

- 相手局のコールサインが読み上げられます。

※MENU画面内の「**RX>CSスピーチ**」画面で読み上げを“OFF”に設定できます。(P4-14)

※コールサインを正しく受信しなかったときは、エラービープが鳴り、聞こえてきた局に回答できません。

- ② **[PTT]**を押しながら、内蔵マイクに向かって受信した相手局に回答します。

※送信/受信表示ランプが赤色に点灯します。

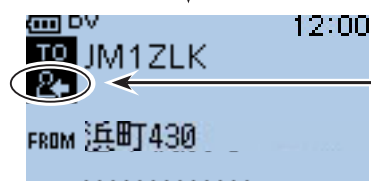
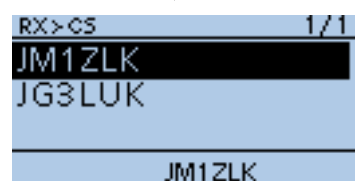
※送信出力をS/RFメーターに表示します。

- ③ **[PTT]**から指をはなすと、受信状態に戻ります。

※**[CLR]**(**[CLR/MHz]**)を押すと、「TO」の矢印マークの点滅が解除され、応答操作前の設定に戻ります。



「JM1ZLK」からの呼び出しを受信した場合



応答したい相手を選択すると、矢印マークが点滅します



「JM1ZLK」に回答した場合



ご注意

上記の操作で設定したコールサインは、一時的な運用だけに設定され、別のコールサインを設定すると、その内容は消去されます。

上記で設定したコールサインを相手局コールサインメモリーに登録するには、3-5ページ～3-6ページをご覧ください。

■ 相手局コールサインの登録

交信した相手局のコールサインを登録できます。

送信せずに、受信だけをした相手局のコールサインも登録できます。

登録した相手局のコールサインを「TO」に設定して呼び出すと、相手局がどこのエリアにいるかわからなくても呼び出しができます。

◇ 受信履歴から相手局のコールサインを登録する

相手局のコールサインは200件まで登録できます。

《例》相手局コールサインメモリーに、受信履歴(RX01:)の“JM1ZLK”と“山田太郎”を登録する

- ① **[D]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - 「ジュシンリレキ」画面を表示します。
- ② **上下キー**で“RX01:”を選択します。
- ③ **[CS]**を押して**CALLER/CALLED**を表示し、**[QUICK MENU]**を押します。
- ④ **上下キー**で“相手局メモリーに登録”を選択します。
- ⑤ **決定キー**を押します。
- ⑥ **上下キー**で“JM1ZLK”を選択し、**決定キー**を押します。
 - 「ジュシンリレキ」画面から、MENU画面内にある、「DVメモリー」の「相手局コールサイン」編集画面に変わり、相手局のコールサインが自動的に設定された状態になります。

(次のページにつづく)

ジュシンリレキ 12:00
RX01:
JM1ZLK
→JG3LUK
(2011/08/31 15:30)

「ジュシンリレキ」画面を表示

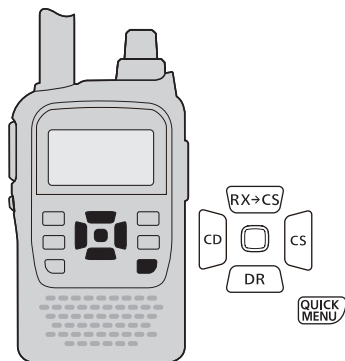
左の画面は、JM1ZLKがJG3LUKに送信した電波を受信した場合

ジュシンリレキ 01 12:00
CALLER:
JM1ZLK
CALLED:
JG3LUK

RX>CS
ネーム表示
相手局メモリーに登録
削除

JM1ZLK
JG3LUK

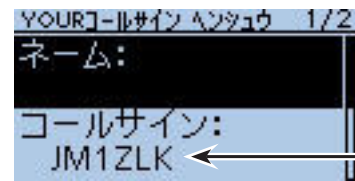
「ジュシンリレキ」画面から、「YOURコールサイン」の編集画面に変わります



3 DRモード<基本編>

■ 相手局コールサインの登録(つづき)

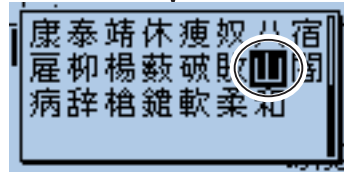
- ⑦ 上下キーで“**ネーム:**”を選択し、決定キーを押します。
- ⑧ [DIAL]を回し、1桁目の文字“**や**”を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、および記号です。
 - 文字を選択していない状態で[QUICK MENU]を押すと、入力モード選択画面を表示します。
上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
 - 漢字を選択したいときは、ひらがなを入力し、[QUICK MENU]を押すと、文字一覧を表示します。
 - [CLR][CLR/LOW]を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。
また、[CLR][CLR/LOW]を押しつづけると、連続して削除できます。
 - [DR]を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。
 - 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、[QUICK MENU]を押すと選択できます。
※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、[QUICK MENU]を押すごとに切り替わります。
- ⑨ [QUICK MENU]を押すと、変換漢字候補が表示されます。
- ⑩ 十字キーで1桁目の漢字“**山**”を選択し、決定キーを押します。(例 山)
- ⑪ [CD]または[CS]を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑫ 手順⑧～⑪を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペース含む)で相手局のネームを入力します。
(例 2桁目:田、3桁目:太、4桁目:郎)
- ⑬ ネームの入力が完了したら、決定キーを押します。
- ⑭ 上下キーで“**《追加書き込み》**”を選択し、決定キーを押します。
- ⑮ 上下キーで“**はい**”を選択し、決定キーを押します。
- ⑯ [MENU][MENU]を押すと、「**ジュシンリレキ**」画面を解除します。



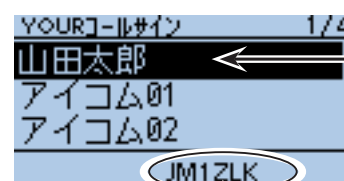
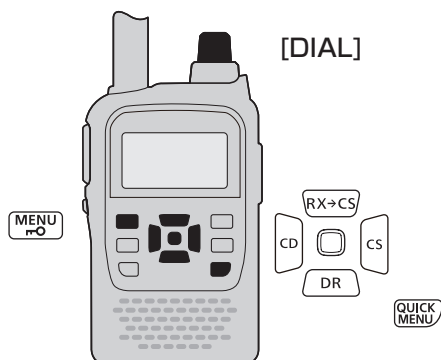
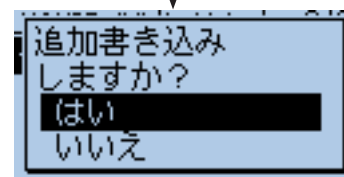
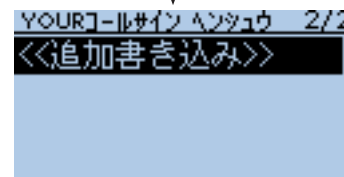
JM1ZLKが自動的に登録される



漢字の「山」を選択するには、まず、ひらがなの「や」を選択します



「山田太郎」の入力が完了



相手局コールサインメモリーに「山田太郎/JM1ZLK」の登録が完了

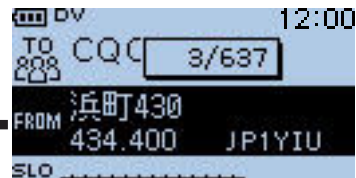
「山田太郎」を選択するとそのコールサインが表示する

■「FROM」の各種設定方法

自分がアクセスするレピータを「FROM」に設定します。
設定方法は、下記の5とおりあります。
タイトルをクリックすると、選択手順が書かれたページに移ります。

1: [DIAL]を回して設定 (P3-2)

あらかじめプリセットされたレピータを、[DIAL]を回して選択します。



[DIAL]で選択した場合

どこのレピータを使えばいいのかわかっているとき

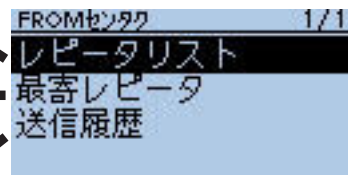
2: レピータリストから設定 (P3-8)

あらかじめプリセットされたレピータをレピータリストから選択します。

どのレピータにアクセスできるかわからないとき

3: 最寄レピータから設定 (P3-9)

自局の位置情報とレピータの位置情報から最寄のレピータを検索します。



「FROMセンタク」画面

過去の履歴から選択したいとき

4: 送信履歴から設定 (P3-11)

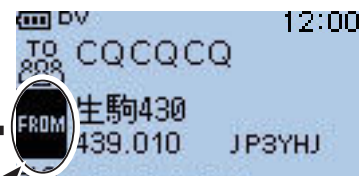
送信したレピータコールサインを履歴から選択します。

どのレピータにアクセスできるかわからないとき

5: DRモードスキャンで

アクセスできるレピータを探す (P3-12)

交信中のレピータやシンプルックス周波数を検索します。

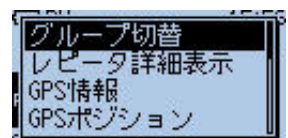


点滅

DRモードスキャン中の表示

グループ切り替えについて

DRモード画面で、**QUICK MENU**を押し、“グループ切替”を選択するとレピータグループの切り替えができます。



3 DRモード<基本編>

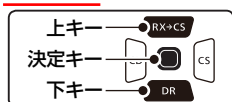
■「FROM」の各種設定方法(つづき)

◇「FROM」を「レピータリスト」から設定する

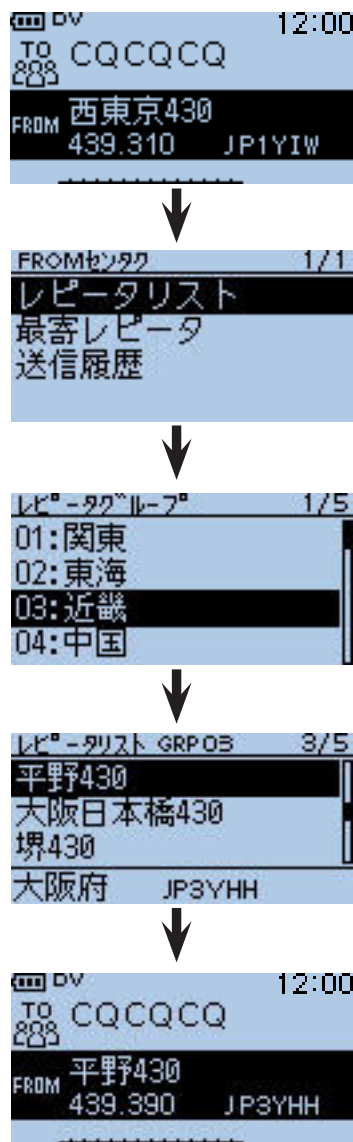
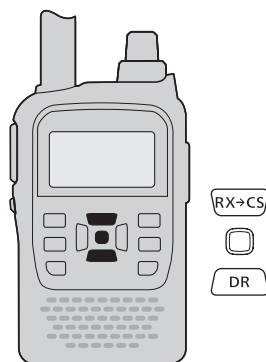
本製品は、お客様が快適に運用していただくために、レピータリストをプリセットして出荷しています。

《例》レピータリストから 大阪にある「平野430」のレピータを設定する

- ① DR を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● DRモードを表示します。
- ② 上下キーで“FROM”を選択し、決定キーを押します。



- ③ 上下キーで“レピータリスト”を選択し、決定キーを押します。
- ④ 上下キーで“03:近畿”を選択し、決定キーを押します。
- ⑤ 上下キーで“平野430”を選択し、決定キーを押します。
● 「FROM」に“平野430”が表示されます。



「平野430」の設定が完了


◇「FROM」を「最寄レピータ」から設定する

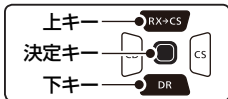
最寄レピータ機能は、本製品の位置情報とレピータの位置情報を使って、自局の位置から近い順にレピータを最大10件表示します。


《例》最寄レピータから
検索上位の「平野430」レピータを設定する

1. GPSを使って自局の位置情報を取得します

※屋内の窓際などでも受信しにくい場合は、屋外に出て受信してください。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSセンタク」画面を表示します。

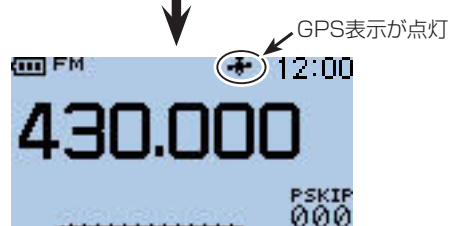
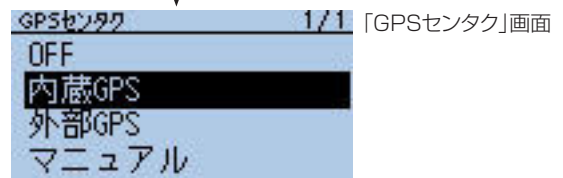
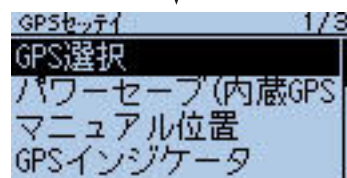
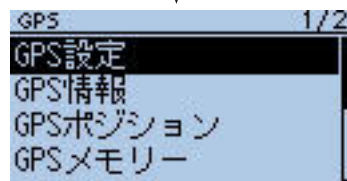
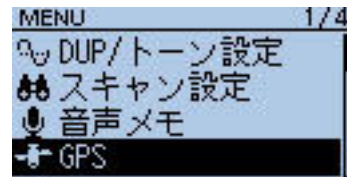


- ③ 上下キーで「内蔵GPS」を選択します。
 - 自局の位置情報の受信を開始します。
- ④ [MENU]  を押して、MENU画面を解除します。
 - GPS表示が、未測位中は下図のように点滅し、測位すると点灯します。



※使用環境によっては、受信に数分かかることがあります。



(次のページにつづく)

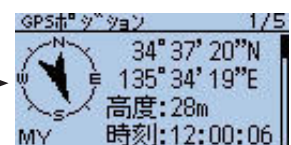
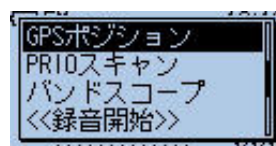


(次のページにつづく)

ご参考

自局の位置情報を表示するときは、次の操作をします。

- ① [QUICK]  を押します。
- ② 上下キーで「GPSポジション」を選択し、決定キーを押します。
 - 「GPSポジション」画面に自局の位置情報が表示されます。
- ③ [CLR]  を押して、「GPSポジション」画面を解除します。



自局の位置情報が表示

3 DRモード<基本編>

■「FROM」の各種設定方法(つづき)

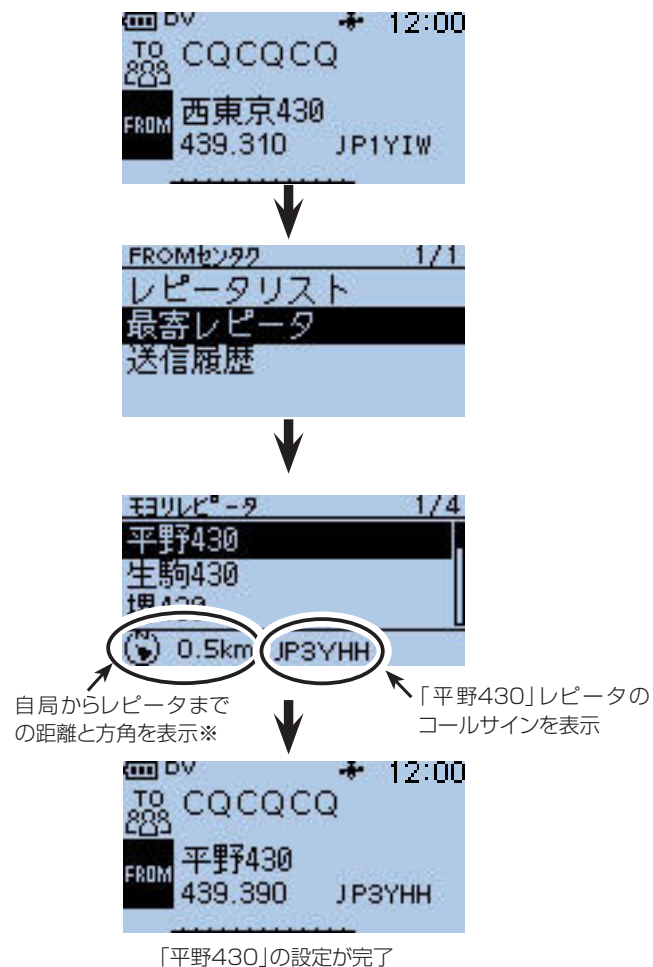
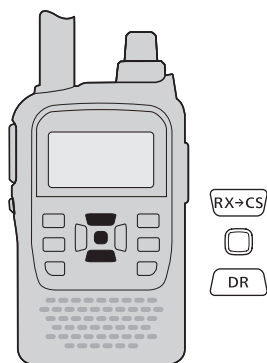
2. 最寄レピータを使ってアクセスレピータを設定する

- ① **DR** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードを表示します。
- ② **上下キー**で“FROM”を選択し、**決定キー**を押します。

上キー — RX→CS

決定キー — CS

下キー — DR
- ③ **上下キー**で“最寄レピータ”を選択し、**決定キー**を押します。
 - 検索が開始され、自局から一番近いレピータを順に最大10件まで表示します。
- ④ **上下キー**で“平野430”を選択し、**決定キー**を押します。
 - 「FROM」に“平野430”が表示されます。



※位置情報(☞P4-34)が“だいたい”に設定されているとき、レピータまでの距離が5km以内になると、方角が表示されません。

ご注意

最寄レピータ機能を使うときは、必ず自局の位置情報を取得してください。
 使用可能な最寄レピータがない場合は、右図1の画面が表示されます。
 前回受信した位置情報が有効な場合は、右図2の画面が表示されます。

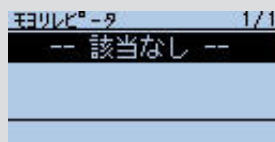


図1

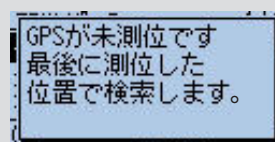


図2

◇「FROM」を「送信履歴」から設定する

送信履歴画面(過去に送信した内容)から「FROM」を設定します。

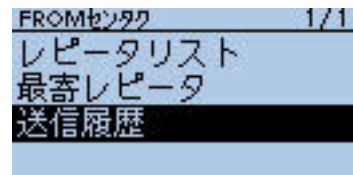
送信履歴には最新10件を表示します。

ご注意

一度も送信していない場合は、送信履歴から「FROM」を選択できません。

《例》送信履歴から「平野430」レピータを設定する

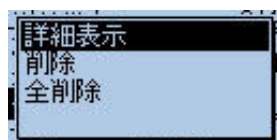
- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - **DRモード**を表示します。
 - ② 上下キーで“FROM”を選択し、決定キーを押します。
-
- ③ 上下キーで“送信履歴”を選択し、決定キーを押します。
 - ④ 上下キーで“平野430”を選択し、決定キーを押します。
 - **「FROM」に「平野430」が表示されます。**



「平野430」の設定が完了

ご参考

送信履歴で表示されるレピータの情報が知りたい場合や、項目を削除したい場合は、送信履歴画面で **QUICK MENU** を押すと、選択できます。



3 DRモード<基本編>

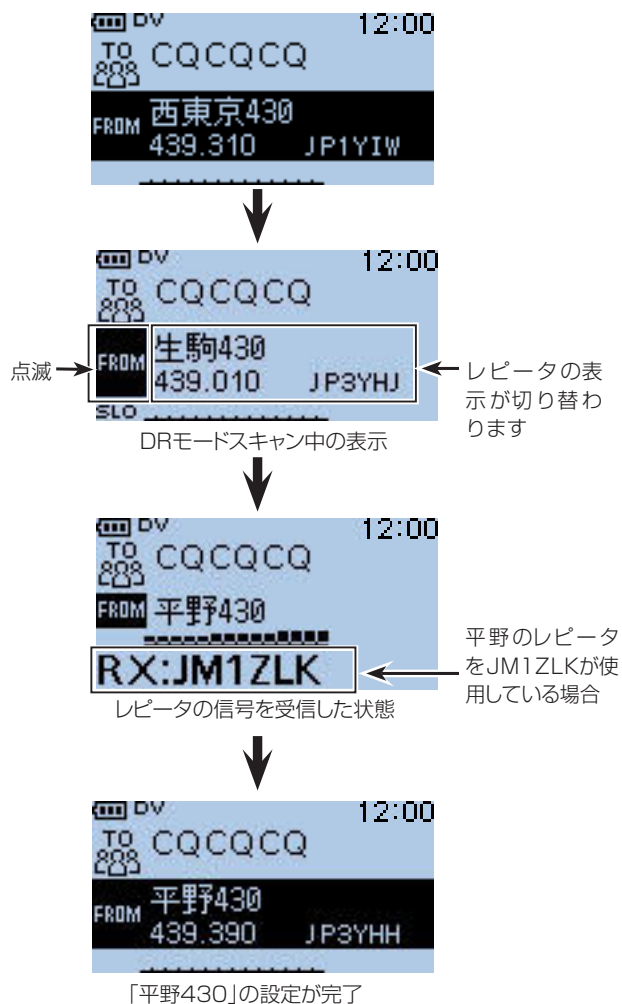
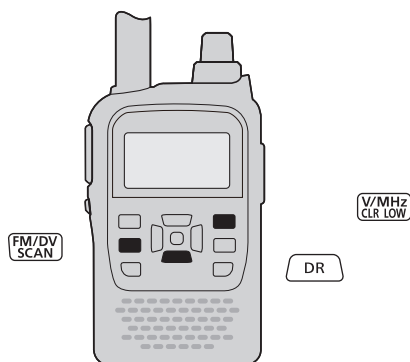
■「FROM」の各種設定方法(つづき)

◇「FROM」を「DRモードスキャン」から設定する

交信中のレピータの信号をスキャンしてレピータを見つけます。DRモードスキャンとは、交信中の電波を探す機能です。
 ※レピータリストの「USE(FROM)」を“YES”(SKIPをOFF)に設定したレピータだけをスキャンしますが、出荷時に登録されている国内の430MHzのレピータと**シンプルレックス**の周波数は、「USE(FROM)」が“YES”に設定されています。

《例》DRモードスキャンから「平野430」のレピータを設定する

- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードを表示します。
- ② **[SCAN]** (FM/DV SCAN)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードスキャンが開始します。
 - スキャン中は、レピータの表示が順次切り替わり、「FROM」と周波数のデシマルポイントが点滅します。
 - ※再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)
- ③ レピータからの信号を受信し、スキャンが「平野430」で停止すると、**[CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押します。
 - DRモードスキャンを解除します。
 - 「FROM」に“平野430”が表示されます。



ご注意

ID-31の出力よりもレピータの出力のほうが高いため、レピータからの電波は届いていても、こちらからの電波がレピータに届かない場合があります。

ご参考

DRモードスキャンは、レピータリストに登録されているシンプルレックス周波数の信号も探します。



■ 「TO」の各種設定方法

自分が交信したいエリアレピータや、相手局を「TO」に設定します。
設定方法は、下記の8とおりあります。
タイトルをクリックすると、選択手順が書かれたページに移ります。

1: [DIAL]を回して設定
あらかじめプリセットされたレピータ、または個人局を、**[DIAL]**を回して選択します。(CQ/CQ設定時は無効です)

1つのレピータを使ってCQ呼び出しをしたいとき

2: 山かけCQを設定 (P3-2)
CQ/CQ(不特定呼び出し)を「TO」に設定します。

自局がいるエリアとは別エリアの人にCQ呼び出しをしたいとき

3: エリアCQから設定 (P3-3)
あらかじめプリセットされたレピータをレピータリストから
選択します。

特定の相手局を呼び出ししたいとき

4: 個人局から設定 (P3-14)
相手局コールサインメモリーに登録した一覧から選択し
ます。

過去の受信履歴から設定したいとき

5: 受信履歴から設定 (P3-15)
受信した個人局のコールサイン履歴から選択します。

過去の送信履歴から設定したいとき

6: 送信履歴から設定 (P3-16)
送信したレピータ、または個人局のコールサイン履歴か
ら選択します。

直接相手局のコールサインを入力して設定したいとき

7: ダイレクト入力(UR)から設定 (P3-17)
直接相手局のコールサインを1文字ずつ入力して設定し
ます。

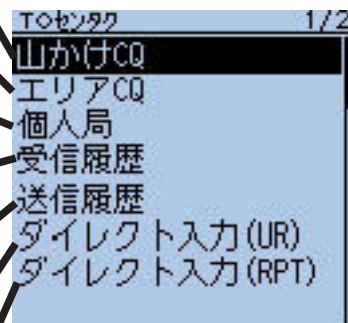
直接レピータのコールサインを入力して設定したいとき

8: ダイレクト入力(RPT)から設定 (P3-18)
直接レピータのコールサインを1文字ずつ入力して設定
します。



[DIAL]で選択した場合

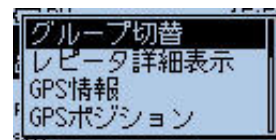
レピータリストで、
636個 のうちの
50番目に登録され
ているという意味



「TOセンタク」画面

グループ切り替えについて

“山かけCQ”、“エリアCQ”から「TO」
を選択した場合、DRモード画面で、
[MENU]を押し、“グループ切替”を選択
するとレピータグループの切り替え
ができます。



3 DRモード<基本編>

■「TO」の各種設定方法(つづき)

◇「TO」を「個人局」から設定する

「個人局」の中には、登録した相手局のコールサインが入っています。

「個人局」から設定すると、ゲートウェイ通信になります。

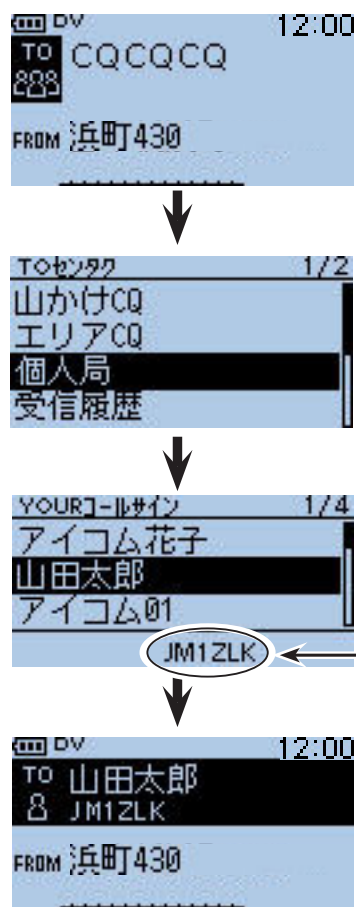
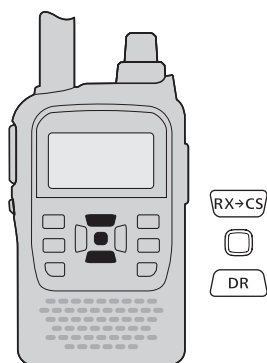
ゲートウェイ通信で相手局を呼び出すと、その相手局が最後にアクセスしたレピータに自動で中継されますので、相手局がどのエリアにいるかわからなくても呼び出しができます。

※「FROM」に設定したレピータに“GWコールサイン”が登録していない場合は、ゲートウェイ通信にはなりませんので、ご注意ください。

《例》個人局から「山田太郎」を設定する

- ① **DR** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードを表示します。
- ② **上下キー**で“TO”を選択し、**決定キー**を押します。

上キー → RX→CS
 決定キー → CS
 下キー → DR
- ③ **上下キー**で“個人局”を選択し、**決定キー**を押します。
- ④ **上下キー**で“山田太郎”を選択し、**決定キー**を押します。
 - 「TO」に“山田太郎”が表示されます。



「山田太郎」のコールサインが表示されます

「山田太郎」の設定が完了

ご参考

個人局を選択したあと、**[DIAL]**を回すと、登録している相手局を選択できます。



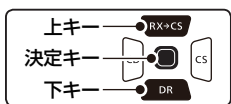
◇ 「TO」を「受信履歴」から設定する

受信履歴画面(過去に受信した内容)から「TO」を設定します。
 受信しかしていない相手局のコールサインも受信履歴画面から、送信相手として設定できます。

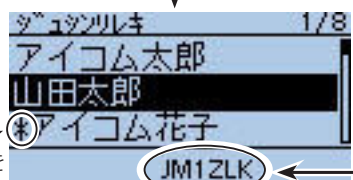
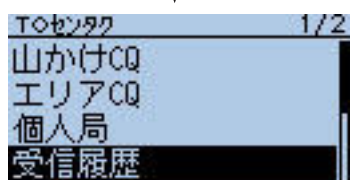
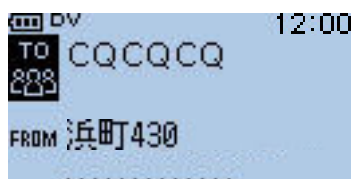
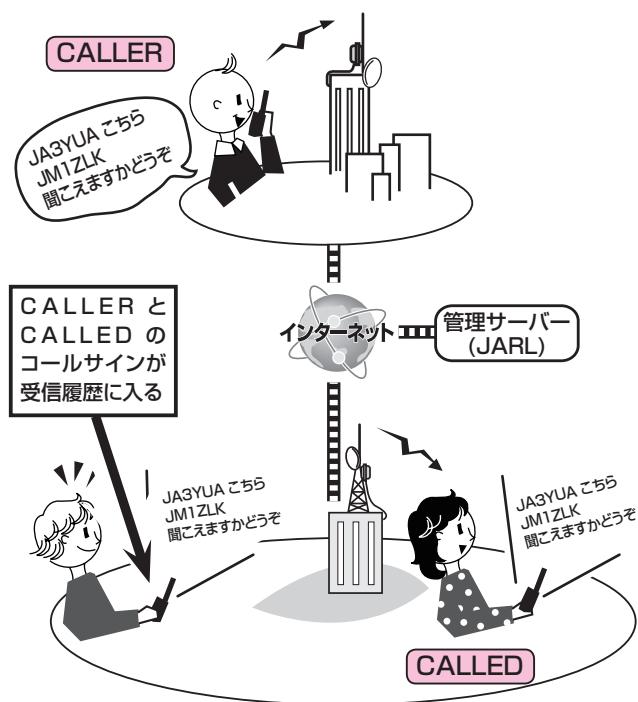
受信履歴にはCALLERを最大40件、CALLEDを最新1件の合計最大41件を表示します。

《例》受信履歴から「山田太郎」を設定する

- ① **DR** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードを表示します。
- ② 上下キーで「TO」を選択し、決定キーを押します。



- ③ 上下キーで「受信履歴」を選択し、決定キーを押します。
- ④ 上下キーで「山田太郎」を選択し、決定キーを押します。
 - 「TO」に「山田太郎」が表示されます。



CALLED を意味します

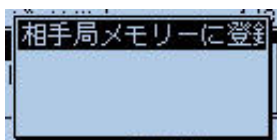
「山田太郎」のコールサインが表示されます



「山田太郎」の設定が完了

ご参考

受信履歴をメモリーに登録したい場合は、受信履歴画面で**QUICK MENU**を押すと、選択できます。



3 DRモード<基本編>

■「TO」の各種設定方法(つづき)

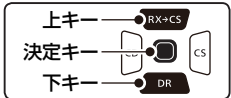
◇「TO」を「送信履歴」から設定する

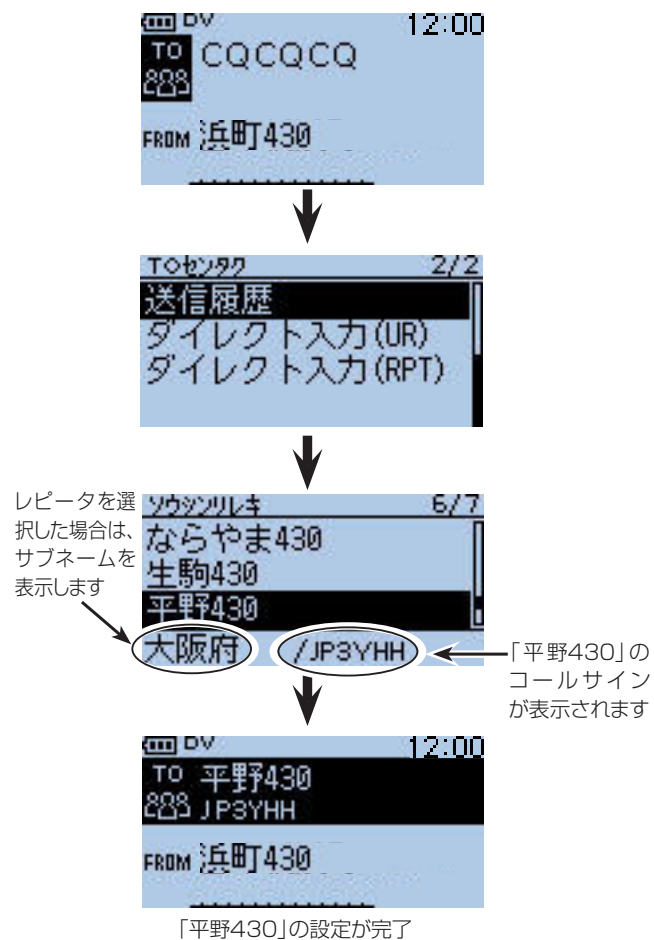
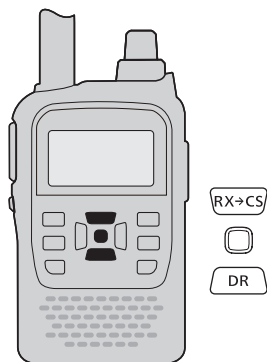
送信履歴画面(過去に送信した内容)から「TO」を設定します。
送信履歴には最新20件を表示します。

ご注意

一度も送信していない場合は、送信履歴から「TO」を選択できません。

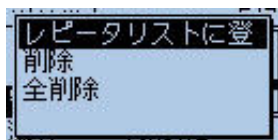
《例》送信履歴から「平野430」レピータを設定する

- ① **DR** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● DRモードを表示します。
- ② **上下キー**で“TO”を選択し、**決定キー**を押します。

- ③ **上下キー**で“送信履歴”を選択し、**決定キー**を押します。
- ④ **上下キー**で“平野430”を選択し、**決定キー**を押します。
● 「TO」に“平野430”が表示されます。



ご参考

送信履歴をメモリーに登録したい場合や、項目を削除したい場合は、送信履歴画面で **QUICK MENU** を押すと、選択できます。

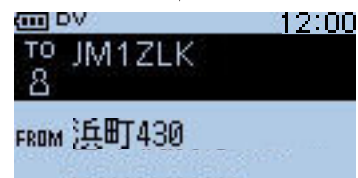
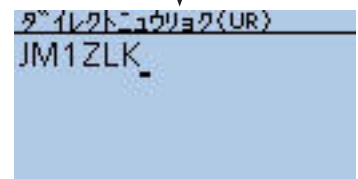
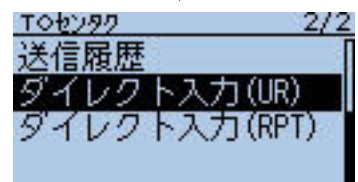
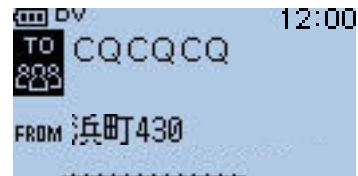


◇「TO」を「ダイレクト入力(UR)」から設定する

相手局のコールサインを1文字ずつ入力して設定できます。

《例》ダイレクト入力(UR)から「JM1ZLK」を設定する

- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - **DRモード**を表示します。
- ② 上下キーで“TO”を選択し、**決定キー**を押します。
- ③ 上下キーで“ダイレクト入力(UR)”を選択します。
- ④ **決定キー**を押して、編集モードに入ります。
- ⑤ **[DIAL]**を回し、1桁目の文字を選択します。(例 J)
 - 入力できる文字は、英数字(A~Z,0~9)と「/」です。
 - **[CLR]**()を押すと、選択した文字を削除できます。
 - **[CS]**を押すと、スペースを入力できます。
- ⑥ **[←]**または**[→]**を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、8文字以内(スペース含む)で相手局のコールサインを入力します。
(例 2桁目:M、3桁目:1、4桁目:Z、5桁目:L、6桁目:K)
- ⑧ **決定キー**を2回押して、入力した相手局のコールサインを設定します。
 - **[TO]**に“JM1ZLK”が表示されます。
 - 設定後に、コールサインを修正したい場合は、再度ダイレクト入力画面で編集できます。
 - 設定したコールサインは、変更しないかぎりダイレクト入力画面にそのまま残ります。



「JM1ZLK」の設定が完了

ご参考

ダイレクト入力したのに、
名前表示になったときは、
すでにコールサインは登録されている
ということです。

(名前を登録していた場合にかぎり)



3 DRモード<基本編>

■「TO」の各種設定方法(つづき)

◇「TO」を「ダイレクト入力(RPT)」から設定する

レピータのコールサインを1文字ずつ入力して設定できます。

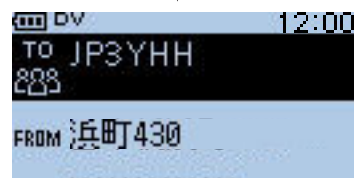
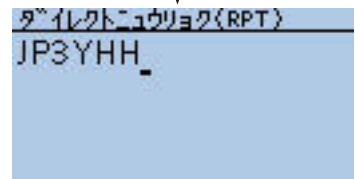
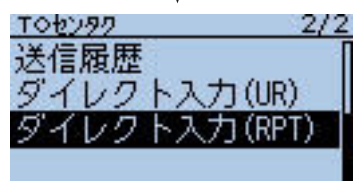
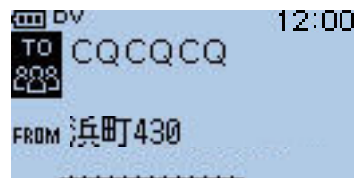
《例》ダイレクト入力(RPT)から「JP3YHH」(平野430MHzのレピータ)を設定する

- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードを表示します。
- ② 上下キーで“TO”を選択し、**決定キー**を押します。

上キー ← **RX+CS**

決定キー ← **CS**

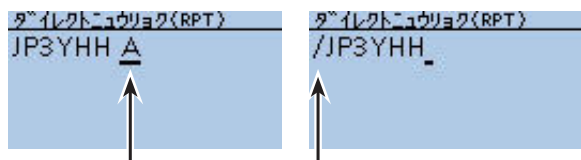
下キー ← **DR**
- ③ 上下キーで“ダイレクト入力(RPT)”を選択します。
- ④ **決定キー**を押して、編集モードに入ります。
- ⑤ **[DIAL]**を回し、1桁目の文字を選択します。(例 J)
 - 入力できる文字は、英数字(A～Z、0～9)と「/」です。
 - **[CLR]** (CLR LOW)を押すと、選択した文字を削除できます。
 - **[]**を押すと、スペースを入力できます。
- ⑥ **[←]**または**[→]**を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、8文字以内(スペース含む)で相手局のコールサインを入力します。
(例 2桁目:P、3桁目:3、4桁目:Y、5桁目:H、6桁目:H)
- ⑧ **決定キー**を2回押して、入力した相手局のコールサインを設定します。
 - 「TO」に“JP3YHH”が表示されます。
 - 設定後に、コールサインを修正したい場合は、再度ダイレクト入力画面で編集できます。
 - 設定したコールサインは、変更しないかぎりダイレクト入力画面にそのまま残ります。



「JP3YHH」の設定が完了

ご参考

下図のような入力をしてもしっかり設定されます。



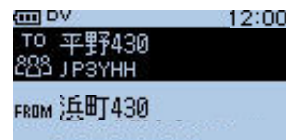
430MHzを示す「A」を入力した場合

エリアCQ時にレピータを示す「/」を入力した場合

ご参考

ダイレクト入力したのに、レピータ名前表示になったときは、すでにレピータコールサインは登録されているということです。

(名前を登録していた場合にかぎり)



■「UR?」、「RPT?」の受信表示について

アクセスレピータに向かって送信すると、レピータからの受信表示によって、通信状況を確認できます。

◇「UR?」を表示する

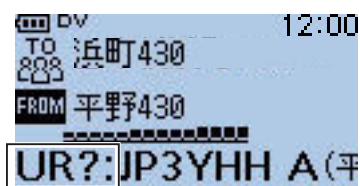
正常に電波がレピータに届いています。

ただし、3秒以内に相手局から応答がなかったので「UR?」を表示しています。

聞いていた相手局が応答のタイミングを逃している場合もありますので、少し時間を空けてから再度呼び出してみてください。



山掛け通信で、平野430のレピータに送信し、正常に電波が届いた状態



ゲートウェイ通信で、平野430のレピータから、浜町430のレピータに送信し、正常に電波が届いた状態

◇「RPT?」または「RX」を表示する

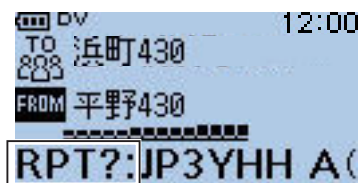
呼び出し先のレピータが使用中の場合に表示します。

ゲートウェイ通信では、呼び出し先の使用状況がわからない状態で電波を送信するので、「RPT?」が表示された場合は、少し時間を空けてから再度呼び出してみてください。

ご注意

下記の状態のときも「RPT?」または「RX」を表示します。

- ◎ レピータコールサインの設定を間違えているとき
- ◎ 自局のコールサインが未設定のとき
- ◎ 自局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なるとき
- ◎ 相手局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なるとき
- ◎ 呼び出し先のレピータにつながらないとき



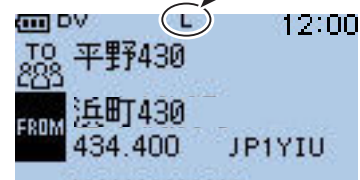
ゲートウェイ通信で、平野430のレピータから、浜町430のレピータに送信したが、浜町430のレピータが使用中なので呼び出しできない状態

◇「L」を表示する

インターネット回線網を経由したゲートウェイ通信では、パケットロスによって、データの一部を失うことがあります。また、パケットロス受信時は、ディスプレイに「L」表示が点灯します。

※データが化けてパケットロスを受信したと誤認する場合があります。その場合は山掛け通信であっても、ディスプレイに「L」表示が点灯します。

パケットロス中の表示



パケットロス状態が継続中は、「L」表示が点滅します。

3 DRモード<基本編>

■ シンプレックス通信のしかた

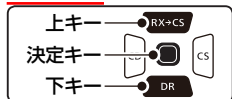
DRモードから、レピータを使わずに直接交信する**シンプレックス**通信ができます。

◇ シンプレックス通信でCQを出す

シンプレックス通信でCQを出すまでの設定のしかたを説明します。

《例》「433.300」でCQを出す

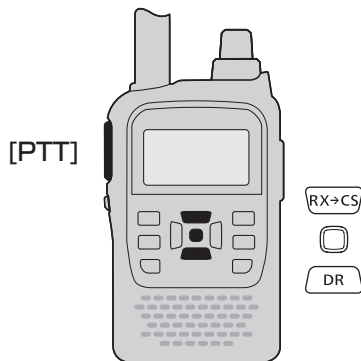
- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● DRモードを表示します。
- ② **上下キー**で“FROM”を選択し、**決定キー**を押します。



- ③ **上下キー**で“レピータリスト”を選択し、**決定キー**を押します。
- ④ **上下キー**で“11:シンプレックス”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑤ **上下キー**で“433.300”を選択し、**決定キー**を押します。
● 「FROM」に“433.300”が表示されます。
● 「TO」に“CQCQCQ”が設定されます。

※「TO」に個人局を設定している場合は、「TOセンタク」画面で“山かけCQ”を選択して“CQCQCQ”を設定してください。

- ⑥ **[PTT]**を押しながら、内蔵マイクに向かって話します。
※送信/受信表示ランプが赤色に点灯します。
※送信出力をS/RFメーターに表示します。
- ⑦ **[PTT]**から指をはなすと、受信状態に戻ります。



内蔵マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。
内蔵マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



TO 平野430 12:00
FROM FROM 12:400 JP1YIU
FROMセンタク 1/1
レピータリスト ← 「レピータリスト」を選択
最寄レピータ
送信履歴
レピータグループ 3/5
09:北陸
10:信越
11:シンプレックス ← 「シンプレックス」を選択
12:オセアニア SKIP
レピータリスト GRP 11 1/1
438.030 ← 433.300を選択
433.300
433.300
TO CQCQCQ 12:00
FROM 433.300
自動的に「CQCQCQ」が設定されます
設定完了
TO CQCQCQ 12:00
FROM 433.300
送信すると、「TO」に設定した「CQCQCQ」をスクロール表示します
送信出力を表示

■	メッセージ機能の使いかた	4-2
◇	送信するメッセージを登録する	4-2
◇	送信メッセージを選択する	4-3
◇	登録したメッセージを削除する	4-4
■	受信したコールサインを確認する	4-5
◇	受信履歴を呼び出して確認する	4-5
■	BK(割り込み)通信の運用	4-6
■	EMRモードの運用	4-7
◇	EMR信号受信時の音量を調整する	4-8
■	表示タイプについて	4-8
■	DV自動検出機能について	4-9
■	自動応答機能の使いかた	4-10
◇	自動応答用の音声を録音する	4-11
◇	録音した内容を聞く	4-11
■	簡易データ通信について	4-12
◇	パソコンの接続について	4-12
◇	通信ソフトウェアの設定について	4-12
◇	簡易データ通信の操作	4-12
■	スピーチ機能の使いかた	4-13
◇	受信時に相手局のコールサインを読み上げるには	4-13
◇	応答設定時に相手局のコールサインを読み上げるには	4-14
◇	スピーチの発音を日本語から英語に変更するには	4-15
◇	読み上げ方法を「アルファ、ブラボー、チャーリー…」 (フォネティックコード)に変更する	4-15
◇	読み上げ速度を遅くするには	4-16
◇	読み上げ音量を変更するには	4-16
■	デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能	4-17
◇	デジタルコールサインスケルチを設定する	4-17
◇	デジタルコールサインスケルチをポケットビープで 待ち受け受信しているとき	4-17
◇	デジタルコードスケルチを設定する	4-18
◇	デジタルコードスケルチをポケットビープで 待ち受け受信しているとき	4-18
■	メモリーモードでD-STAR®を運用するには	4-19
◇	DRモードで設定した内容をメモリーに書き込む	4-19
■	コールサインの設定を確認する	4-19
■	レピータリストについて	4-20
◇	レピータリストに登録できる設定項目一覧	4-20
■	レピータリストにレピータ情報を登録する	4-21
◇	レピータリストにレピータを新規登録する	4-21
◇	目的別 新規登録に最低限必要な項目	4-21
■	レピータリストのレピータ情報を編集する	4-28
■	レピータリストのレピータ情報を削除する	4-29
■	受信履歴からレピータ情報を登録する	4-30
■	レピータが表示される順番を並べ替える	4-31
■	DRモードスキャン時のスキップ設定	4-32
◇	個別にレピータをスキップ設定する	4-32
◇	グループごとにレピータをスキップ設定する	4-32
■	レピータのグループネームを登録するには	4-33
■	レピータ詳細表示について	4-34
■	相手局コールサインの新規登録	4-35
■	相手局コールサインを削除する	4-37
■	相手局が表示される順番を並べ替える	4-38
■	出荷時のレピータリストについて	4-39
■	複数のD-STAR®機を運用するには	4-40
◇	D-STAR管理サーバーで識別登録をする	4-40
■	迷惑な設定していませんか?	4-42

4 DRモード<応用編>




■ メッセージ機能の使いかた






DVモードで音声通信しながら、同時に最大20文字のメッセージを送信できます。




◇ 送信するメッセージを登録する

最大20文字のメッセージを5個登録できます。

《例》登録番号1に“OSAKA スズキ”を登録する


- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「ソウシンメッセージ」画面を表示します。
- ③ 上下キーで登録番号“1:”を選択します。
- ④  を押します。
- ⑤ 上下キーで“編集”を選択します。
- ⑥ 決定キーを押して、編集モードに入ります。
- ⑦ [DIAL]  を回し、1桁目の文字を選択します。(例 O)

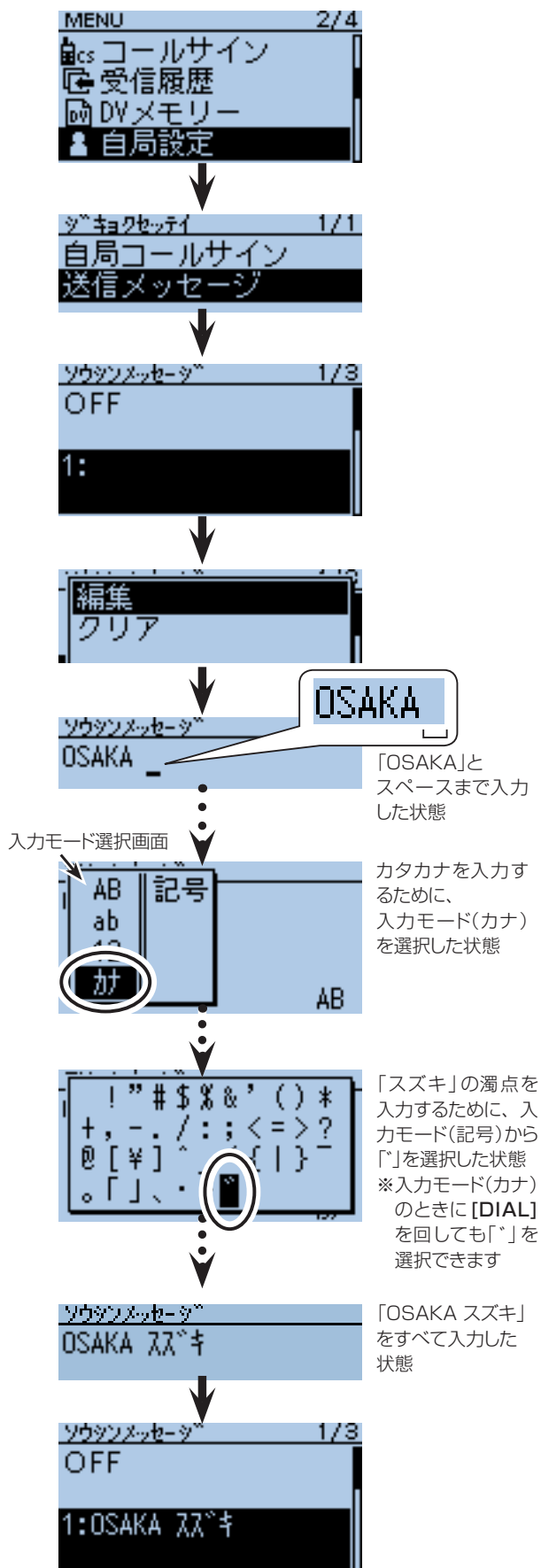
- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、および記号です。
-  を押すと、入力モード選択画面を表示します。上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
- [CLR]  を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR]  を押しつづけると、連続して削除できます。
- 促音(っ)、拗音(アイウエオヤヨ)を選択したいときは、文字を選択し、 を押すと表示します。(例： を押すごとに「っ」と「っ」を切り替えます)

- ⑧  または  を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑨ 手順⑦、⑧を繰り返し、20文字以内(スペース含む)でメッセージを入力します。(例 2桁～9桁目：SAKA スズキ)
- ⑩ 決定キーを押して、メッセージを登録します。
- ⑪ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12	1234567890
カナ	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルレロワラン°ー
記号	! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { } ~ 。 「 」 、 ・ °


※  はスペースです
 ※ 漢字は入力できません

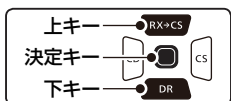



■ メッセージ機能の使いかた(つづき)

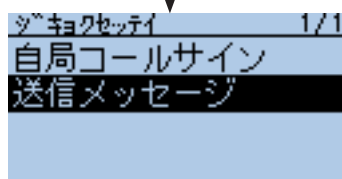
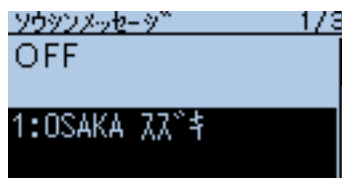
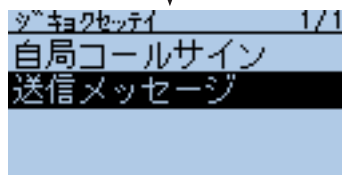
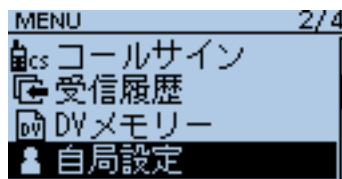
◇ 送信メッセージを選択する

登録したメッセージを選択して送信します。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「ソウシンメッセージ」画面を表示します。



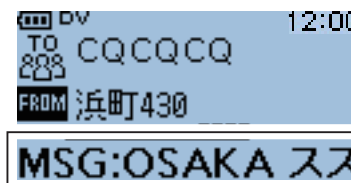
- ③ 上下キーで登録番号(1:~5:)を選択します。
※メッセージを送信しないときは、「OFF」を選択します。
- ④ 決定キーを押して、メッセージを確定します。
- ⑤ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - 会話しながらメッセージを送信できます。
 - [PTT]を押すたびにメッセージを送信します。また、連続送信中は30秒に1回、自動的にメッセージを送信します。



メッセージのスクロール表示について

初期設定では、メッセージを受信すると、メッセージの内容をスクロール表示するように設定されています。メッセージを表示しないように設定するには、MENU画面内の下記項目を「OFF」に設定します。

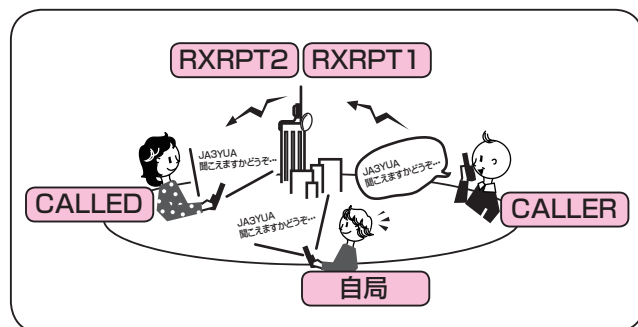
- 「RX メッセージヒョウジ」(P10-53)
ディスプレイ設定 > 受信メッセージ表示



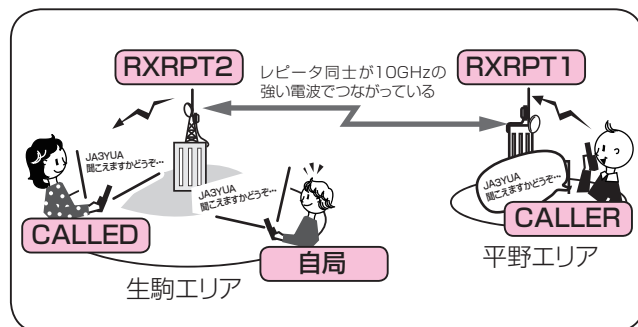
「OSAKA スズキ」というメッセージを受信した状態

4 DRモード<応用編>

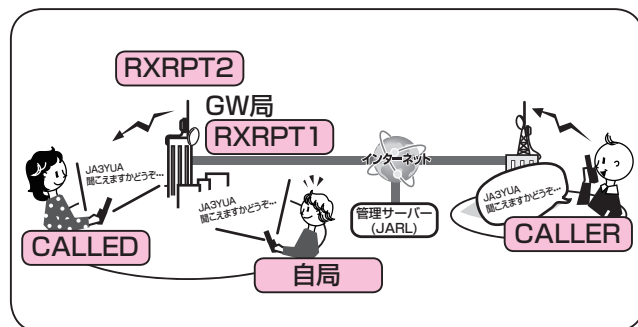
(例：山掛け通信で受信した場合)



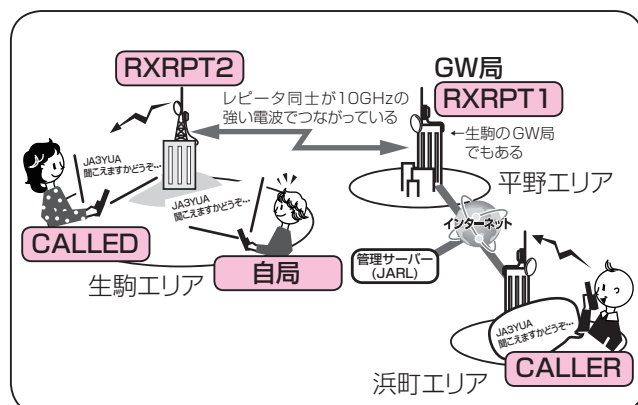
(例：アシストで受信した場合)※生駒-平野間など



(例：ゲートウェイ通信で受信した場合)



(例：ゲートウェイ通信+アシストで受信した場合)




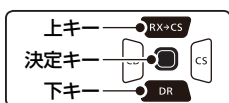
■ 受信したコールサインを確認する


DVモードの信号を受信した場合、その信号を送信した局や使用されたレピータのコールサインを、以下の手順で確認できます。

最大40件の受信履歴を記憶できます。
 ※電源をOFFしても履歴は消去されません。

◇ 受信履歴を呼び出して確認する

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「ジュシンリレキ」画面を表示します。



- ③ 上下キーで受信履歴(RX01~RX40)を選択します。
 - 受信履歴番号のほか、送信者のコールサイン/呼び出し先/メッセージ/受信日時が表示されます。
- ④ 決定キーを押して、受信履歴内容を表示します。
- ⑤ 上下キーで受信履歴内容を切り替えます。
 - **CALLER** : 送信局のコールサインとメモを表示します。
 - **CALLED** : 送信局に呼び出された局のコールサインを表示します。
 - RXRPT1 : 送信局から見たアクセスレピータのコールサインを表示します。ゲートウェイ通信で呼び出された場合は、自局が直接受信したレピータのゲートウェイ局を表示します。
 - RXRPT2 : 自局が直接受信したレピータのコールサインを表示します。
 - 受信メッセージ: 受信したメッセージを表示します。
 - 受信日時 : 受信した日付と時刻を表示します。
- ※ 受信日時の次に、相手局のGPS情報を表示します。GPS情報を受信していないときは表示されません。
- ⑥ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。

通信形態によって、RXRPT1が変わります。クリックすると、通信形態ごとの受信図がご覧いただけます。

山掛け通信の受信図 ←クリック


ゲートウェイ通信の受信図 ←クリック

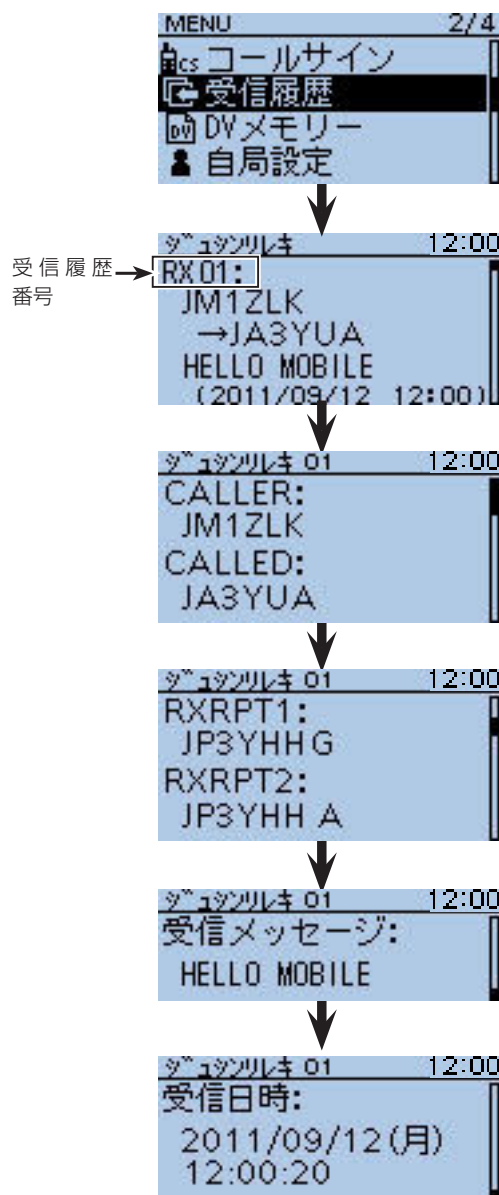
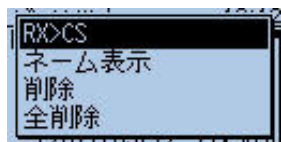
※受信したレピータとそのゲートウェイ局が別にある場合

例: 平野エリア(送信)⇒生駒エリア(受信)の場合 ←クリック

例: 浜町エリア(送信)⇒生駒エリア(受信)の場合 ←クリック

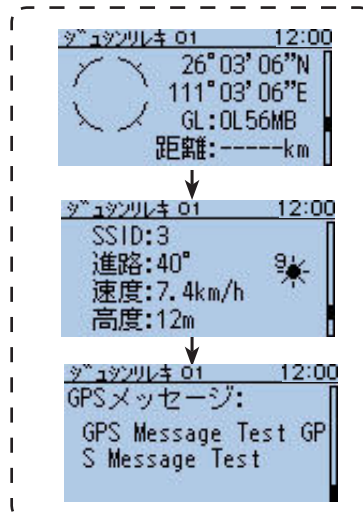
受信履歴を削除するには

受信履歴を削除したい場合は、受信履歴画面または受信履歴内容画面で  を押すと、選択できます。



受信履歴番号

受信した信号の中に相手局のGPS情報が含まれていれば、下図のように追加で表示されます。



4 DRモード<応用編>


■ BK(割り込み)通信の運用

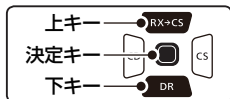
BK(割り込み)通信は、DVモードのデジタルコールサインスケルチ(DSQL)で通信している2局に対して、同時に呼びかける場合に使用します。


※一度電源をOFFにすると、設定は解除されます。

- ① 信号を受信したあと、[RX+CS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。([DIAL] の操作は不要です)
 - 相手局のコールサインが読み上げられます。
 - 相手局のコールサインおよび使用されているレピータのコールサインが自動的に設定されます。

※コールサインが正しく受信されなかったときは、ビープ音が鳴り、コールサインを設定できません。

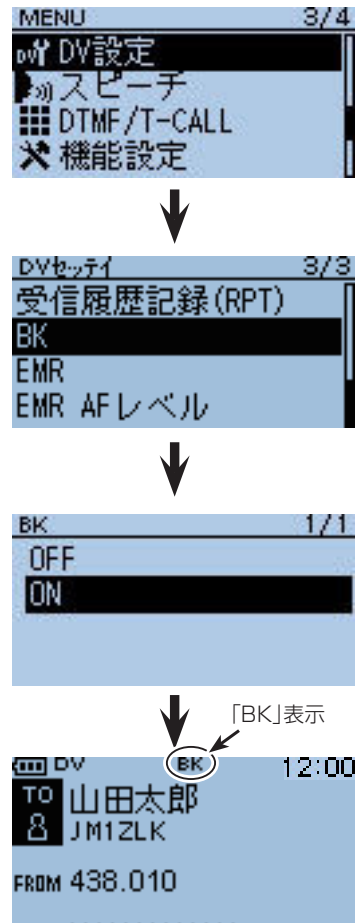
- ② [MENU]  を押します。
- ③ 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「BK」画面を表示します。



- ④ 上下キーで「ON」を選択します。
- ⑤ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - 「BK」表示が点灯します。
- ⑥ 両局が受信状態のときに、[PTT]を押します。
 - 送信状態になり、送受信表示LEDが赤点灯します。

※割り込み通信を受信した局は、「BK」表示が点滅します。

※BK(割り込み)通信を解除するときは、手順④で「OFF」を選択するか、本製品の電源を切ります。



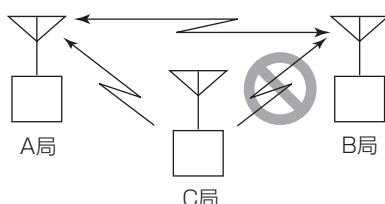
BK通信の使いかた

デジタルコールサインスケルチを使用しているときは、自局宛でない信号を受信してもスケルチは開きません。

※BK通信を「ON」に設定した信号を受信した場合は、自分が通信している相手局宛の信号であってもスケルチは開きます。

C局が「BK OFF」でA局を呼び出す場合

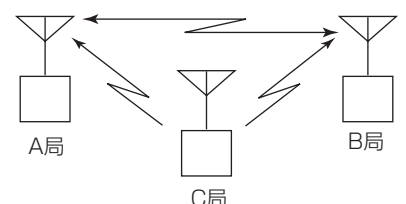
A-B局がデジタルコールサインスケルチを使って通信



C局がA局を呼び出しても、B局にはその呼び出しは聞こえない

C局が「BK ON」でA局を呼び出す場合

A-B局がデジタルコールサインスケルチを使って通信



C局がA局を呼び出すと、B局にもその呼び出しが聞こえる

■ EMRモードの運用

EMR(Enhanced Monitor Request)モードは、DVモードで至急に連絡を取るときなどに使用します。

※EMR信号を受信したすべての無線機のスケルチを強制的に開き、EMR AFレベルで設定された音量で信号を受信する状態にします。

安易にEMR信号を送信すると、他局に迷惑を与える原因になりますのでご注意ください。

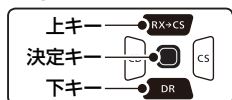
※EMR AFレベル機能が搭載されていない機種では、音量が最小レベルになっていても、一定の音量で通話が聞こえます。

※相手局のコールサインやCQの設定は不要です。

※一度電源をOFFにすると、設定は解除されます。

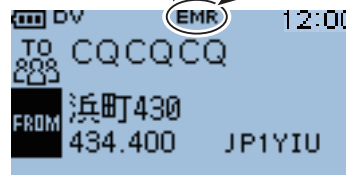
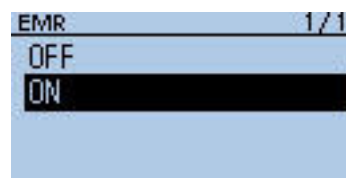
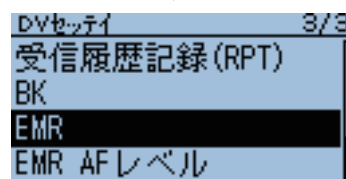
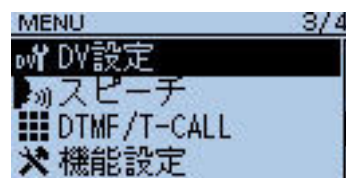
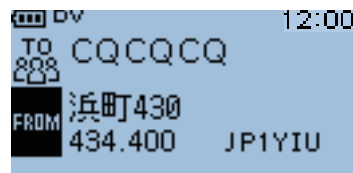
《例》EMRモードで浜町430から送信する

- ① [DR]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ② 上下キーで“FROM”を選択し、決定キーを押します。



- ③ 上下キーで“レピータリスト”を選択し、決定キーを押します。
- ④ 上下キーで“01:関東”を選択し、決定キーを押します。
- ⑤ 上下キーで、“浜町430”を、決定キーを押します。
- ⑥ [MENU][MENU]を押します。
- ⑦ 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「EMR」画面を表示します。
- ⑧ 上下キーで“ON”を選択します。
- ⑨ [MENU][MENU]を押すと、MENU画面を解除します。
 - “EMR”表示が点灯します。
- ⑩ [PTT]を押します。

- 送信状態になり、送受信表示LEDが赤点灯します。
- ※EMR信号を受信した局は、“EMR”表示が点滅し、EMR AFレベルで設定された音量に切り替わります。
- ※EMRモードを解除するときは、手順⑧で“OFF”を選択するか、本製品の電源を切ります。



4 DRモード<応用編>


■ EMRモードの運用(つづき)

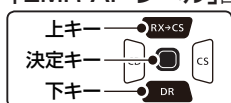
◇ EMR信号受信時の音量を調整する


EMR信号を受信したときの音量レベルを“0～39”の範囲で設定します。

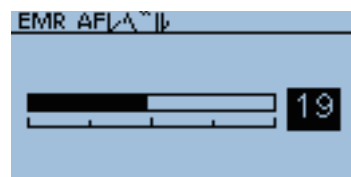
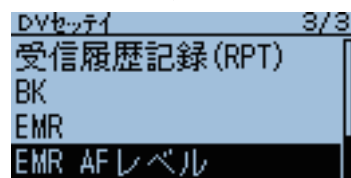
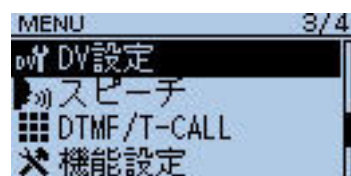
ただし、[VOL]で設定している音量の方が大きい場合は、その音量で受信します。

“0”を設定すると、この機能は動作しません。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「EMR AF レベル」画面を表示します。




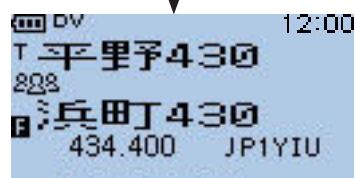
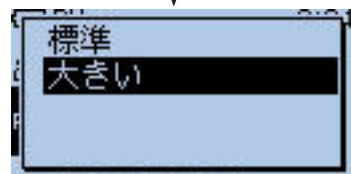
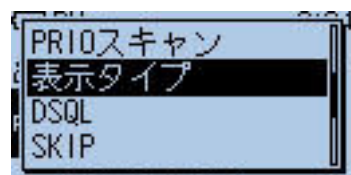
- ③ 上下キーでEMR信号受信時の音量を調整します。
 - 0(最小音量)～39(最大音量)の範囲(1ステップ)で設定します。 (初期設定値:19)
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。



■ 表示タイプについて

DRモードで表示するレピータネームなどの文字を大きくできます。


- ①  を押します。
- ② 上下キーで“表示タイプ”を選択し、決定キーを押します。
- ③ 上下キーで“大きい”を選択し、決定キーを押します。
 - 「FROM」と「TO」に設定したレピータネームなどの文字を大きく表示します。

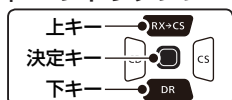



■ DV自動検出機能について

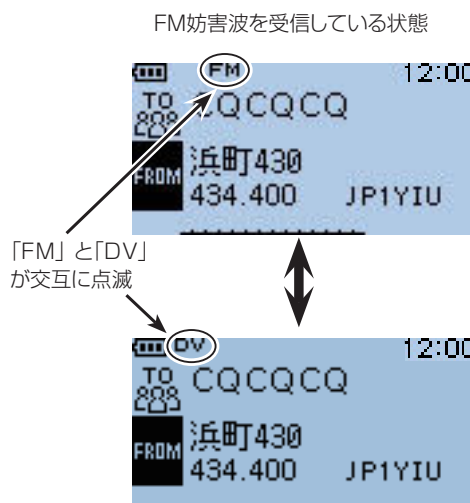
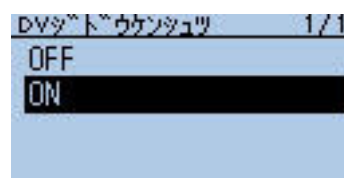
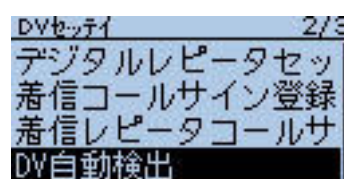
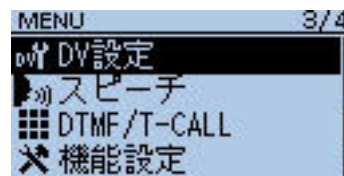
DVモードで運用中、FMモードの信号を受信すると、DV表示とFM表示が点滅して、DVモードの信号でないことを示します。

自動検出機能を設定しているときにFMモードの信号を受信すると、自動的にFMモードに切り替えて受信します。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「DVジドウケンシュツ」画面を表示します。



- ③ 上下キーで“ON”を選択します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - FMモードの信号を受信すると、DV表示とFM表示が点滅して、FMモードで受信します。




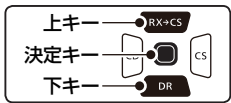

ご参考

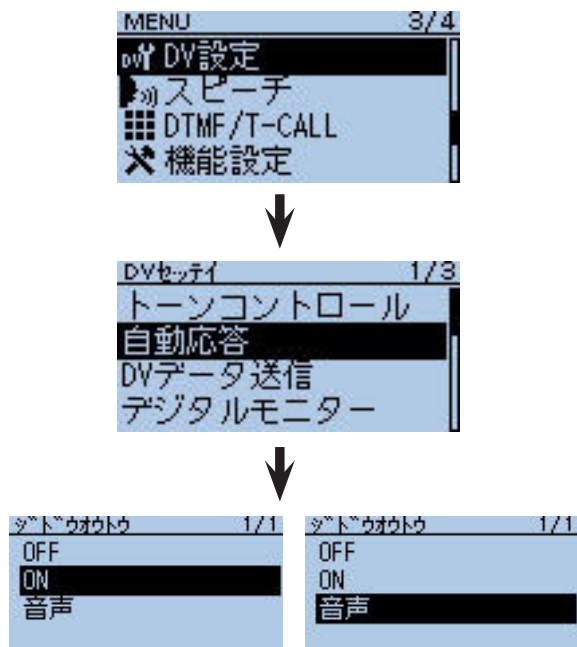
デジタルコールサインスケルチ(DSQL)、デジタルコードスケルチ(CSQL)が設定されている場合は、DV自動検出機能が“ON”であっても、静かな待ち受けを優先するため、FMモードを受信しません。

4 DRモード<応用編>

■ 自動応答機能の使いかた

本製品では、自局宛の信号を受信すると、呼び出してきた相手局のコールサインを自動的に設定して、自局のコールサインを送出する自動応答機能を装備しています。

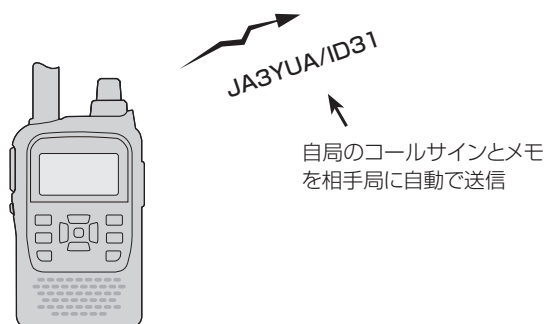
- ① [MENU]  を押します。
 - ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「ジドウオウトウ」画面を表示します。
- 
- ③ 上下キーで“ON”または“音声”を選択します。
 - ON：自局のコールサインを送信して、自動で応答します。
 - 音声：自動応答用として、microSDカードに録音された音声を自動で最大10秒間送信します。
※音声といっしょに自局のコールサインも送信します。
 - ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。



ご注意

- 自動応答機能は、一時的にコールサインを書き換えて応答します。
- 自動応答機能を使用しているときは、パワーセーブ機能を停止します。

- ONに設定して自動応答したときの動作



- 音声に設定して自動応答したときの動作



音声を録音したいときは


※MENU画面内の「DVジドウオウトウ」画面で自動応答用の音声を録音できます。(P4-11)
音声メモ > DV自動応答

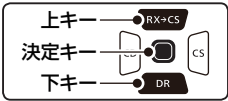
◇ 自動応答用の音声を録音する


自局宛の信号を受信したときに、自動で応答するときの応答音声を録音できます。

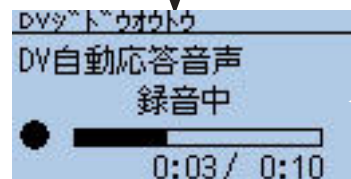
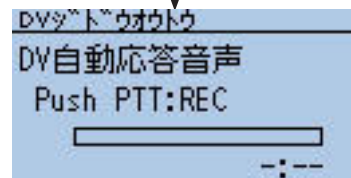
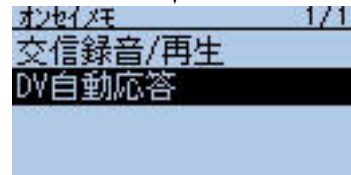
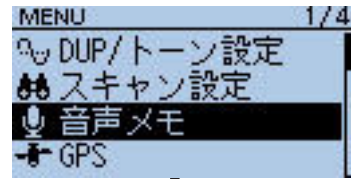
ご注意

自動応答用の音声を録音する場合は、市販のmicroSDカードを取り付けている必要があります。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「DVジドウオウトウ」画面を表示します。





- ③ [PTT] を押すと、録音を開始します。
 - [PTT] をはなすと録音を終了します。
 - 録音時間は最大10秒間です。
 - 内蔵マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で録音してください。
 - 録音できるのは1件だけです。再度録音すると、録音内容が上書きされます。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。

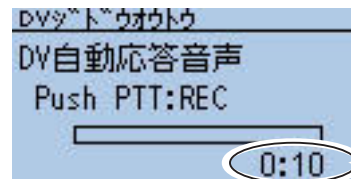


← 録音中の画面

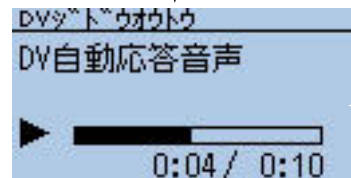
◇ 録音した内容を聞く

応答用に録音した音声を再生できます。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「DVジドウオウトウ」画面を表示します。
- ③ 決定キーを押します。
 - 再生を開始します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。



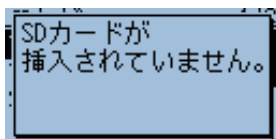
← 録音した時間を表示




← 再生中の画面

microSDカードが取り付けられていない場合は

microSDカードが取り付けられていない場合は、右図の画面が表示されます。



録音内容を削除したい場合は

録音内容を削除したい場合は、DVジドウオウトウ画面で  を押すと、選択できます。



4 DRモード<応用編>

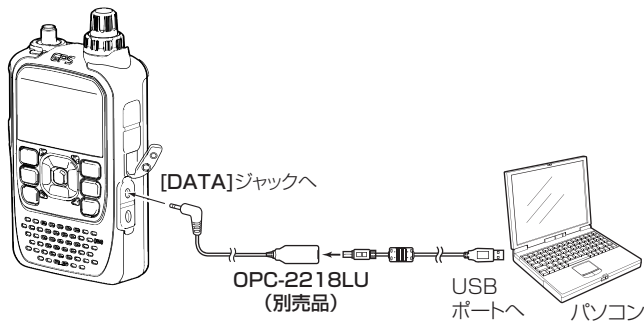
■ 簡易データ通信について

DVモード運用時、音声とデータを同時に送信する簡易データ通信ができます。

簡易データ通信をするには、別売品のOPC-2218LU(データ通信ケーブル)と通信ソフトウェア(市販品など)が必要です。

◇ パソコンの接続について

本製品の[DATA]ジャックとパソコンを別売品のOPC-2218LU(データ通信ケーブル)で接続します。



ご注意

簡易データ通信をするときは、下記の項目が設定されているかご確認ください。

- MENU画面内の「GPSセンタク」画面で、「外部GPS」が設定されているときは、「外部GPS」以外を設定してください。(※P5-2)
GPS > GPS設定 > GPS選択
- MENU画面内の「GPSシュツリョク」画面で、「ON」が設定されているとき、「OFF」を設定してください。(※P10-22)
GPS > GPS設定 > GPS出力
- MENU画面内の「GPSソウシンモード」画面で、「GPS(DV-G)」、または「GPS-A(DV-A)」が設定されているとき、「OFF」を設定してください。(※P5-18)
GPS > GPS送信モード

◇ 通信ソフトウェアの設定について

下記を参照して、通信速度などを設定してください。

- Port : 本製品が使用しているCOMポート番号を選択※1
- Baud rate : 4800/9600bps※2
- Data : 8bit
- Parity : none
- Stop : 1bit
- Flow control : Xon/Xoff

※1 パソコンの環境によっては、本製品が使用するCOMポート番号が5以上になる場合があります。

このときは、COMポート番号を5以上に設定できる通信ソフトウェアをご使用ください。

※2 本製品が使用するBaud rateは、MENU画面内の「データスピード」画面で設定できます。(※P10-50)
機能設定 > データスピード

◇ 簡易データ通信の操作

簡易データ通信を操作するときは、使用する通信ソフトウェアの取扱説明書をよくお読みください。

- ① 自局、相手局、レピータのコールサインを設定します。
- ② 使用する通信ソフトウェアの取扱説明書などにしたがって操作します。
- ③ [PTT]を押します。

- 送信状態になり、音声と同時にデータを送信します。
※MENU画面内の「DVデータソウシン」画面で「オート」に設定されているときは、通信ソフトウェア画面に文字を入力すると、その内容を自動送信します。(※P10-42)

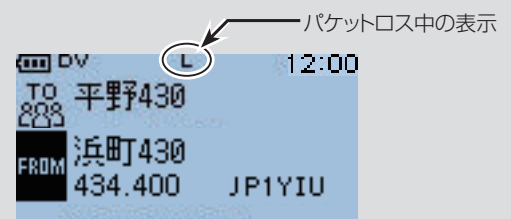
この場合は、データだけを送信します。

DV設定 > DVデータ送信

- ※自動送信時は、送信開始前に約500msの**キャリアセンス**が動作します。

ご注意

- 簡易データ通信で使用できる文字は、**ASCIIコード**だけです。
- 本製品の標準機能として、20文字(半角英数字、記号)までのメッセージが送れるメッセージ機能も装備しています。(※P4-2、P4-3)
- 本製品で使用する通信ソフトウェアとパソコンの組み合わせによっては、一部のデータが正しく送受信できない場合があります。
- インターネット回線網を経由したゲートウェイ通信では、パケットロスによって、データの一部を失うことがあります。また、パケットロス発生時は、ディスプレイに「L」表示が点灯します。




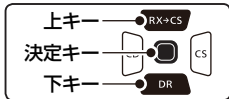
■ スピーチ機能の使いかた


本製品では、受信した相手局のコールサインを読み上げたり、応答設定した相手局のコールサインを読み上げたりするスピーチ機能を搭載しています。

画面を見なくても誰が交信しているのかわかるので、運転中など、画面を注視できないときや相手局の声を聞き逃したときに便利な機能です。

◇ 受信時に相手局のコールサインを読み上げるには受信した相手局のコールサインを読み上げる設定をします。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「RXコールサインスピーチ」画面を表示します。



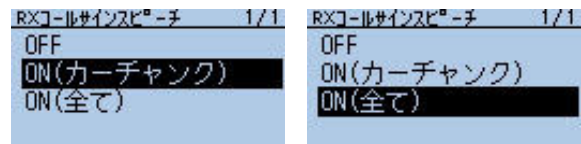
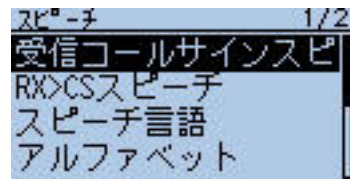
- ③ 上下キーで“ON(カーチャック)”または“ON(全て)”を選択します。
 - ON(カーチャック)：短いDV信号(カーチャック)を受信したときだけ、相手局のコールサインを読み上げます。(初期設定値)
 - ON(全て)：受信時間に関わらず、相手局のコールサインを読み上げます。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - 受信すると、スタンバイビープが鳴り(初期設定)、約1秒後に相手局のコールサインが読み上げられます。

ご注意

- コールサインのうしろ(/ スラッシュ)に設定された任意の文字(名前やリグ名、移動運用先など)は、受信しても読み上げません。
※コールサインのうしろの識別符号は読み上げます。
- 読み上げの音声は、microSDカードに録音されません。

ご参考

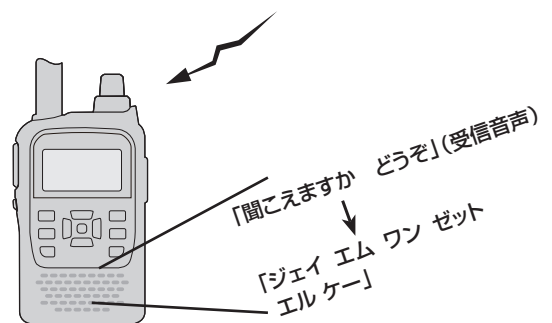
デジタルコールサインスケルチ(DSQL)、デジタルコードスケルチ(CSQL)が設定されている場合は、受信コールサインスピーチ機能が“ON(カーチャック)”または“ON(すべて)”であっても、DSQL/CSQLを優先するため、デジタルスケルチが不一致の場合は読み上げません。



- ON(カーチャック)に設定して受信したときの動作




- ON(全て)に設定して受信したときの動作

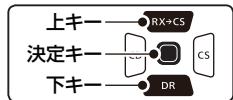



4 DRモード<応用編>

■スピーチ機能の使いかた(つづき)

◇ 応答設定時に相手局のコールサインを読み上げるには
 [RX>CS]を押して、応答設定したとき、設定した相手局のコールサインを読み上げます。

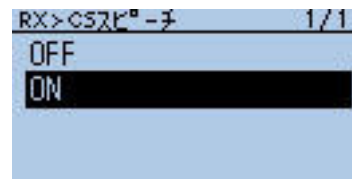
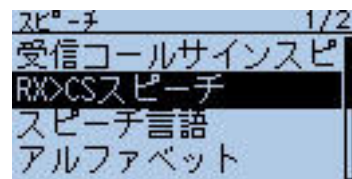
- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、
 の操作を繰り返して
 「RX>CSスピーチ」画面を表示します。



- ③ 上下キーで“ON”を選択します。(初期設定: ON)
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
- ⑤ [RX>CS]を押しながら[DIAL]を回して応答したい相手局を選択します。
 - [RX>CS]をはなすと、相手局のコールサインが読み上げられます。

ご注意


読み上げ中は、受信音は聞こえず、microSDカードにも録音されません。
 録音中に読み上げされると、そのあいだは無音で録音されます。




- ONに設定して、応答設定したときの動作



◇スピーチの発音を日本語から英語に変更するには読み上げるときの発音言語を変更できます。受信時と応答設定時の両方に共通して設定されます。

- ① [MENU]  を押します。
 - ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「スピーチゲンゴ」画面を表示します。
- 上キー → RX+CS



決定キー → CS

下キー → DR
- ③ 上下キーで“英語”を選択します。
 - ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - 読み上げるときに、相手局のコールサインが英語発音になります。



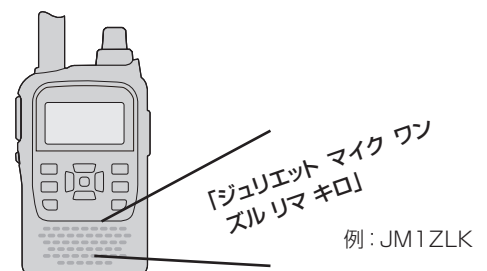
◇読み上げ方法を「アルファ、ブラボー、チャーリー…」(フォネティックコード)に変更する

読み上げ方法をフォネティックコードに変更できます。受信時と応答設定時の両方に共通して設定されます。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「アルファベット」画面を表示します。
- ③ 上下キーで“フォネティックコード”を選択します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - 読み上げるときに、相手局のコールサインがフォネティックコードになります。



- フォネティックコードに設定して、読み上げたときの動作




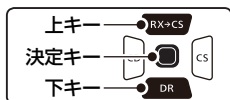
4 DRモード<応用編>


■スピーチ機能の使いかた(つづき)

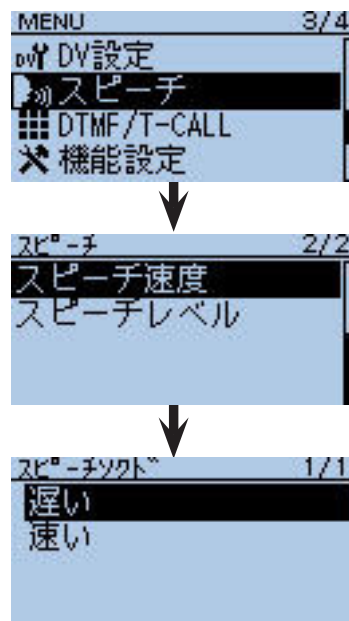
◇読み上げ速度を遅くするには

読み上げるときの速さを変更できます。
受信時と応答設定時の両方に共通して設定されます。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、
の操作を繰り返して
「スピーチソクド」画面を表示します。





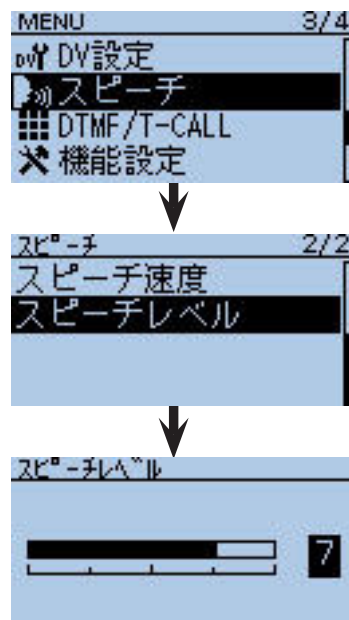
- ③ 上下キーで“遅い”を選択します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - 読み上げるときに、速さが遅くなります。



◇読み上げ音量を変更するには

読み上げ音量を変更できます。
受信時と応答設定時の両方に共通して設定されます。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、
の操作を繰り返して
「スピーチレベル」画面を表示します。
- ③ 上下キーで読み上げ時の音量を調整します。
 - 0(最小音量)～9(最大音量)の範囲で設定します。
(初期設定値:7)
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - 設定した音量で読み上げます。
 - “0”(最小音量)を設定すると、読み上げません。
 - [VOL]操作と連動して音量が変化します。



■ デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能

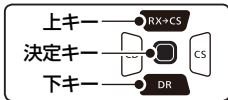
特定の相手局と交信するときに便利な機能です。
 自局が設定したデジタルコード、または自局のコールサインを受信したときだけ、スケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。
 ※運用モードごとに設定できます。

◇ デジタルコールサインスケルチを設定する

- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードを表示します。
 - ※ほかの運用モードで使いたい場合は、**[V/MHz]**(**[CLR/LOW]**)または**[M/CALL]**(**[S.MW]**)を押してVFO/メモリー/CALL-CHモードを選択してください。

- ② **[QUICK MENU]**を押します。

- ③ 上下キーで“DSQL”を選択し、決定キーを押します。



- ④ 上下キーで“DSQL (⊙)”, または“DSQL”を選択します。
 - DSQL (⊙) : デジタルコールサインスケルチ機能のポケットビープをONにします。
 - DSQL : デジタルコールサインスケルチ機能をONにします。

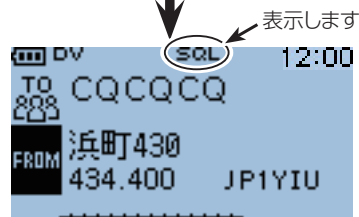
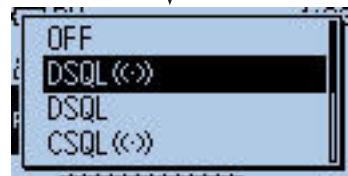
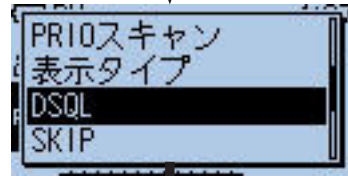
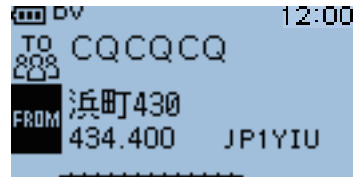
- ⑤ 決定キーを押すと、デジタルコールサインスケルチを設定して、QUICK MENU画面を解除します。
 - SQL表示が点灯します。
 - VFO/メモリー/CALL-CHモードで設定したときは“DSQL (⊙)”, または“DSQL”表示が点灯します。
 ※CQ呼び出しや他局宛の信号を受信した場合、ディスプレイにSメーターが表示されますが、音声は聞こえません。

ご注意

- DSQL(デジタルコールサインスケルチ)は、自局のコールサインを判断して動作しているため、3局以上の複数局で運用するときは、CSQL(デジタルコードスケルチ)で運用してください。
- 簡易データ通信時は、他局宛の信号(異なるコールサイン)であっても、データ信号を受信します。

◇ デジタルコールサインスケルチをポケットビープで待ち受け受信しているとき

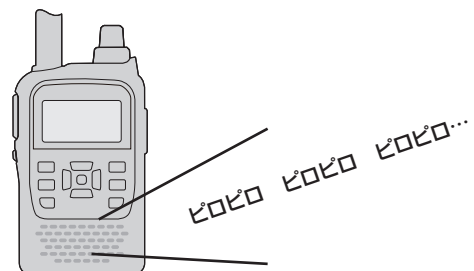
呼び出しを受けたら、30秒以内に**[PTT]**を押して通話するか、**決定キー**を押すと、ポケットビープ機能は解除(DRモード以外は“(⊙)”が消灯する)され、デジタルコールサインスケルチ機能の動作に変わります。
 また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止します。(DRモード以外は停止後“(⊙)”が点滅をつづけて、呼び出されたことを知らせます。)



- VFO/メモリー/CALL-CHモードで“DSQL (⊙)”, または“DSQL”を設定したときの表示



- “DSQL (⊙)”に設定して、呼び出しを受けたときの動作



4 DRモード<応用編>

■ デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能(つづき)

◇ デジタルコードスケルチを設定する

- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードを表示します。
 - ※ほかの運用モードで**デジタルコードスケルチ**を使用したい場合は、**[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)または**[M/CALL]** (M/CALL S, MW)を押してそのモードを選択してください。
- ② **QUICK MENU**を押します。
- ③ 上下キーで**“DSQL”**を選択し、**決定キー**を押します。

上キー ← **RR+CS**

決定キー ← **CS**

下キー ← **DR**
- ④ 上下キーで**“CSQL (⊙)”**、または**“CSQL”**を選択します。
 - **CSQL (⊙)** : デジタルコードスケルチ機能のポケットビープをONにします。
 - **CSQL** : デジタルコードスケルチ機能をONにします。
- ⑤ **決定キー**を押すと、デジタルコードスケルチを設定して、QUICK MENU画面を解除します。
 - SQL表示が点灯します。
 - VFO/メモリー/CALL-CHモードで設定したときは**“CSQL (⊙)”**、または**“CSQL”**表示が点灯します。
- ⑥ **[MENU]** (MENU)を押します。
- ⑦ 上下キーで選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して**「デジタルコード」**画面を表示します。
- ⑧ **[DIAL]**を回して、デジタルコードを選択します。
- ⑨ **[MENU]** (MENU)を押すと、MENU画面を解除します。

ご注意

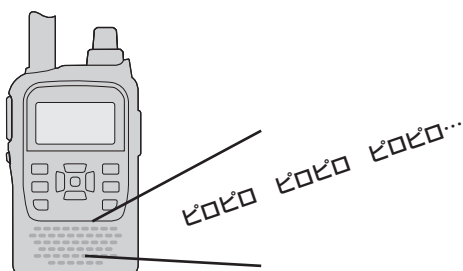
簡易データ通信時は、他局宛の信号(異なるデジタルコード)であっても、データ信号を受信します。

◇ デジタルコードスケルチをポケットビープで待ち受け受信しているとき

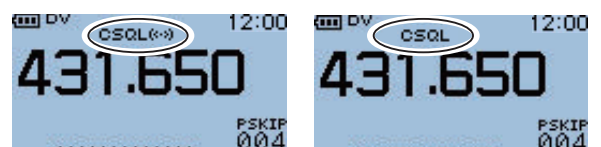
呼び出しを受けたら、30秒以内に**[PTT]**を押して通話するか、**決定キー**を押すと、ポケットビープ機能は解除(DRモード以外は“(⊙)”が消灯する)され、デジタルコードスケルチ機能の動作に変わります。

また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止します。(DRモード以外は停止後“(⊙)”が点滅をつづけて、呼び出されたことを知らせます。)

- **“CSQL (⊙)”**に設定して、呼び出しを受けたときの動作



- VFO/メモリー/CALL-CHモードで**“CSQL (⊙)”**、または**“CSQL”**を設定したときの表示



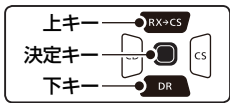
■ メモリーモードでD-STAR®を運用するには

DRモードで設定した内容をメモリーに登録してお使いいただけます。

メモリーに登録しておくことで、[DIAL]を回すだけで送信先を変更できるので便利です。

◇ DRモードで設定した内容をメモリーに書き込む
《例》「FROM：浜町430」/「TO：平野430」の設定内容をメモリーチャンネル001に登録する

- ① [DR]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● DRモードを表示します。
- ② 上下キーで“FROM”を選択し、決定キーを押します。



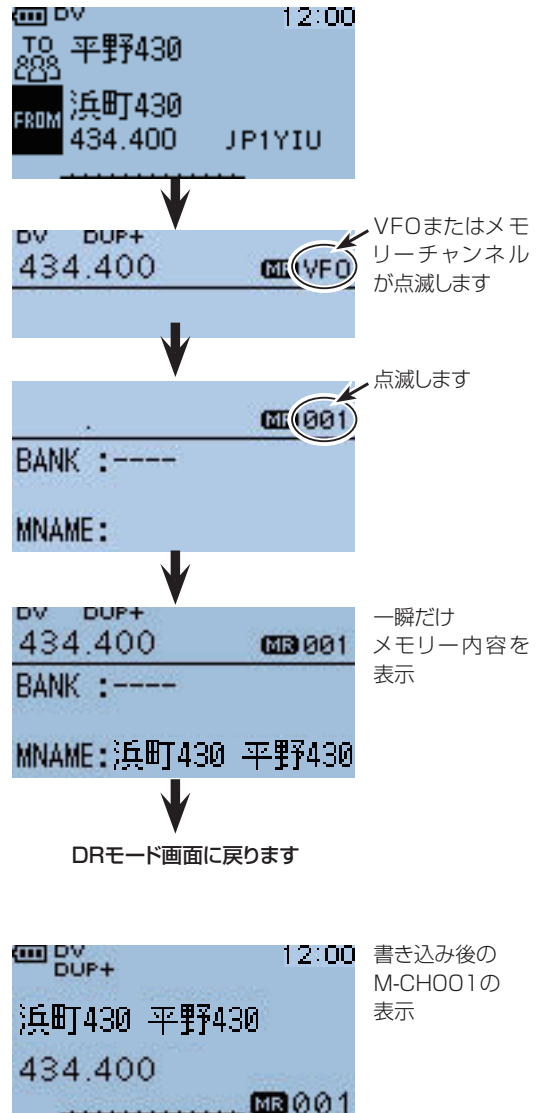
- ③ 上下キーで“レピータリスト”を選択し、決定キーを押します。
- ④ 上下キーで“01：関東”を選択し、決定キーを押します。
- ⑤ 上下キーで、“浜町430”を選択します。
- ⑥ 上下キーで“TO”を選択し、決定キーを押します。
- ⑦ 上下キーで“エリアCQ”を選択し、決定キーを押します。
- ⑧ 上下キーで“03：近畿”を選択し、決定キーを押します。
- ⑨ 上下キーで、“平野430”を選択し、決定キーを押します。
- ⑩ [S.MW]^(M/CALL)_(S.MW)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してセレクトメモリーライトの状態にします。

● DRモードに入る前に表示させていた運用モードのチャンネルが点滅して、その登録内容を表示します。

※キーをはなさずに押しつづけると、VFOモードに設定を書き込みますのでご注意ください。

押し続けてしまった場合は、メモリーに書き込まれていないため、はじめからやりなおしてください。

- ⑪ [DIAL]を回して、M-CH“001”を選択します。
- ⑫ [S.MW]^(M/CALL)_(S.MW)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、メモリー内容を書き込み、DRモード画面に戻ります。
● 一瞬だけメモリー内容を表示します。
※空いているM-CHIに書き込んだ場合、メモリー名称が自動的に設定されます。

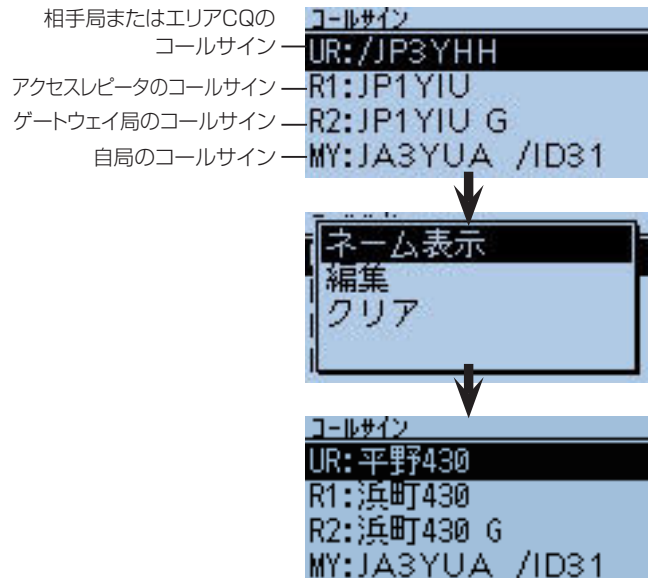


DRモード画面に戻ります

書き込み後のM-CH001の表示

■ コールサインの設定を確認する

- ① [FM/DV]^(FM/DV)_(SCAN)を数回押して、DVモードを選択します。
- ② [CS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● コールサイン設定画面が表示されます。
※ DR/VFO/CALL-CHモードでも表示します。
※ 名称で表示したいときは、[QUICK MENU]を押してから、上下キーで“ネーム表示”を選択し、決定キーを押してください。



4 DRモード<応用編>

■ レピータリストについて

レピータの情報をレピータリストに登録しておくことで、
 発信するときの設定が簡単になります。
 最大700件のレピータ情報を20グループに分けて登録で
 きます。

ご注意

本製品は、お客様が快適に運用していただくために、レ
 ピータリストをプリセットして出荷していますが、オー
 ルリセットすると、プリセットの内容をすべて消去しま
 すのでご注意ください。

◇ レピータリストに登録できる設定項目一覧

- **ネーム** : レピータネームの入力(☞P4-22)
- **サブネーム** : レピータのサブネームの入力
 (☞P4-23)
 ※プリセット時は、都道府県名が入力さ
 れています。
- **コールサイン** : レピータコールサインの入力
 (☞P4-24)
- **GW** **コールサイン** : ゲートウェイコールサインの編集
 (☞P4-24)
- **グループ** : レピータグループの設定(☞P4-25)
- **USE(FROM)** : アクセスレピータの使用を設定
 (☞P4-25)
- **周波数** : 周波数の入力(☞P4-25)
- **DUP** : **デュプレックス**の設定(☞P4-26)
- **オフセット周波数** : オフセット周波数の設定(☞P4-26)
- **位置情報** : 位置情報の精度の設定(☞P4-26)
- **緯度** : レピータの緯度の入力(☞P4-27)
- **経度** : レピータの経度の入力(☞P4-27)
- **UTC** **オフセット** : 協定世界時との時差の入力(☞P4-27)

ご参考

- レピータのコールサインや周波数などの情報につい
 ては、一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)
 ホームページで閲覧できます。
 JARLホームページ <http://www.jarl.or.jp/>
- レピータリストや各種コールサイン、メモリーなどが簡
 単に入力できるクローニングソフトウェア(CS-31 :
 付属のCDに同梱)もご利用ください。
- プリセットの内容については弊社ホームページからダ
 ウンロードできます。
 アイコムホームページ
<http://www.icom.co.jp/d-starsite/>

例：浜町430のレピータに登録されている情報

レピータリスト 1/7
 ネーム:
 浜町430
 サブネーム:
 東京都

レピータリスト 2/7
 コールサイン:
 JP1YIU
 GWコールサイン:
 JP1YIU G

レピータリスト 3/7
 グループ:
 01
 USE (FROM):
 YES

レピータリスト 4/7
 周波数:
 434.400.00
 DUP:
 DUP+

レピータリスト 5/7
 オフセット周波数:
 5.000.00
 位置情報:
 正確

レピータリスト 6/7
 緯度:
 35°41'12"N
 経度:
 139°47'28"E

レピータリスト 7/7
 UTCオフセット:
 + 9:00

レピータリストにレピータ情報を登録する

新たに設置されたD-STAR®レピータを登録したいときなど、レピータリストに新規で登録する方法を説明します。

アクセスレピータとして登録する場合と、エリアCQをするための呼び出し先レピータとして登録する場合、**シンプルックス**通信用として登録する場合で、最低限必要な設定項目が変わりますので、右記の一覧でご確認ください。

ご注意

レピータリストにレピータ情報を登録するには、レピータコールサインの入力が必要です。

右の表の補足


- 新規登録に最低限必要な設定項目です。
- *1 シンプルックス通信用として登録する場合は、コールサイン項目を必ずblankに設定してください。
- *2 シンプルックス通信用として登録する場合は、「DUP」の設定項目を必ず「OFF」に設定してください。

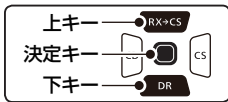
◇ 目的別 新規登録に最低限必要な項目


レピータリストの設定項目	アクセスレピータとして登録	呼び出し先レピータとして登録	シンプルックス通信用として登録
ネーム	-	-	-
サブネーム	-	-	-
コールサイン	●	●	- *1
GWコールサイン	● (GW通信する場合)	●	-
グループ	-	-	-
USE(FROM)	●	-	●
周波数	●	-	●
DUP	●	-	- *2
オフセット周波数	●	-	-
位置情報	-	-	-
緯度	-	-	-
経度	-	-	-
UTCオフセット	-	-	-

◇ レピータリストにレピータを新規登録する

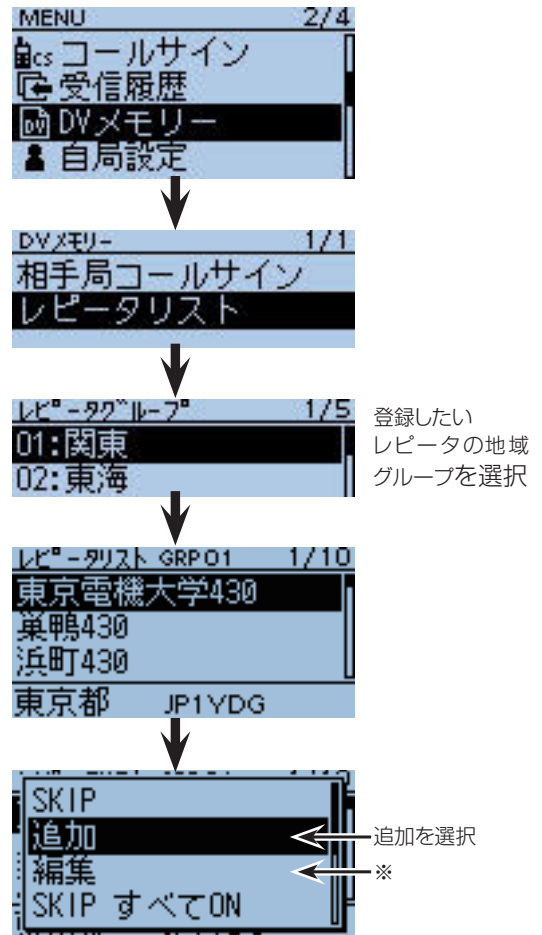
1. 登録したいレピータグループを選択する

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「DVメモリー」画面を表示します。
- ③ 上下キーで「レピータリスト」を選択し、決定キーを押します。



- プリセットされた地域グループが表示されます。
- ④ 上下キーで登録したいレピータの地域グループを選択し、決定キーを押します。
 - 選択したグループのレピータリストが表示されます。
- ⑤  を押します。
- ⑥ 上下キーで「追加」を選択し、決定キーを押します。
 - 「レピータリスト ヘンシュウ」画面を表示します。

(次のページへ)



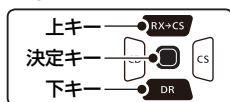
※ レピータの内容をコピーして新規登録する場合は、編集を選択します。入力のみは追加する場合と同じです。

4 DRモード<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

2. レピータ名前を編集する

⑦ 上下キーで“名前”を選択します。



⑧ 決定キーを押して、名前の編集モードに入ります。

⑨ [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。

- [CLR] (V/MHz CLR LOW)を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR] (V/MHz CLR LOW)を押しつづけると、連続して削除できます。

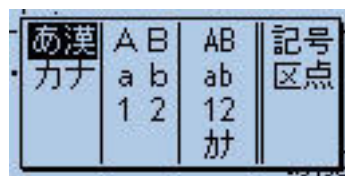
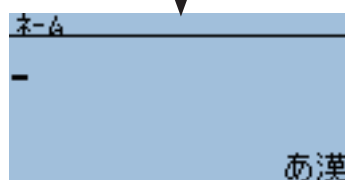
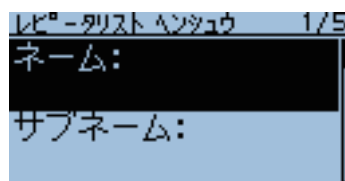
- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
- 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で [MENU] を押すと、入力モード選択画面を表示します。上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[QUICK MENU] を押すと、文字一覧を表示します。
- 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、[QUICK MENU] を押すと選択できます。
※ “カナ” 入力の場合は、文字を選択して、[QUICK MENU] を押すごとに切り替わります。

⑩ [C]または[C]を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

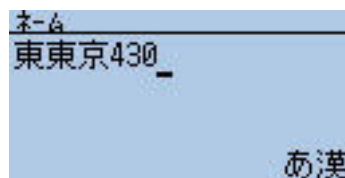
⑪ 手順⑨～⑩を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペース含む)でレピータ名前を入力します。

⑫ レピータ名前の入力が完了したら、決定キーを押します。

(次のページへ)



入力モード選択画面



(例) 東京430を入力した場合

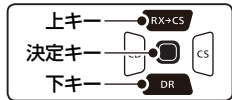
入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカクケコサシスセソタチツト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラ リレロワラン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつと なにぬねのはひふへほまみむめもやゆよら れるわをん (ひらがな1文字選択後、[QUICK MENU]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字(漢字など)や記号を入力できます。

※ ■ はスペースです

3. サブネームを編集する

13 上下キーで“サブネーム”を選択します。



14 決定キーを押して、サブネームの編集モードに入ります。

15 [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。

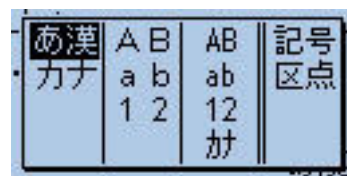
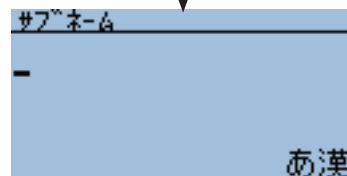
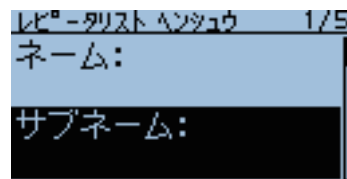
- [CLR] を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR] を押しつづけると、連続して削除できます。
- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
- 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で を押すと、入力モード選択画面を表示します。上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、 を押すと、文字一覧を表示します。
- 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、 を押すと選択できます。
※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、 を押すごとに切り替わります。

16 または を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

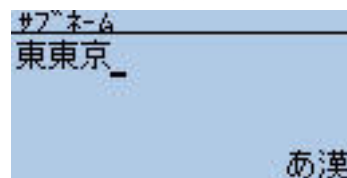
17 手順15～16を繰り返し、全角4文字(半角8文字)以内(スペース含む)でサブネームを入力します。

18 サブネームの入力が完了したら、決定キーを押します。

(次のページへ)



入力モード選択画面



(例) 東京を入力した場合

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワワン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとな にぬねのはひふへほまみむもやゆよらりる れるわをん (ひらがな1文字選択後、 で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字(漢字など)や記号を入力できます。

※ はスペースです

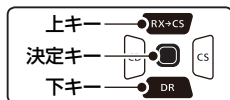
4 DRモード<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

4. レピータコールサインを編集する

※**シンプルレックス**として使用する場合は、「7.DRモードで使用するアクセスレピータを設定する」に進んでください。

19 上下キーで“コールサイン”を選択します。



20 決定キーを押して、コールサインの編集モードに入ります。

21 [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。

- [CLR] ($\frac{V}{CLR LOW}$)を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR] ($\frac{V}{CLR LOW}$)を押しつづけると、連続して削除できます。
- 入力できる文字は、英数字(A~Z, 0~9)と「/」です。
- [DR]を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。

22 [C]または[CS]を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

23 手順21~22を繰り返し、8文字以内(スペース含む)でレピータのコールサインを入力します。

24 レピータコールサインの入力が完了したら、決定キーを押します。

5. ゲートウェイコールサインを編集する

※「4.レピータコールサインを編集する」で入力したコールサインの8桁目に“G”を入力したコールサインが自動的に設定されます。

※ゲートウェイコールサインを変更するときは、下記の手順にしたがって変更してください。

25 上下キーで“GWコールサイン”を選択します。

26 決定キーを押して、ゲートウェイコールサインの編集モードに入ります。

27 [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。

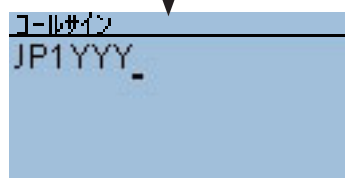
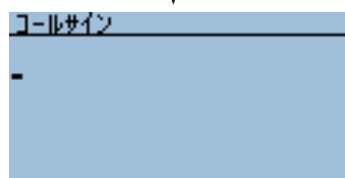
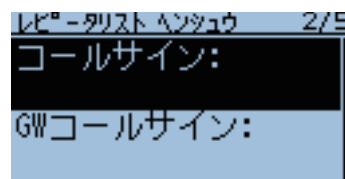
- [CLR] ($\frac{V}{CLR LOW}$)を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR] ($\frac{V}{CLR LOW}$)を押しつづけると、連続して削除できます。
- 入力できる文字は、英数字(A~Z, 0~9)と「/」です。
- [DR]を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。

28 [C]または[CS]を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

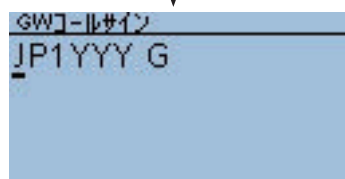
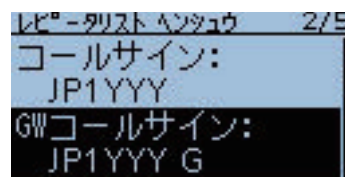
29 手順27~28を繰り返し、8文字以内(スペース含む)でゲートウェイコールサインを入力します。
※8桁目はG、または(スペース)だけ入力できます。

30 ゲートウェイコールサインの入力が完了したら、決定キーを押します。

(次のページへ)



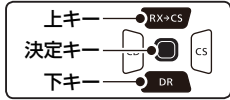
(例)
JP1YYYを入力した場合



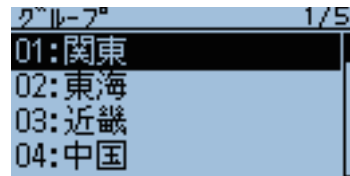
(例)
レピータコールサインにJP1YYYを入力した場合

6. レピータグループを設定する

- ① 上下キーで“グループ”を選択します。



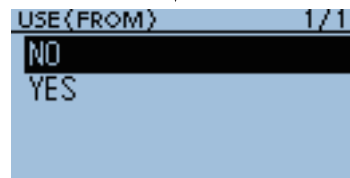
- ② 決定キーを押して、グループ選択モードに入ります。
 ③ 上下キーで登録したいレピータのグループ番号(01～20)を選択し、決定キーを押します。
 ④ レピータグループの設定が完了したら、決定キーを押します。



7. DRモードで使用するアクセスレピータを設定する

※ DRモードでアクセスレピータ、またはシンプレックスとして使用しない場合は、“NO”を選択し、「11. 位置情報の精度を設定する」へ進んでください。

- ⑤ 上下キーで“USE (FROM)”を選択し、決定キーを押します。
 ⑥ DRモードでアクセスレピータに設定する場合は、上下キーで“YES”を選択し、決定キーを押します。

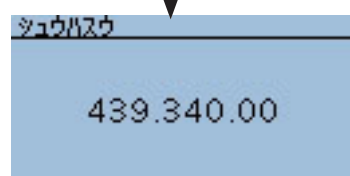
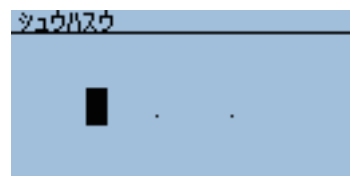
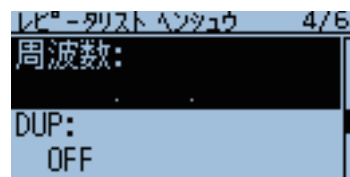


8. アクセスレピータの周波数を入力する

※「7.DRモードで使用するアクセスレピータを設定する」を“YES”に設定すると表示します。

- ⑦ 上下キーで“周波数”を選択します。
 ⑧ 決定キーを押して、周波数の編集モードに入ります。
 ⑨ [DIAL]を回し、周波数を設定します。
 ⑩ [←]または[→]を押してカーソルを移動し、編集する桁を選択します。
 ⑪ 手順⑨～⑩を繰り返し、周波数を設定します。
 ⑫ 周波数の入力完了したら、決定キーを押します。

(次のページへ)



(例)
439.340を入力した
場合

4 DRモード<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

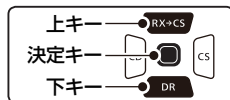
9. デュプレックスを設定する

※「7.DRモードで使用するアクセスレピータを設定する」を“YES”に設定すると表示します。

※「8.アクセスレピータの周波数を入力する」で周波数を入力すると、“DUP-”が自動的に設定されます。

※デュプレックスを変更するときは、下記の手順にしたがって変更してください。

43 上下キーで“DUP”を選択し、決定キーを押します。



44 上下キーでデュプレックスを選択します。

- OFF : デュプレックスを設定しない
※シンプレックスとして使用する場合は、“OFF”を選択してください。
- DUP- : 送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分だけ低くなる
- DUP+ : 送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分だけ高くなる

45 デュプレックスを選択したら、決定キーを押します。

10. オフセット周波数を設定する

※「7.DRモードで使用するアクセスレピータを設定する」を“YES”に設定すると表示します。

※「8.アクセスレピータの周波数を入力する」で周波数を入力すると、“5.000.00”が自動的に設定されます。

※オフセット周波数を変更するときは、下記の手順にしたがって変更してください。

46 上下キーで“オフセット周波数”を選択します。

47 決定キーを押して、オフセット周波数の編集モードに入ります。

48 [DIAL]を回し、オフセット周波数を設定します。

49 [C]または[CS]を押してカーソルを移動し、編集する桁を選択します。

50 手順48～49を繰り返し、オフセット周波数を設定します。
※[MENU]を押してから、上下キーで“周波数クリア”を選択して、決定キーを押すと、オフセット周波数がクリアされます。

51 オフセット周波数の入力完了したら、決定キーを押します。

11. 位置情報の精度を設定する

※ DRモードで、位置情報からアクセスレピータを検索する最寄レピータ機能を使用しない場合や、自局と登録したレピータとの距離を表示させない場合、“無し”を選択し、「14. UTC オフセット(協定世界時差)を設定する」へ進んでください。

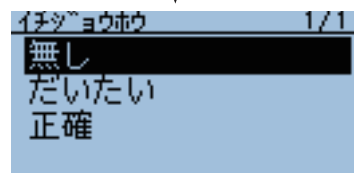
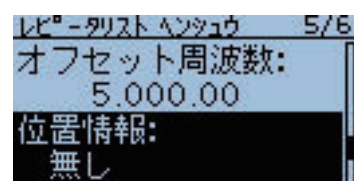
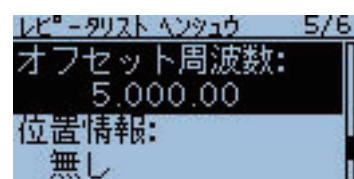
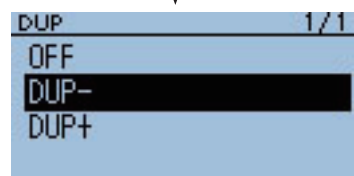
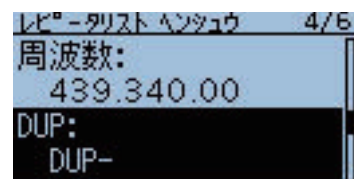
52 上下キーで“位置情報”を選択し、決定キーを押します。

53 上下キーで精度を選択します。

- 無し : レピータの位置情報なし
- だいたい : レピータの位置情報はあるが、正確でない場合
- 正確 : レピータの位置情報が正確な場合

54 位置情報の精度を設定したら、決定キーを押します。

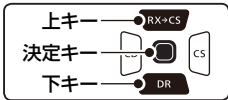
(次のページへ)



12. 緯度を設定する

※「11.位置情報の精度を設定する」で、“だいたい”または“正確”を選択したときに表示します。

55 上下キーで“緯度”を選択します。



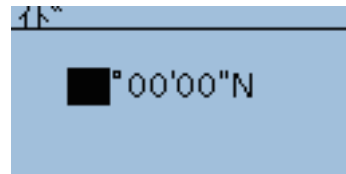
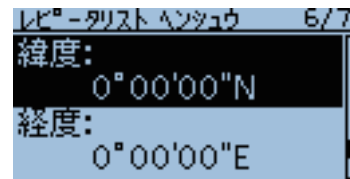
56 決定キーを押して、緯度の編集モードに入ります。

57 [DIAL]を回し、緯度を設定します。

58 [C]または[C]を押してカーソルを移動し、編集する桁を選択します。

59 手順57～58を繰り返し、緯度を設定します。

60 緯度の入力完了したら、決定キーを押します。



13. 経度を設定する

※「11.位置情報の精度を設定する」で、“だいたい”または“正確”を選択したときに表示します。

61 上下キーで“経度”を選択します。

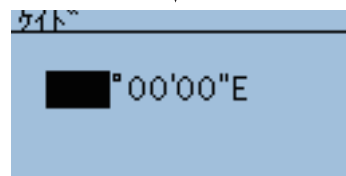
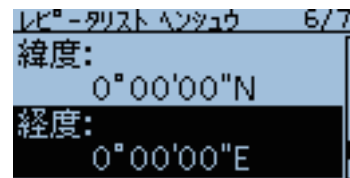
62 決定キーを押して、経度の編集モードに入ります。

63 [DIAL]を回し、経度を設定します。

64 [C]または[C]を押してカーソルを移動し、編集する桁を選択します。

65 手順63～64を繰り返し、経度を設定します。

66 経度の入力完了したら、決定キーを押します。



14. UTCオフセット(協定世界時差)を設定する

※ UTCオフセット(協定世界時差)を設定することで、エリアCQを出すときにそのレピータの時間を確認できます。(P4-34)

海外のレピータと交信する場合に便利です。

※ 日本のレピータを登録する場合は、「+9:00」(日本標準時刻)に設定してください。

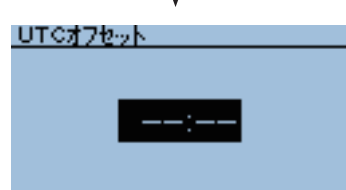
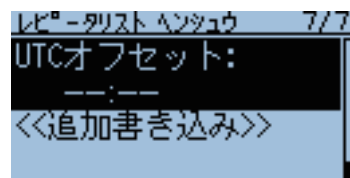
67 上下キーで“UTCオフセット”を選択します。

68 決定キーを押して、協定世界時差の編集モードに入ります。

69 [DIAL]を回し、時差を設定します。

※ [MENU]を押して“クリア”を選択すると、時差設定をクリアします。

70 時差設定が完了したら、決定キーを押します。



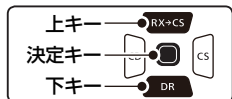
(次のページへ)

4 DRモード<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

15. レピータ情報を書き込む

- ① 上下キーで“追加書き込み”を選択し、決定キーを押します。

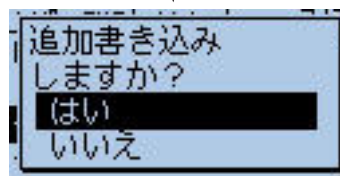
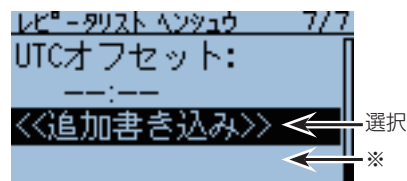
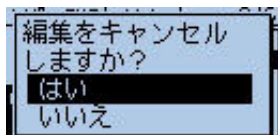


- ② 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
- レピータリストに追加登録され、レピータリスト画面に戻ります。

編集を取り消したいときは

編集を取り消したい場合は、[CLR] ^{V/MHz} CLR LOW を押すとキャンセル確認画面が表示します。

上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押すと入力した内容を削除してレピータリスト画面に戻ります。



(例)
東東京を
新規登録した
場合

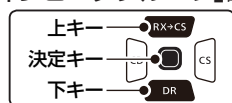
登録完了

※ レピータ情報を“編集”項目から変更した場合、“上書き”項目を表示します。

■ レピータリストのレピータ情報を編集する

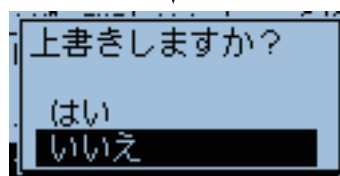
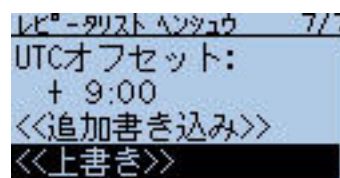
すでに登録されているレピータ情報を編集して上書きできます。

- ① [MENU] ^{MENU} を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「レピータグループ」画面を表示します。



- プリセットされた地域グループが表示されます。


- ③ 上下キーで編集したいレピータが入っているグループを選択し、決定キーを押します。
- ④ 上下キーで編集したいレピータを選択します。
- ⑤ ^{QUICK} MENU を押します。
- ⑥ 上下キーで“編集”を選択し、決定キーを押します。
- ⑦ 上下キーで編集したい項目を選択し、決定キーを押します。
- 編集のしかた (P4-21～P4-28)
- ⑧ 編集が完了すると、項目画面に戻ります。
- ⑨ 上下キーで“上書き”を選択し、決定キーを押します。
- ⑩ 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
- レピータリストに上書き登録され、レピータリスト画面に戻ります。

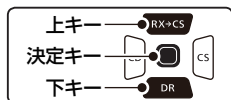



(例)
東東京430を
上書きした場合

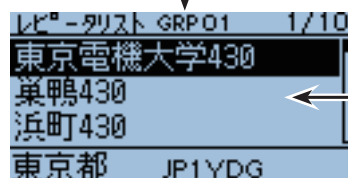
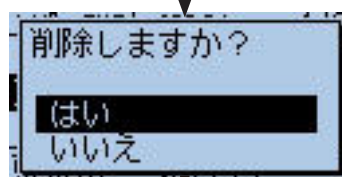
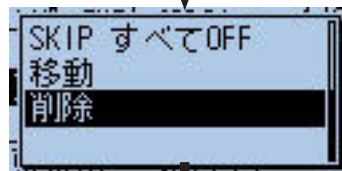
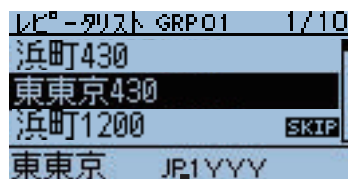
■ レピータリストのレピータ情報を削除する

不要になったレピータ情報を削除します。
いったん削除したレピータ情報は、復活できませんのでご注意ください。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、
の操作を繰り返して
「レピータグループ」画面を表示します。



- ③ 上下キーで削除したいレピータが入っているグループ
を選択し、決定キーを押します。
- ④ 上下キーで削除したいレピータを選択します。
- ⑤  を押します。
- ⑥ 上下キーで“削除”を選択し、決定キーを押します。
- ⑦ 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
 - レピータリストから選択したレピータが削除され、
レピータリスト画面に戻ります。


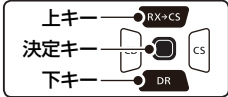



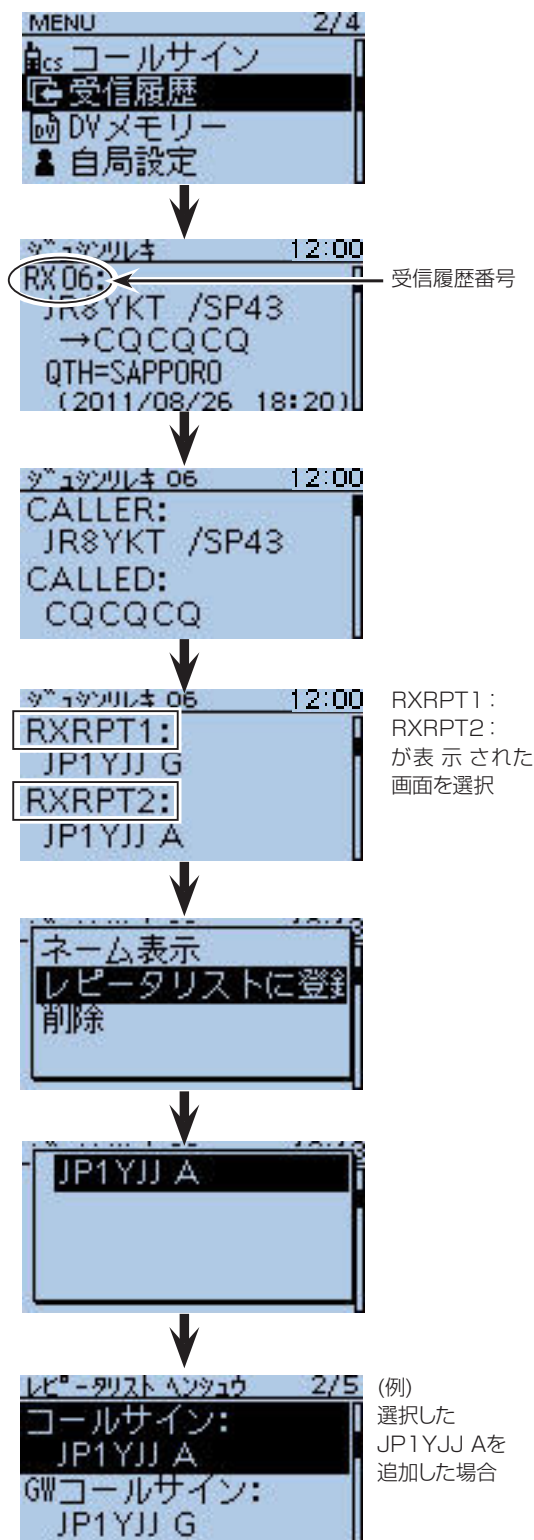
(例)
東東京430が
削除される

4 DRモード<応用編>

■ 受信履歴からレピータ情報を登録する

コピーして新規登録する方法以外に、受信履歴からレピータ情報を新規登録する方法があります。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「ジュシンリレキ」画面を表示します。

- ③ 上下キーで追加したいレピータがある履歴番号を選択します。
- ④ 決定キーを押します。
 - 受信履歴の詳細画面を表示します。
- ⑤ 上下キーで“RXRPT1:”と“RXRPT2:”が表示された画面を選択します。
- ⑥  を押します。
- ⑦ 上下キーで“レピータリストに登録”を選択し、決定キーを押します。
- ⑧ 上下キーで登録したいレピータコールサインを選択し、決定キーを押します。
 - ※ レピータコールサインが1つしか表示されていない場合は、そのまま決定キーを押してください。
 - 「ジュシンリレキ」画面から、MENU画面内にある、「DVメモリー」の「レピータリスト」編集画面に変わり、レピータのコールサインが自動的に登録された状態になります。
 - 編集のしかた (P4-21～P4-28)
- ⑨ 上下キーで“《追加書き込み》”を選択し、決定キーを押します。
- ⑩ 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
 - レピータリストに新規登録され、「ジュシンリレキ」画面に戻ります。




受信履歴番号

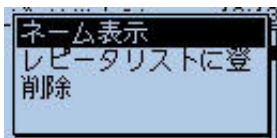
RXRPT1 :
RXRPT2 :
が表示された
画面を選択

(例)
選択した
JP1YJJ Aを
追加した場合

受信履歴のコールサインをネーム表示に切り替える

受信履歴画面のコールサイン表示をネーム表示に切り替えることができます。
レピータリストでネーム登録されていないレピータはコールサイン表示のままになりますので、登録したいレピータを探すときに便利です。

受信履歴画面で、 を押します。
上下キーで“ネーム表示”を選択し、決定キーを押すとネーム表示に切り替わります。




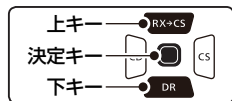
■ レピータが表示される順番を並べ替える

レピータリストの中でレピータが表示される順番を並べ替えることができます。


※レピータグループの中だけにかぎります。

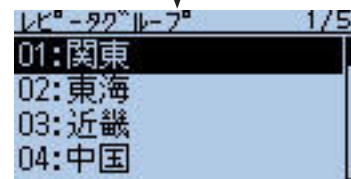
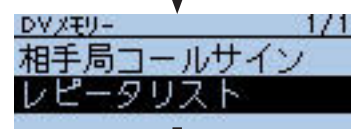
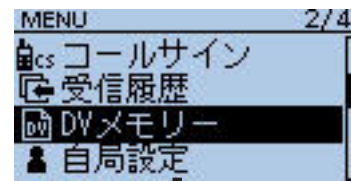
※レピータグループを越えてレピータを移動させることはできません。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「レピータグループ」画面を表示します。



- プリセットされた地域グループが表示されます。

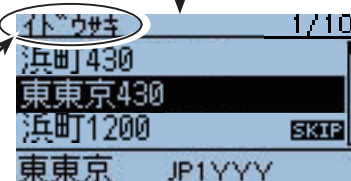
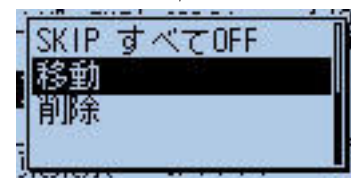
- ③ 上下キーで移動させたいレピータが入っているグループを選択し、決定キーを押します。
- ④ 上下キーで移動させたいレピータを選択します。
- ⑤  を押します。
- ⑥ 上下キーで“移動”を選択し、決定キーを押します。
 - 画面左上で、“イドウサキ”が点滅します。
- ⑦ 上下キーで移動先を指定し、決定キーを押します。
 - 選択したレピータ名の1つ上に移動します。
 - “最後に移動”を選択すると、そのグループの中で一番下に移動します。



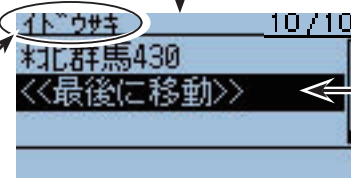
レピータグループ画面を選択



移動させたいレピータを選択

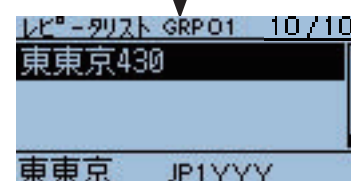


点滅



点滅

移動先を選択



東東京が一番下に移動した状態




4 DRモード<応用編>

■ DRモードスキャン時のスキップ設定




DRモードスキャンする必要のないレピータをスキップ設定すると、DRモードスキャンの対象からはずれます。スキップは、個別、またはグループごと一括で設定できます。

※スキップを設定したレピータは、自動的にレピータリストの「USE (FROM)」を「NO」に設定し、DRモード画面の「FROM」選択対象からはずれます。

◇ 個別にレピータをスキップ設定する

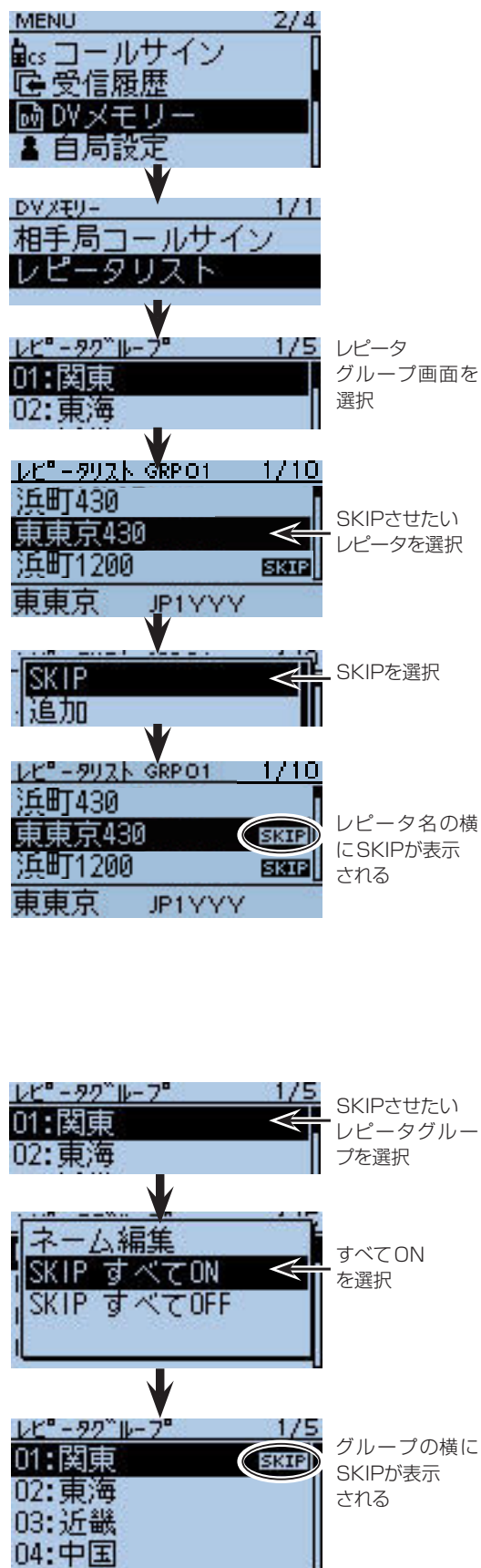
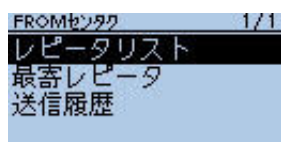
- ① [MENU]  を押します。
 - ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「レピータグループ」画面を表示します。
- 上キー → RX/CS
決定キー → CS
下キー → DR
- ③ 上下キーでスキップさせたいレピータが入っているグループを選択し、決定キーを押します。
 - ④ 上下キーでスキップさせたいレピータを選択します。
 - ⑤  を押します。
 - ⑥ 上下キーで「SKIP」を選択し、決定キーを押します。
 - 選択したレピータに、「SKIP」が表示されます。
 - 再度  を押して「SKIP」を選択し、決定キーを押すと、スキップ設定を解除します。
 - 「SKIP すべてON」を選択し、決定キーを押すと、そのグループに入っているすべてのレピータに、「SKIP」が表示されます。

◇ グループごとにレピータをスキップ設定する

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「レピータグループ」画面を表示します。
- ③ 上下キーでスキップさせたいグループを選択します。
- ④  を押します。
- ⑤ 上下キーで「SKIP すべてON」を選択し、決定キーを押します。
 - 選択したレピータグループに、「SKIP」が表示されます。
 - 再度  を押して「SKIP すべてOFF」を選択し、決定キーを押すと、スキップ設定を解除します。


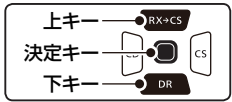









ご参考

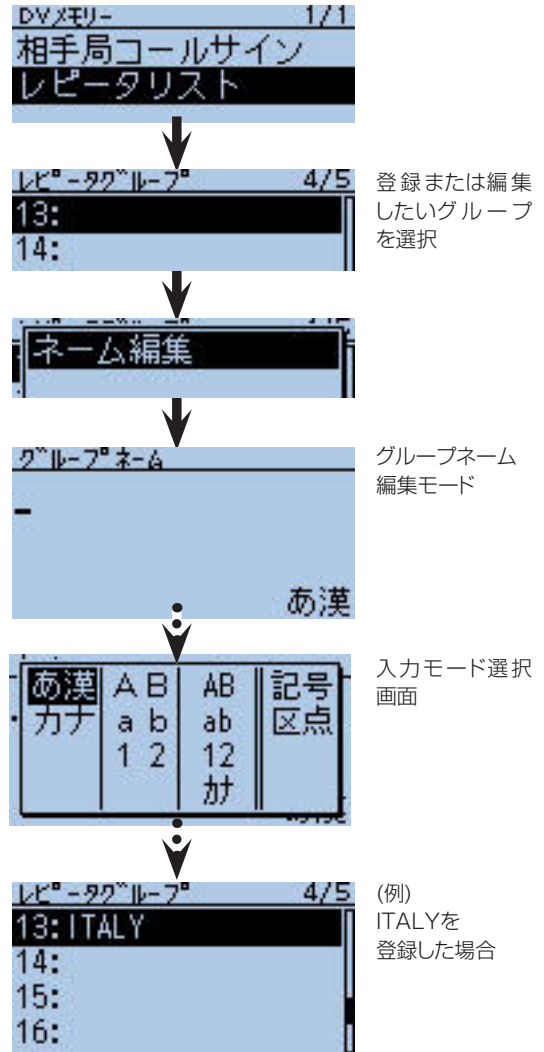
DRモードの「FROMセンタク」画面で「レピータリスト」を選択すると、上記と同様の操作でSKIP設定できます。




レピータのグループ名を登録するには

レピータリストのグループ名を登録できます。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「レピータグループ」画面を表示します。

- ③ 上下キーで登録または編集したいグループを選択します。
- ④  を押します。
- ⑤ 上下キーで“ネーム編集”を選択します。
- ⑥ 決定キーを押して、グループ名の編集モードに入ります。
- ⑦ [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。
 - [CLR]  を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR]  を押しつづけると、連続して削除できます。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で  を押すと、入力モード選択画面を表示します。上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
 - 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、 を押すと、文字一覧を表示します。
 - 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、 を押すと選択できます。
※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、 を押すごとに切り替わります。
- ⑧  または  を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑨ 手順⑦～⑧を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペース含む)でグループ名を入力します。
- ⑩ グループ名の入力が完了したら、決定キーを押します。



入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラ リレロワワン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつと なにぬねのはひふへほまみむめもやゆよら れるわをん (ひらがな1文字選択後、  で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字(漢字など)や記号を入力できます。

※  はスペースです

4 DRモード<応用編>

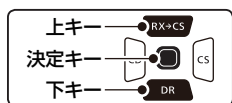
■ レピータ詳細表示について

レピータリストに登録されている位置情報やUTCオフセット設定によって、自局からレピータまでの距離や、レピータの時刻などレピータの詳細情報を確認できます。

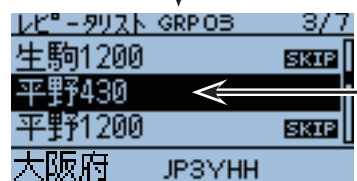
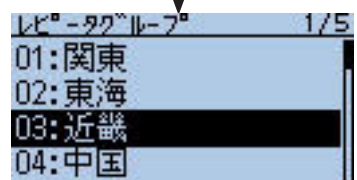
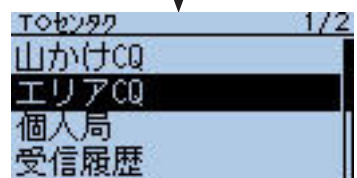
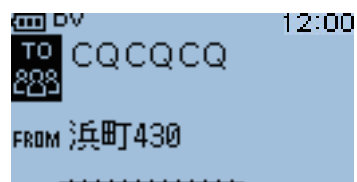
DRモードであれば、どのレピータ選択状態からでもレピータの詳細情報を確認できます。

《例》平野430のレピータ詳細表示を見る

- ① **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
● DRモードを表示します。
- ② 上下キーで“TO”を選択し、**決定キー**を押します。



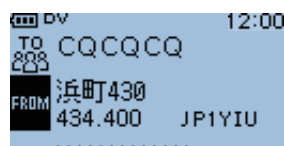
- ③ 上下キーで“エリアCQ”を選択し、**決定キー**を押します。
- ④ 上下キーで“03:近畿”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑤ 上下キーで“平野430”を選択します。
- ⑥ **[QUICK MENU]**を押します。
- ⑦ 上下キーで“詳細表示”を選択し、**決定キー**を押します。
● 「レピータショウサイ」画面が表示されます。
- ⑧ **決定キー**を押すと、レピータ選択時の画面に戻ります。



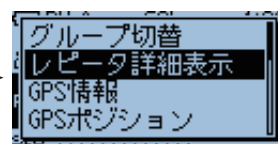
★位置情報(☞P4-28)が“だいたい”に設定されているとき、レピータまでの距離が5km以内になると、方角が表示されません。

ご参考

DRモード画面からもレピータ詳細情報が確認できます。右図のようにレピータを設定した状態で、**[QUICK MENU]**を押します。“レピータ詳細表示”を選択し、**決定キー**を押すと、レピータ詳細画面を表示します。



「FROM」にレピータを設定した状態



「レピータ詳細表示」を選択



■ 相手局コールサインの新規登録


相手局のコールサインを登録できます。












登録した相手局のコールサインを「TO」に設定して呼び出すと、相手局がどこのエリアにいるかわからなくても呼び出しができます。

相手局のコールサインは200件まで登録できます。

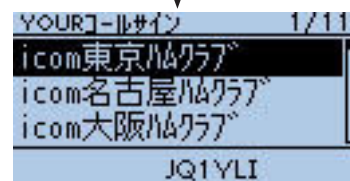
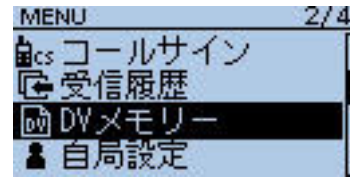
《例》相手局コールサインメモリーに
“山田太郎”と“JM1ZLK”を登録する

- ① [MENU]  を押します。
 - ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「YOURコールサイン」画面を表示します。
- 上キー →  RX+CS

決定キー →  CS

下キー →  DR
- ③  を押します。
 - ④ 上下キーで“追加”を選択します。
 - ⑤ 決定キーを押して、編集モードに入ります。
 - ⑥ 上下キーで“ネーム:”を選択し、決定キーを押します。
 - ⑦ [DIAL] を回し、1桁目の文字“や”を選択します。(例 山)
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - [CLR]  を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。
また、[CLR]  を押しつづけると、連続して削除できます。
 - 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で  を押すと、入力モード選択画面を表示します。
上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
 - 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、 を押すと、文字一覧を表示します。
 -  を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。
 - 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、 を押すと選択できます。
※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、 を押すごとに切り替わります。
 - ⑧  または  を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
 - ⑨ 手順⑦、⑧を繰り返し、8文字以内(スペース含む)で相手局のネームを入力します。
(例 2桁目:田、3桁目:太、4桁目:郎)
 - ⑩ ネームの入力が完了したら、決定キーを押します。

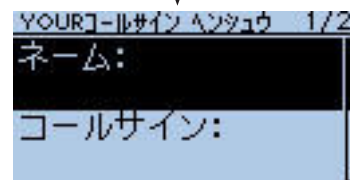
(次のページにつづく)



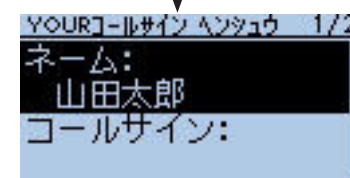
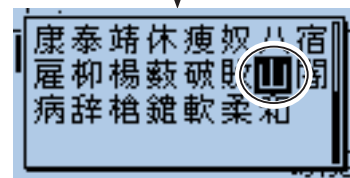
「YOURコールサイン」画面を表示



追加を選択
※編集を選択すると、選択した相手局の情報を編集します



漢字の「山」を選択するには、まず、ひらがなの「や」を選択します

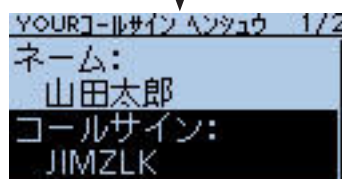
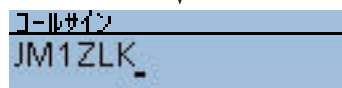
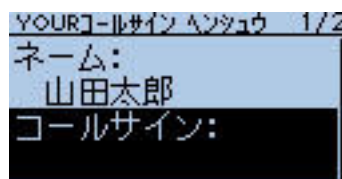
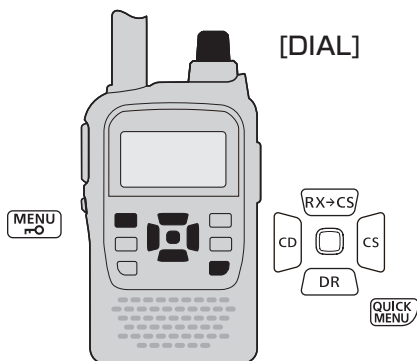


「山田太郎」の入力が完了

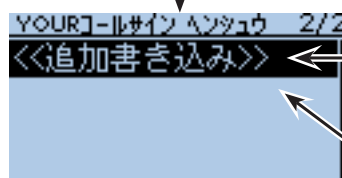
4 DRモード<応用編>

■ 相手局コールサインの新規登録(つづき)

- ⑪ 上下キーで“コールサイン:”を選択し、決定キーを押します。
- ⑫ [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。(例 J)
 - 入力できる文字は、英数字(A～Z、0～9)と「/」です。
 - [CLR]([CLR/MHz])を押すと、選択した文字を削除できます。
 - [CS]を押すと、スペースを入力できます。
- ⑬ [CD]または[CS]を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑭ 手順⑫～⑬を繰り返し、8文字以内(スペース含む)で相手局のコールサインを入力します。
(例 2桁目:M、3桁目:1、4桁目:Z、5桁目:L、6桁目:K)
- ⑮ 決定キーを押します。
- ⑯ 上下キーで“追加書き込み”を選択し、決定キーを押します。
- ⑰ 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
- ⑱ [MENU]([MENU])を押すと、MENU画面を解除します。

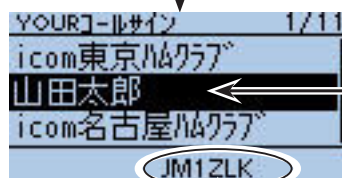
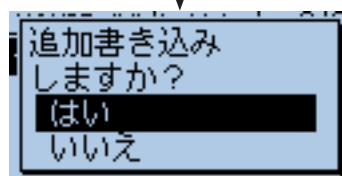


「JM1ZLK」の
入力が完了



選択

※編集時は、ここに「上書き」が表示されます。
※「上書き」を選択すると、編集集中の相手局コールサインが上書きされます。



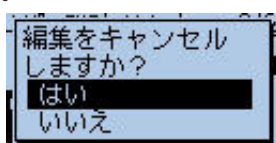
相手局コールサインメモリーに「山田太郎/JM1ZLK」の登録が完了

「山田太郎」を選択するとそのコールサインが表示する

編集を取り消したいときは






編集を取り消したい場合は、[CLR]([CLR/MHz])を押すとキャンセル確認画面が表示します。

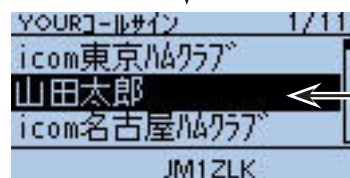
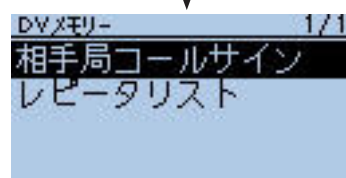
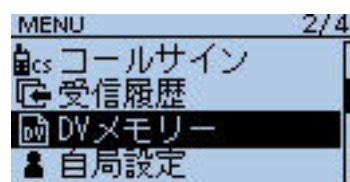
上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押すと入力した内容を削除して「YOURコールサイン」画面に戻ります。



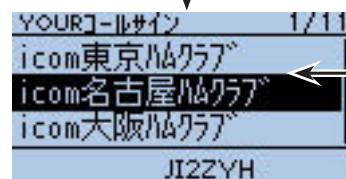
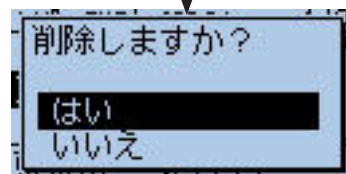
■ 相手局コールサインを削除する

不要になった相手局コールサイン情報を削除します。
いったん削除した相手局は、復活できませんのでご注意ください。

- ① [MENU]  を押します。
 - ② 上下キーで選択、決定キーで確定、
の操作を繰り返して
「YOURコールサイン」画面を表示します。
- 上キー →  RX+CS
決定キー →  CS
下キー →  DR
- ③ 上下キーで削除したい相手局を選択します。
 - ④  を押します。
 - ⑤ 上下キーで“削除”を選択し、決定キーを押します。
 - ⑥ 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
 - 選択した相手局が削除され、「YOURコールサイン」画面に戻ります。



削除したい
相手局を選択




(例)
山田太郎が
削除された状態

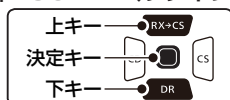
4 DRモード<応用編>

■ 相手局が表示される順番を並べ替える


相手局コールサインリストの中で相手局が表示される順番を並べ替えできます。

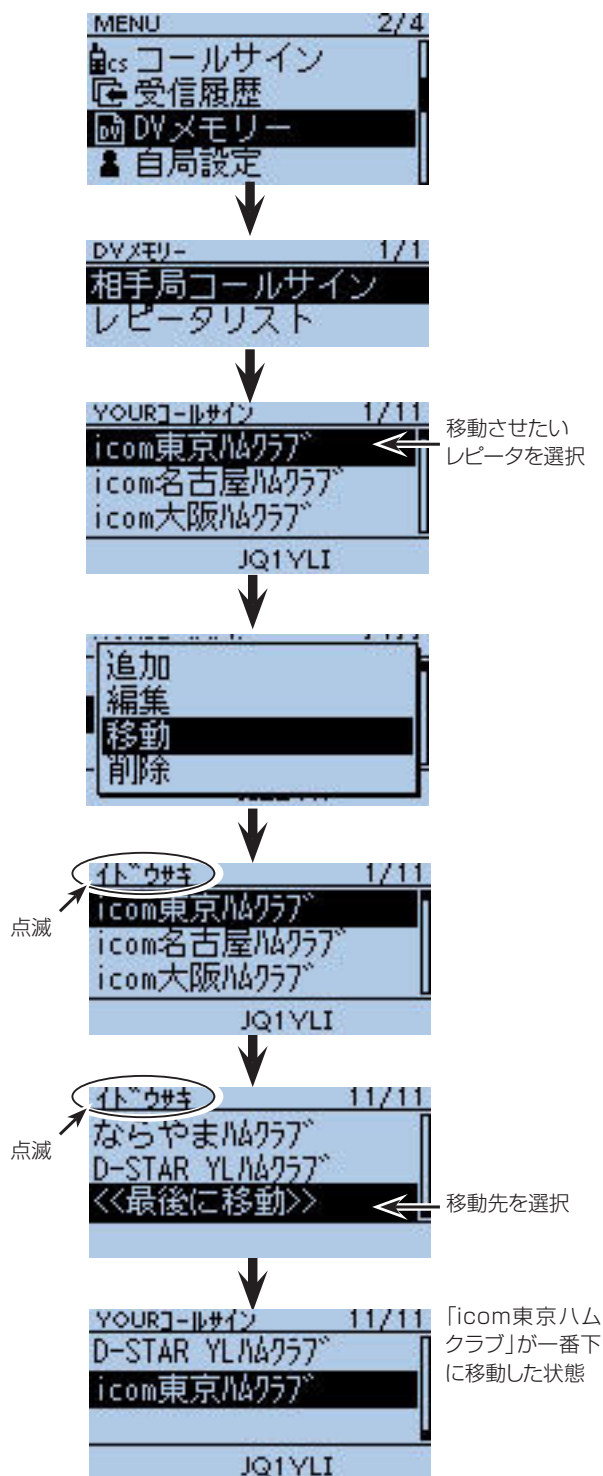
よく交信する相手局をリストの一番上に並べ替えると選択しやすくなるので便利です。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「YOURコールサイン」画面を表示します。



- 登録された相手局が表示されます。

- ③ 上下キーで移動させたい相手局を選択します。
- ④  を押します。
- ⑤ 上下キーで“移動”を選択し、決定キーを押します。
 - 画面左上で、“イドウサキ”が点滅します。
- ⑥ 上下キーで移動先を指定し、決定キーを押します。
 - 選択した相手局の1つ上に移動します。
 - “《最後に移動》”を選択すると、一番下に移動します。



■ 出荷時のレピータリストについて

出荷時のレピータリストの内容を、CS-31(付属のCDに同梱)を使って確認できます。

右記のクリップアイコンを右クリックして、レピータリストが入っている「ICFファイル」を任意の場所に保存してください。それをCS-31で開くと、出荷時のレピータリストがご覧になります。

出荷時のレピータリストに戻りたいときは、CS-31*1をご使用になるか、「ICFファイル」をmicroSDカード*2にコピーして出荷時の状態に戻せます。

※1 :CS-31を使った操作のしかたは、CS-31取扱説明書(付属のCDに同梱)をご覧ください。

※2 :microSDカードを使った操作のしかたは、12-9ページをご覧ください。

- ① 右記のクリップアイコンを、右クリックします。
- ② “埋め込みファイルをディスクに保存(S)...”を選択します。
- ③ 任意の保存先を指定して、“保存(S)”をクリックします。
- ④ 同梱のCDからCS-31を起動させます。
 - CS-31のインストールのしかたは、CS-31取扱説明書(付属のCDに同梱)をご覧ください。
- ⑤ “ファイル(F)”→“開く”を選択し、手順③で保存した「ICFファイル」を開きます。
- ⑥ “レピータリスト”フォルダーをクリックすると、出荷時にプリセットされたレピータリストが表示されます。

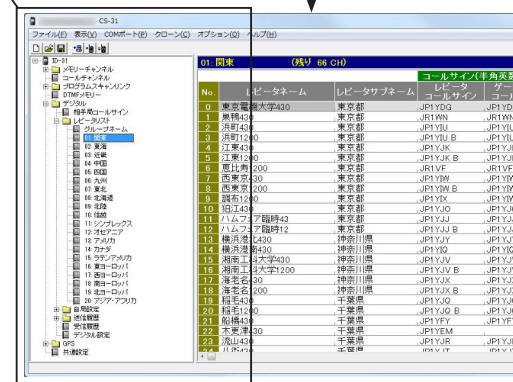
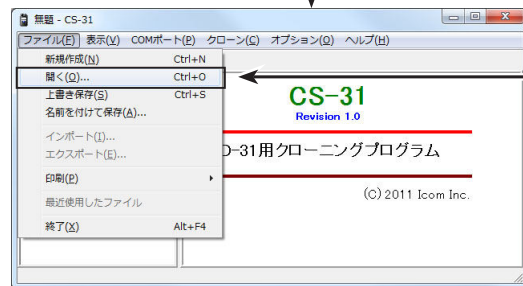
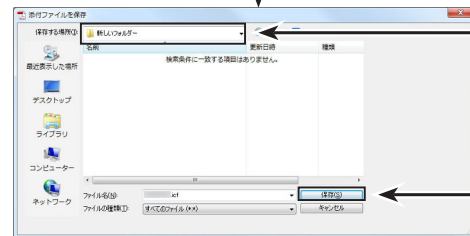
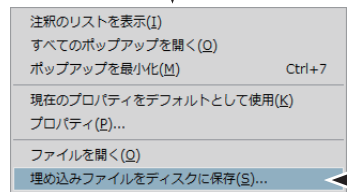
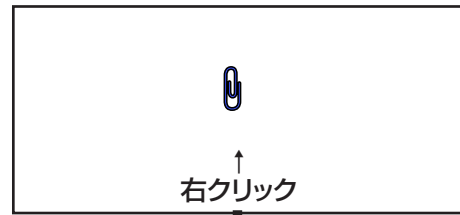
ご参考

プリセットの内容については弊社ホームページからダウンロードできます。

アイコムホームページ

<http://www.icom.co.jp/d-starsite/>

出荷時のレピータリストが入った「ICFファイル」



CS-31で見ると
出荷時のレピータ
情報が一目でわか
ります

「ICFファイル」をCS-31で開いた状態

4 DRモード<応用編>

■ 複数のD-STAR®機を運用するには

複数のD-STAR®機を運用するためには、同じコールサインでも識別する必要があります。

また、機種ごとにIPアドレスを取得するため、D-STAR管理サーバーに機種登録をする必要があります。

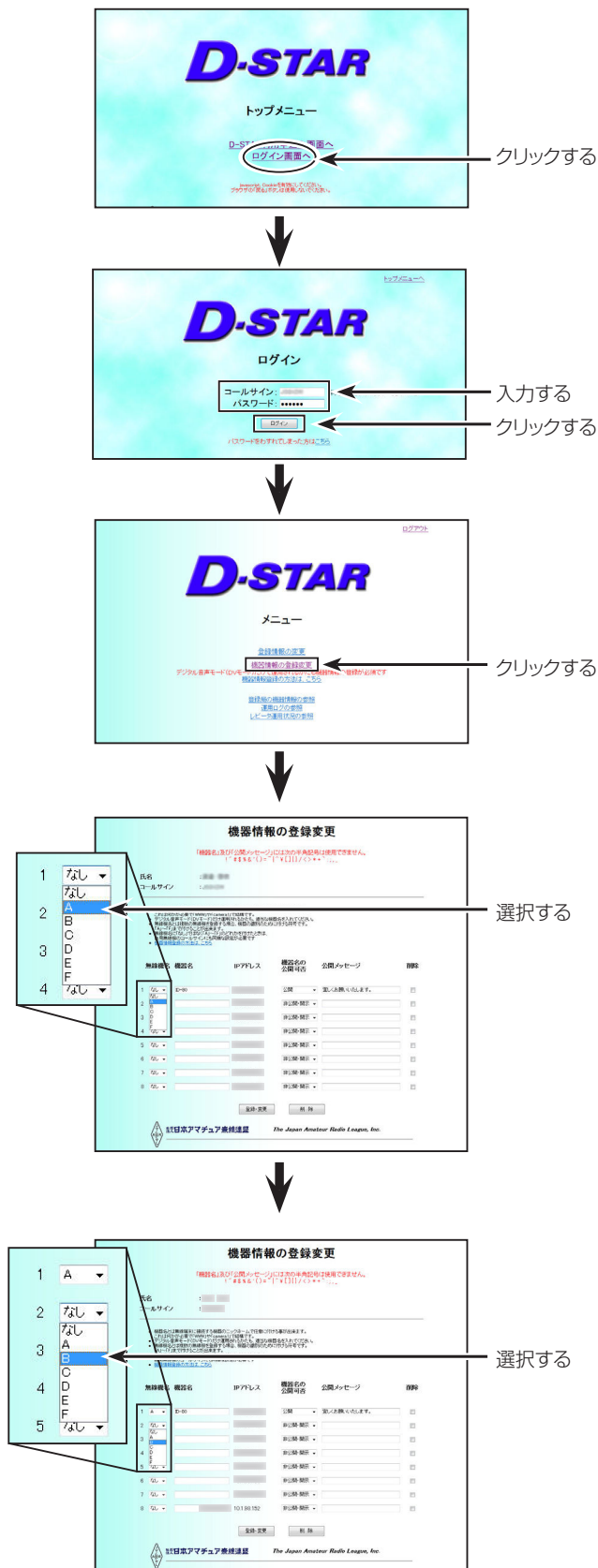
◇ D-STAR管理サーバーで識別登録をする

D-STAR管理サーバーで複数の機種を登録する方法を説明します。

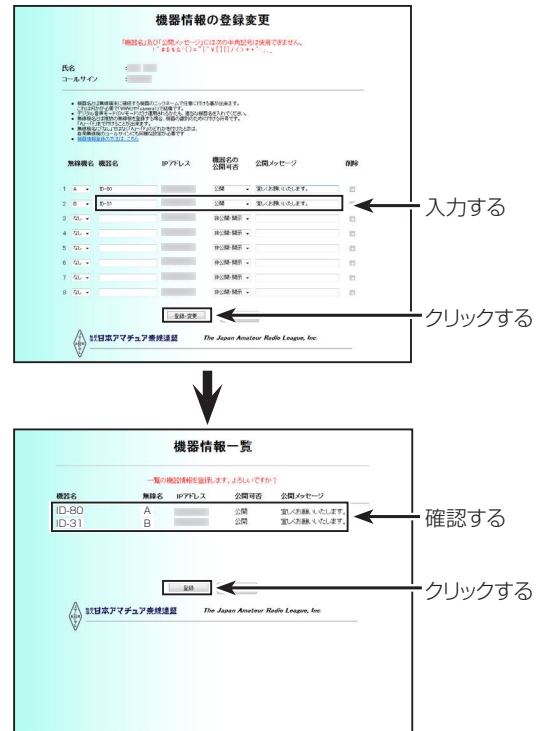
《例》インターネットでD-STAR管理サーバーにID-31 (2台目) を追加登録する

- ① パソコンのWWWブラウザ(※)を使って、下記のURLにアクセスします。
http://www.d-star.info/
※Microsoft® Internet Explorer® 5.5以降をご用ください。
- ② [ログイン画面へ]をクリックします。
- ③ 自局のコールサインとパスワードを入力します。
- ④ [機器情報の登録変更]をクリックして、登録画面に進みます。
- ⑤ すでに登録している機種欄の「無線機名」にある[▼]をクリックして、“A”を選択します。
 - 1台目の機種は「A」として識別登録します。
- ⑥ その下の欄で「無線機名」にある[▼]をクリックして、“B”を選択します。
 - 2台目の機種は「B」として識別登録します。

(次のページへ)



- ⑦ 下記のように入力し、[登録・変更]をクリックします。
- 機器名 : ID-31
 - 公開可否 : 公開
 - 公開メッセージ : 挨拶など
- ⑧ 機器情報一覧画面で登録内容を確認し、内容に間違いがなければ[登録]をクリックします。
- これで登録は完了です。2時間以内に管理サーバーが使えるようになり、インターネットを経由した発信ができます。



自局コールサイン登録時のご注意

本製品に自局のコールサインを登録するときは、右図のように、自局コールサインのうしろにスペースと識別符号(Aなど)を付けて登録してください。



※識別符号とは、機器情報の登録画面では、「無線機名」と表記されている部分です。

※自局コールサインの登録(☎P2-4)

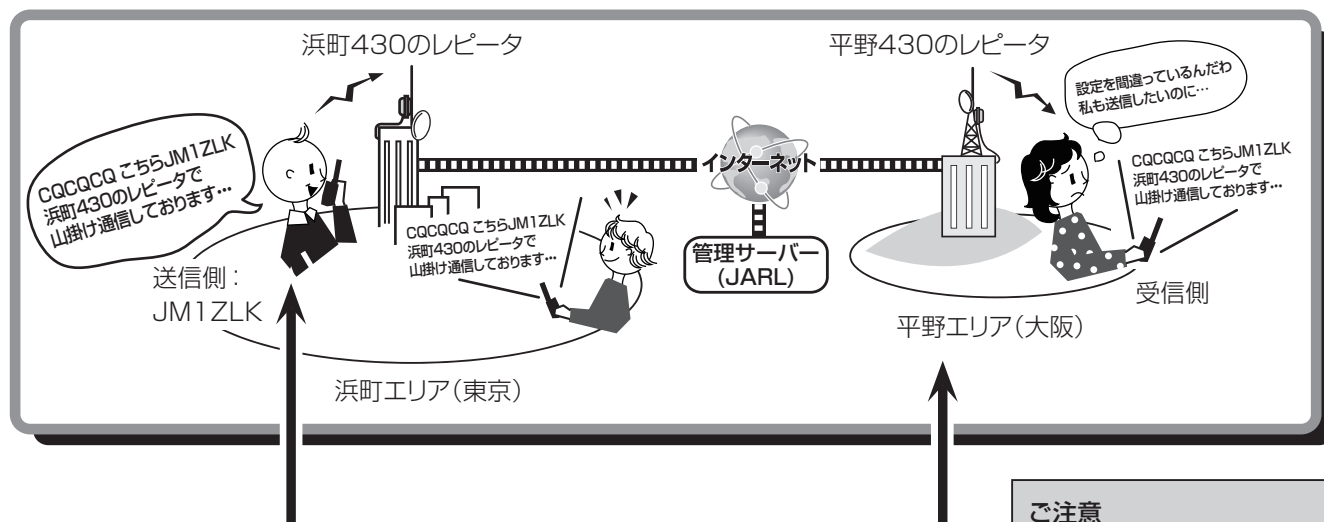
4 DRモード<応用編>

■ 迷惑な設定していませんか？

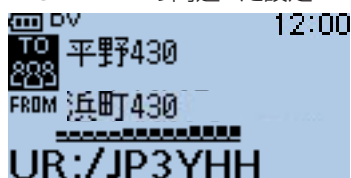
下記のようなゲートウェイ通信用の設定で、山掛け通信をすると、あて先(TO)に設定したレピータをアクセスレピータとして使いたい人に迷惑をかけてしまいます。

正しく設定して、みんなが気持ちよく使えるように運用しましょう。

例：山掛け通信がしたいJM1ZLKの場合



JM1ZLKの間違った設定

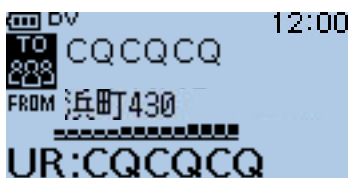


山掛け通信がしたいのに、あて先(TO)が平野430に設定されている

ご注意

このような設定で送信すると、山掛け通信はできますが、あて先(TO)に設定したレピータをアクセスレピータとして使いたい人の迷惑になります。

正しい設定



山掛け通信がしたい場合は、あて先(TO)を、「CQCQCQ」に設定してください。

設定のしかた (P3-2)

■ GPSの運用について	5-2
◇ GPSを受信できる状態に設定する	5-2
■ 位置情報を確認する	5-3
◇ 位置情報の表示	5-3
◇ グリッド・ロケータを表示する	5-4
◇ コンパス方向を変更する	5-5
◇ 自局または受信した局の位置情報を保存する	5-6
■ GPS情報(天空図)を確認する	5-7
■ GPSの機能を活用する	5-8
◇ GPSメモリーについて	5-8
◇ GPSデータをGPSメモリーに新規登録する	5-8
◇ GPSバンクネームを登録するには	5-12
◇ GPSデータを削除する	5-13
◇ GPSアラームを設定する	5-14
■ GPSデータの送信	5-16
◇ GPSセンテンスの設定	5-16
◇ GPSメッセージの設定	5-17
■ GPS-Aデータの送信	5-18
◇ D-PRSとは	5-18
◇ GPS-Aの使用手順	5-18
◇ GPS-Aの設定	5-19
◇ 地図ソフトウェアで自局の位置を確認する	5-23
■ GPS自動送信	5-24
◇ GPS自動送信の設定	5-24
■ GPSロガー機能の使いかた	5-25
◇ GPSロガーの使用手順	5-25
◇ GPSを受信できる状態に設定する	5-25
◇ GPSロガーをONに設定する	5-26
◇ 記録間隔を設定する	5-26
◇ 軌跡情報をパソコンで確認する	5-27
◇ GPSロガー専用モードの使いかた	5-29

5 GPS/GPS-A の操作

■ GPSの運用について


本製品は、GPS受信機を内蔵していますので、そのまま自局の位置情報を表示したり、DVモードで自局の位置情報(GPSデータ)を送信したりできます。

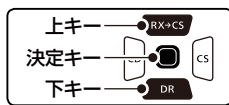
RS-232Cポートを装備した市販のGPS受信機(NMEA規格対応)を接続できます。


市販のGPS受信機をご使用の際には、下図のように接続します。データフォーマットは、NMEAのGPSデータが使用できます。

※位置情報などは、運用モードに関わらず表示できますが、GPSデータを送信できるのは、DVモードだけです。

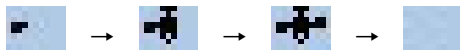
◇ GPSを受信できる状態に設定する

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSセンタク」画面を表示します。

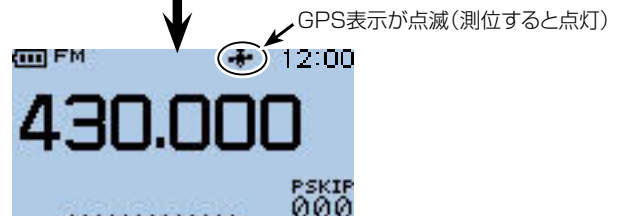
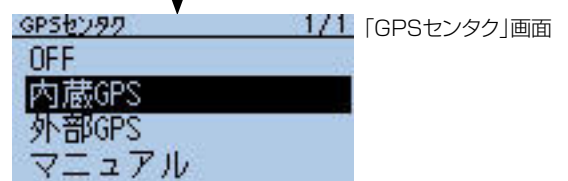
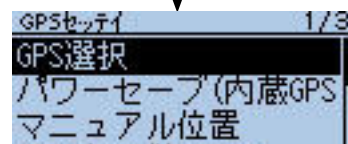
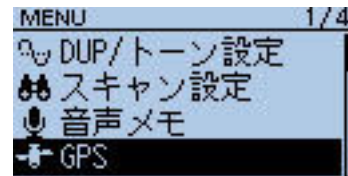


- ③ 上下キーで“内蔵GPS”を選択します。
 - 市販のGPS受信機を接続している場合は“外部GPS”を選択します。
 - 自局の位置情報の受信を開始します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - GPS表示が、未測位中は下図のように点滅し、測位すると点灯します。

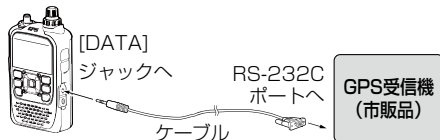
※“マニュアル”に設定している場合は、表示しません。



※使用環境によっては、受信に数分かかることがあります。
 ※屋内の窓際などでも受信しにくい場合は、屋外に出て受信してください。

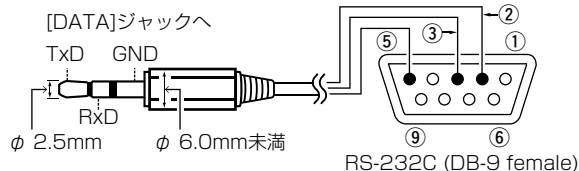


● 市販のGPS受信機との接続



パソコン接続用

GPS受信機と接続するには市販のクロス変換が必要です



ピン②とRx Dを接続、ピン③とTx Dを接続、ピン⑤とGNDを接続する

ご注意


内蔵GPSを選択すると、常にGPS受信機が動作しているので、バッテリーの消耗が早くなります。

※MENU画面内の「パワーセーブ(ナイズウGPS)」画面で内蔵GPS選択時のパワーセーブ機能を設定できます。(P10-20)

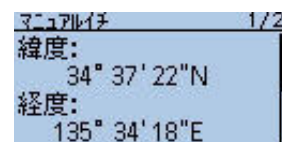
GPS > GPS設定 > パワーセーブ(内蔵GPS)

GPSを運用しながらバッテリーを長持ちさせるには

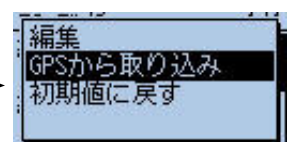
自局の位置情報を手入力する、または下記の手順より内蔵GPSで測位した位置情報を手入力画面に取り込むと、自局の位置を固定して使用する場合、バッテリーを長持ちさせることができます。

- ① GPS選択を“内蔵GPS”で測位します。(上参照)
- ② MENU画面内にある「マニュアル位置」項目を選択し、 を押して“GPSから取り込み”を選択します。(右図)

- ③ GPS選択を“マニュアル”に設定します。(上参照)



「マニュアルイ」画面の選択状態 (手入力画面)



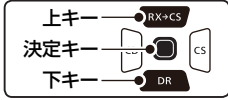
「GPSから取り込み」を選択

■ 位置情報を確認する

自分が現在どこにいるのかを確認できます。

◇ 位置情報の表示

- ① **QUICK MENU**を押します。
- ② 上下キーで“GPSポジション”を選択し、決定キーを押します。



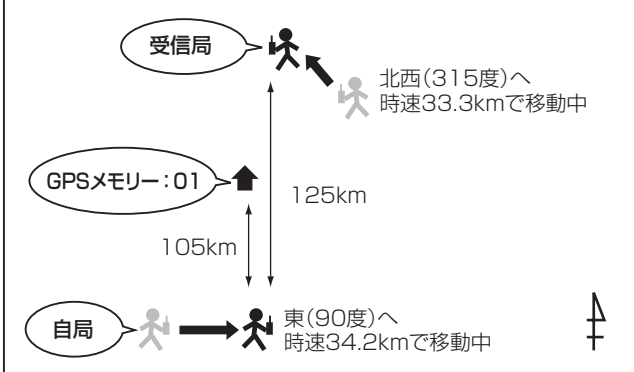
- ③ 上下キーを押すと、自局の位置情報表示(MY1/2)、受信した局の位置情報表示(RX1/2)、GPSメモリーチャンネルの位置情報表示(MEM)と切り替わります。

- MYポジション1 : 自局の緯度、経度、高度、時刻、自局の進行方向を表示する
- MYポジション2 : 自局の進路★、速度★を表示する
- RXポジション1 : 受信した局の緯度、経度、自局から受信局までの距離、自局から見た受信局のいる方向を表示する
- RXポジション2 : 受信した局のSSID、進路、速度、高度を表示する
※相手局の送信データにより、表示しない場合があります。
- MEMポジション : GPSアラームを設定した特定のGPSメモリーチャンネルの緯度、経度、自局から特定チャンネルまでの距離と方向を表示する

★ MENU画面内の「GPSセンタク」画面の設定が“マニュアル”のときは表示しません。(P10-20)
GPS > GPS設定 > GPS選択

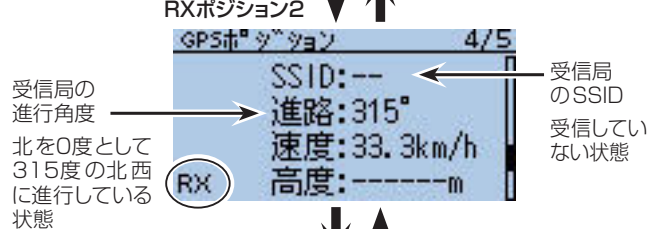
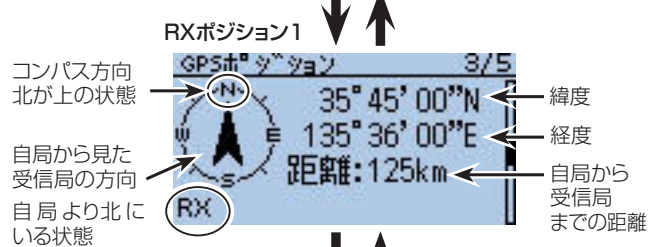
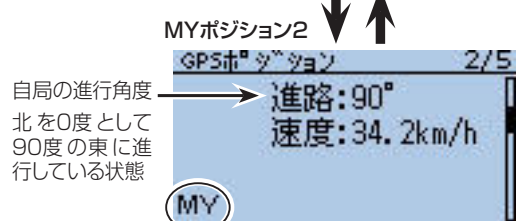
- ④ **[CLR]** **CLR LOW**を押して、「GPSポジション」画面を解除します。

● 右のGPSポジションのイメージ図



ご注意

緯度/経度/高度は、電波の受信状態や外部GPSを選択している場合には、お使いのGPS受信機によって異なります。
また、外部GPS受信機によって、時刻が表示されない場合があります。



5 GPS/GPS-A の操作

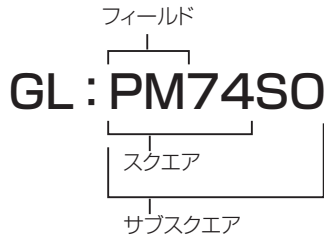
■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ グリッド・ロケータを表示する

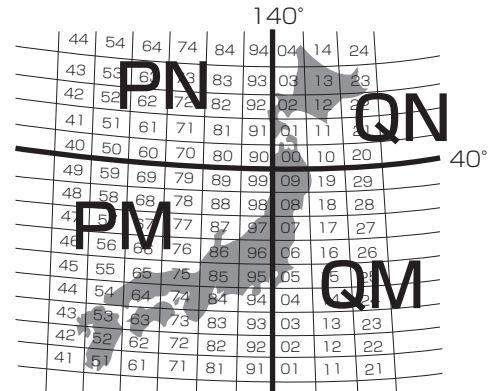
グリッド・ロケータ(GL)とは、緯度・経度より算出する6桁の文字列のことです。

グリッド・ロケータは、地球を格子状に細分してその位置を示したものです。

無線通信で無線局の位置を示す目的などに使われています。

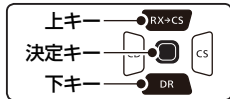


● 日本のスクエア区分のイメージ図



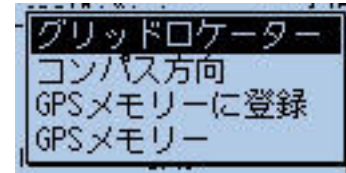
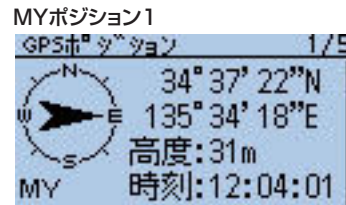
① MYポジション1/RXポジション1/MEMポジション画面を選択中に**QUICK**を押します。

② 上下キーで“グリッドロケータ表示”を選択し、決定キーで確定します。

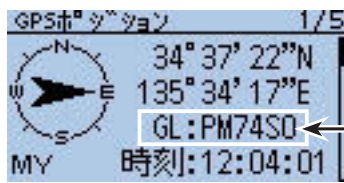


- MYポジション1 : 高度表示の代わりにグリッドロケータを表示する
- RXポジション1 : 距離表示の代わりにグリッドロケータを表示する
- MEMポジション : 距離表示の代わりにグリッドロケータを表示する

※各ポジション画面で、グリッドロケータを表示中に**QUICK**を押し、“高度表示”または“距離表示”を選択すると、もとの表示に戻ります。

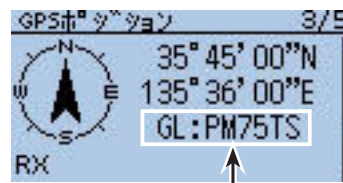


● MYポジション1



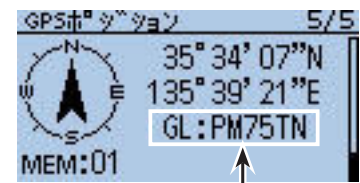
高度表示の代わりにグリッドロケータを表示

● RXポジション1



距離表示の代わりにグリッドロケータを表示

● MEMポジション

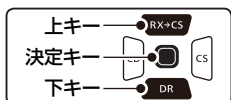


距離表示の代わりにグリッドロケータを表示

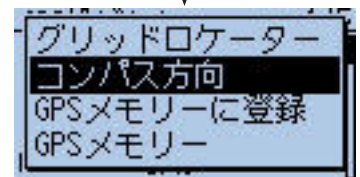
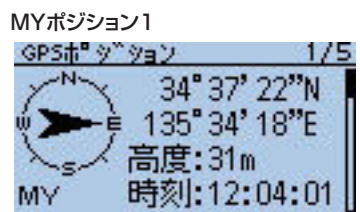
◇ コンパス方向を変更する

コンパス表示の上方向を進行方向、北、南から設定します。

- ① MYポジション1/RXポジション1/MEMポジション画面を選択中に**QUICK**を押します。
- ② 上下キーで“コンパス方向”を選択し、決定キーでコンパス方向選択画面を表示します。



- ③ 上下キーでコンパス方向を選択し、決定キーで確定します。
 - ヘディングアップ：常に進行方向を上に表示する
 - ノースアップ：常に方位の北を上に表示する
 - サウスアップ：常に方位の南を上に表示する



● ヘディングアップ表示	● ノースアップ表示	● サウスアップ表示

5 GPS/GPS-A の操作

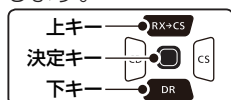
■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ 自局または受信した局の位置情報を保存する

旅行先などで、自局がいる場所の位置情報を保存したり、受信した相手局がいる場所の位置情報を保存したりできます。

GPSメモリーは最大100CH登録でき、26個のバンク(A～Z)に分けて整理できます。

- ① **QUICK MENU**を押します。
- ② 上下キーで“GPSポジション”を選択し、決定キーを押します。



- ③ 上下キーで保存したい位置情報を選択します。
 - 自局の位置情報を保存したい → MYポジション1を選択
 - 受信局の位置情報を保存したい → RXポジション1を選択

- ④ **QUICK MENU**を押します。
- ⑤ 上下キーで“GPSメモリーに登録”を選択し、決定キーを押します。

「GPSメモリー ヘンシュウ」画面を表示します。

- 「GPSポジション」画面から、MENU画面内にある、「GPSメモリー」の「GPSメモリー ヘンシュウ」画面に変わり、位置情報(緯度/経度)が自動的に登録された状態になります。
- 編集のしかた(☞P5-8～P5-11)

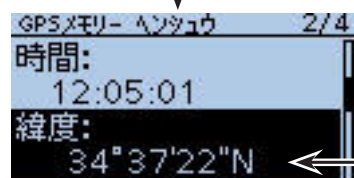
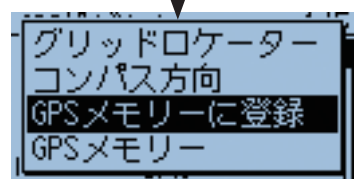
- ⑥ 上下キーで“追加書き込み”を選択し、決定キーを押します。
- ⑦ 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。

- GPSメモリーチャンネル「00」に書き込まれ、すでに登録されているGPSメモリーチャンネル番号が1つずつ繰り上がります。
- GPSメモリーに新規登録され、「GPSポジション」画面に戻ります。

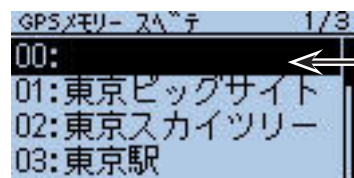
- ⑧ **[CLR]** (**CLR LOW**)を押して、「GPSポジション」画面を解除します。



自局の位置情報を保存する場合はMYポジション1画面を選択



「GPSメモリーヘンシュウ」画面に変わり、緯度/経度が登録される



GPSメモリーチャンネルの「00」に選択した自局の位置情報が保存される

■ GPS情報(天空図)を確認する

GPSがなかなか測位できないときなど、測位状態がどうい
う状況にあるかを見たいときに使用します。

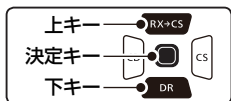
GPS情報では、GPS衛星の数や、信号強度、位置を天空
図にマッピングして視覚化しています。

天空図とは、GPS衛星が天空のどの位置に存在するの
かを図で表示したものです。

この図より、GPS衛星の存在する方位・仰角および、衛星
番号、受信状態がわかります。

① **QUICK MENU**を押します。

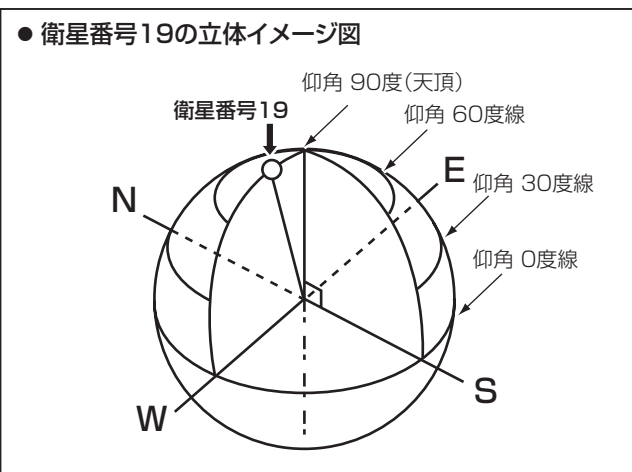
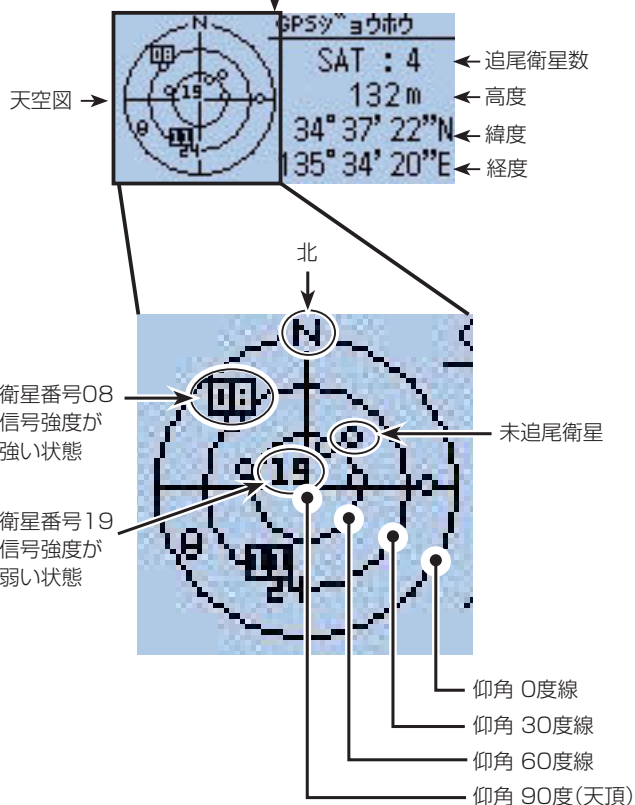
② 上下キーで“GPS情報”を選択し、決定キーを押します。



【天空図の表示の意味】

- 白丸(○) : 未追尾衛星を表示する
- 通常文字(O1) : 追尾衛星で信号強度が弱いものを衛星番号で表示する
- 反転文字(O1) : 追尾衛星で信号強度が強いものを衛星番号で表示する
- SAT : 追尾衛星の数 (0~12)
- 高度 : 自局の高度を表示する
※追尾衛星数が4個以上で高度を表示し、追尾衛星数が3個以下は未測位状態(「----m」)を表示する
- 緯度/経度 : 自局の緯度、経度を表示する

③ **QUICK MENU**を押すと、「GPSジョウホウ」画面を解除します。



5 GPS/GPS-A の操作

■ GPSの機能を活用する

◇ GPSメモリーについて


GPSデータをGPSメモリーに追加できます。
位置情報を手動で入力して登録したり、GPSで受信した自局や相手局の位置情報をGPSメモリーに登録したりできます。
また、GPSメモリーにアラームを設定することで、自局との距離に応じてアラームを鳴らせます。

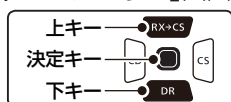
GPSメモリーは最大100CH登録でき、26個のバンク(A～Z)に分けて整理できます。

◇ GPSデータをGPSメモリーに新規登録する

GPSデータをGPSメモリーに追加できます。

1. GPSメモリーを追加し、編集画面に入る

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSメモリー」画面を表示します。

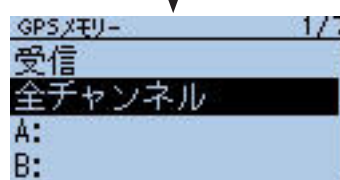
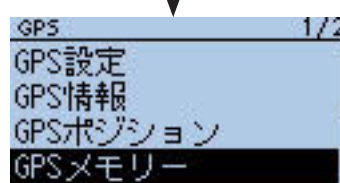
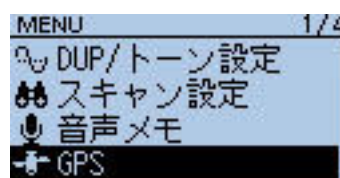


- ③ 上下キーで“全チャンネル”を選択し、決定キーを押します。
 - プリセットされたすべてのGPSメモリーが表示されます。

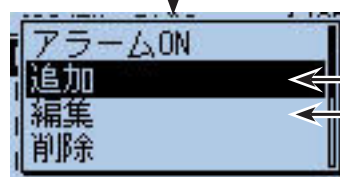
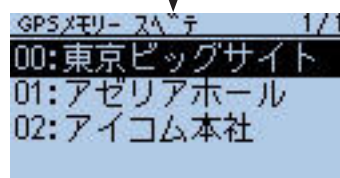
- ④  を押します。

- ⑤ 上下キーで“追加”を選択し、決定キーを押します。
 - 「GPSメモリー ヘンシュウ」画面を表示します。

(次のページへ)



GPSメモリー画面を表示

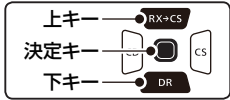


追加を選択
※

※ すでに登録しているGPSメモリーを編集したい場合を選択します。
入力のかたは追加する場合と同じです。

2. GPSメモリー名前を入力する

⑥ 上下キーで“ネーム”を選択します。



⑦ 決定キーを押して、ネームの編集モードに入ります。

⑧ [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。

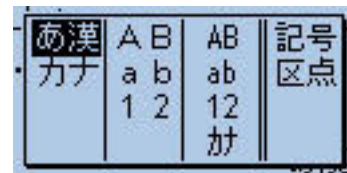
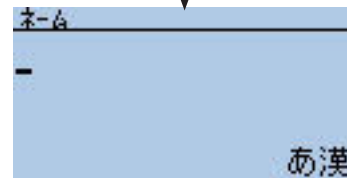
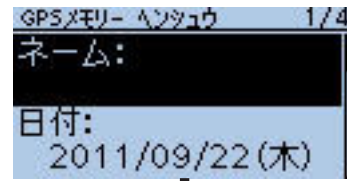
- [CLR] (V/MHz / CLR LOW)を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR] (V/MHz / CLR LOW)を押しつづけると、連続して削除できます。
- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
- 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で [QUICK MENU]を押すと、入力モード選択画面を表示します。
上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[QUICK MENU]を押すと、文字一覧を表示します。
- [DR]を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。
- 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、[QUICK MENU]を押すと選択できます。
※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、[QUICK MENU]を押すごとに切り替わります。

⑨ [DIAL]または[DR]を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

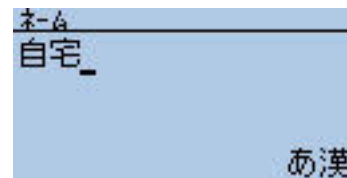
⑩ 手順⑧～⑨を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペース含む)でGPSメモリー名前を入力します。

⑪ ネームの入力が完了したら、決定キーを押します。

(次のページへ)



入力モード選択画面



(例) 自宅を入力した場合

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワワン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとな にぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりる れるわをん (ひらがな1文字選択後、[QUICK MENU]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、 すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字(漢字など) や記号を入力できます。

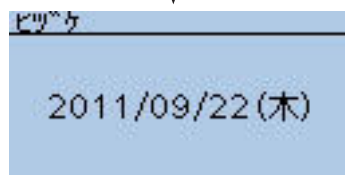
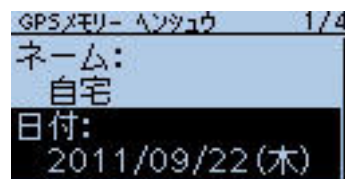
※ ■ はスペースです

5 GPS/GPS-A の操作

■ GPSの機能を活用する(つづき)

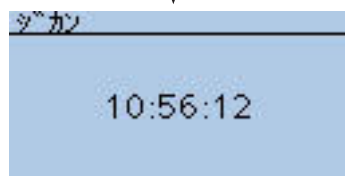
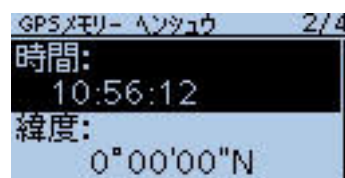
3. 日付を編集する

- ⑪ 上下キーで“日付”を選択します。
- ⑫ 決定キーを押して、日付の編集モードに入ります。
 - 編集した日を表示します。
- ⑬ [DIAL]を回し、日付を設定します。
 - 2000/01/02～2099/12/30までを設定できます。
- ⑭ \odot または \odot を押してカーソルを移動し、編集する項目(年月日)を選択します。
- ⑮ 手順⑬～⑭を繰り返し、日付を設定します。
- ⑯ 日付の入力が完了したら、決定キーを押します。



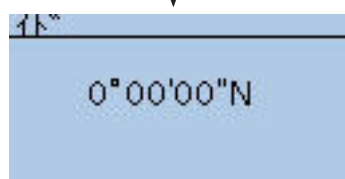
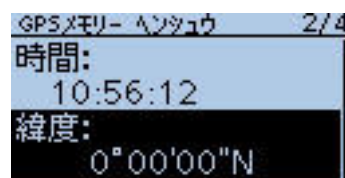
4. 時間を編集する

- ⑰ 上下キーで“時間”を選択します。
- ⑱ 決定キーを押して、時間の編集モードに入ります。
 - 編集した時間を表示します。
- ⑲ [DIAL]を回し、時間を設定します。
 - 00:00:00～23:59:59までを設定できます。
- ⑳ \odot または \odot を押してカーソルを移動し、編集する項目(時、分、秒)を選択します。
- ㉑ 手順⑲～㉒を繰り返し、時間を設定します。
- ㉒ 時間の入力が完了したら、決定キーを押します。



5. 緯度を入力する

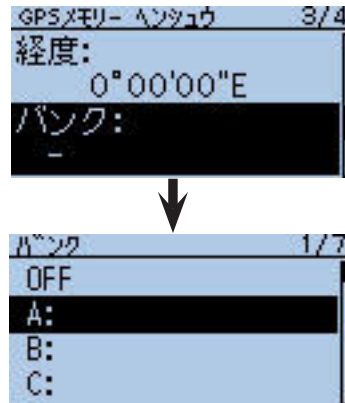
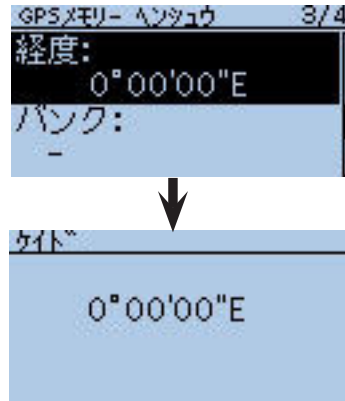
- ㉓ 上下キーで“緯度”を選択します。
- ㉔ 決定キーを押して、緯度の編集モードに入ります。
- ㉕ [DIAL]を回し、緯度を設定します。
 - 0°00'00"～90°00'00"までを設定できます。
 - ※MENU画面内の「ポジションフォーマット」画面で、“ddd°mm.mm'”(度、分(少数点))を選択した場合は、0°00.00'～90°00.00'までを設定できます。
 - GPS > GPS設定 > ポジションフォーマット
- ㉖ \odot または \odot を押してカーソルを移動し、編集する項目(度、分、秒)を選択します。
- ㉗ 手順㉕～㉖を繰り返し、緯度を設定します。
 - 北緯を入力するときは“N”、南緯を入力するときは“S”を選択します。
- ㉘ 緯度の入力が完了したら、決定キーを押します。



(次のページへ)

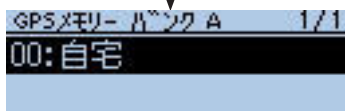
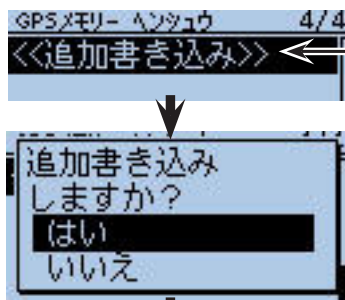
6. 経度を入力する

- 29 上下キーで“経度”を選択します。
- 30 決定キーを押して、経度の編集モードに入ります。
- 31 [DIAL]を回し、経度を設定します。
 - 0°00'00”～180°00'00”までを設定できます。
 - ※MENU画面内の「ポジションフォーマット」画面で、“ddd°mm.mm' ”(度、分(少数点))を選択した場合は、0°00.00'～180°00.00'までを設定できます。
 - GPS > GPS設定 > ポジションフォーマット
- 32 ④または③を押してカーソルを移動し、編集する項目(度、分、秒)を選択します。
- 33 手順31～32を繰り返し、経度を設定します。
 - 東経を入力するときは“E”、西経を入力するときは“W”を選択します。
- 34 経度の入力完了したら、決定キーを押します。



7. GPSメモリーバンクを設定する

- 35 上下キーで“バンク”を選択します。
- 36 決定キーを押して、バンクの選択モードに入ります。
- 37 上下キーで登録したいバンク番号(A～Z)、または“OFF”を選択し、決定キーを押します。
 - 1つのバンクに最大100件まで割り当てできます。
- 38 GPSメモリーバンクの選択が完了したら、決定キーを押します。



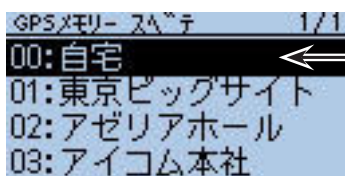
バンク画面

(例) 自宅をバンクAに登録した場合

登録完了

8. GPSメモリー内容を書き込む

- 39 上下キーで“追加書き込み”を選択し、決定キーを押します。
 - ※すでに登録されたGPSメモリーを編集した場合は、“上書き”を選択します。
- 40 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
 - GPSメモリーに追加登録され、GPSメモリーの全チャンネル表示画面に戻ります。



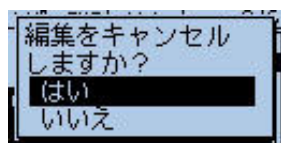
全チャンネル画面

全チャンネル表示画面の「00:」に追加されます

編集を取り消したいときは

編集を取り消したい場合は、[CLR]([CLR])を押すとキャンセル確認画面が表示します。

上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押すと入力した内容を削除してGPSメモリーの全チャンネル表示画面に戻ります。


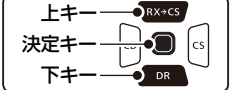












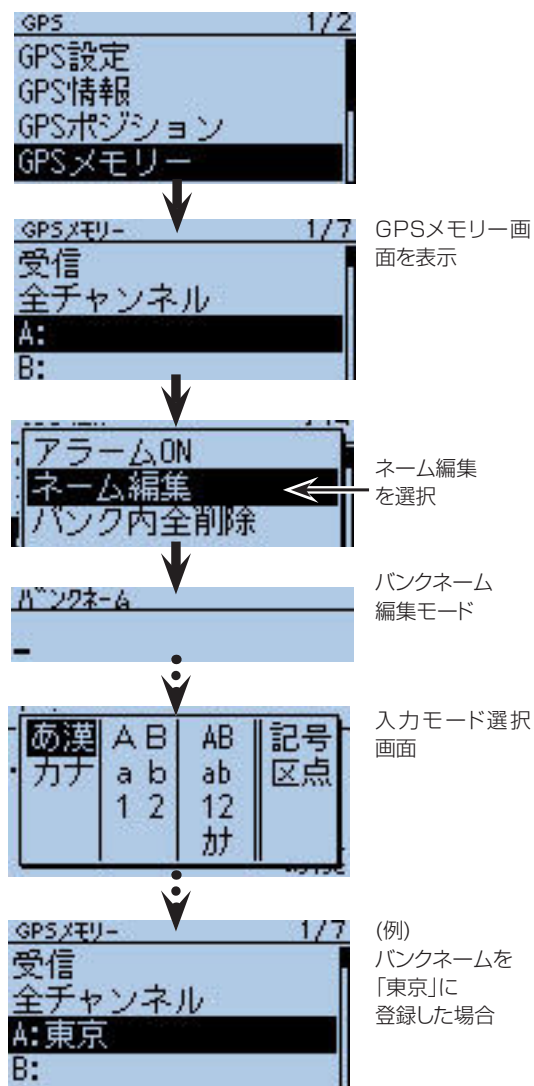
5 GPS/GPS-A の操作

■ GPSの機能を活用する(つづき)


◇ GPSバンクネームを登録するには

GPSバンクごとにネームを登録できます。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSメモリー」画面を表示します。

- ③ 上下キーでネーム登録したいバンクを選択します。
- ④  を押します。
- ⑤ 上下キーで“ネーム編集”を選択します。
- ⑥ 決定キーを押して、バンクネームの編集モードに入ります。
- ⑦ [DIAL] を回し、1桁目の文字を選択します。
 - [CLR]  を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR]  を押しつづけると、連続して削除できます。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で  を押すと、入力モード選択画面を表示します。上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
 - 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、 を押すと、文字一覧を表示します。
 -  を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。
 - 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、 を押すと選択できます。
※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、 を押すごとに切り替わります。
- ⑧  または  を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑨ 手順⑦～⑧を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペース含む)でグループネームを入力します。
- ⑩ バンクネームの入力が完了したら、決定キーを押します。



入力モード切り替えで選択できる文字一覧



入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワヲン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとな にぬねのはひふへほまみむめもやゆよりる れるわをん (ひらがな1文字選択後、  で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字(漢字など)や記号を入力できます。

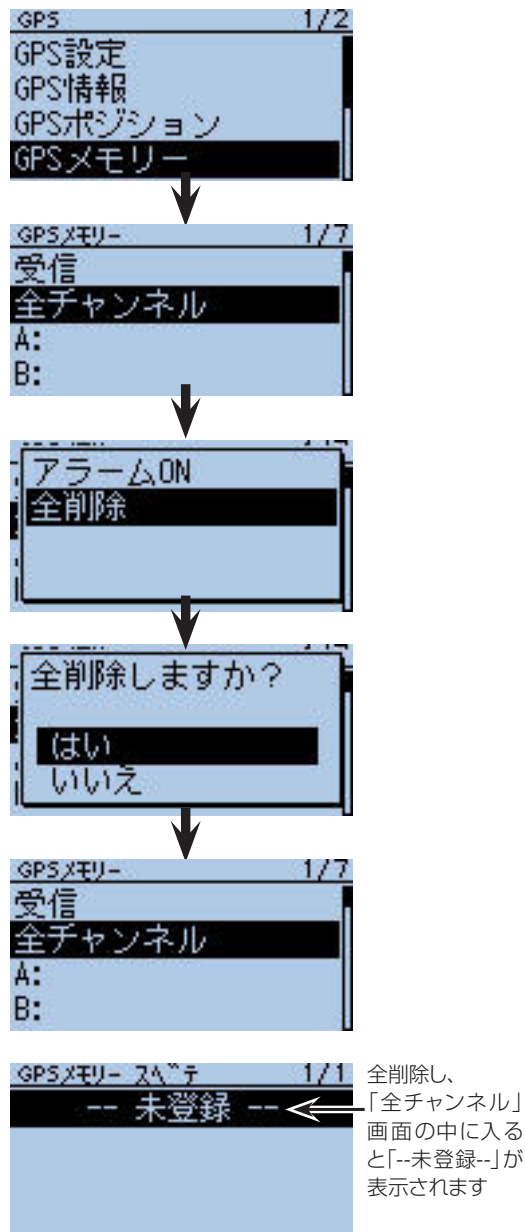
※  はスペースです

◇ GPSデータを削除する

不要になったGPSメモリーを削除します。
いったん削除したGPSメモリーは、復活できませんのでご注意ください。

《例》すべてのGPSメモリーを削除する


- ① [MENU]  を押します。
 - ② 上下キーで選択、決定キーで確定、
の操作を繰り返して
「GPSメモリー」画面を表示します。
- 上キー → RX+CS
決定キー → CS
下キー → DR
- ③ 上下キーで“全チャンネル”を選択します。
 - ④  を押します。
 - ⑤ 上下キーで“全削除”を選択し、決定キーを押します。
 - ⑥ 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。
 - すべてのGPSメモリーが削除され、「GPSメモリー」画面に戻ります。



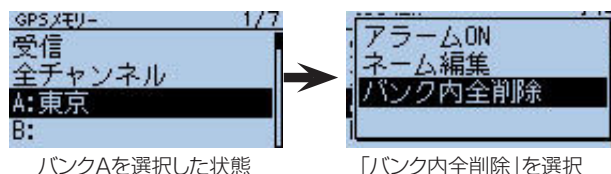
5

特定のGPSメモリーバンクを削除する

特定のGPSメモリーバンクに登録されているGPSメモリーをすべて削除できます。


右図のように特定のバンクを選択した状態で、 を押します。

上下キーで“バンク内全削除”を選択し、決定キーを押すと、選択したバンク内のGPSメモリーをすべて削除します。

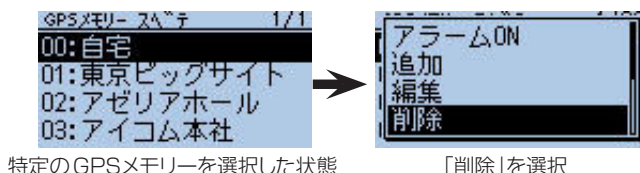


特定のGPSメモリーチャンネルを削除する

特定のGPSメモリーチャンネルを削除できます。

右図のように特定のチャンネルを選択した状態で、 を押します。

上下キーで“削除”を選択し、決定キーを押すと、選択したGPSメモリーチャンネルを削除します。



5 GPS/GPS-A の操作

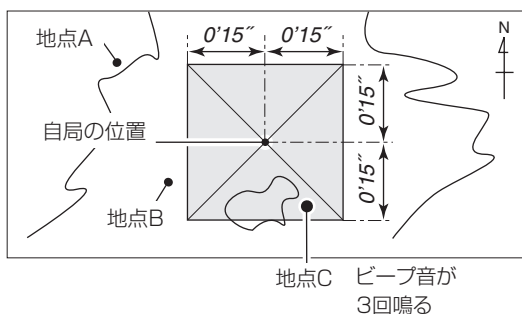
■ GPSの機能を活用する(つづき)

◇ GPSアラームを設定する

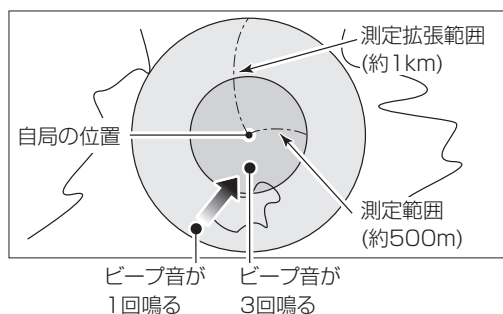
GPSアラームは、GPSアラームの対象にした局が設定した範囲に入ったときにアラームを鳴らす機能です。

GPSアラーム機能を設定できるのは、“受信”(受信した相手局)、“全チャンネル”、“A～Z”(メモリーバンクチャンネル)、または特定のGPSメモリーチャンネルのいずれか1つです。

アラームエリア1(複数の局をアラームに設定)
全チャンネルまたはバンクを選択した場合

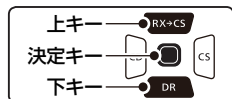


アラームエリア2(特定の局をアラームに設定)
受信または特定のメモリーを選択した場合

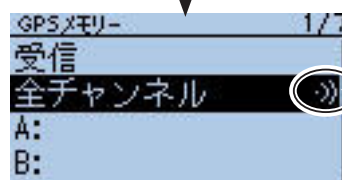
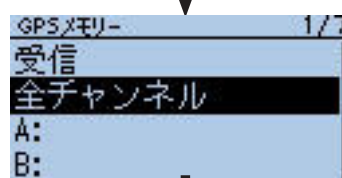
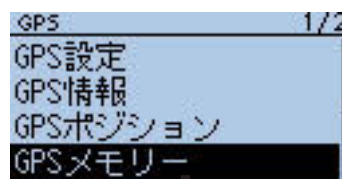


《例:アラームエリア1》すべてのGPSメモリーにアラームを設定する

- ① [MENU] を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSメモリー」画面を表示します。

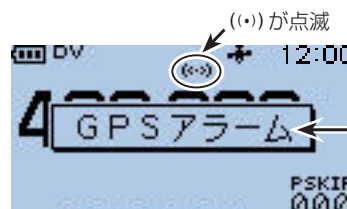


- ③ 上下キーで“全チャンネル”を選択します。
 - GPSメモリーバンクにアラームを設定したい場合は、“A～Z”を選択します。
- ④ を押します。
- ⑤ 上下キーで“アラームON”を選択し、決定キーを押します。
 - ON時は、設定項目の右横に(●)表示が点灯します。
- ⑥ [MENU] を押すと、MENU画面を解除します。
 - 指定したグループの中にあるいずれかの局が設定した範囲内に入ると、ビープ音が3回鳴ります。
 - GPSアラームが鳴ると、画面に「GPSアラーム」のポップアップが表示され、(●)表示が点滅します。
 - GPSアラームを解除するには、再度手順⑤の操作で“アラームOFF”を選択します。



「アラームON」に設定すると(●)表示が点灯

- GPSアラームが鳴ったときの画面







ポップアップが表示してビープ音が3回鳴ります






ご注意

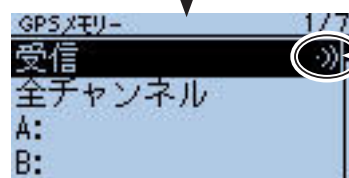
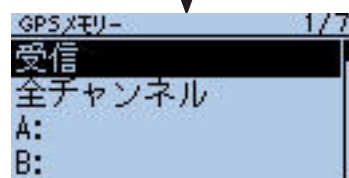
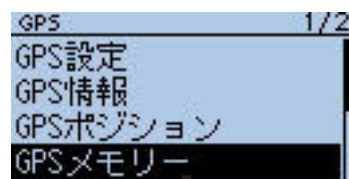
“全チャンネル”または“A～Z”(メモリーバンク)を選択した場合は、MENU画面内の「アラームエリア1」画面の設定(P10-21)により、GPSアラームが機能します。
GPS > GPS設定 > アラームエリア1


《例:アラームエリア2》受信した相手局にアラームを設定する

- ① [MENU]  を押します。
 - ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSメモリー」画面を表示します。
- 上キー →  

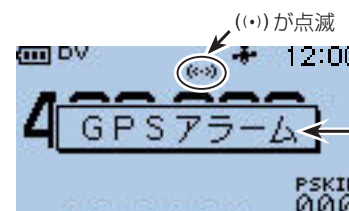
決定キー → 

下キー → 
- ③ 上下キーで“受信”を選択します。
 - 特定のGPSメモリーチャンネルにアラームを設定したい場合は、“全チャンネル”または“A～Z”のバンクの中から特定のチャンネルを選択します。
 - ④  を押します。
 - ⑤ 上下キーで“アラームON”を選択し、決定キーを押します。
 - ON時は、設定項目の右横に  表示が点灯します。
 - ⑥ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入るとビーブ音を1回鳴らし、半径約500m圏内に入るとビーブ音を3回鳴らします。(初期設定「両方」の動作)
 - GPSアラームが鳴ると、画面に「GPSアラーム」のポップアップが表示され、 表示が点滅します。
 - GPSアラームを解除するには、再度手順⑤の操作で“アラームOFF”を選択します。



「アラームON」に設定すると  表示が点灯

- GPSアラームが鳴ったときの画面



ポップアップが表示
設定範囲によってビーブ音が鳴ります

ご注意


“受信” (相手局) または特定のGPSメモリーチャンネルを選択した場合は、MENU画面内の「アラームエリア2」画面の設定(※P10-22)により、GPSアラームが機能します。
GPS > GPS設定 > アラームエリア2

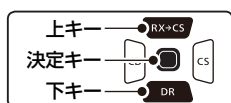
5 GPS/GPS-A の操作



■ GPSデータの送信

DVモードで、GPS情報をデータ送信するために、GPSセンテンス(GPSの出力内容)を設定します。

◇ GPSセンテンスの設定

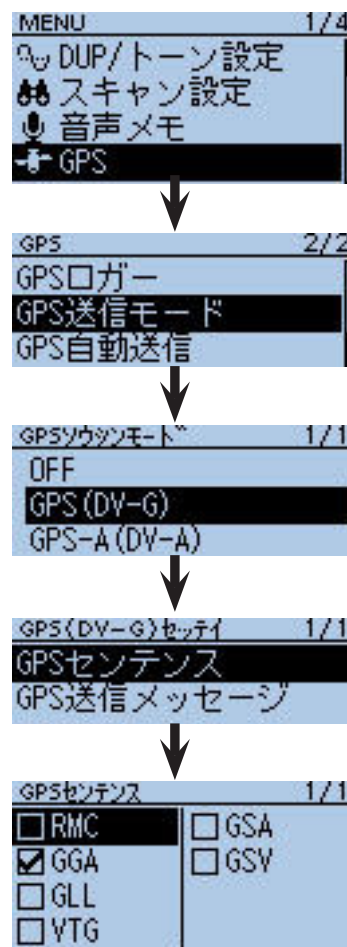
- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSソウシンモード」画面を表示します。
- ③ 上下キーで“GPS(DV-G)”を選択し、決定キーで確定します。
- ④ 上下キーで“GPSセンテンス”を選択し、決定キーを押して、「GPSセンテンス」画面を表示します。



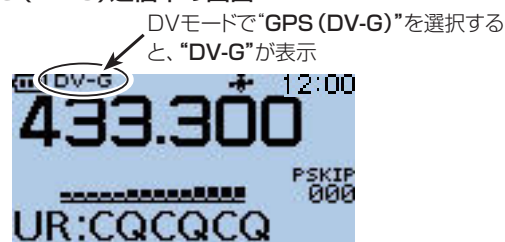
- ⑤ 上下キーで設定するGPSセンテンスを選択し、決定キーを押してON/OFFします。
 - 本製品で設定できるGPSセンテンスはRMC、GGA、GLL、VTG、GSA、GSVの6種類です。初期設定では、GGAだけ「ON」に設定しています。
 -  を押して、決定キーを押すと、初期設定値に戻ります。
- ⑥ 手順⑤を繰り返し、GPSセンテンスを設定します。
 - 同時に設定できるGPSセンテンスは4種類までです。
- ⑦ [MENU]  を押して、MENU画面を解除します。

ご注意

- 本製品でGSVセンテンスをONにしてGPSメッセージを送信すると、GSVセンテンス非対応の機種(IC-2820G/DG、ID-800/D、ID-91、IC-U1、IC-V1、ID-1) ではGPSメッセージを正しく表示できません。この場合は、GSVセンテンスをOFFにしてください。
- GPS選択(☞P10-20)を“マニュアル”に選択したときは、MENU画面内の「マニュアルイチ」画面で入力した位置情報により、疑似的に選択したGPSセンテンスを送信します。(☞P10-20)
GPS > GPS設定 > マニュアル位置
- GPS自動送信(☞P5-24)を“OFF”以外に設定している場合は、設定した時間ごとに自動送信しますのでご注意ください。
GPS > GPS自動送信



● GPS (DV-G)送信中の画面



送信すると、設定したGPSセンテンスを出力します。


各センテンスで送出される情報について

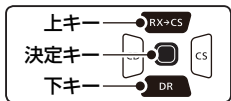
センテンス	緯度/経度	高度	協定世界時 (UTC)	年月日	測位状態	2D/3D	進路 (真北)	速度 (ノット)	左記以外の情報
RMC	○		○	○	○				磁気偏差、測位モード
GGA	○	○	○		○				使用衛星数、HDOP、ジオイド高、DGPS補正情報エイジ、DGPS基準局ID
GLL	○		○		○				測位モード
VTG							○	○	進路(磁北)、速度(km/h)、測位モード
GSA					○	○			受信衛星PRN番号、PDOP、HDOP、VDOP
GSV									メッセージ総数、メッセージ番号、可視衛星数、衛星情報(衛星番号、仰角、方位角、S/N比)










◇ GPSメッセージの設定

GPSモードで送信するメッセージを最大20文字まで登録できます。

《例》“OSAKA スズキ”を登録する

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSメッセージ」画面を表示します。

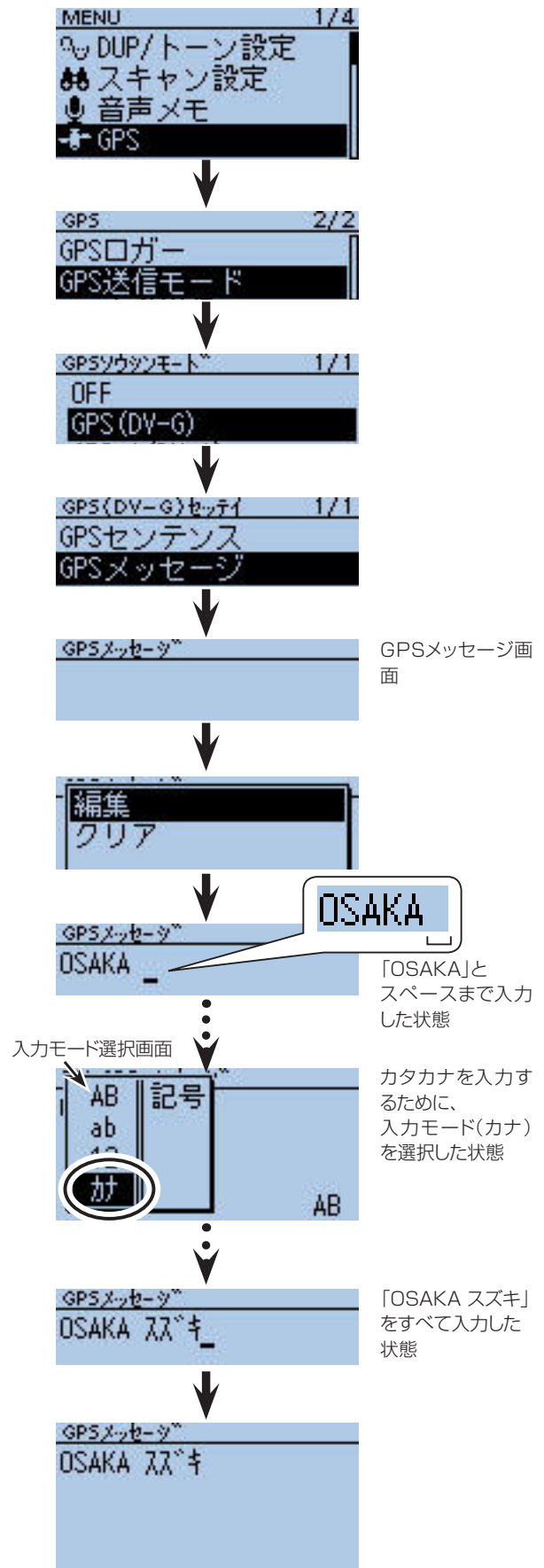


- ③  を押します。
- ④ 上下キーで“編集”を選択します。
- ⑤ 決定キーを押して、編集モードに入ります。
- ⑥ [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。(例 O)
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、および記号です。
 -  を押すと、入力モード選択画面を表示します。上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。
 - [CLR]  を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR]  を押しつづけると、連続して削除できます。
 - 促音(ッ)、拗音(アイウエオヤユ)を選択したいときは、文字を選択し、 を押すと表示します。(例:  を押すごとに「ッ」と「ツ」を切り替えます)
- ⑦  または  を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑧ 手順⑥、⑦を繰り返し、20文字以内(スペース含む)でメッセージを入力します。(例 2桁～9桁目: SAKA スズキ)
- ⑨ 決定キーを押して、メッセージを登録します。
- ⑩ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12	1234567890
カナ	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルレロワランゝ゜ー
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }~。「」、・ーゝ

■:スペース



5 GPS/GPS-A の操作

■ GPS-Aデータの送信

GPS-Aモードとは、**D-PRRS**に対応する形式で位置情報を含むデータを送出するモードです。

本製品とパソコンを接続して、GPS-Aモードの信号を受信すると、下記のGPS-Aデータをパソコンに出力します。ただし、GPS-Aモード以外の信号を受信しても、パソコンには出力しませんのでご注意ください。

GPS-Aデータは、**APRS**®コードに準拠しています。

APRS® : Automatic Packet Reporting System

GPS-Aデータについて

GPS-Aのデータ構造は、下記のようになっています。

(例) JA3YUA>API31.DSTAR*/002338h3437.38N/13534.29E>000/000/A=000000Who are you?
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑤ ⑦ ⑧

- | | | | |
|-------------|------------|------------------------|----------------|
| ① 自局のコールサイン | ③ タイムスタンプ* | ⑤ GPS-Aシンボル(表示はCar(車)) | ⑦ データエクステンション |
| ② アンプロトアドレス | ④ 緯度 | ⑥ 経度 | ⑧ GPS-Aコメント/高度 |

*h: 「時間/分/秒」を表示、z: 「日/時間/分」を表示

※時間は**UTC**で表示します。

※時間、緯度/経度、進路/速度は、内蔵または外部接続したGPS受信機からの取得データを使用します。

◇ D-PRRSとは

DVモードで音声と同時に送受信する低速データ部分を利用し、無線機に内蔵または外部接続したGPSレシーバーにより測位した情報を、APRSサーバーへ引き渡すしくみのことです。

1つの周波数で音声またはデータのどちらかしか送受信できないアナログ方式に対し、音声と同時にGPS位置情報やメッセージなどのデータも送受信できるので、効率の良い通信ができます。

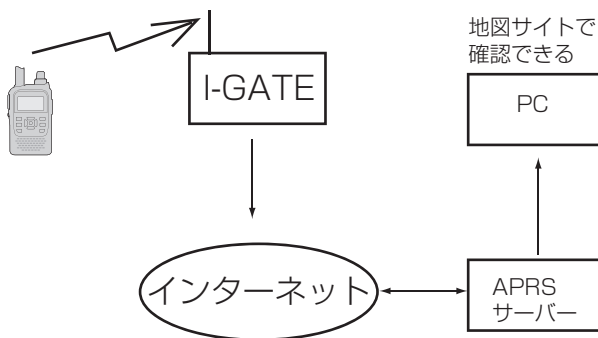
◇ GPS-Aの使用手順

GPS-Aで送信するには、下記の手順で設定してください。詳細な設定方法については、参照ページをご覧ください。

1. 自局のコールサインを登録する (☞P2-4)
2. GPSを受信できる状態に設定する (☞P5-2)
3. GPS送信モードをGPS-Aに設定する (☞P5-16)
4. 送信情報を設定する (☞P5-19～P5-22)

↓
設定完了(GPS-Aで送信できます)

● D-PRRSのイメージ図



ご注意

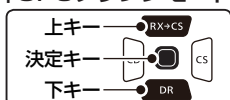
- GPS選択(☞P10-20)を“マニュアル”に選択したときは、MENU画面内の「マニュアルイチ」画面で入力した位置情報により、GPS-A形式に加工して送信します。(☞P10-20)
GPS > GPS設定 > マニュアル位置
- GPS自動送信(☞P5-24)を“OFF”以外に設定している場合は、設定した時間ごとに自動送信しますのでご注意ください。
GPS > GPS自動送信

◇ GPS-Aの設定

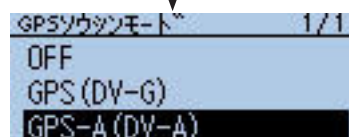
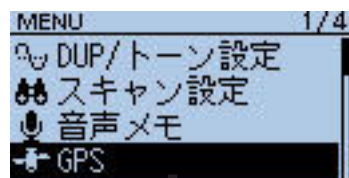
GPS-Aで送信するための設定をします。

1. GPS送信モードをGPS-Aに設定する

- ① [MENU] (MENU)を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSソウシンモード」画面を表示します。



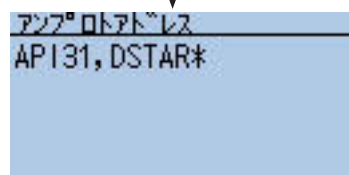
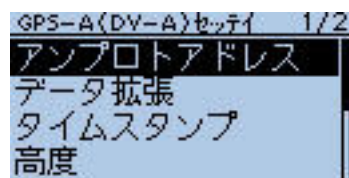
- ③ 上下キーで“GPS-A(DV-A)”を選択し、決定キーで確定します。



2. アンプロトアドレスを確認する

アンプロトアドレスは初期設定値のまま、ご使用になれます。

- ④ 上下キーで“アンプロトアドレス”を選択し、決定キーを押します。
 - 初期設定値は、“API31,DSTAR*”です。
- ⑤ 決定キーを押して1つ上の階層に戻ります。

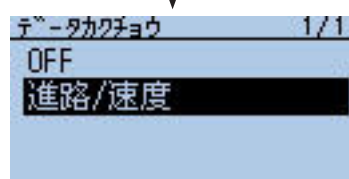
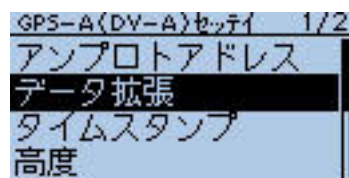


3. データ拡張を“進路/速度”に設定する

自局の進路方向と速度情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- ⑥ 上下キーで“データ拡張”を選択し、決定キーを押します。
- ⑦ 上下キーで“進路/速度”を選択し、決定キーを押します。

(次のページへ)



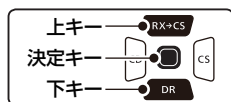
5 GPS/GPS-A の操作

■ GPS-Aデータの送信(つづき)

4. タイムスタンプを設定する

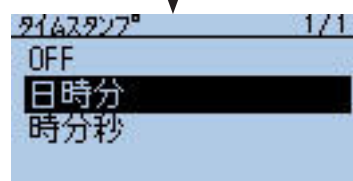
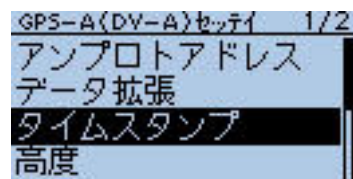
GPSより取得した時間情報(UTC表示)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- ⑧ 上下キーで“タイムスタンプ”を選択し、決定キーを押します。



- ⑨ 上下キーでタイムスタンプを選択します。
- OFF : 時間情報を送出しない
 - 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
 - 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

- ⑩ タイムスタンプを設定したら、決定キーを押します。



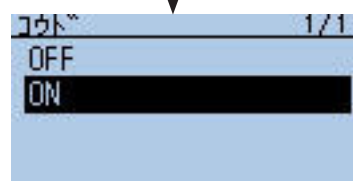
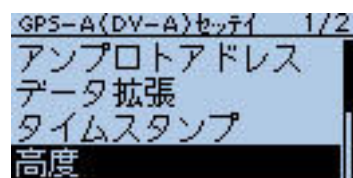
5. 高度を設定する

GPSより取得した高度情報の送出手を設定します。

- ⑪ 上下キーで“高度”を選択し、決定キーを押します。
 ⑫ 上下キーで“ON”を選択し、決定キーを押します。

ご注意

本製品で高度設定をONにして送信すると、高度表示非対応の機種(IC-9100/M、ID-80、ID-880/D、ID-92)ではコメント中に文字列として表示されます。

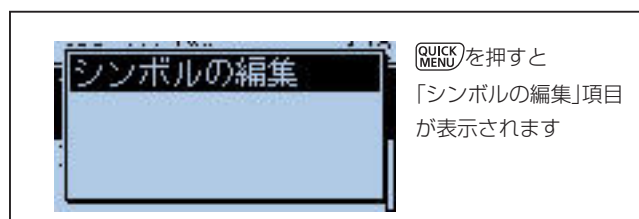
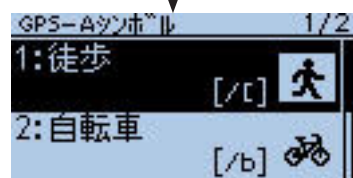
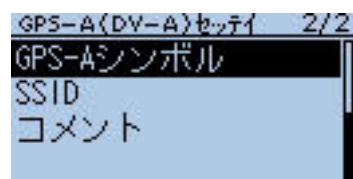


6. GPS-Aシンボルを設定する

自局の運用形態を伝えるためのアイコンです。選択したGPS-Aシンボルチャンネル(1~4)に設定されたGPS-Aシンボルが、GPS-Aモードで位置情報とともに送られます。

- ⑬ 上下キーで“GPS-Aシンボル”を選択し、決定キーを押します。
 ⑭ 上下キーで“1:徒歩”、“2:自転車”、“3:車”、“4:自宅”からアイコンを選択します。
 ※任意のGPS-Aシンボル(2文字)を使用する場合や登録済のGPS-Aシンボルを使用する場合は、10-30ページをご覧ください。
 ⑮ アイコンを設定したら、決定キーを押します。

(次のページへ)

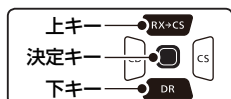


7. SSIDを設定する

自局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加する **APRS** に準拠した SSID を選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- ⑩ 上下キーで“SSID”を選択し、決定キーを押します。

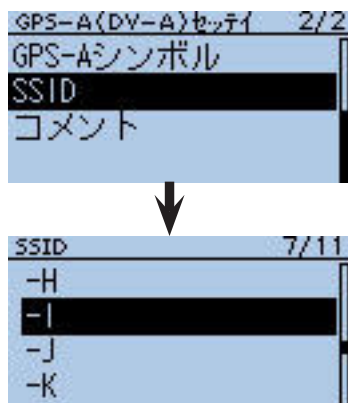


- ⑪ 上下キーでSSIDを選択します。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを“-”に置換する
 ※スペース以降に文字がない場合は、“-”に置換せず、スペースを削除する
 例：JA3YUA A → JA3YUA-A
- (-0) : SSIDを付加しない
 ※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
 例：JA3YUA A → JA3YUA
- -1 ~ -15 : “-1”から“-15”のSSIDを付加する
 ※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-9)を付加する
 例：JA3YUA A → JA3YUA-9
- -A ~ -Z : “-A”から“-Z”のSSIDを付加する
 ※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-Z)を付加する
 例：JA3YUA A → JA3YUA-Z

- ⑫ SSIDを設定したら、決定キーを押します。

(次のページへ)



5 GPS/GPS-A の操作

■ GPS-Aデータの送信(つづき)

8. コメントを入力する

自局の運用形態を他局に伝えるために、**GPS-Aモード**で位置情報とともに送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

データ拡張(☞P5-19)と高度(☞P5-20)の設定により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	OFF	43 文字以内 (初期値)
OFF	ON	35 文字以内
進路/速度	OFF	36 文字以内
進路/速度	ON	28 文字以内

⑰ 上下キーで“コメント”を選択します。

⑱ **QUICK MENU**を押します。

㉑ 上下キーで“編集”を選択し、**決定キー**を押してコメントの編集モードに入ります。

㉒ **[DIAL]**を回し、1桁目の文字を選択します。

- 入力できる文字は、英数字とカタカナおよび記号です。
- **[CLR]**(**CLR/MHz**)を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。
また、**[CLR]**(**CLR/MHz**)を押しつづけると、連続して削除できます。

● 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で **QUICK MENU**を押すと、入力モード選択画面を表示します。

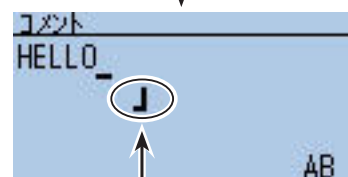
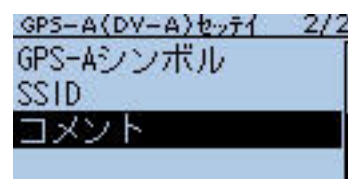
上下キーで入力モードを選択し、**決定キー**で確定します。

- **[DR]**を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。

※右図のように、“J”(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、“J”以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。

㉓ コメントを入力したら、**決定キー**を押します。

㉔ **[MENU]**(**MENU**)を押すと、MENU画面を解除します。



有効範囲表示 (28 文字以内の場合)

◇ 地図ソフトウェアで自局の位置を確認する

GPS-Aの送信設定が完了したら、送信してみましょう。

I-GATE局に対して送信した場合、インターネットの地図サイトにコールサインなどの情報を入力すると、地図上に設定したアイコン(GPS-Aシンボル)で自局が表示されます。



5 GPS/GPS-A の操作

■ GPS自動送信


GPS自動送信を設定すると、設定した時間ごとに、GPSからの位置情報やGPS-Aデータを送信します。

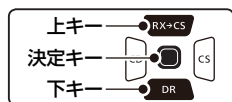
※自局のコールサインを設定していない場合は、GPS自動送信は機能しませんのでご注意ください。


※GPS選択(⇄P10-20)を“OFF”または“マニュアル”に設定した場合は、GPS自動送信は機能しませんのでご注意ください。

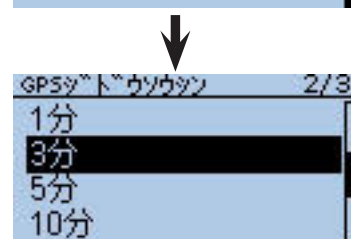
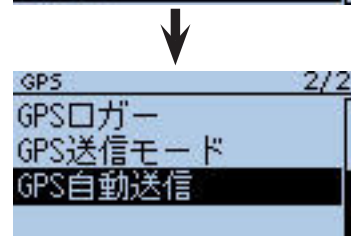
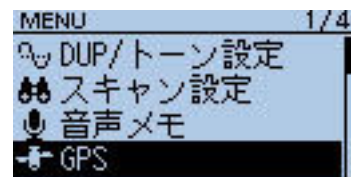
GPS > GPS設定 > GPS選択

◇ GPS自動送信の設定

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSジドウソウシン」画面を表示します。
GPS > GPS自動送信



- ③ 上下キーで自動的に送出手のGPS自動送信タイマーを選択します。
 - 本製品で設定できるGPS自動送信タイマーは、OFF/5秒/10秒/30秒/1分/3分/5分/10分/30分です。
 - ※OFFに設定した場合は、自動送出しません。
 - ※GPSセンテンスを4種類選択した場合は、「5秒」を選択できません。
- ④ [MENU]  を押して、MENU画面を解除します。



ご注意

GPS自動送信をする場合は、**シンプルレックス**でご使用ください。

レピータを介して送信すると、他局の交信の妨げになることがあります。他局に混信や妨害を与えないようご注意ください。

■ GPSロガー機能の使いかた

GPSロガー機能とは、GPSで受信した位置情報を軌跡として、取り付けられたmicroSDカードに記録する機能です。緯度/経度/高度/測位状態/進行方向/速度/日時を記録できます。

ドライブ時など、軌跡情報をパソコンに取り込み、市販の地図ソフトウェアを使って移動したルートを確認することもできます。

◇ GPSロガーの使用手順


GPSロガーを使用するには、下記の手順で設定してご使用ください。詳細な設定方法については、以降の項目をご覧ください。

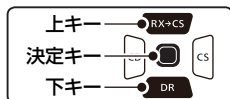
1. 市販のmicroSDカードを取り付ける
2. GPSを受信できる状態に設定する
3. GPSロガーをONに設定する




設定完了(GPSロガーを開始します)

◇ GPSを受信できる状態に設定する

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSセンタク」画面を表示します。



- ③ 上下キーで“内蔵GPS”を選択します。
 - 市販のGPSレシーバーを接続している場合は“外部GPS”を選択します。
 - 自局の位置情報の受信を開始します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - GPS表示が、未測位中は下図のように点滅し、測位すると点灯します。
 - ※“マニュアル”に設定している場合は、表示しません。



※使用環境によっては、受信に数分かかることがあります。
 ※屋内の窓際などでも受信しにくい場合は、屋外に出て受信してください。

ご注意

内蔵GPSを選択すると、常にGPS受信機が動作しているので、バッテリーの消耗が早くなります。

※MENU画面内の「パワーセーブ(ナイソウGPS)」画面で内蔵GPS選択時のパワーセーブ機能を設定できます。(P10-20)

GPS > GPS設定 > パワーセーブ(内蔵GPS)

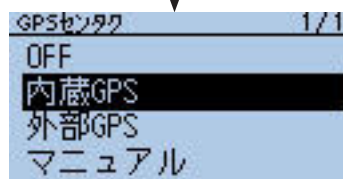
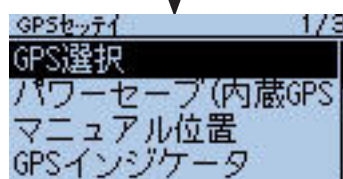
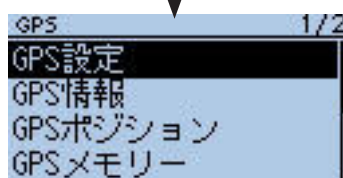
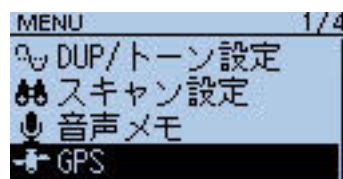
ご注意

- GPSロガーを使用する場合は、市販のmicroSDカードを取り付けている必要があります。
- 一度GPSロガー機能をONにすると、GPSロガー機能をOFFにしないかぎり、電源を入れなおしてもログを取りつづけます。電源をOFFするとログファイルを閉じ、電源を入れなおしてGPSを受信すると新しいファイルを作成します。
- microSDカードの空き容量がなくなった場合は、自動的にGPSロガー機能を一時停止します。

GPSロガー専用モードを使いたい場合は

GPSロガーだけが使えるGPSロガー専用モードがあります。

これは、移動中などで、無線機としては使用せず、GPSロガーとしてだけ長時間使用したい場合に便利です。詳細な説明は、5-29ページをご覧ください。



「GPSセンタク」画面



GPS表示が点滅(測位すると点灯)


5 GPS/GPS-A の操作

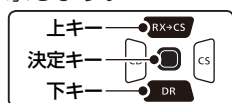
■ GPSロガー機能の使いかた(つづき)


◇ GPSロガーをONに設定する

GPSから受信した情報を記録するかしないかを設定します。
 “ON”に設定すると、記録間隔ごとにGPSで受信した情報を、microSDカードに記録します。

※内蔵GPSを使用する場合、記録するGPSセンテンスは、GGA、RMC、GSA、VTGの4種類です。

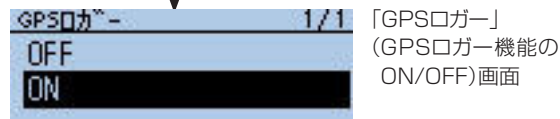
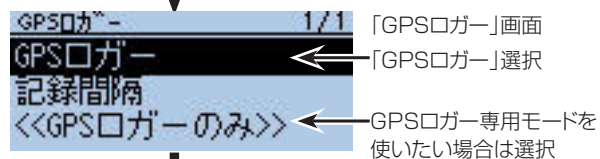
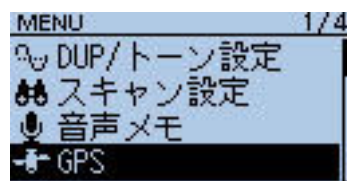
- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「GPSロガー」(GPSロガー機能のON/OFF)画面を表示します。



- ③ 上下キーで“ON”を選択します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。
 - GPSロガーを開始します。

ご注意


外部接続したGPSを使う場合、GGA、RMC、GSA、VTGの中で、対応しているセンテンスだけを記録します。

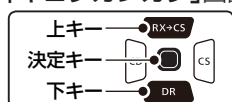



GPSロガー専用モードを使いたい場合はGPSロガーだけが出来るGPSロガー専用モードがあります。
 詳細な説明は、5-29ページをご覧ください。

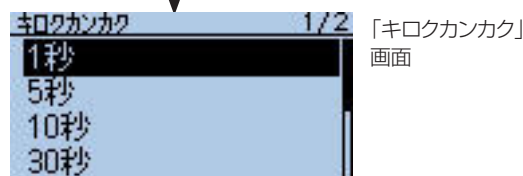
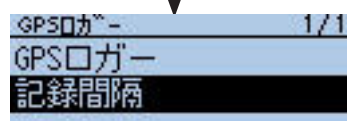
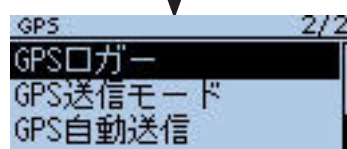
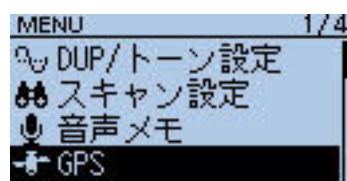
◇ 記録間隔を設定する

GPSロガーの記録間隔を設定します。
 記録間隔を短く設定すると、徒歩の場合など、同じような位置を記録することになるので、移動手段にあわせて記録間隔を設定してください。

- ① [MENU]  を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「キロクカンカク」画面を表示します。




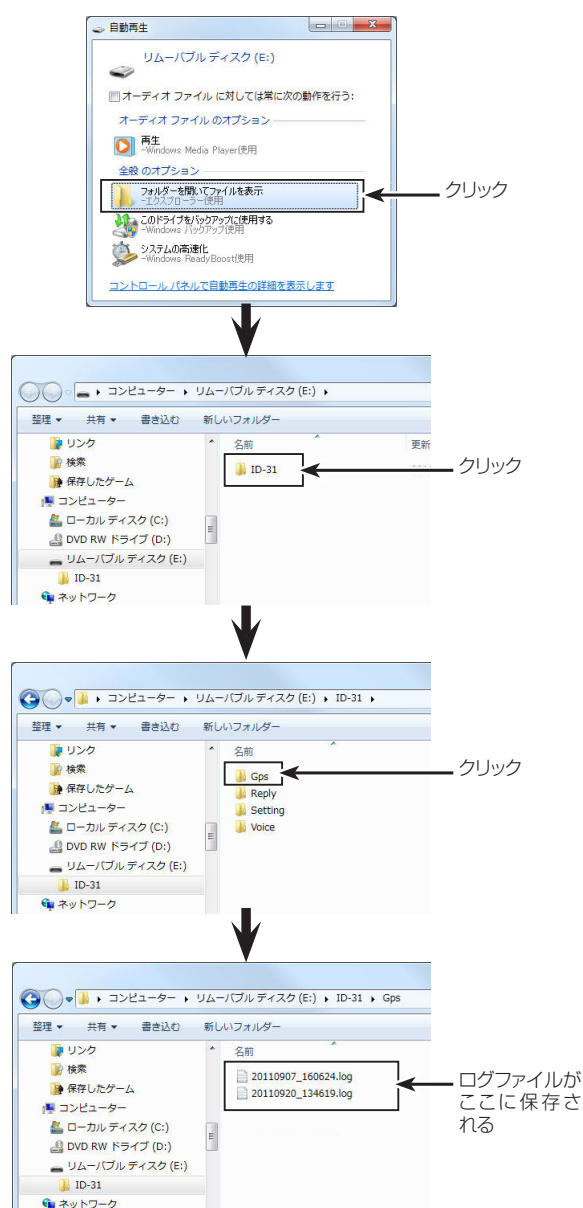
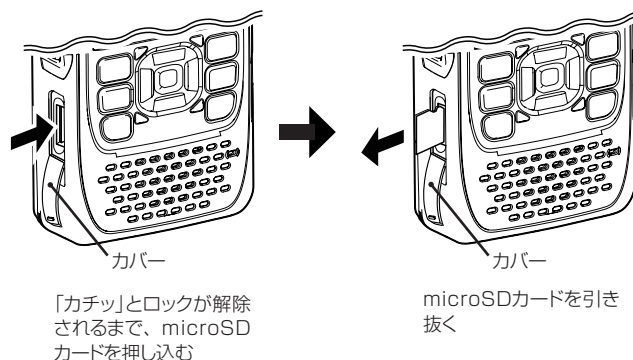
- ③ 上下キーで記録間隔を選択します。(初期設定値:1秒)
 - 1秒/5秒/10秒/30秒の中から選択します。
- ④ [MENU]  を押すと、MENU画面を解除します。



◇ 軌跡情報をパソコンで確認する

軌跡情報をパソコンに取り込んで確認できます。

- ①  を長く押して、本製品の電源を「OFF」にします。
- ② 側面の[micro SD]スロットのカバーを開きます。
- ③ microSDカードを「カチッ」とロックが解除されるまで押し込んでから、microSDカードを引き抜いてください。
※このとき、microSDカードの端子面に触れないでください。
※引き抜いたあとは、側面の[micro SD]スロットのカバーを閉じてください。
※本製品の電源を入れた状態でmicroSDカードを取りはずすときは、アンマウント処理をしてください。
(P12-4)
- ④ microSDカードをパソコンに接続します。
 - お使いのパソコンにあわせて、microSDカードを読み込むために市販のメモリーカードリーダーを別途ご用意ください。
- ⑤ パソコンに接続すると、右のような画面が表示され、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
 - 保存したID-31のフォルダーが表示されます。
- ⑥ “ID-31”をクリックします。
 - 用途ごとにわかれて保存された4つのフォルダーが表示します。
- ⑦ “Gps”をクリックします。
 - 保存した軌跡情報がファイルごとに表示されます。
 - ファイル名は、ログを開始した年(y)、月(m)、日(d)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「yyyymmdd_hhmmss.log」となります。
 - 選択した軌跡情報を市販の地図ソフトウェアにインポートすると、軌跡情報を地図上で確認できます。
※一部対応していない地図ソフトウェアがあります。



5 GPS/GPS-A の操作

■ GPSロガー機能の使いかた(つづき)

ご参考

GPSロガーに記録されるNMEAセンテンスについて

本製品のGPSロガーに記録される各センテンスは、NMEA規格に対応した以下のようなフォーマットになっています。

◇GGAセンテンス

(例) $\$GPGGA,161229.487,3723.2475,N,12158.3416,W,1.07,1.0,9.0,M,25.5,M,3.0000*18<CR><LF>$

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ① GGAプロトコルヘッダー (\$GPGGA) | ⑦ 水平精度低下率 (1.0) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ② 測位時のUTC時刻 (16時12分29.487秒) | ⑧ 平均海面高度 (9.0M) |
| ③ 緯度 (北緯 37度23.2475分) N=北緯、S=南緯 | ⑨ シオイド差 (25.5M) |
| ④ 経度 (西経 121度58.3416分) E=東経、W=西経 | ⑩ DGPS補正暦 (3秒) |
| ⑤ GPSクオリティ (1) 0=測位不能、1=SPSポジション、
2=DGPS (SPS)、6=推測 (DR) | ⑪ チェックサム (*18) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| ⑥ 追尾衛星数 (7個) 表示範囲=00~12 | ⑫ センテンスの終了コード |
- ※空白は、測位不能時を示す。

◇RMCセンテンス

(例) $\$GPRMC,161229.487,A,3723.2475,N,12158.3416,W,0.13,309.62,120511,.,D*10<CR><LF>$

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

- | | |
|---|---|
| ① RMCプロトコルヘッダー (\$GPRMC) | ⑧ 測位時のUTC日付 (11年5月12日) |
| ② 測位時のUTC時刻 (16時12分29.487秒) | ⑨ ナビゲーションモード (D) |
| ③ 測位状態 (A) A=有効、V=無効/測位不能 | A=単独測位、D=DGPS、E=推測 (DR)、
N=無効/測位不能、R=概略位置 (アルマナック データ) |
| ④ 緯度 (北緯 37度23.2475分) N=北緯、S=南緯 | ⑩ チェックサム (*10) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| ⑤ 経度 (西経 121度58.3416分) E=東経、W=西経 | ⑪ センテンスの終了コード |
| ⑥ 対地速度 (0.13ノット) | ※空白は、測位不能時を示す。 |
| ⑦ 進行方位 (真北を基準に、309.62度)
表示範囲=0.00度~359.99度 | |

◇GSAセンテンス

(例) $\$GPGSA,A,3,07,02,26,27,09,04,.....,15,1.8,1.0,1.5*33<CR><LF>$

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ① RMCプロトコルヘッダー (\$GPGSA) | ⑤ 位置精度低下率 (1.8) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ② 測位モード1 (A) A=オート (2D/3Dを自動切り替え)、
M=マニュアル (2Dまたは3Dに固定) | ⑥ 水平精度低下率 (1.0) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ③ 測位モード2 (3) 1=測位不能、
2=2D測位 (追尾衛星数 3衛星以下)
3=3D測位 (追尾衛星数 4衛星以上) | ⑦ 垂直精度低下率 (1.5) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ④ 追尾衛星番号1~12 (07,02,26,27,09,04,.....,15)
範囲=01~32 | ⑧ チェックサム (*33) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| ※チャンネル1~チャンネル12の衛星番号は、左から順に、
07,02,26,27,09,04,.....,15で、13衛星以上の場合
も12番目までの衛星番号が出力されます。 | ⑨ センテンスの終了コード |
- ※空白は、測位不能時を示す。

◇VTGセンテンス

(例) $\$GPVTG,309.62,T,.M,0.13,N,0.2,K,A*03<CR><LF>$

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- | | |
|---|---|
| ① RMCプロトコルヘッダー (\$GPVTG) | ⑥ ナビゲーションモード (A) |
| ② 進行方位 (真北を基準に、309.62度)
表示範囲=0.00度~359.99度 | A=単独測位、D=DGPS、E=推測 (DR)、
N=無効/測位不能、R=概略位置 (アルマナック データ) |
| ③ 方位基準 (M) M=磁北 | ⑦ チェックサム (*03) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| ④ 対地速度 (0.13ノット) | ⑧ センテンスの終了コード |
| ⑤ 対地速度 (0.2km/hr) | ※空白は、測位不能時を示す。 |

◇ GPSロガー専用モードの使いかた

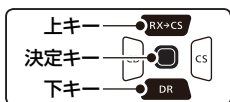
GPSロガー専用モードは、移動中などで、無線機としては使用せず、GPSロガーとしてだけ長時間使用したい場合に便利なモードです。

GPSロガー専用モードの使用手順

1. 市販のmicroSDカードを取り付ける (P12-3)
2. GPSを受信できる状態に設定する (P5-25)
3. GPSロガーをONに設定する (P5-26)
4. GPSロガー専用モードを設定する

↓
設定完了(GPSロガーを開始します)

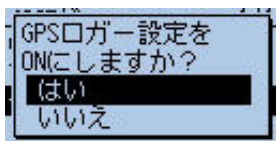
- ① **QUICK MENU**を押します。
- ② 上下キーで“《GPSロガーのみ》”を選択し、決定キーを押します。



- “GPSロガーのみが動作するモードに切り替えました”が表示されたあと、GPSポジション画面に移り、GPSロガーを開始します。
 - ※ MENU画面内の「《GPSロガーのみ》」画面で**決定キー**を押してもGPSロガーが開始します。(P10-26)
- GPS > GPSロガー > 《GPSロガー》のみ

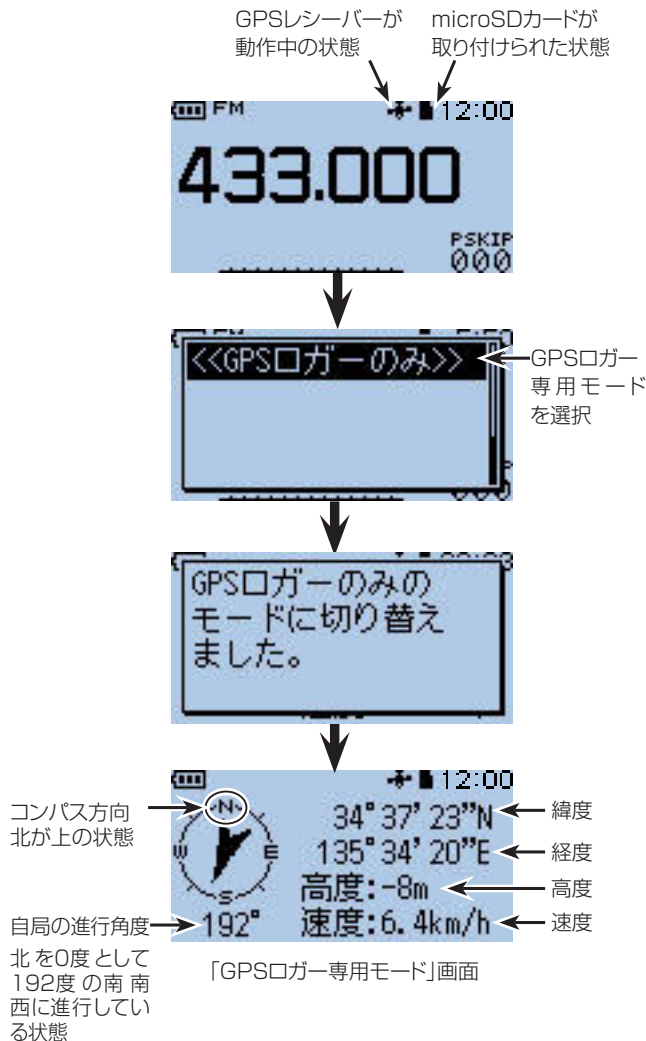
GPSロガー専用モードを解除するには
GPSロガー専用モードを解除するには、電源を入れなおしてください。
※電源を入れると、GPSロガー機能は再開します。

GPSロガーを“ON”に設定していないときは
MENU画面内の「GPSロガー」(GPSロガー機能のON/OFF)画面で“ON”に設定していない場合は、右の画面を表示します。
GPS > GPSロガー > GPSロガー
上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押すと自動的にGPSロガー機能がONに設定されます。

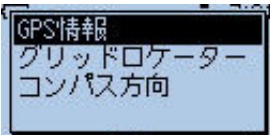


ご注意

GPSロガー専用モードを使用すると、GPSロガー以外の無線機操作はできません。
通常の無線機操作をしながら、GPSロガーを使いたい場合は、「GPSロガー」(GPSロガー機能のON/OFF)画面で“ON”に設定してお使いください。(P5-26)



GPS情報/グリッドロケーター/コンパス方向を変更するには
GPSロガー専用モードで動作中、**QUICK MENU**を押すと、右の画面を表示します。
上下キーで表示させたい項目を選択し、決定キーを押すと表示されます。



■ 交信内容(音声)をmicroSDカードに録音する	6-2
◇録音を開始するとき	6-2
◇録音を停止するとき	6-2
■ 録音モードを変更する	6-3
■ microSDカードに録音した交信内容(音声)を再生する	6-4
■ 再生中の操作について	6-5
◇早送りするとき	6-5
◇巻き戻しするとき	6-5
◇一時停止するとき	6-5
◇1つ前のファイルを再生するとき	6-5
◇次のファイルを再生するとき	6-5
◇1つ前のファイルの頭出し(ファイルを戻す)をするとき	6-5
◇次のファイルの頭出し(ファイルを送る)をするとき	6-5
■ スキップ時間を変更する	6-6
■ ボイスプレーヤー画面について	6-7
■ 録音した交信内容(音声)を消去する	6-8
■ フォルダー内のすべて交信内容(音声)を一括消去する	6-9
■ 選択したフォルダーを消去する	6-10
■ すべてのフォルダーを一括消去する	6-11
■ 受信信号の有無に関わらず録音するとき	6-12
■ 送信、受信を1つのファイルに保存する	6-13
■ PTTスイッチと連動して自動録音する	6-14
■ ファイル情報を確認する	6-15
■ フォルダー情報を確認する	6-16
■ microSDカードの空き容量、録音可能時間を確認する	6-17
■ 録音した交信内容をパソコンで再生する	6-18

【ご注意】

ボイスメモリーをお使いになるには、microSDカードまたはmicroSDHCカードが必要です。

microSDカード、microSDHCカードは本製品に付属されていませんので、市販品をお買い求めください。

microSDカードまたはmicroSDHCカードの取り付けかた、フォーマットのしかたなどは、12章をご覧ください。

6 ボイスメモリーの使いかた

■ 交信内容(音声)をmicroSDカードに録音する

交信内容(音声)をmicroSDカードに録音できます。

相手局からの受信信号、自局の送信信号の両方を録音します。

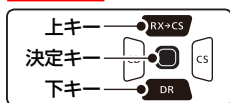
※相手局からの受信信号だけを録音する場合は、「録音モードを変更する」(P6-3)をご覧ください。録音モードを“受信のみ”に変更してください。

ご注意

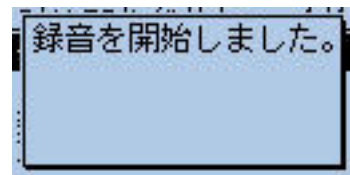
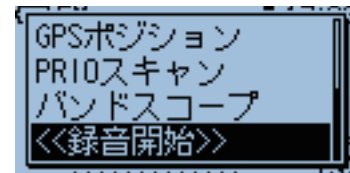
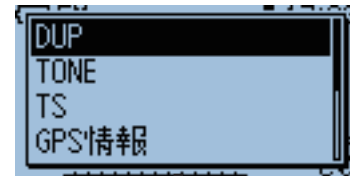
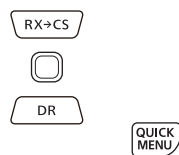
- DV自動検出機能、またはモニター操作により、DVモード設定時にFMモードの信号を受信しているときは、無音で録音されます。
- 一度録音を開始すると、録音停止操作をするまでは電源を入れなおしても録音状態は保持されます。

◇ 録音を開始するとき

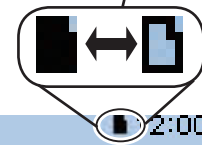
- ① **QUICK MENU**を押します。
- ② **上下キー**で“録音開始”を選択します。



- ③ **決定キー**を押すと、録音を開始します。
 - 「録音を開始しました。」画面を表示したあと、QUICK MENU画面を解除します。
 - 録音中は、「■」と「■」が交互に点灯します。
 - 録音を停止するか、microSDカードの空き容量がなくなるまで、録音しつづけます。
 - 録音中ファイルの容量が2GBに達すると、つづきを新しいファイルに録音します。

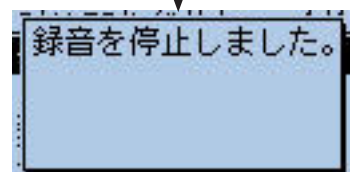
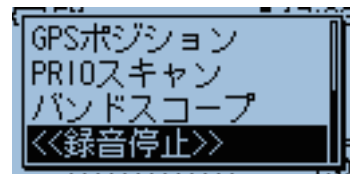


録音中は、交互に点灯します



◇ 録音を停止するとき

- ① **QUICK MENU**を押します。
- ② **上下キー**で“録音停止”を選択します。
- ③ **決定キー**を押すと、録音を停止します。
 - 「録音を停止しました。」画面を表示したあと、QUICK MENU画面を自動的に解除します。

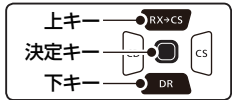


■ 録音モードを変更する

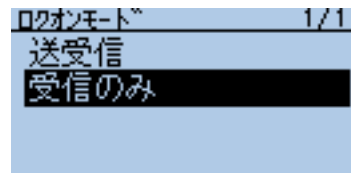
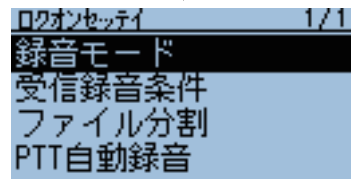
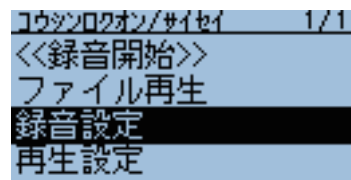
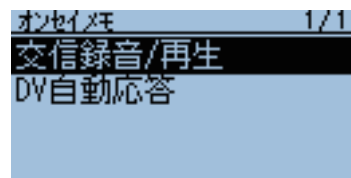
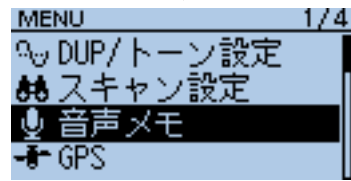
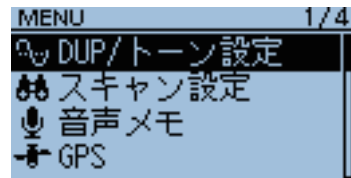
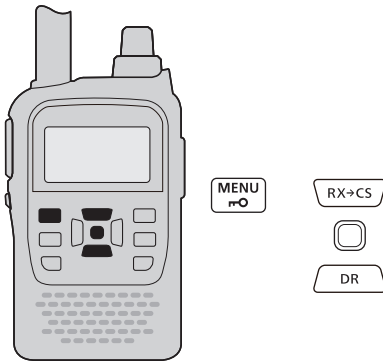
MENU画面の「ロックオンモード」項目で、相手局からの受信信号だけを録音できます。

※初期設定では、相手局からの受信信号、自局の送信信号の両方を録音します。

- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「ロックオンモード」画面を表示します。



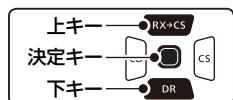
- ③ **上下キー**で“受信のみ”を選択して、**決定キー**で確定します。
- ④ 録音モードの変更が完了すると、MENU画面に戻ります。**[MENU]** **[MENU]**を押してMENU画面を解除します。



6 ボイスメモリーの使いかた

■ microSDカードに録音した交信内容(音声)を再生する

- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「**ファイルサイセイ**」画面を表示します。



- 録音したときに作成されるフォルダー一覧を表示します。
 - フォルダー名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「**yyyymmdd**」となります。
- ③ **上下キー**で再生したいファイルが格納されているフォルダーを選択して、**決定キー**を押してください。
 - 選択したフォルダー内のファイル一覧を表示します。
 - ファイル名は、録音を開始した年(y)、月(m)、日(d)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「**yyyy/mm/dd hh:mm:ss**」となります。
 - ④ **上下キー**で再生したいファイルを選択し、**決定キー**を押してください。

「**ボイスプレーヤー**」画面を表示して、ファイルを再生します。

 - 早送りや巻き戻しのしかたなどは、「再生中の操作について」(P6-5)をご覧ください。
 - ⑤ **[MENU]** **[MENU]**または**[CLR]** **[V/MHz]**を押すと、再生を停止します。
 - ファイル一覧表示に戻ります。

【ご参考】

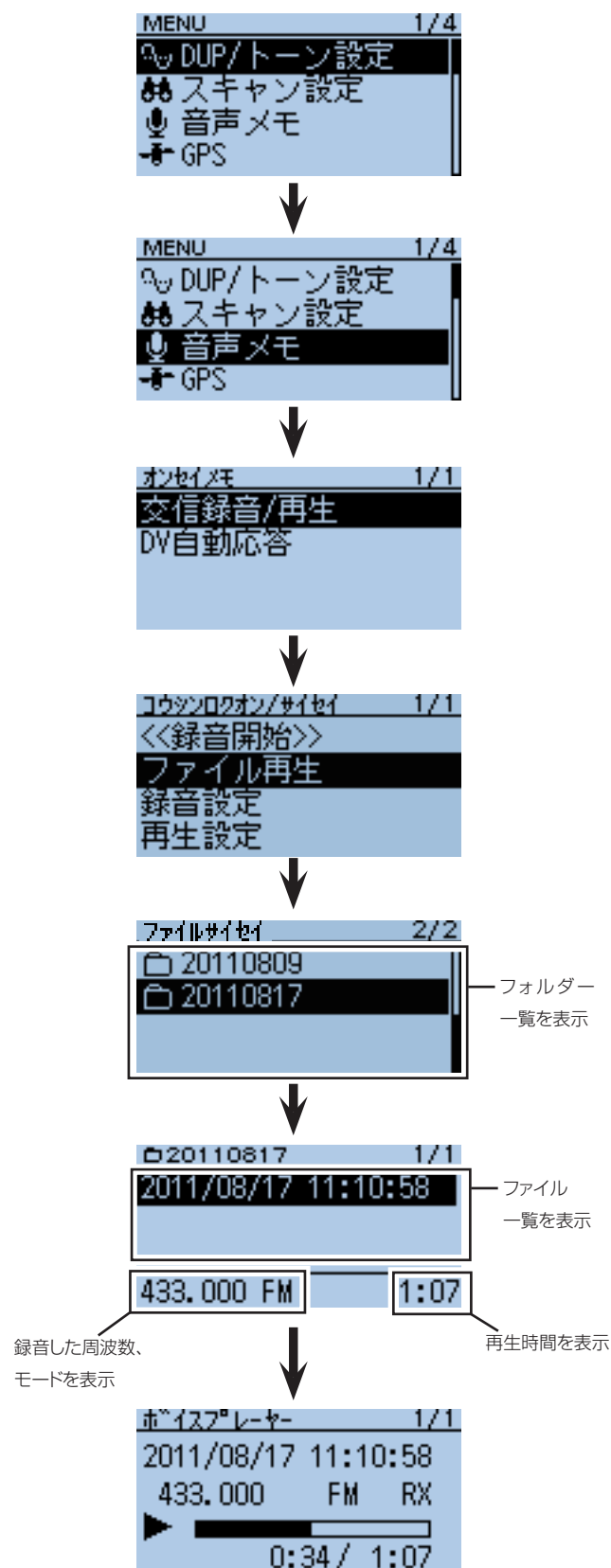
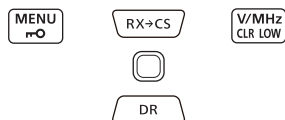
フォルダー内に複数のファイルが存在する場合で、再生停止操作をしないと、下記の要領で録音されているファイルを自動的に再生します。

(例)フォルダー内に下記3ファイルが存在する場合

- A 2011/08/17 11:10:58
- B 2011/08/17 13:05:15
- C 2011/08/17 19:46:02

◎Aを再生した場合、AにつづけてB、Cが順次再生されます。

◎Bを再生した場合、BにつづけてCが再生されません。



■ 再生中の操作について

再生中、早送りや巻き戻しなどの操作ができます。

◇ 早送りするとき

- ◎ **[CS]**を押すごとに、早送りします(初期設定値は10秒)。
早送りする秒数を変更する場合は、「スキップ時間を変更する」(P6-6)をご覧ください。

◇ 巻き戻しするとき

- ◎ **[CD]**を押すごとに、巻き戻します(初期設定値は10秒)。
巻き戻しする秒数を変更する場合は、「スキップ時間を変更する」(P6-6)をご覧ください。
※先頭から1秒以内を再生中に巻き戻しをすると、1つ前のファイルの最後に巻き戻されます。

◇ 一時停止するとき

- ◎ **[決定キー]**を押します。
もう一度**決定キー**を押すと、一時停止を解除します。

◇ 1つ前のファイルを再生するとき

- ◎再生中に**[RX+CS]**を押すごとに、1つ前のファイルを再生します。
※フォルダー内に複数のファイルが存在し、録音日時が最も古いファイルを再生中に**[RX+CS]**を押した場合は、そのファイルをはじめから再生します。

◇ 次のファイルを再生するとき

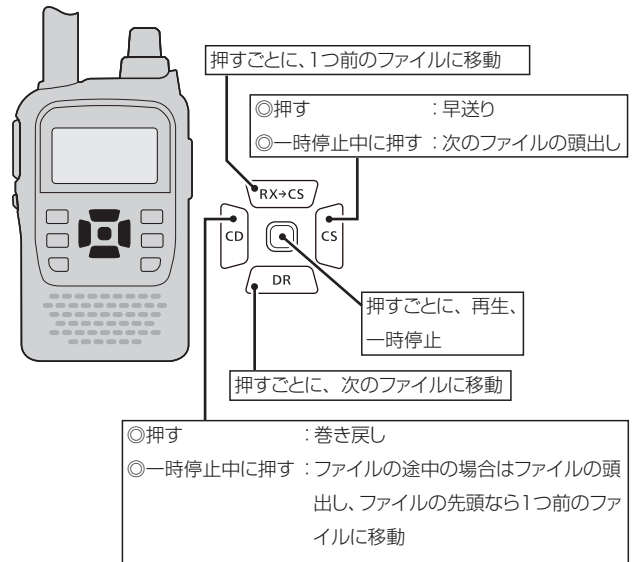
- ◎再生中に**[DR]**を押すごとに、次のファイルを再生します。
※フォルダー内に複数のファイルが存在し、録音日時が最も新しいファイルを再生中に**[DR]**を押した場合は、再生を停止します。

◇ 1つ前のファイルの頭出し(ファイルを戻す)をするとき

- ◎一時停止中で、ファイルの途中の場合は、**[CD]**を押すとファイルの頭出し(ファイルを戻す)をします。
※**決定キー**を押すと、再生します。
- ◎一時停止中で、ファイルの先頭の場合は、**[CD]**を押すと1つ前のファイルに移動します。
※**決定キー**を押すと、再生します。

◇ 次のファイルの頭出し(ファイルを送る)をするとき

- ◎一時停止中に**[CS]**を押すごとに、次のファイルの頭出し(ファイルを送る)をします。
※**決定キー**を押すと、再生します。



ご参考

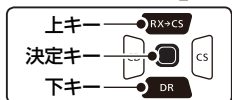
- [DIAL]を回してもファイルの再生位置を変えることができます。
- ※[DIAL]での操作は、スキップ時間設定に関係なく、ファイルの1/20ずつ再生位置を変えることができます。

6 ボイスメモリーの使いかた

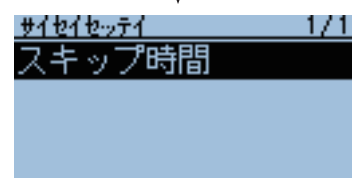
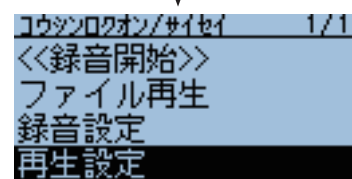
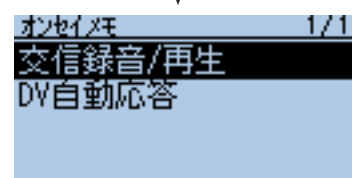
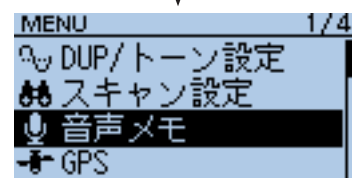
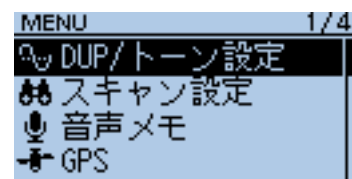
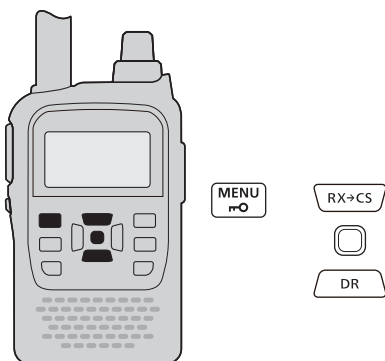
■ スキップ時間を変更する

再生中に早送り、巻き戻しするときのスキップ時間を変更できます。

- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「スキップジカン」画面を表示します。



- ③ **上下キー**で「3秒」、「5秒」、「10秒」、「30秒」の中から、お好みのスキップ時間を選択して、**決定キー**を押してください。
- ④ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。



■ ボイスプレーヤー画面について

ボイスプレーヤー画面の表示内容は以下のとおりです。

① ファイル名表示

再生しているファイル名を表示します。

② 録音情報表示

録音した周波数、モード、再生中の音声を受信音声か送信音声かを表示します。

※受信音声再生時は「RX」を、送信音声再生時は「TX」を表示します。

③ 再生表示

再生中に点灯します。

※早送り中、巻き戻し中、一時停止中は消灯します。

④ カウンター表示

再生時間をカウントします。

⑤ 再生時間表示

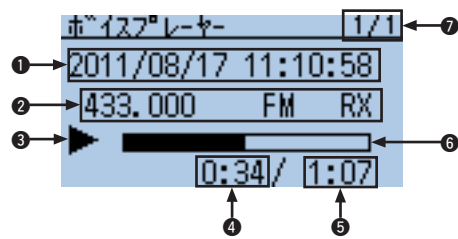
再生しているファイルの総再生時間を表示します。

⑥ 再生状況表示

再生状況をグラフで表示します。



⑦ ファイル数表示


再生中のファイルの順位/フォルダー内の総ファイル数を表示します





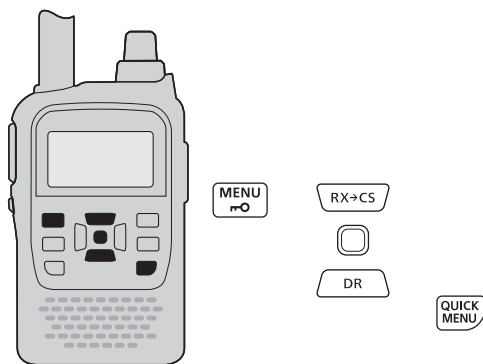
6 ボイスメモリーの使いかた

■ 録音した交信内容(音声)を消去する

- ① **[MENU]**  を押します。
 - ② **上下キー** で選択、**決定キー** で確定、の操作を繰り返して「**ファイルサイゼイ**」画面を表示します。
 - 録音したときに作成されるフォルダ一覧を表示します。
 - フォルダ名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「**yyyyymmdd**」となります。
- 上キー →  RX+CS

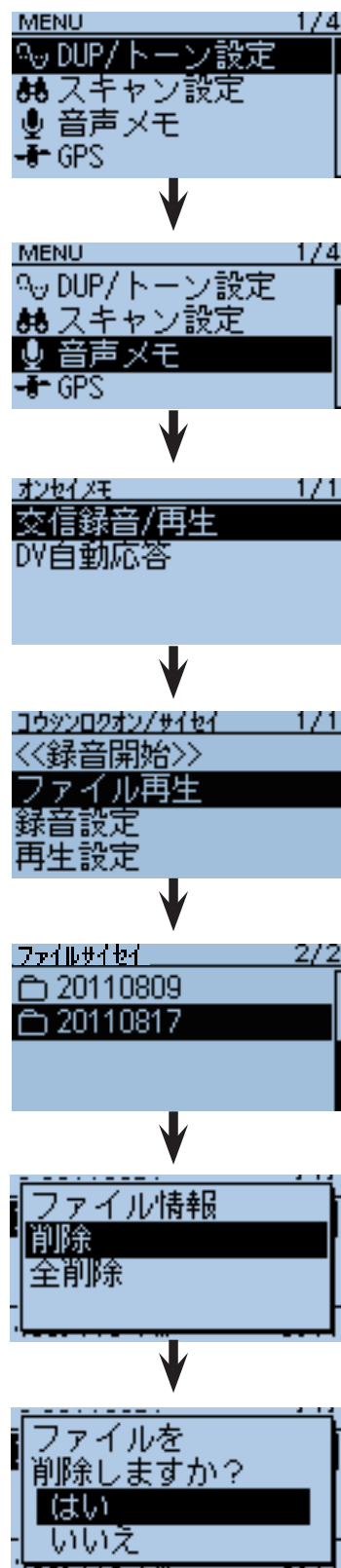
決定キー →  CS

下キー →  DR
- ③ **上下キー** で消去したいファイルが格納されているフォルダを選択して、**決定キー** を押してください。
 - 選択したフォルダ内のファイル一覧を表示します。
 - ファイル名は、録音を開始した年(y)、月(m)、日(d)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「**yyyy/mm/dd hh:mm:ss**」となります。
 - ④ **上下キー** で消去したいファイルを選択し、**QUICK MENU**  を押してください。
 - ⑤ **上下キー** で「**削除**」を選択して、**決定キー** を押してください。
 - ⑥ **上下キー** で「**はい**」を選択して、**決定キー** を押すと、選択したファイルを削除します。



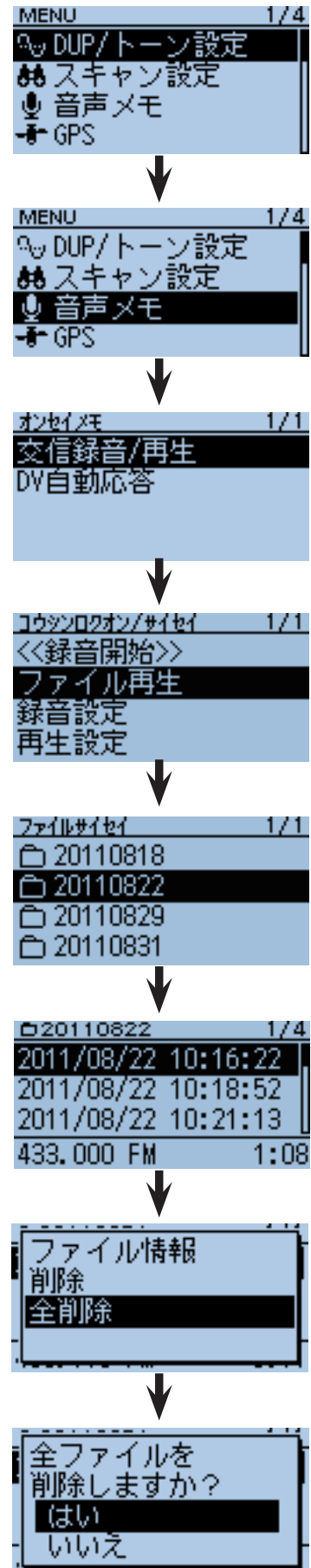
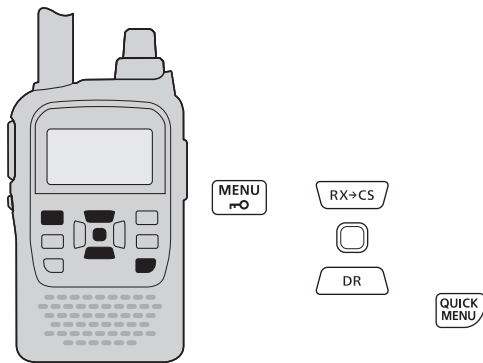
ご参考

フォルダ内のすべてのファイルを一括削除する場合は、「フォルダ内のすべての交信内容(音声)を一括削除する」(P6-9)をご覧ください。



■ フォルダー内のすべて交信内容(音声)を一括消去する

- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「ファイルサイゼイ」画面を表示します。
 - 録音したときに作成されるフォルダー一覧を表示します。
 - フォルダー名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「yyyyymmdd」となります。
- ③ **上下キー**で消去したいファイルが格納されているフォルダーを選択して、**決定キー**を押してください。
 - 選択したフォルダー内のファイル一覧を表示します。
 - ファイル名は、録音を開始した年(y)、月(m)、日(d)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」となります。
- ④ **QUICK MENU**を押してください。
- ⑤ **上下キー**で“全削除”を選択して、**決定キー**を押してください。
- ⑥ **上下キー**で“はい”を選択して、**決定キー**を押すと、フォルダー内のすべてのファイルを一括削除します。



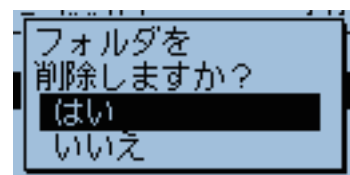
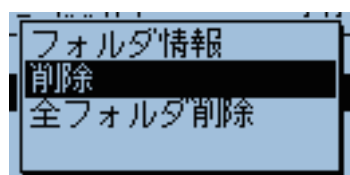
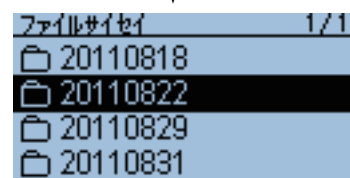
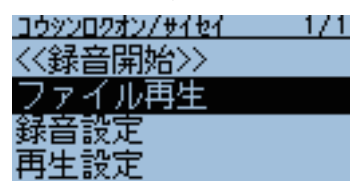
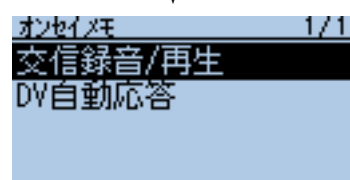
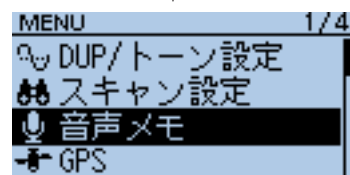
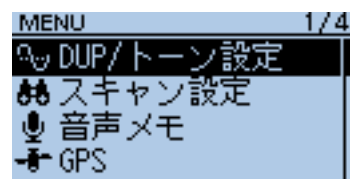
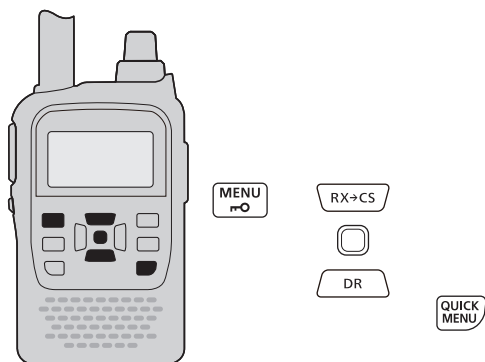
6 ボイスメモリーの使いかた

■ 選択したフォルダーを消去する

【ご注意】

フォルダー内のすべてのファイルも消去されます。



- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
 - ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「ファイルサイゼイ」画面を表示します。
 - 録音したときに作成されるフォルダー一覧を表示します。
 - フォルダー名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「yyyymmdd」となります。
- 上キー → RX→CS
 決定キー → CS
 下キー → DR
- ③ **上下キー**で消去したいフォルダーを選択してください。
 - ④ **[QUICK MENU]**を押してください。
 - ⑤ **上下キー**で“削除”を選択して、**決定キー**を押してください。
 - ⑥ **上下キー**で“はい”を選択して、**決定キー**を押すと、選択したフォルダーを削除します。
 - ⑦ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。







■ すべてのフォルダーを一括消去する

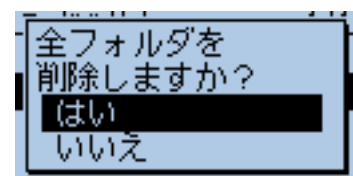
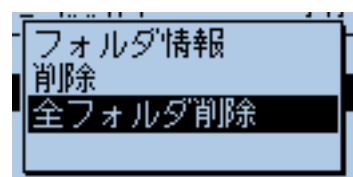
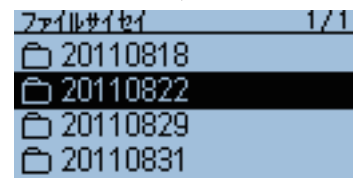
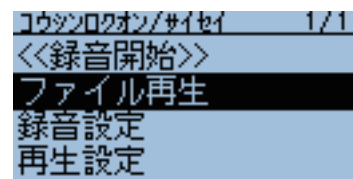
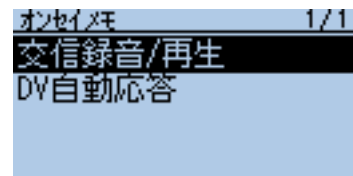
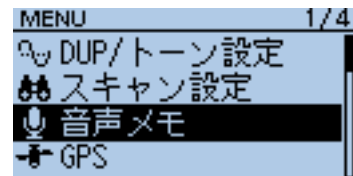
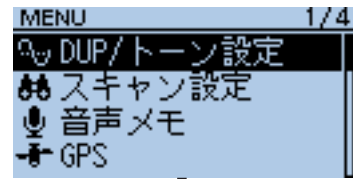
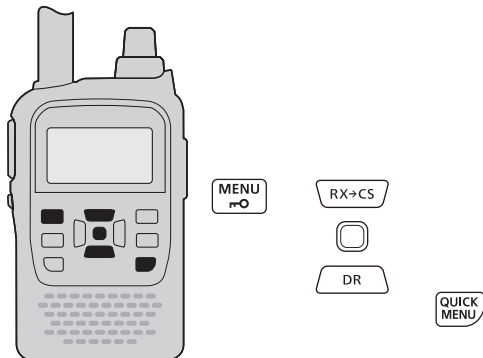
【ご注意】

フォルダー内のすべてのファイルも消去されます。

- ① **[MENU]**()を押します。
 - ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「**ファイルサイゼイ**」画面を表示します。
 - 録音したときに作成されるフォルダー一覧を表示します。
 - フォルダー名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「**yyyyymmdd**」となります。
- 上キー →  RX+CS

決定キー →  CS

下キー →  DR
- ③ **QUICK MENU**()を押してください。
 - ④ **上下キー**で「**全フォルダ削除**」を選択して、**決定キー**を押してください。
 - ⑤ **上下キー**で「**はい**」を選択して、**決定キー**を押すと、選択したフォルダーを削除します。
 - ⑥ **[MENU]**()を押すと、MENU画面を解除します。

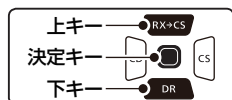


6 ボイスメモリーの使いかた

■ 受信信号の有無に関わらず録音するとき

初期設定では、信号を受信しているあいだ(スケルチが開いているあいだ)だけ録音しますが、信号を受信していないあいだ(スケルチが閉じているあいだ)も録音できます。

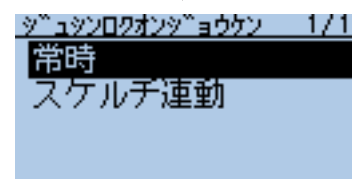
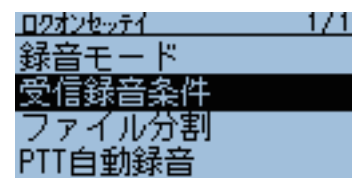
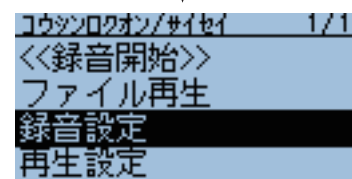
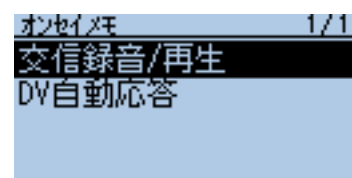
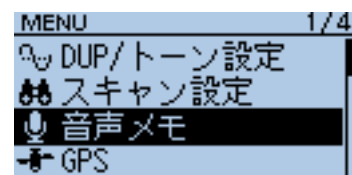
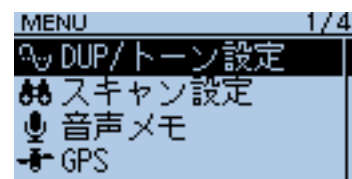
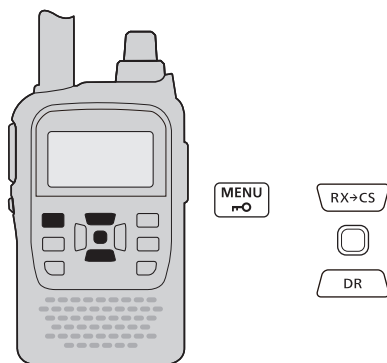
- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「ジュシンロックオンジョウケン」画面を表示します。



- ③ **上下キー**で“常時”を選択して、**決定キー**を押すと、受信信号の有無に関わらず録音します。

- 常時 :受信信号の有無に関わらず録音します
- スケルチ連動 :信号を受信しているあいだ(スケルチが開いているあいだ)だけ録音します(初期設定値)

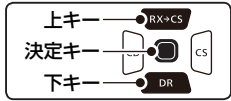
- ④ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。



■ 送信、受信を1つのファイルに保存する

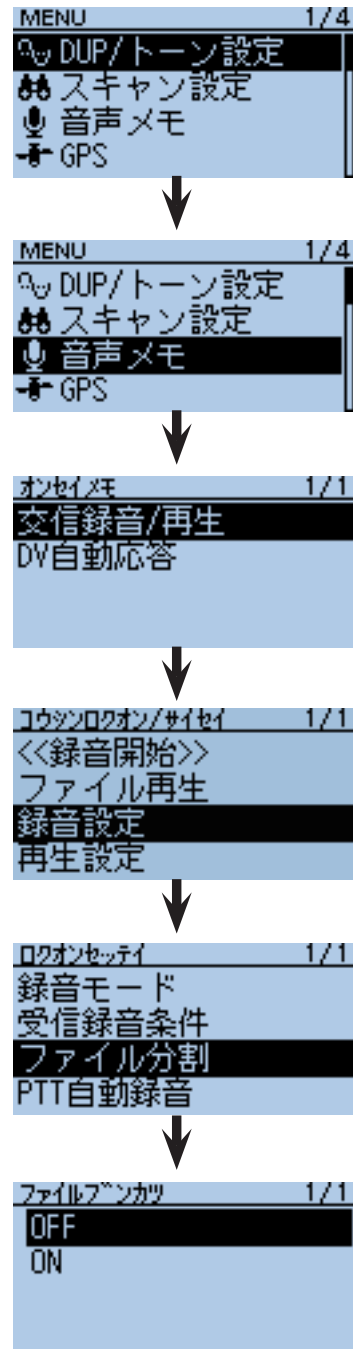
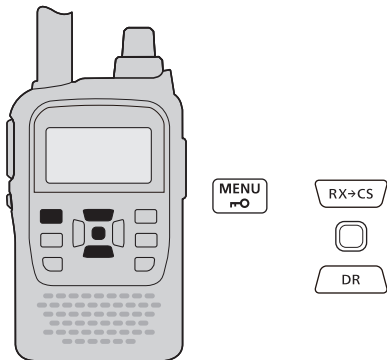
交信内容を送信、受信ファイルに分けずに、1つのファイルに録音できます。

- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「ファイルブツカツ」画面を表示します。



- ③ **上下キー**で“OFF”を選択して、**決定キー**を押してください。
 - ◎OFF :ファイル分割せずに、送信内容、受信内容を1つのファイルに録音します。
 - ◎ON :送信、受信ごとに新規ファイルを作成して録音します。(初期設定値)

※MENU画面内の「**ジュシロクオンジョウケン**」が“**スケルチ連動**”のときは、受信が途切れても分割します。
 音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > 受信録音条件
- ④ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。




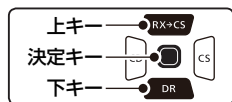
ご参考
 ファイル分割を“OFF”に設定しても、録音中のファイル容量が2GBになると、新規ファイルを作成して録音します。


6 ボイスメモリーの使いかた

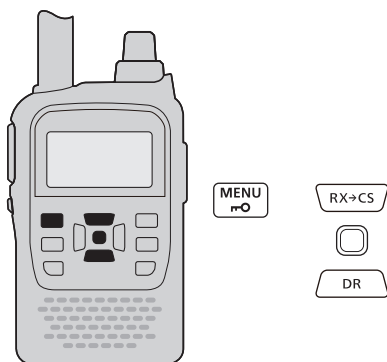
■ PTTスイッチと連動して自動録音する

自局が送信すると同時に録音を開始し、送信終了後、一定時間内に相手局の信号を受信したときは、その受信信号も録音することで、一連の交信内容をすべて録音できます。

- ① **[MENU]**  を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「PTTジドウロクオン」画面を表示します。

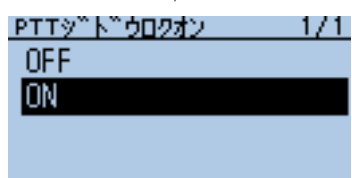
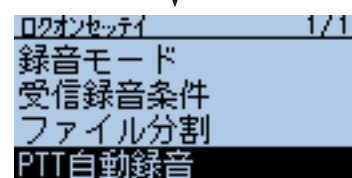
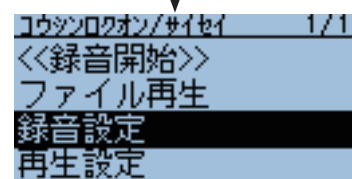
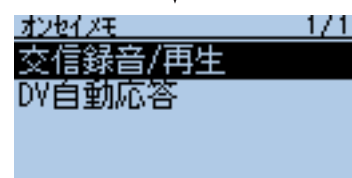
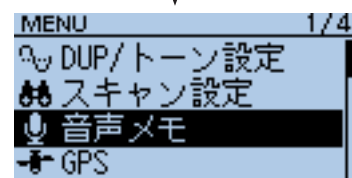
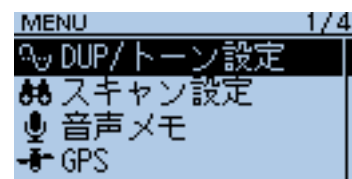


- ③ **上下キー**で“ON”を選択して、**決定キー**を押してください。
 - OFF : [PTT]と連動した自動録音をしません。
 - ON : [PTT]と連動した自動録音をします。
- ④ **[MENU]**  を押すと、MENU画面を解除します。



【ご参考に～PTT自動録音を“ON”に設定したときは】

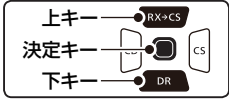
- [PTT]だけでなく、外部接続したマイクロホンの[PTT]、VOX機能、CI-Vによるリモート操作で送信したときでも、録音を開始します。
- 送信信号はすべて録音されます。
- 送信終了後、10秒以内に信号を受信すると、受信した信号も録音します。
- 受信終了後、さらに10秒以内に信号を受信すると、その受信した信号も録音します。



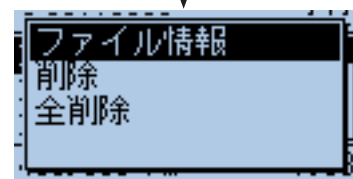
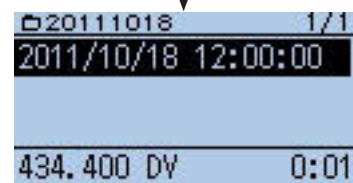
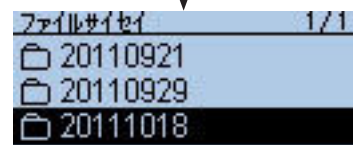
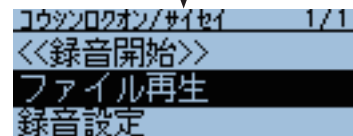
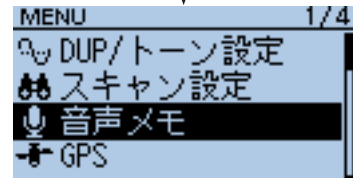
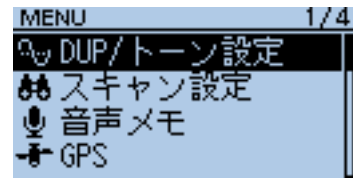
■ ファイル情報を確認する

録音したファイルの録音周波数、モード、録音開始日時などを表示できます。

- ① **[MENU]** **[MENU]** を押します。
- ② **上下キー** で選択、**決定キー** で確定、の操作を繰り返して「ファイルサイゼイ」画面を表示します。

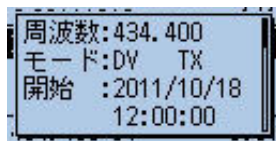


- 録音したときに作成されるフォルダー一覧を表示します。
 - フォルダー名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「yyyyymmdd」となります。
- ③ **上下キー** でファイル情報を確認したいファイルが格納されているフォルダーを選択して、**決定キー** を押してください。
 - 選択したフォルダー内のファイル一覧を表示します。
 - ファイル名は、録音を開始した年(y)、月(m)、日(d)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」となります。
 - ④ **上下キー** でファイル情報を確認したいファイルを選択し、**[QUICK MENU]** を押してください。
 - ⑤ **上下キー** で“ファイル情報”を選択して、**決定キー** を押してください。
 - **上下キー** で選択したファイルのファイル情報を表示します。
 - ⑥ **決定キー** を押すと、ファイル情報を解除します。
 - ⑦ **[MENU]** **[MENU]** を押すと、MENU画面を解除します。



ファイル情報画面 (録音内容によっては、表示しない画面もあります)

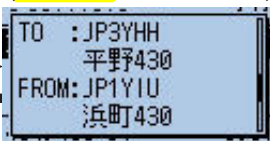
● 送信時のファイル情報



(自局の位置情報)



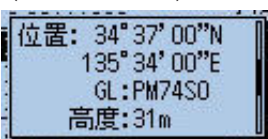
(DRモードで送信した場合)



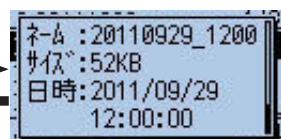
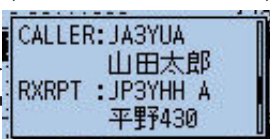
● 受信時のファイル情報



(自局の位置情報)



(DRモードで受信した場合)

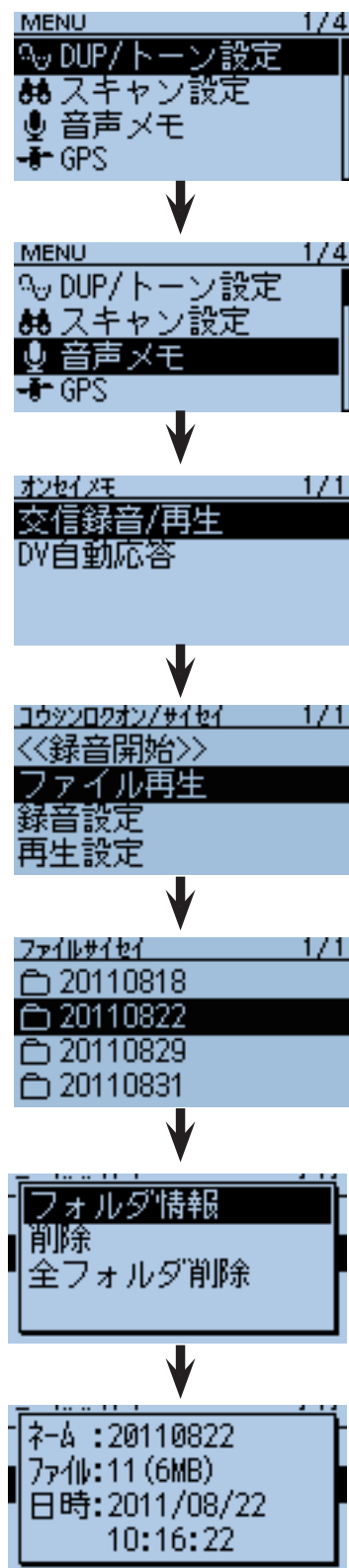
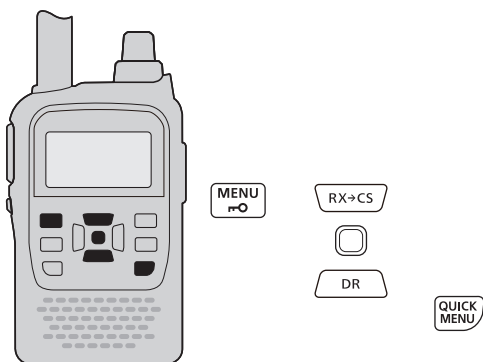


6 ボイスメモリーの使いかた

■ フォルダ情報を確認する

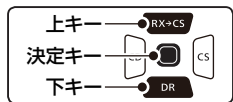
録音時に作成されたフォルダのフォルダ名、フォルダ内のファイル数、ファイルの総容量、作成日時を表示できます。

- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
 - ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「ファイルサイゼイ」画面を表示します。
 - 録音したときに作成されるフォルダ一覧を表示します。
 - フォルダ名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「yyyyymmdd」となります。
- 上キー → RX→CS
 決定キー → CS
 下キー → DR
- ③ **上下キー**でフォルダ情報を確認したいフォルダを選択して、**[QUICK MENU]**を押してください。
 - ④ **上下キー**で“フォルダ情報”を選択して、**決定キー**を押してください。
 - 選択したフォルダのフォルダ情報を表示します。
 - ⑤ **決定キー**を押すと、ファイル情報を解除します。
 - ⑥ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。



■ microSDカードの空き容量、録音可能時間を確認する

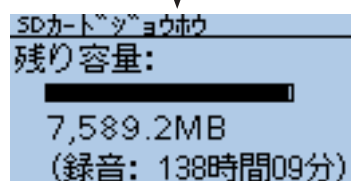
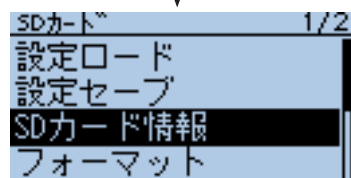
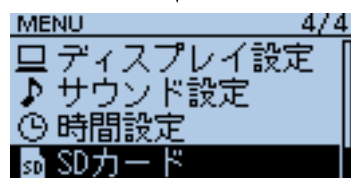
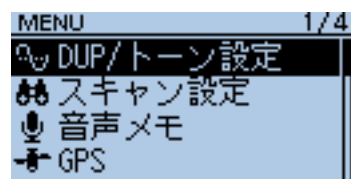
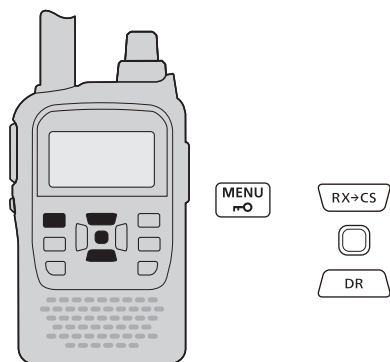
- ① [MENU] [MENU]を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「SDカード」画面を表示します。



- ③ 上下キーで“SDカード情報”を選択して、決定キーを押してください。

●SDカードの空き容量と録音可能時間を表示します。

- ④ 決定キーを押すと、「SDカード」画面に戻ります。
- ⑤ [MENU] [MENU]を押すと、MENU画面を解除します。



6 ボイスメモリーの使いかた

■ 録音した交信内容をパソコンで再生する

本製品で録音した交信内容をパソコンでも再生できます。ただし、録音した周波数や時間などの情報は表示されません。

※Window 7を例に説明します。

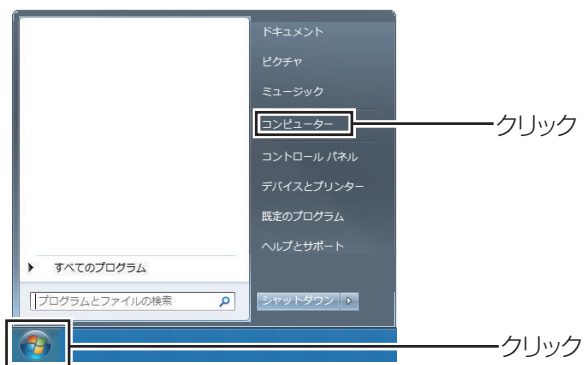
(例:メモリーカードリーダー(市販品)をパソコンに接続し、メモリーカードリーダーにmicroSDカードを挿入して再生する場合)。

※ハードディスクにmicroSDカードのデータをコピーした場合も、操作方法は同じです。

① パソコンにmicroSDカードドライブが搭載されている場合は、ドライブにmicroSDカードを挿入します。

※パソコンにmicroSDカードドライブが搭載されていない場合は、microSDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)をパソコンに接続し、メモリーカードリーダーにmicroSDカードを挿入します。

② パソコンの<スタート>ボタンをクリックし、[コンピューター]をクリックします



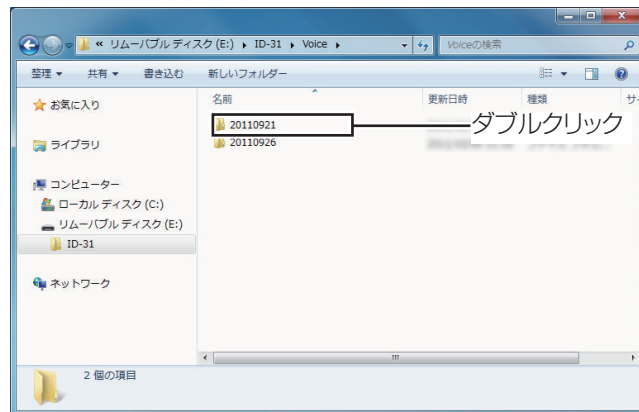
③ [リムーバブル ディスク]をクリックします。

④ ID-31フォルダーをダブルクリックします。

⑤ Voiceフォルダーをダブルクリックします。

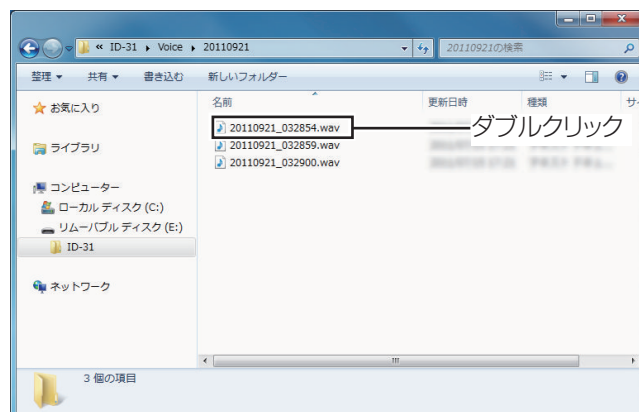
⑥ 再生したいファイルが格納されているフォルダーをダブルクリックします。

(例:20110921フォルダー)



⑦ 再生したいファイルをダブルクリックすると、再生が始まります。

(例:20110921_032854.wav)



【ご注意】

◎再生中の操作はお使いのソフトウェアにより異なりますので、詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

◎録音した交信内容が再生されない場合、再生用ソフトウェア(Windows Media® Playerなど)をダウンロードしてください。

■ メモリーチャンネルについて	7-2
◇ M-CHに記憶できる内容	7-2
■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容	7-2
■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた	7-3
◇ 書き込まれているM-CHを呼び出すには	7-3
■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた	7-3
■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への 書き込みかた	7-4
◇ M-CHの書き込みかた	7-4
◇ 書き込み後のオートインクリメントについて	7-5
◇ メモリー内容をVFOに転送して使うには	7-5
◇ メモリー内容をほかのチャンネルへコピーするには	7-6
■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する	7-7
◇ 編集のしかた	7-7
◇ 直接メモリーバンクに書き込むには	7-8
◇ メモリーバンクモードへの表示切り替え	7-9
■ メモリー/バンク/スキャンネームの使いかた	7-10
◇ メモリー/バンク/スキャンネームを入力する	7-10
■ メモリーネームの表示について	7-12
◇ 表示タイプの変更のしかた	7-12
■ メモリークリア(消去)のしかた	7-13
◇ メモリー内容を消去する	7-13

7 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーチャンネルについて

よく使用する周波数や運用情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(以下、M-CHと略記します)に記憶させておき、すばやく呼び出して運用できます。

- 本製品には、通常のM-CHとして500チャンネル、プログラムスキャン用チャンネル(以下、PROGRAM-CHと略記します)として50チャンネル(00A/00B～24A/24B)、およびコールチャンネル(以下、CALL-CHと略記します)として2チャンネル(C0、C1)の合計552CHを搭載しています。
- M-CHを運用するときは、メモリーモードにします。ブランクチャンネルを表示しないので、すばやく目的のM-CHを呼び出せます。
- M-CHに記憶させるときは、VFOモードで内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◇ M-CHに記憶できる内容

すべてのM-CHで下記の内容を記憶します。

- 運用周波数
- デュプレックスのON/OFF
- シフト方向(+/-)
- オフセット周波数
- メモリーネーム
- スキップチャンネル設定
- チューニングステップ(TS)
- 受信モード(電波型式)
- トーンスケルチ設定とトーン周波数
- レピータアクセス用トーン周波数
- DTCSのコードと極性
- 相手局コールサイン
- R1/R2 コールサイン
- メモリーバンク
- デジタルスケルチ設定のON/OFFとデジタルコード

■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容

チャンネル	おもな用途
0～499 (M-CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常のM-CHとして使用します。 ● 工場出荷時に記憶している内容 “0”：433.000MHz ※1～499は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しません。
00A/00B～ 24A/24B (PROGRAM- CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムスキャン用のM-CHとして使用しません。プログラムスキャンの上限周波数および下限周波数を記憶します。(25組、計50チャンネル) ● 工場出荷時に記憶している内容 “00A”：430.000MHz “00B”：440.000MHz ※“01A/01B～24A/24B”は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しません。
C0～C1 (CALL-CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● 呼び出し周波数を記憶するCALL-CHです。(※P7-3) ● 工場出荷時に記憶している内容 “C0”：433.000MHz (FM) “C1”：433.300MHz (DV) ● 通常のM-CHとして使用できます。

【ご注意】

メモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。

また、故障や修理の際にも消失する場合があります。

メモリーの内容をmicroSDカードまたはパソコンに保存することをおすすめします。

※microSDカードは、市販品を別途で用意ください。

※パソコンに保存するときは、付属のCDに同梱しているCS-31もお使いいただけます。

なお、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp> からでもCS-31の最新版をダウンロードできます。

※本製品とパソコンの接続には、別売品のOPC-2218LU データ通信ケーブルが別途必要です。

■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

◇ 書き込まれているM-CHを呼び出すには

- ① **[M/CALL]** **[M/CALL S.MW]**を押して、メモリーモードにします。
※押すごとに、メモリーモードとCALL-CHモードが切り替わります。
- ② **[DIAL]**を回すと、書き込まれているM-CHを呼び出します。
※ブランクチャンネルは呼び出しません。



[DIAL]を回すと、
M-CH番号が変わる

■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた

CALL-CHとは、呼び出し周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれています。

通常M-CHと同様に、自由にメモリー内容を書き換え(☞P7-4)できるので、使用ひんどの高い周波数を記憶しておくと便利です。

初期設定値

- **C0**:433.000MHz(FMモード)
- **C1**:433.300MHz(DVモード)

- ① **[M/CALL]** **[M/CALL S.MW]**を繰り返し押して、CALL-CHモードにします。
※押すごとにCALL-CHモードとメモリーモードを切り替えます。
- ② **[DIAL]**を回して、CALL-CHを選択します。
- ③ VFOモードに戻りたいときは**[V/MHz]** **[V/MHz CLR LOW]**を、メモリーモードに戻りたいときは**[M/CALL]** **[M/CALL S.MW]**を押します。



↑ ↓ [DIAL]で選択



7 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

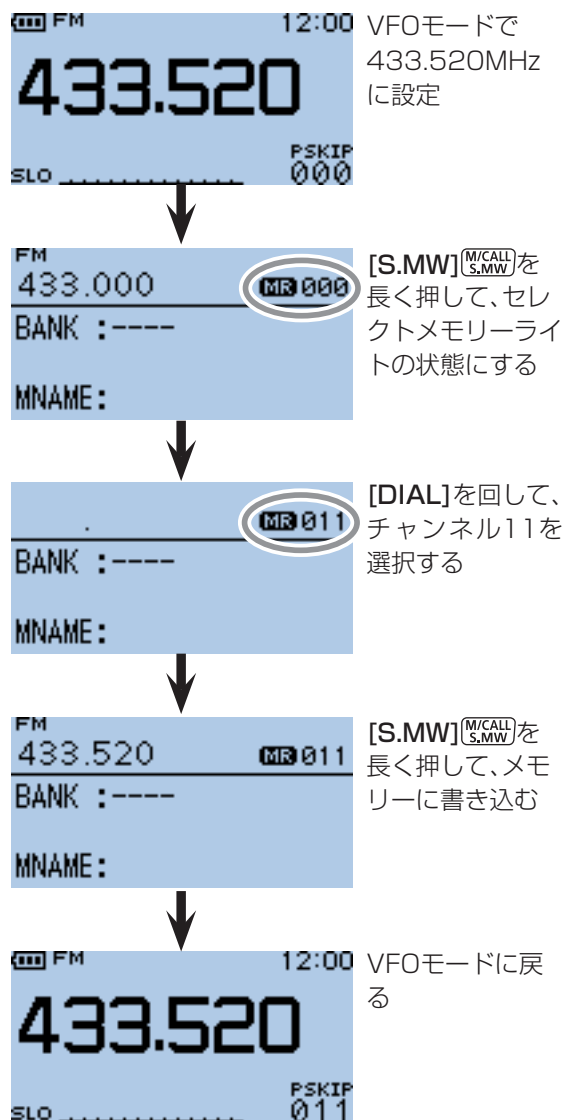
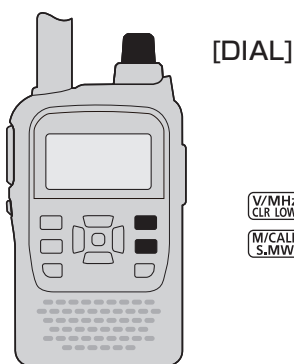
M-CH、CALL-CH、PROGRAM-CHへ書き込み、または書き換えをします。

工場出荷時は、チャンネル“1~499”までがブランクチャンネルになっています。

◇ M-CHの書き込みかた

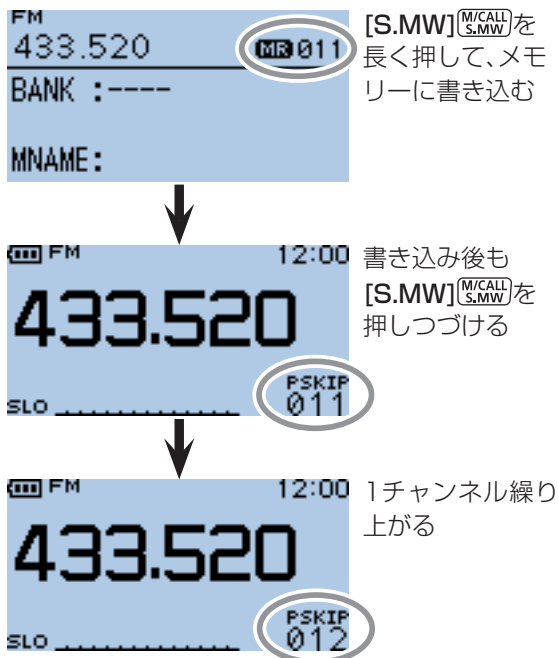
《例》“433.520MHz”をM-CH“11”に書き込む場合

- ① **[V/MHz]** (^{V/MHz}_{CLR LOW})を押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、周波数を“433.520MHz”にします。
- ③ **[S.MW]** (^{M/CALL}_{S.MW})を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
 - メモリーチャンネル番号が点滅して、メモリー内容が表示されます。
- ④ **[DIAL]**を回して、M-CH“11”を選択します。
 - ※下記を選択するとM-CH以外に書き込みができます。
 - “CO”/“C1”を選択 : CALL-CHに上書き
 - “VFO”を選択 : VFOに上書き
 - “00A/00B~24A/24B”を選択 : PROGRAM-CHに書き込み
- ⑤ **[S.MW]** (^{M/CALL}_{S.MW})を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、メモリー内容を書き込み、VFOモードに戻ります。
 - VFOモードに戻る直前にメモリー内容が表示されます。



◇ 書き込み後のオートインクリメントについて

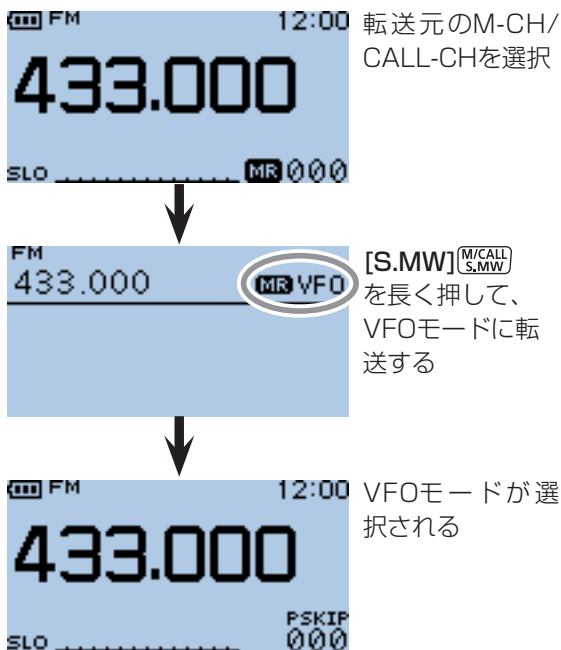
M-CHに連続で書き込むときに便利な機能です。
「M-CHの書き込みかた」(P7-4)の手順⑤で、書き込み後も[S.MW]^[M/CALL]_[S.MW]を押しつづけると、VFOモードに戻ったあと、自動的にM-CHが1つ繰り上がります。



◇ メモリー内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CH、またはCALL-CHの周辺に周波数を移して、交信する場合などに便利な機能です。

- ① [M/CALL]^[M/CALL]_[S.MW]を押して、メモリーモードにします。
※押すごとに、メモリーモードとCALL-CHモードが切り替わります。
- ② [DIAL]を回して、転送元のM-CH/CALL-CHを選択します。
- ③ [S.MW]^[M/CALL]_[S.MW]を長く(ピッピー、ピピと鳴るまで)押しします。
● M-CH/CALL-CHの内容がVFOモードに転送され、VFOモード表示に戻ります。



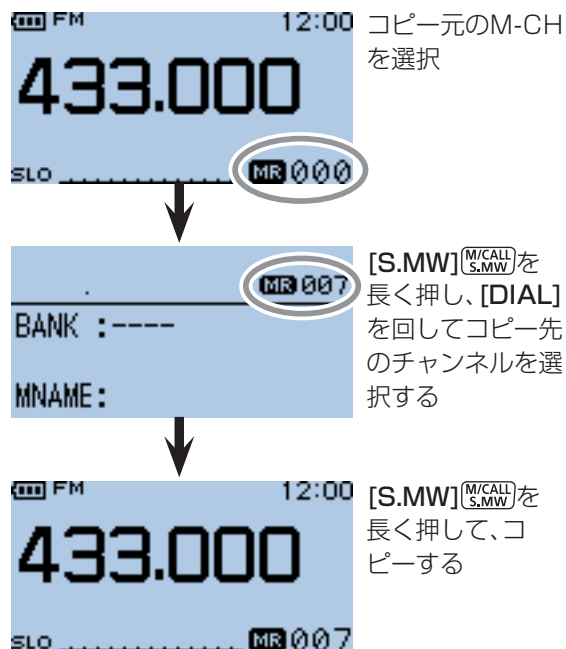
7 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた(つづき)

◇ メモリー内容をほかのチャンネルへコピーするには

M-CHの内容をCALL-CHやプログラムスキャン用の周波数としてコピーする場合に便利な機能です。

- ① **[M/CALL]** (^{M/CALL}_{S.MW})を押して、メモリーモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、コピー元のM-CHを選択します。
- ③ **[S.MW]** (^{M/CALL}_{S.MW})を長く(ピッピと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
 - メモリーチャンネル番号が点滅して、メモリー内容が表示されます。
- ④ **[DIAL]**を回して、コピー先のM-CHを選択します。
 - ※下記を選択するとM-CH以外にもコピーできます。
 - “CO”/“C1”を選択 : CALL-CHにコピー
 - “VFO”を選択 : VFOにコピー
 - “00A/00B~24A/24B”を選択 : PROGRAM-CHにコピー
- ⑤ **[S.MW]** (^{M/CALL}_{S.MW})を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。



■メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する

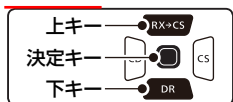
本製品に書き込んだM-CH(最大500CH)の内容を、それぞれ26個のバンク(A~Z)に分割して編集できます。A~Zの各バンクには、最大100CHまで割り当てできます。

【ご注意】

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。編集元のM-CH自体を変更、または更新すると、メモリーバンクの内容も変更されます。

◇編集のしかた

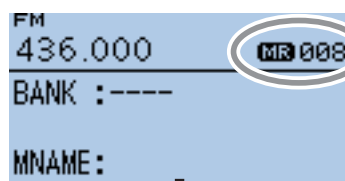
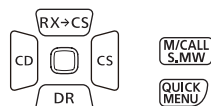
- ① **[M/CALL]** (^{M/CALL}_{S,MW})を押して、メモリーモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、バンクに編集するM-CHを選択します。
- ③ **[S.MW]** (^{M/CALL}_{S,MW})を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
 - メモリーチャンネル番号が点滅して、メモリー内容が表示されます。
- ④ **[QUICK MENU]**を押して、クイックメニュー画面を表示します。
- ⑤ **上下キー**を押して、“**編集**”を選択し、**決定キー**を押します。



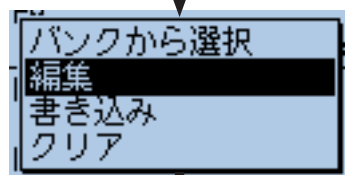
- ⑥ **上下キー**を押して、“**BANK(バンク)**”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “-----”が表示され、1桁目が点滅します。
 - ※選択したM-CHが、すでにバンクに割り当てられている場合は、そのバンク(A~Z)とバンクチャンネル番号(00~99)が表示されます。また、そのバンクに、バンク名前が登録されている場合は、バンク名前も表示されます。
- ⑦ **[DIAL]**を回して、編集したいバンク(A~Z)を選択します。
- ⑧ **[CS]**を押して、バンクチャンネル番号桁を選択します。
- ⑨ **[DIAL]**を回して、バンクチャンネル(00~99)を選択します。
 - ※すでにM-CHが割り当てられたバンクチャンネル番号は、選択できません。
 - [CD]**を押すと、バンク(A~Z)が点滅します。
- ⑩ **決定キー**を押します。
 - セレクトメモリーライトの状態に戻ります。
- ⑪ **上下キー**を押して、“**書き込み**”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑫ “**上書きしますか?**”の画面を表示しますので、**上下キー**で“**はい**”を選択し、**決定キー**を押します。
 - バンク情報を書き込んでメモリーモードに戻ります。



[DIAL]



[S.MW] (^{M/CALL}_{S,MW})を長く押して、セレクトメモリーライトの状態にする



上下キーで“**編集**”を選択して、**決定キー**を押す



“**BANK**”を選択して、**決定キー**を押す



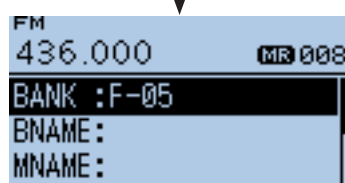
1桁目が点滅



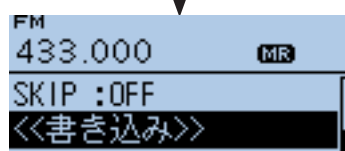
[DIAL]で“**F**”を選択して、**[CS]**を押す



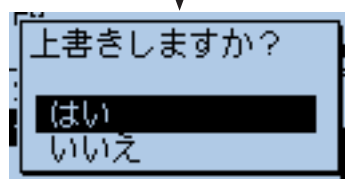
[DIAL]で“**05**”を選択して、**決定キー**を押す



セレクトメモリーライト状態



上下キーで“**書き込み**”を選択し、**決定キー**を押す



上下キーで“**はい**”を選択し、**決定キー**を押す

書き込み後、メモリーモードに戻る

7 メモリーチャンネルの使いかた




■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する(つづき)

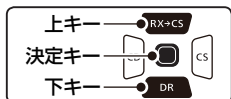
◇ 直接メモリーバンクに書き込むには



直接メモリーバンクに書き込むことができますので、周波数をM-CHに書き込んでからバンクを割り当てる操作を簡略できます。

バンクに書き込むと同時に、M-CHの小さいブランクチャンネルを自動で割り当て、メモリーに書き込みます。



《例》“436.000MHz”をバンクチャンネル“J01”に書き込む場合

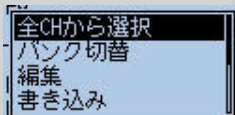
- ① [V/MHz]  を押して、VFOモードにします。
- ② [DIAL] を回して、周波数を“436.000MHz”にします。
- ③ [S.MW]  を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
●M-CH番号が点滅して、メモリー内容が表示されます。
- ④  を押して、クイックメニュー画面を表示します。
- ⑤ 上下キーを押して、“バンクから選択”を選択し、決定キーを押します。



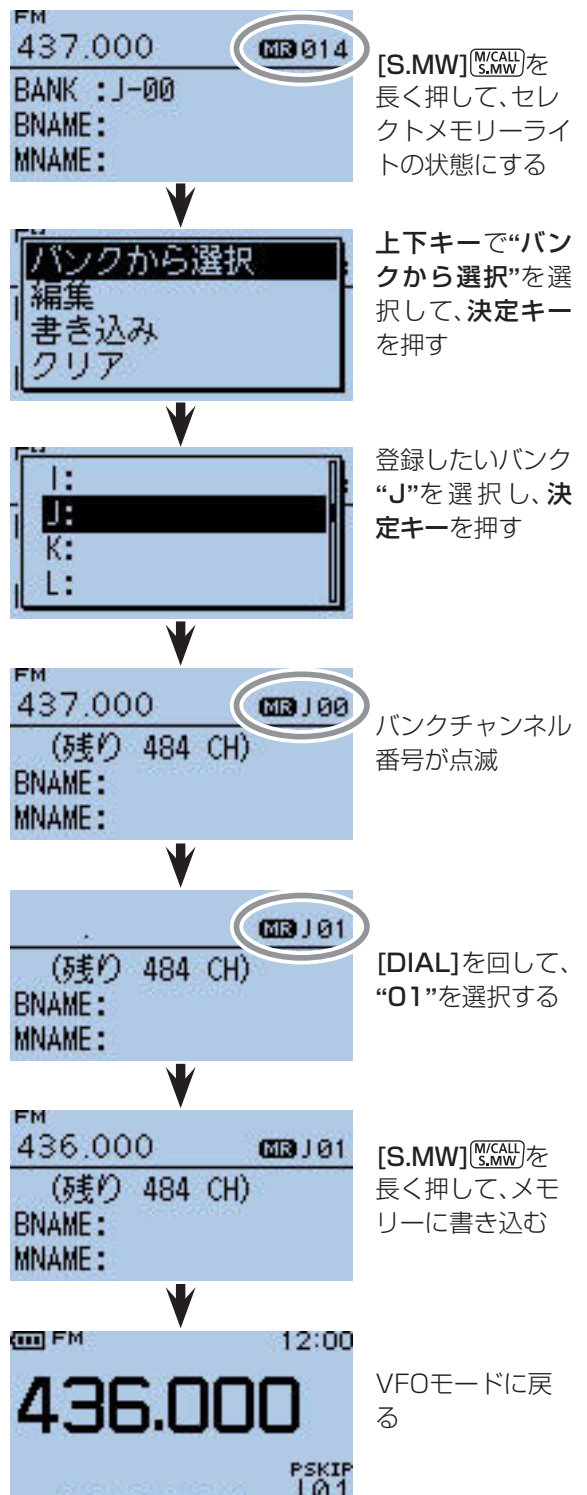
- ⑥ [DIAL] を回して、登録したいバンク(A～Z)を選択し、決定キーを押します。
- ⑦ [DIAL] を回して、バンクチャンネル(00～99)を選択します。
●バンクチャンネル番号が点滅します。
●すでに登録しているバンクチャンネルを選択すると、メモリー内容を表示します。
- ⑧ [S.MW]  を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、メモリー内容を書き込み、VFOモードに戻ります。
●VFOモードに戻る直前にメモリー内容が表示されます。
●M-CH番号の小さいブランクチャンネルを自動で割り当て、メモリーに書き込みます。
●⑦の操作で、すでに登録しているバンクチャンネルを選択すると、メモリーを上書きします。
●書き込み後も[S.MW]  を押しつづけると、VFOモードに戻ったあと、自動的にバンクチャンネルが1つ繰り上がります。
●書き込み後は、バンク表示に切り替わります。

【ご注意】

※⑥の操作で決定キー押したあとで、バンクを変更する場合は、 を押して、“バンク切替”を選択します。登録方法を、メモリーチャンネル登録に変更する場合は、 を押して、“全CHから選択”を選択します。



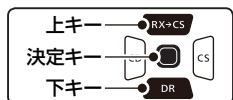
※すでにバンクモードを選択している場合は、“バンクから選択”が設定されていますので、③→⑦の順番で操作してください。



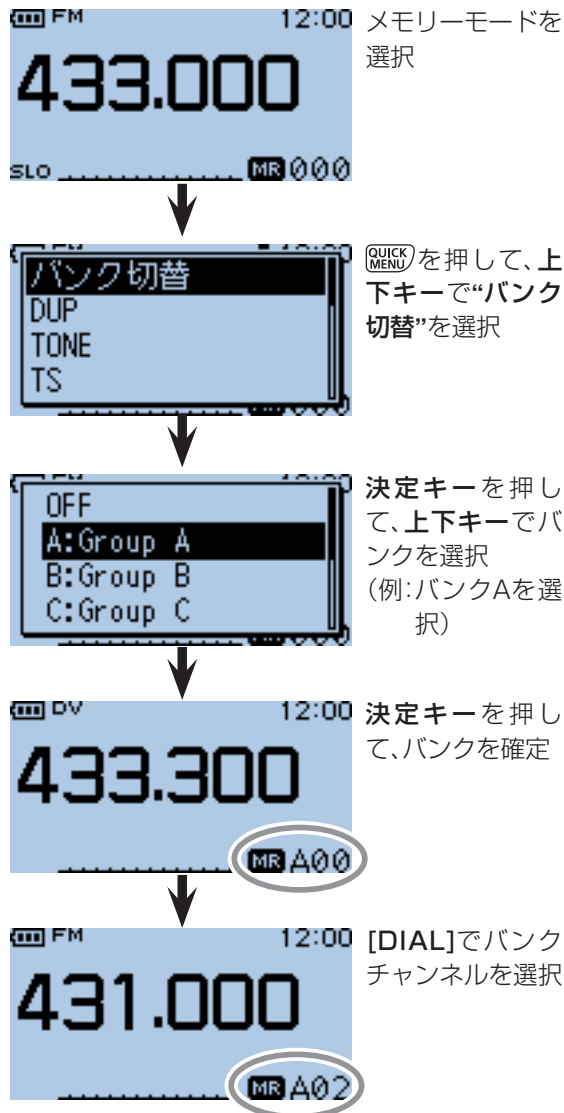
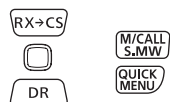
◇ メモリーバンクモードへの表示切り替え

表示をメモリーモードからメモリーバンクモードに切り替えます。

- ① **[M/CALL]** **[S,MW]**を押して、メモリーモードにします。
- ② **[QUICK MENU]**を押して、クイックメニュー画面を表示します。
- ③ **上下キー**を押して、“バンク切替”を選択し、**決定キー**を押します。



- ④ **[DIAL]**を回して、表示したいバンク(A~Z)を選択します。
●登録しているバンクだけが表示されます。
- ⑤ 選択したら**決定キー**を押して、バンクを確定します。
- ⑥ **[DIAL]**を回すと、書き込んだバンクチャンネル(00~99)を選択できます。
※選択したバンクにバンクチャンネルを1つしか書き込んでいない場合は、**[DIAL]**を回してもほかのチャンネルは表示しません。
※メモリーバンクモードを解除したい場合は、再度手順②~⑤を操作し、手順④で“OFF”を選択してください。



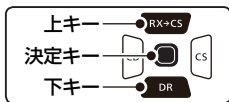
7 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー/バンク/スキャン名の使いかた

メモリーに書き込んでいるすべてのチャンネルに、名前(ネーム)を入力できます。

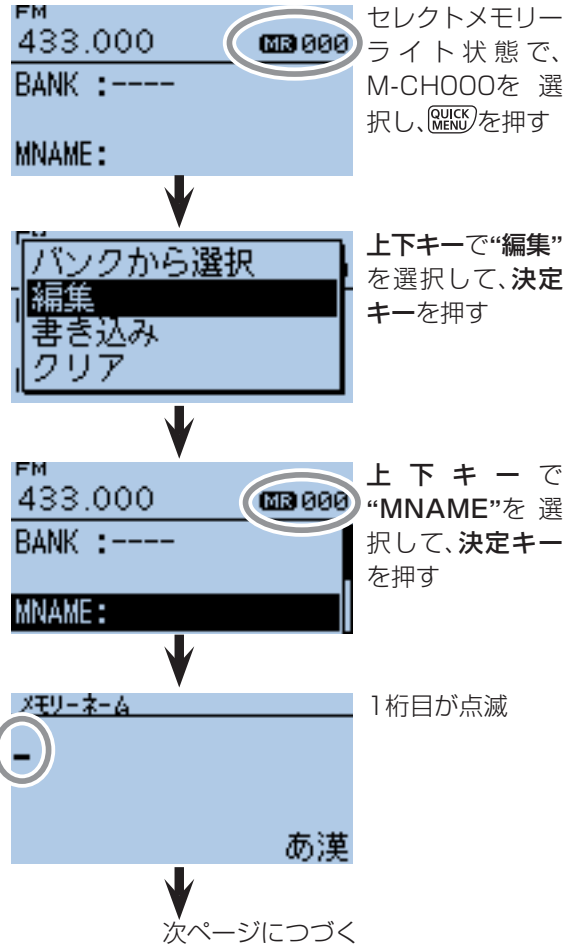
◇ メモリー/バンク/スキャン名を入力する

- ① VFOモード/メモリーモード/CALL-CHモードのいずれかにします。
- ② **[S.MW]** (M/CALL S.MW) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
 - メモリーチャンネル番号が点滅して、メモリー内容が表示されます。
- ③ **[DIAL]** を回して、名前を入力するチャンネルを選択します。
 - “000~499”を選択:メモリー/バンク名を入力
 - “C0”/“C1”を選択 :CALL-CHのメモリー名を入力
 - “00A/00B~24A/24B”を選択 :PROGRAM-CHのメモリー/バンク/スキャン名を入力
- ④ **[QUICK MENU]** を押します。
- ⑤ **上下キー** を押して、“編集”を選択し、**決定キー** を押します。

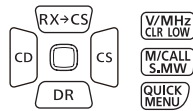


- ⑥ **上下キー** を押して、“MNAME(メモリー名)”、“BNAME(バンク名)”、または“SNAME(スキャン名)”を選択し、**決定キー** を押します。(名前が選択されて、1桁目が点滅します。)
 - 名前が登録されているときは名前を表示し、未登録のときはブランク表示になります。
 - ※“BNAME(バンク名)”は、選択したチャンネルがバンクに登録されているときだけ表示します。(次ページにつづく)

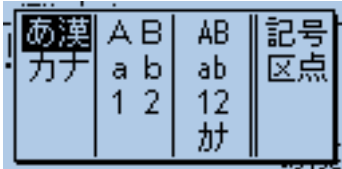
《例:M-CH000にメモリー名として“呼び出し”を入力する》



[DIAL]

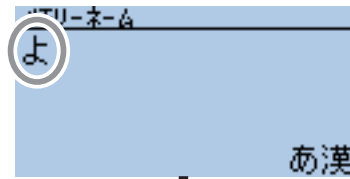


- ⑦ [DIAL]を回して、1桁目の文字を選択します。
- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソルで選択した状態で[QUICK]を押すと、入力モード選択画面を表示します。
- 上下キーで入力モードを選択し、決定キーで確定します。

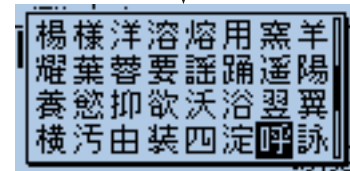


- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[QUICK]を押すと、文字一覧を表示します。
 - [CLR]([V/MHz] [CLR LOW])を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行末(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。また、[CLR]([V/MHz] [CLR LOW])を押しつづけると、連続して削除できます。
 - [DR]を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。
 - 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、[QUICK]を押すと選択できます。
※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、[QUICK]を押すごとに切り替わります。
- ⑧ [DIAL]または[CUR]を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑨ 手順⑦、⑧を繰り返して、名前を入力してから、決定キーを押します。
※全角で8文字、半角で16文字入力できます。
※[CLR]([V/MHz] [CLR LOW])を押すと、選択した文字を消去し、長く押す(ピッ、ピーと鳴るまで)と、選択した文字以降の文字列を消去します。
※名前を訂正したいときは、名前を入れなおしてください。
最後に入れた名前が有効となります。
- ⑩ 決定キーを押して、入力した名前を確定します。
- セレクトメモリーライト状態に戻ります。
- ⑪ 上下キーを押して、“書き込み”を選択し、決定キーを押します。
- ⑫ “上書きしますか?”と確認画面が表示されたら、“はい”を選択して、決定キーを押します。
- 手順③で選択したM-CH、CALL-CH、またはPROGRAM-CHの内容が表示されます。

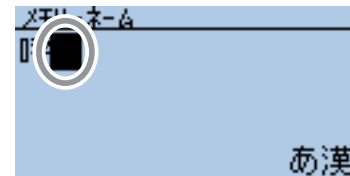
前ページからのつづき



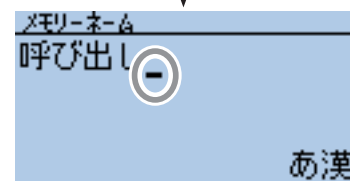
[DIAL]で“よ”を選択して、[QUICK]を押す



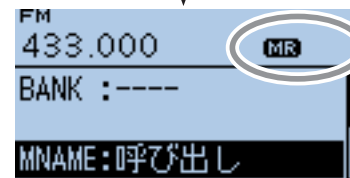
十字キーで“呼”を選択して、決定キーを押す



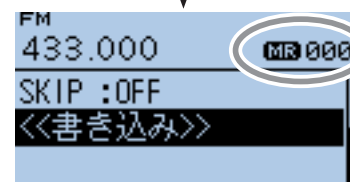
“呼”を入力した状態



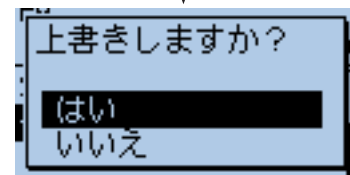
手順⑦と手順⑧を繰り返して“呼び出し”を入力し、決定キーを押す



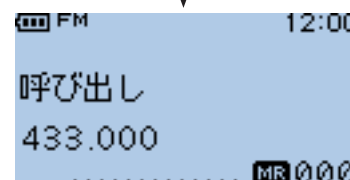
決定キーを押す
※セレクトメモリーライト状態に戻る



上下キーで“書き込み”を選択し、決定キーを押す



上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押す



メモリーモードに戻って、入力したメモリー名前を表示する

7 メモリーチャンネルの使いかた

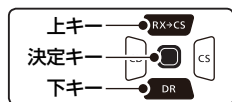
■ メモリーネームの表示について

メモリーネームと周波数の表示方法を変更できます。

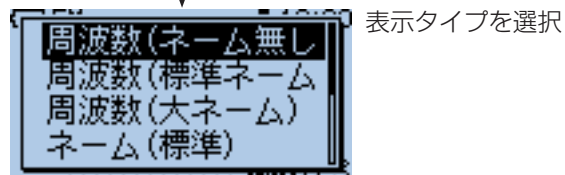
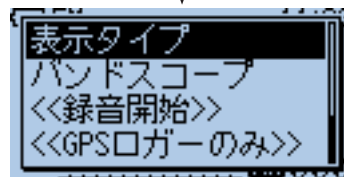
◇ 表示タイプの変更のしかた

- ① [M/CALL] (M/CALL S.MW) を押して、メモリーモードにします。
- ② QUICK MENU を押します。
- ③ 上下キーで選択して決定キーを押し、「表示タイプ」画面を表示します。

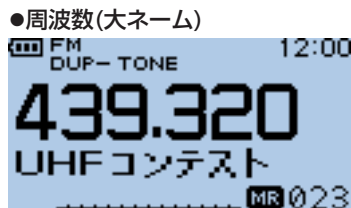
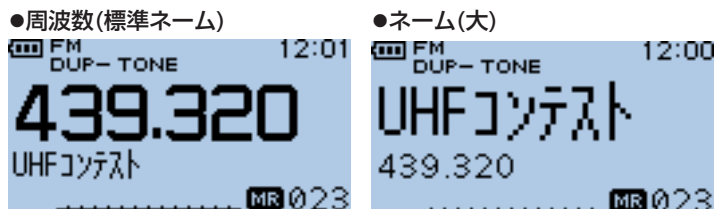
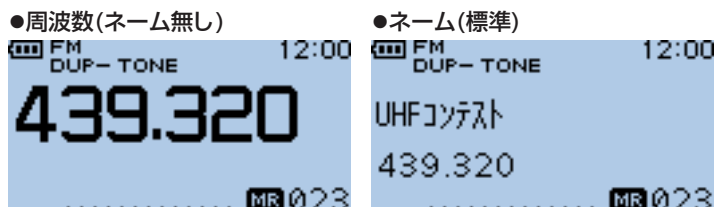
- 周波数(ネーム無し) : 周波数だけを表示します。
- 周波数(標準ネーム) : 周波数表示の下にメモリーネームを表示します。
- 周波数(大ネーム) : 周波数表示の下にメモリーネームを大きく表示します。
- ネーム(標準) : 周波数表示の上にメモリーネームを表示します。
- ネーム(大) : 周波数表示の上にメモリーネームを大きく表示します。



- ④ 決定キーを押して確定します。



例： M-CH「023」(439.320MHz)にメモリーネーム「UHFコンテスト」が登録されている場合



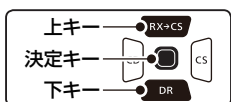
■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHとPROGRAM-CHを消去します。
いったん消去したM-CHとPROGRAM-CHの内容は、復活できないのでご注意ください。

また、すべてのPROGRAM-CHを消去するとプログラムスキャンが動作しませんので、ご注意ください。

◇メモリー内容を消去する

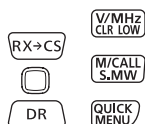
- ① VFOモード/メモリーモード/CALL-CHモードのいずれかにします。
- ② **[S.MW]**^[M/CALL S.MW]を長く押し(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライトの状態にします。
 - メモリーチャンネル番号が点滅して、メモリー内容が表示されます。
- ③ **[DIAL]**を回して、消去したいM-CHを選択します。
※下記を選択するとM-CH以外も消去できます。
“CO”/“C1”を選択 : CALL-CHを消去
“00A/00B~24A/24B”を選択 : PROGRAM-CHを消去
- ④ **[QUICK MENU]**を押します。
- ⑤ **上下キー**を押して、“クリア”を選択し、**決定キー**を押します。



- ⑥ “クリアしますか?”と確認画面が表示されたら、“はい”を選択します。
- ⑦ **決定キー**を押すと、メモリー内容を消去します。
 - 手順⑥で“いいえ”を選択したときは、メモリーの消去をキャンセルし、手順②の表示に戻ります。
- ⑧ メモリー消去後、**[V/MHz]**^[V/MHz CLR LOW]を押すと、手順①でモード選択したときの表示に戻ります。
なお、手順①でメモリーモード、またはCALL-CHモードを選択し、選択したチャンネルを消去したときは、バンク(空白)表示になります。



[DIAL]



《例:M-CH007の内容を消去する》

[S.MW]^[M/CALL S.MW]を長く押し、[DIAL]を回して消去したいチャンネルを選択する

[QUICK MENU]を押して、上下キーで“クリア”を選択する

上下キーで“はい”を選択して、決定キーを押す

書き込まれていた内容が消去される

[V/MHz]^[V/MHz CLR LOW]を押したあとの表示
※手順①で、メモリーモードを選択していた場合

- スキャンについて 8-2
 - ◇各モードのスキャンについて 8-2
 - ◇スキャン中のスケルチ設定 8-3
 - ◇スキャン中の[DIAL]操作について 8-3
 - ◇チューニングステップについて(VFOスキャン) 8-3
 - ◇スキップ機能について 8-3
 - ◇受信モードについて 8-3
 - ◇信号を受信すると 8-3
 - ◇スキャンネームについて(VFOスキャン) 8-3
 - ◇スキャンストップ時のビープ音設定 8-3
- VFOモードのスキャン 8-4
 - ◇VFOスキャンの操作 8-4
- スキップ周波数の登録と解除について 8-6
 - ◇スキップ周波数の登録 8-6
 - ◇スキップ周波数の解除 8-6
- メモリーモードのスキャン 8-7
 - ◇メモリースキャンの操作 8-7
 - ◇メモリーバンクスキャンの操作 8-8
- スキップチャンネルの指定と解除のしかた 8-10

8 スキャンについて

■ スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動で切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

◇ 各モードのスキャンについて

● VFOモードのとき

“PSKIP” (P8-6)に指定された周波数は、スキャン範囲から除外されます。

※ 周波数の異なる2つ以上のプログラムスキャン用チャンネルが書き込まれていないと、プログラムスキャンは動作しません。

● メモリーモードのとき

“PSKIP”または“SKIP”が指定されたM-CHは、スキャン対象から除外されます。(P8-10)

※ M-CHが2つ以上書き込まれていないと、メモリースキャンは動作しません。

【デュプレックス(DUP)スキャン】

VFOモードまたはメモリーモードで、デュプレックス運用(P1-4, P1-5)のとき、その周波数(送信/受信の2波)をスキャンできます。

※ “DUP-”または“DUP+”表示の点灯をご確認ください。
 ※ オフセット周波数が「0.000MHz」のときは動作しません。

【トーンスキャン】

トーンスケルチ機能を使用して交信している局が、どのトーン周波数またはDTCSコードを使用しているかを検出するスキャンです。

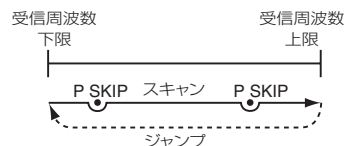
- VFO/メモリー/CALL-CHモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[DIAL]を時計回りに回すと、アップスキャンに、反時計回りに回すと、ダウンスキャンに切り替えます。

トーン機能については、「トーンスケルチ機能/DTCSコードスケルチ機能」(P11-7～P11-10)を参照してください。

◇ VFOスキャン

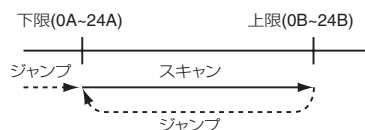
● ALL(フルスキャン) P8-4

受信周波数範囲すべてをスキャンします。



● PROG 0～24(プログラムスキャン) P8-4

プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)に書き込んだ周波数範囲をスキャンします。



● P-LINK0～9(プログラムリンクスキャン) P8-4

MENU画面の「プログラムリンク」項目(P10-14)で指定したプログラムスキャンを、連続してスキャンします。
 スキャン設定 > プログラムリンク

◇ メモリースキャン

● ALL(メモリーフルスキャン) P8-7

すべてのM-CHをスキャンします。

● MODE(モードメモリースキャン) P8-7

表示している受信モードを書き込んでいるM-CHをスキャンします。

◇ メモリーバンクスキャン

● ALL(フルバンクスキャン) P8-8

すべてのバンクをスキャンします。

● BANK-LINK(バンクリンクスキャン) P8-8

MENU画面の「バンクリンク」項目(P10-13)で指定したバンクを連続してスキャンします。
 スキャン設定 > バンクリンク

● BANK-A～Z(バンクスキャン) P8-8

指定したバンクのM-CHをスキャンします。

◇ スキャン中のスケルチ調整

スケルチレベルは“**AUTO**”に初期設定されていますが、受信信号の強さに応じてスキャンが一時停止するように調整できます。

- スキャン動作中に**[SQL]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、スケルチレベルの調整ができます。
調整を終えて**[SQL]**をはなすと、スキャンが再スタートします。



◇ スキャン中の [DIAL] 操作について

- スキャンをスタートすると**アップスキャン**を開始しますが、スキャン中に**[DIAL]**を回した方向によってアップスキャンと**ダウンスキャン**を切り替えられます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに**[DIAL]**を回すと、即時再スタートします。

◇ チューニングステップについて (VFOスキャン)

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、設定している**チューニングステップ**で動作します。

◇ スキップ機能について

必要のない周波数またはM-CHをスキャンから除外する、「スキップ」の指定ができます。

※設定についてはP8-6、P8-10を参照してください。

MENU画面内の「プログラムスキップ」画面の設定が“OFF”のとき、スキップ機能は動作しません。(P10-13)
スキャン設定 > プログラムスキップ

◇ 受信モードについて

- VFOスキャン時は、VFOモードで設定している**電波型式**で動作します。
- メモリー/バンクスキャン時は、メモリーされている電波型式で動作します。

FMモードでスキャン中



◇ 信号を受信すると

約10秒(初期値)経過すると、自動的に再スタートします。
また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定)後に再スタートします。

- 上記のタイマーは、MENU画面にある、「**停止時間**」(一時停止タイマーの設定)項目と、「**再スタート時間**」(再スタートタイマーの設定)項目で変更できます。(P10-13)
スキャン設定 > 停止時間
スキャン設定 > 再スタート時間



◇ スキャンネームについて (VFOスキャン)

PROGRAM-CH(**A/**B)ごとに、スキャンネームを登録できます。(P7-10)

登録すると、スキャンネームを選択するだけで、スキャン周波数範囲が設定されます。



VFOモードで**[SCAN]**^{FM/DV}を長く押し、スキャン範囲選択画面を表示したところ。

◇ スキャンストップ時のビーブ音設定

信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビーブ音を鳴らせます。

- MENU画面にある、「**スキャンストップビーブ**」(スキャン停止時のビーブ音設定)項目で設定できます。(P10-56)
サウンド設定 > スキャンストップビーブ

8 スキャンについて

■ VFOモードのスキャン

VFOモードのスキャンには、フルスキャン、プログラムスキャン、プログラムリンクスキャン、デュプレックススキャン、トーンスキャンがあります。

※“PSKIP” (P8-6)に指定された周波数は、スキャン範囲から除外されます。

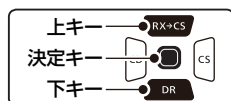
※MENU画面内の「プログラムスキップ」画面の設定を“OFF”にすると、“PSKIP”に指定された周波数もスキャンします。(P10-13)

スキャン設定 > プログラムスキップ

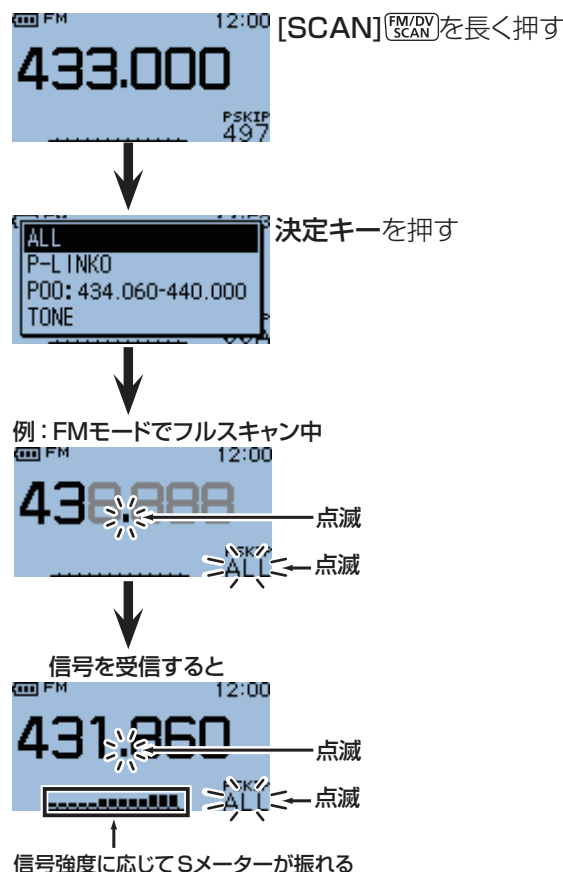
◇ VFOスキャンの操作

- ① **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW) を押して、VFOモードにします。
- ② **[FM/DV]** (FM/DV SCAN) を押して、電波型式を選択します。
- ③ **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ④ **上下キー** を押して、スキャンタイプを選択します。

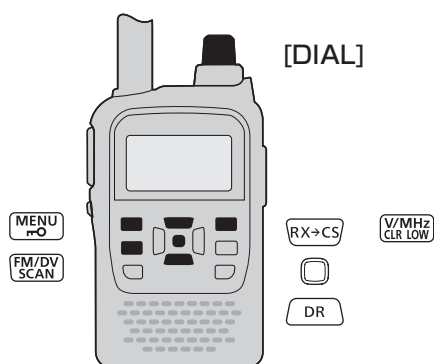
- ALL : フルスキャン
- P-LINK0~9 : プログラムリンクスキャン
- P00~24 : プログラムスキャン
- DUP : デュプレックススキャン(P8-2)
(デュプレックス設定時のみ)
- TONE : トーンスキャン
(トーン設定時のみ)



- ⑤ **決定キー** を押すと、スキャンがスタートします。
 - ※ スキャン中に **[DIAL]** を回すと、**アップスキャン/ダウンスキャン** が切り替わります。
 - ※ スキャン中に **[FM/DV]** (FM/DV SCAN) を短く押すと、電波型式を変更できます。
 - ※ スキャン中に **[LOCK]** (MENU) を長く押すと、ロック機能が設定されます。
もう一度 **[LOCK]** (MENU) を長く押すと解除されます。
 - ※ スキャン中に **[MENU]** (MENU) や **[QUICK MENU]** を短く押してMENU画面を表示しているあいだも、スキャンは継続します。
- ⑥ **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く押すと、スキャン動作が解除されます。
 - ※ **[CLR]** (V/MHz CLR LOW) を押しても解除されます。



【ご参考】
[SCAN] (FM/DV SCAN) を押しながら **[DIAL]** を回してスキャンタイプを選択することもできます。この場合は、**[SCAN]** (FM/DV SCAN) をはなすと同時にスキャンがスタートします。



(次ページにつづく)

◇ VFOスキャンの操作(つづき)

スキャン名称が登録されている場合

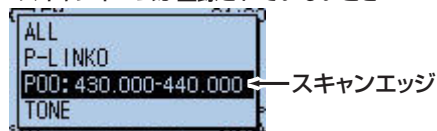
スキャン名称が登録されている場合、プログラムスキャンの選択時(前ページの手順④)、スキャン名称が表示されます。

※ スキャン中は、スキャン名称は表示されません。

•スキャン名称が登録されているとき



•スキャン名称が登録されていないとき

プログラムリンク名称が登録されている場合

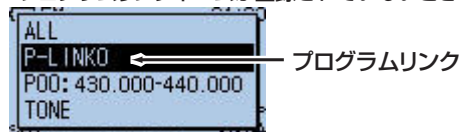
プログラムリンク名称が登録されている場合、プログラムリンクスキャンの選択時(前ページの手順④)、プログラムリンク名称が表示されます。

※ スキャン中は、プログラムリンク名称は表示されません。

•プログラムリンク名称が登録されているとき



•プログラムリンク名称が登録されていないとき



8 スキャンについて

■ スキップ周波数の登録と解除について

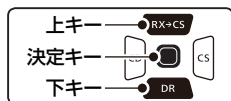
◇ スキップ周波数の登録

VFOスキャン中に一時停止した周波数を、スキャンの対象からはずれる(スキップする)ようにM-CHに登録する機能です。

- ① VFOスキャン(☞P8-4)を開始します。
 - 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
- ② **[S.MW]** (M/CALL S.MW) を長く(ピツ、ピピッと鳴るまで)押します。
 - 一時停止した周波数を、スキップ周波数としてM-CHの末尾チャンネル「499」から順番に書き込みます。
 - ※書き込み先のチャンネル番号が点滅します。
 - ※すでにM-CHの末尾にチャンネルが登録されている場合は、自動的にブランクチャンネルを探してそこに書き込みます。
 - ブランクチャンネルがない場合はエラービープが鳴り、書き込みはされません。
- ③ 書き込みが完了すると、スキャンが再スタートします。

◇ スキップ周波数の解除

- ① **[M/CALL]** (S.MW) を押して、メモリーモードにします。
- ② **[DIAL]** を回して、スキップを解除するM-CHを呼び出します。
- ③ **[QUICK MENU]** を押します。
- ④ **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して、「SKIP」(スキップの設定)画面を表示します。
 - OFF : スキップ設定を解除します。
 - SKIP : メモリーモード時のスキャン範囲から除外されます。
 - PSKIP : VFOモード時とメモリーモード時の両方のスキャン範囲から除外されます。



- ⑤ **上下キー**で「OFF」を選択し、**決定キー**で確定します。
 - スキップ設定が解除されます。



[DIAL]

RX+CS

CS

DR

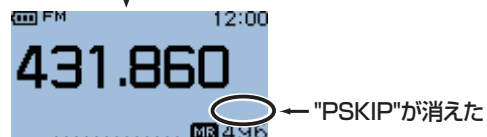
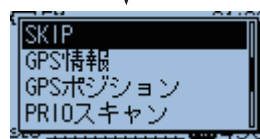
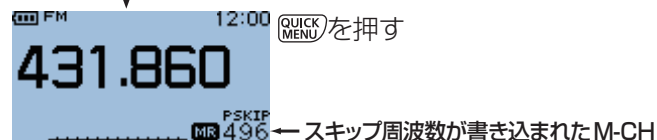
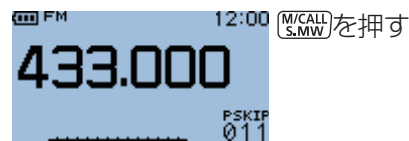
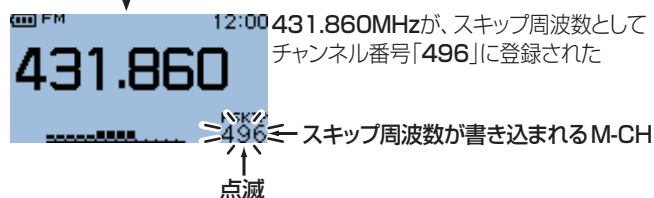
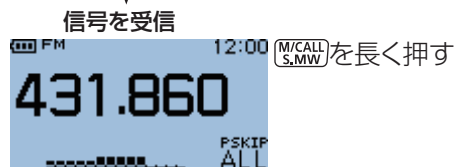
M/CALL S.MW

QUICK MENU

【ご参考】

スキップ周波数が書き込まれたM-CH自体を消去することで、スキップ設定を解除することもできます。詳細については、P7-13をご参照ください。

例：FMモードでフルスキャン中



■ メモリーモードのスキャン

メモリーモードのスキャンは大きく分けて、「メモリースキャン」と「メモリーバンクスキャン」があります。

※ 「PSKIP」または「SKIP」が指定されたM-CHは、スキャン対象から除外されます。(P8-10)

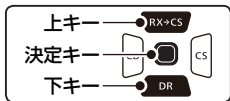
※ スキップ設定されていないM-CHが2つ以上書き込まれていないと、メモリースキャンは動作しません。

◇ メモリースキャンの操作

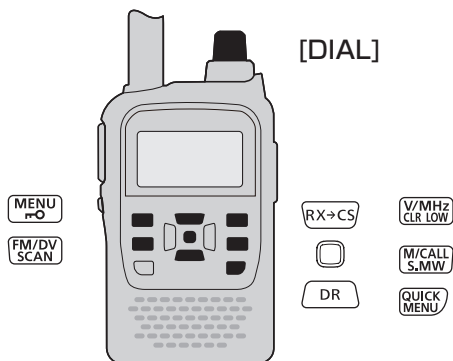
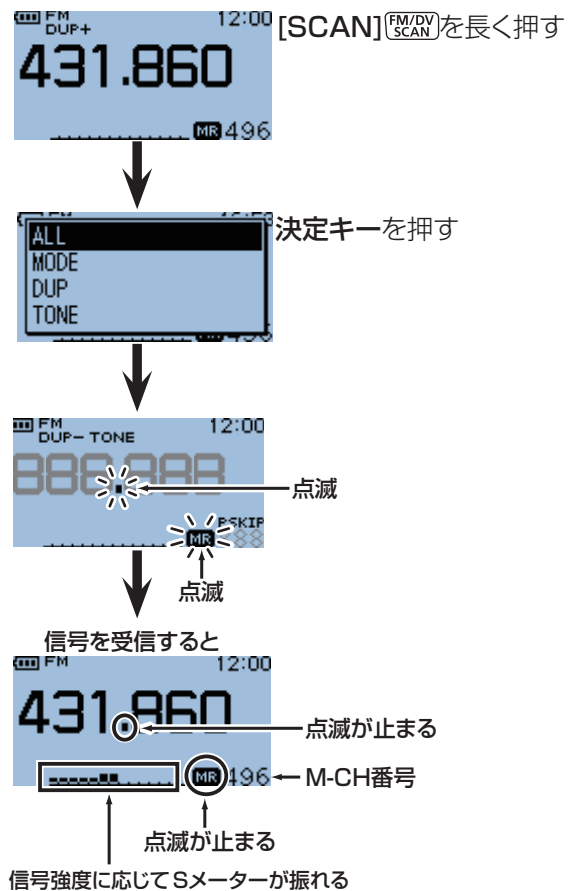
メモリースキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

- ① **[M/CALL]** (M/CALL S.MW) を押して、メモリーモードにします。
- ② **[FM/DV]** (FM/DV SCAN) を長く押しします。
- ③ **上下キー** を押して、スキャンタイプを選択します。

- **ALL** : フルスキャン
- **MODE** : モードメモリースキャン
- **DUP** : デュプレックススキャン(P8-2)
(デュプレックス設定時のみ)
- **TONE** : トーンスキャン
(トーン設定時のみ)



- ④ **決定キー** を押すと、スキャンがスタートします。
 - ※ スキャン中に **[DIAL]** を回すと **アップスキャン/ダウンスキャン** が切り替わります。
 - ※ スキャン中に **[LOCK]** (MENU #0) を長く押すと、ロック機能が設定されます。
もう一度 **[LOCK]** (MENU #0) を長く押すと解除されます。
 - ※ スキャン中に **[MENU]** (MENU #0) や **[QUICK MENU]** を短く押してMENU画面を表示しているあいだも、スキャンは続きます。
- ⑤ **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く押すと、スキャン動作が解除されます。
※ **[CLR]** (V/MHZ CLR LOW) を短く押しても解除されます。



【ご参考】
[SCAN] (FM/DV SCAN) を押しながら **[DIAL]** を回してスキャンタイプを選択することもできます。この場合は、**[SCAN]** (FM/DV SCAN) をはなすと同時にスキャンがスタートします。

8 スキャンについて

◇ メモリーバンクスキャンの操作

メモリーバンクスキャンは、メモリーバンクに記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

※ M-CHが2つ以上登録されているバンクがない場合、バンクスキャンは動作しません。

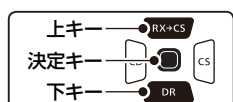
※ QUICK MENU画面にある「バンク切替」画面で、バンク選択が「OFF」になっていると、バンクスキャンは動作しません。

① **[M/CALL]** ^(M/CALL S.MW) を押して、メモリーモードにします。

② **[FM/DV]** ^(FM/DV SCAN) を長く押します。

③ **上下キー** を押して、スキャンタイプを選択します。

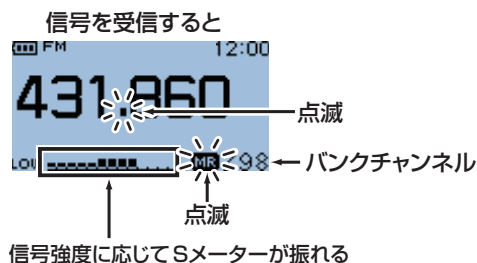
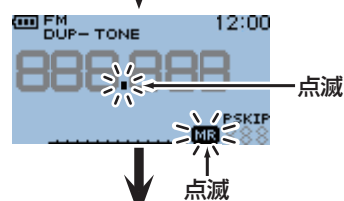
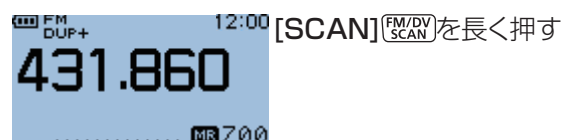
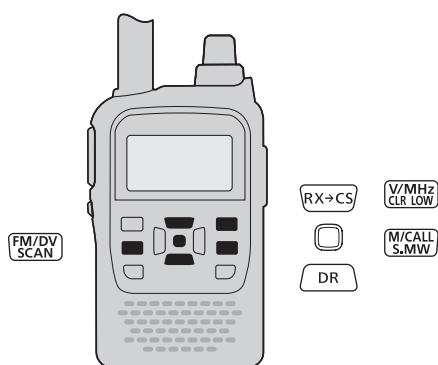
- **ALL** : フルバンクスキャン
- **BANK-LINK** : バンクリンクスキャン
- **BANK-A~Z** : バンクスキャン
(M-CHが登録されているバンクだけが表示されます)
- **DUP** : デュプレックススキャン(☞P8-2)
(デュプレックス設定時のみ)
- **TONE** : トーンスキャン
(トーン設定時のみ)



④ **決定キー** を押すと、スキャンがスタートします。

⑤ **[SCAN]** ^(FM/DV SCAN) を長く押すと、スキャン動作が解除されます。

※ **[CLR]** ^(V/MHz CLR LOW) を短く押しても解除されます。



【ご参考】

[SCAN] ^(FM/DV SCAN) を押しながら **[DIAL]** を回してスキャンタイプを選択することもできます。この場合は、**[SCAN]** ^(FM/DV SCAN) をはなすと同時にスキャンがスタートします。

【ご注意】

- すべてのチャンネルに“SKIP”または“PSKIP”が指定されているバンクは、スキップされます。
- 指定したバンクのすべてのチャンネルに“SKIP”または“PSKIP”が指定されている場合は、最初のチャンネルでスキャンは停止します。

(次ページにつづく)

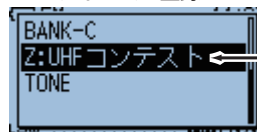
◇ メモリーバンクスキャンの操作(つづき)

バンクネームが登録されている場合

バンクネームが登録されている場合、スキャンタイプの選択時(前ページの手順③)、バンクネームが表示されます。

※ スキャン中は、バンクネームは表示されません。

•バンクネームが登録されているとき



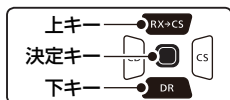
バンクネーム“UHFコンテスト”

8 スキャンについて

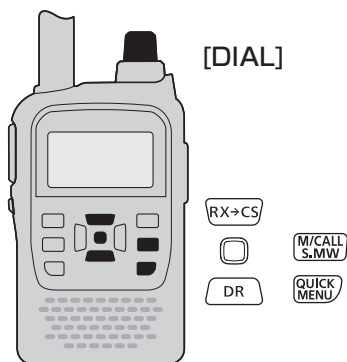
■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

任意のチャンネルをスキャンの対象からはずせます (スキップできます)。

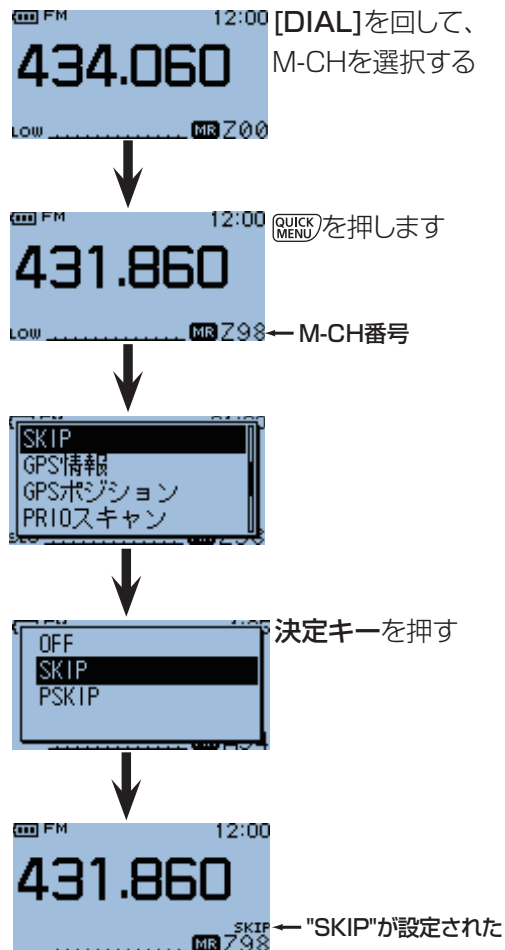
- ① **[M/CALL]** **[S.MW]** を押して、メモリーモードにします。
- ② **[DIAL]** を回して、スキップを設定、または解除する M-CH を呼び出します。
- ③ **[QUICK MENU]** を押します。
- ④ **上下キー** で選択、**決定キー** で確定、の操作を繰り返して、「SKIP」(スキップの設定)画面を表示します。
 - OFF : スキップ設定を解除します。
 - SKIP : メモリーモード時のスキャン範囲から除外されます。
 - PSKIP : VFOモード時とメモリーモード時の両方のスキャン範囲から除外されます。



- ⑤ **上下キー** で選択し、**決定キー** で確定します。
 - スキップが設定、または解除されます。



例：バンクチャンネル「Z98」に「SKIP」を設定する



■ プライオリティースキャンについて	9-2
■ VFO周波数とM-CH	9-3
■ VFO周波数とバンクチャンネル	9-5
■ VFO周波数とコールチャンネル	9-7
■ VFOスキャンとM-CH	9-9
■ VFOスキャンとバンクチャンネル	9-11
■ VFOスキャンとコールチャンネル	9-13
■ VFO周波数とメモリースキャン	9-15
■ VFO周波数とバンクスキャン	9-17
■ VFOスキャンとメモリースキャン	9-19
■ VFOスキャンとバンクスキャン	9-21
■ DRモードとVFO周波数	9-23
■ DRモードスキャンとVFO周波数	9-25
■ DRモードとコールチャンネル	9-27
■ DRモードスキャンとコールチャンネル	9-29
■ DRモードとM-CH	9-31
■ DRモードスキャンとM-CH	9-33

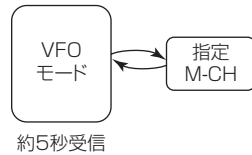
9 プライオリティースキャン

■ プライオリティースキャンについて

プライオリティースキャンは、受信やスキャンをしながら特定のM-CH/バンクCH/CALL-CH(プライオリティーチャンネル)をワッチ(信号の有無を確認)できる機能です。

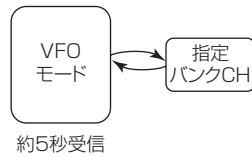
◇ VFO周波数とM-CH(☞P9-3)

VFO周波数を受信しながら、指定したM-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。



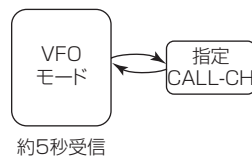
◇ VFO周波数とバンクチャンネル(☞P9-5)

VFO周波数を受信しながら、指定したバンクCHをワッチ(信号の有無を確認)します。



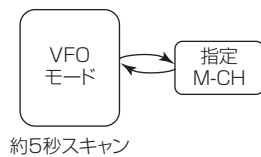
◇ VFO周波数とコールチャンネル(☞P9-7)

VFO周波数を受信しながら、指定したCALL-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。



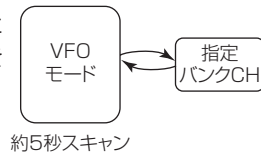
◇ VFOスキャンとM-CH(☞P9-9)

VFOスキャンをしながら、指定したM-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。



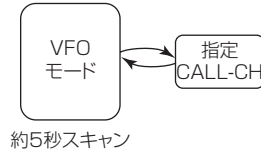
◇ VFOスキャンとバンクチャンネル(☞P9-11)

VFOスキャンをしながら、指定したバンクCHをワッチ(信号の有無を確認)します。



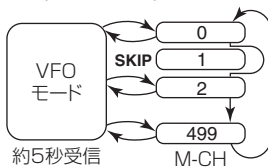
◇ VFOスキャンとコールチャンネル(☞P9-13)

VFOスキャンをしながら、指定したCALL-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。



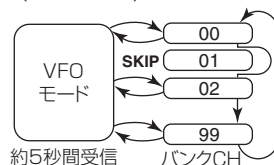
◇ VFO周波数とメモリスキャン(☞P9-15)

VFO周波数を受信しながら、M-CHを順番にワッチ(信号の有無を確認)します。



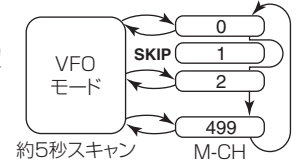
◇ VFO周波数とバンクスキャン(☞P9-17)

VFO周波数を受信しながら、バンクCHを順番にワッチ(信号の有無を確認)します。



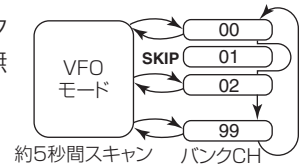
◇ VFOスキャンとメモリスキャン(☞P9-19)

VFOスキャンをしながら、M-CHを順番にワッチ(信号の有無を確認)します。



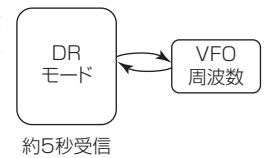
◇ VFOスキャンとバンクスキャン(☞P9-21)

VFOスキャンをしながら、バンクCHを順番にワッチ(信号の有無を確認)します。



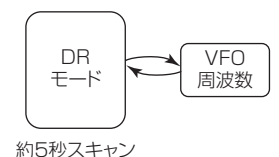
◇ DRモードとVFO周波数(☞P9-23)

DRモードでレピータを受信しながら、VFO周波数をワッチ(信号の有無を確認)します。



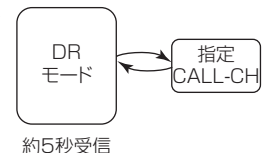
◇ DRモードスキャンとVFO周波数(☞P9-25)

DRモードでレピータをスキャンしながら、VFO周波数をワッチ(信号の有無を確認)します。



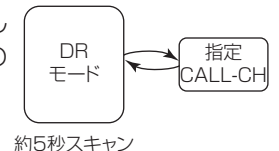
◇ DRモードとコールチャンネル(☞P9-27)

DRモードでレピータを受信しながら、CALL-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。



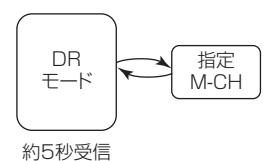
◇ DRモードスキャンとコールチャンネル(☞P9-29)

DRモードでレピータをスキャンしながら、CALL-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。



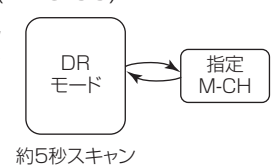
◇ DRモードとM-CH(☞P9-31)

DRモードで、レピータを受信しながら、M-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。



◇ DRモードスキャンとM-CH(☞P9-33)

DRモードでレピータをスキャンしながら、M-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。

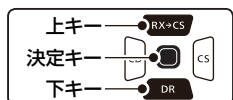


■ VFO周波数とM-CH

VFO周波数を受信しながら、指定したM-CH(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

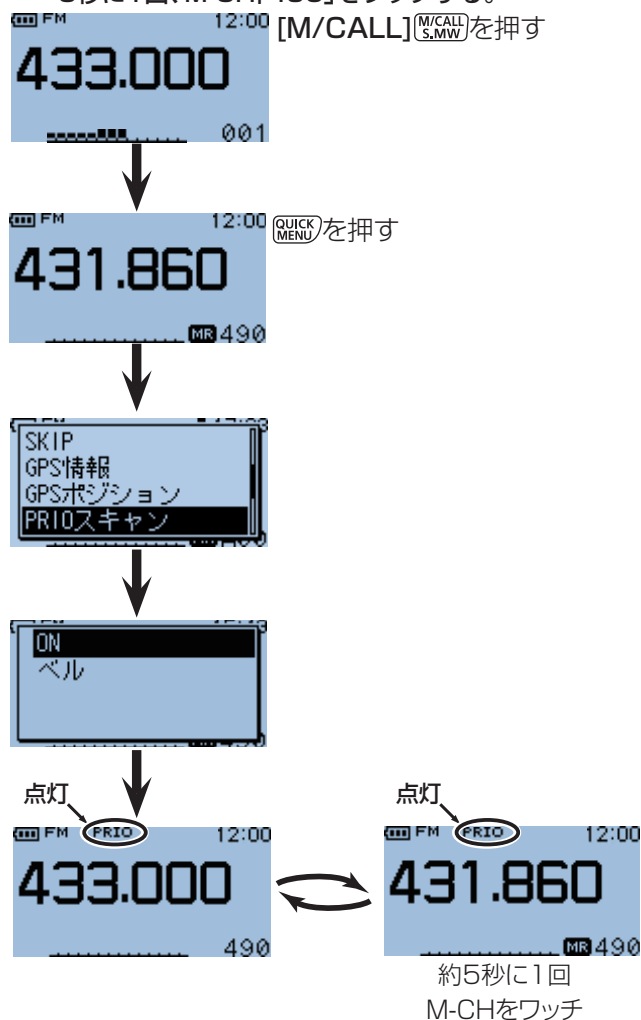
- ① **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)を押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、VFOモードで受信する周波数を設定します。
- ③ **[M/CALL]** (M/CALL S.MW)を押して、メモリーモードにします。
- ④ **[DIAL]**を回して、ワッチしたいM-CHを選択します。
- ⑤ **[QUICK MENU]**を押します。
- ⑥ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。

- **ON** : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。
- **ベル** : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(●)”が点滅します。



- ⑦ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - **[CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押すと、プライオリティスキャンが解除されます。

例：VFOモード433.000MHzを受信しながら、5秒に1回、M-CH「490」をワッチする。



【ご参考】

M-CHを指定してから、VFO周波数を設定しても同様に動作します。

(次ページにつづく)

9 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とM-CH(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

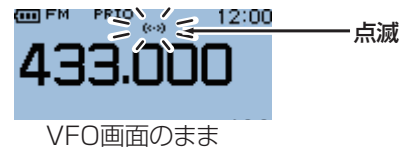
プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)






●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(●)”が点滅します。

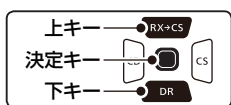



■ VFO周波数とバンクチャンネル

VFO周波数を受信しながら、指定したバンクCH(プライオリティーチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[V/MHz]**  を押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]** を回して、VFOモードで受信する周波数を設定します。
- ③ **[M/CALL]**  を押して、メモリーモードにします。
- ④ **[QUICK MENU]**  を押します。
- ⑤ **上下キー** を押して、“バンク切替”を選択し、**決定キー**を押します。


●M-CHが登録されているバンクの一覧が表示されます。



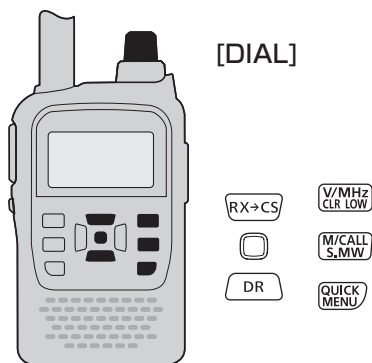
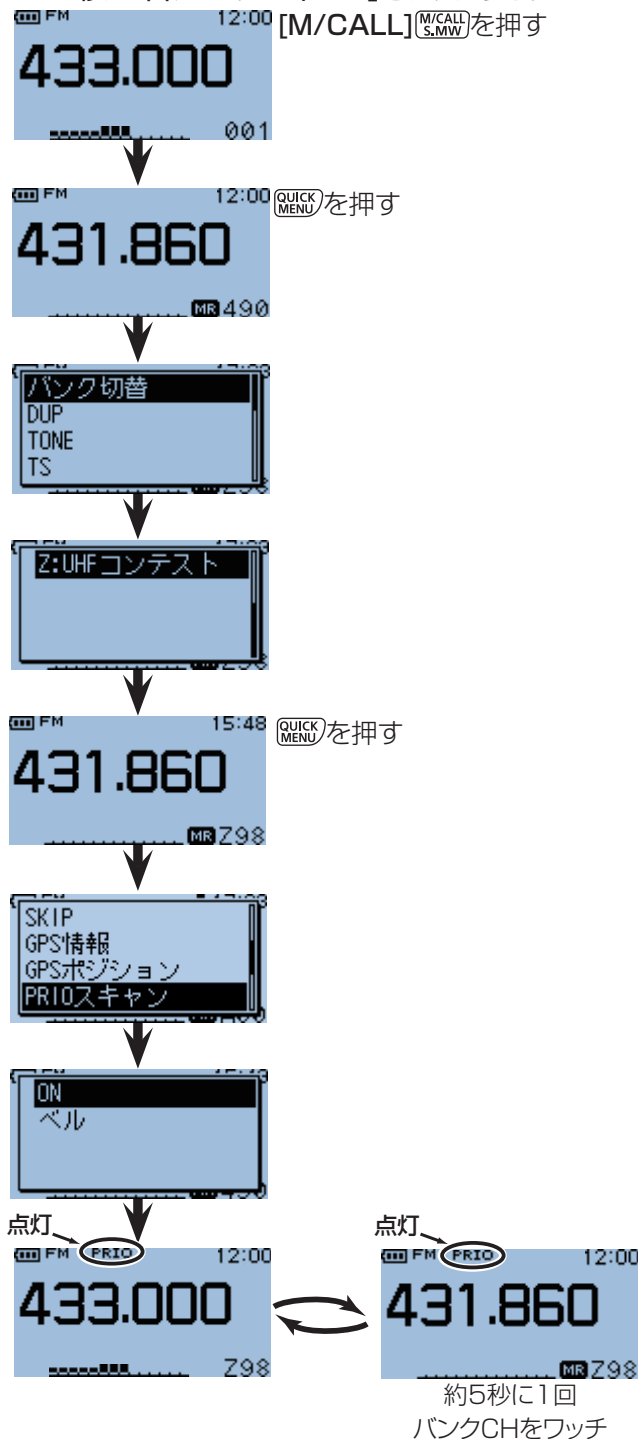
- ⑥ **上下キー** を押して、ワッチしたいバンクCHのあるバンクを選択し、**決定キー**を押します。
- ⑦ **[DIAL]** を回して、ワッチしたいバンクCHを選択します。
- ⑧ **[QUICK MENU]**  を押します。
- ⑨ **上下キー** を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。

 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。

- ⑩ **上下キー** で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。

 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - [CLR]**  を押すと、プライオリティスキャンが解除されます。

例：VFOモードで433.000MHzを受信しながら、5秒に1回、バンクCH「Z98」をワッチする。



【ご参考】

バンクCHを指定してから、VFO周波数を設定しても同様に動作します。

(次ページにつづく)

9 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とバンクチャンネル(つづき)

信号を受信すると

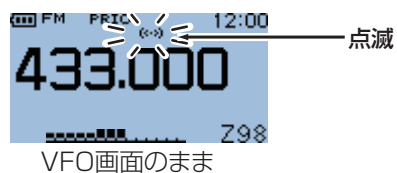
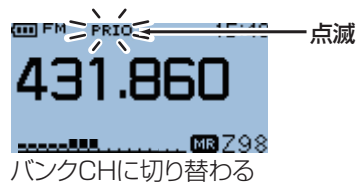
●「ON」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)

●「ベル」選択時

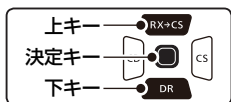
プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(●)”が点滅します。



■ VFO周波数とコールチャンネル

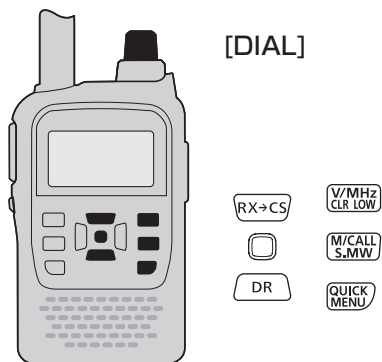
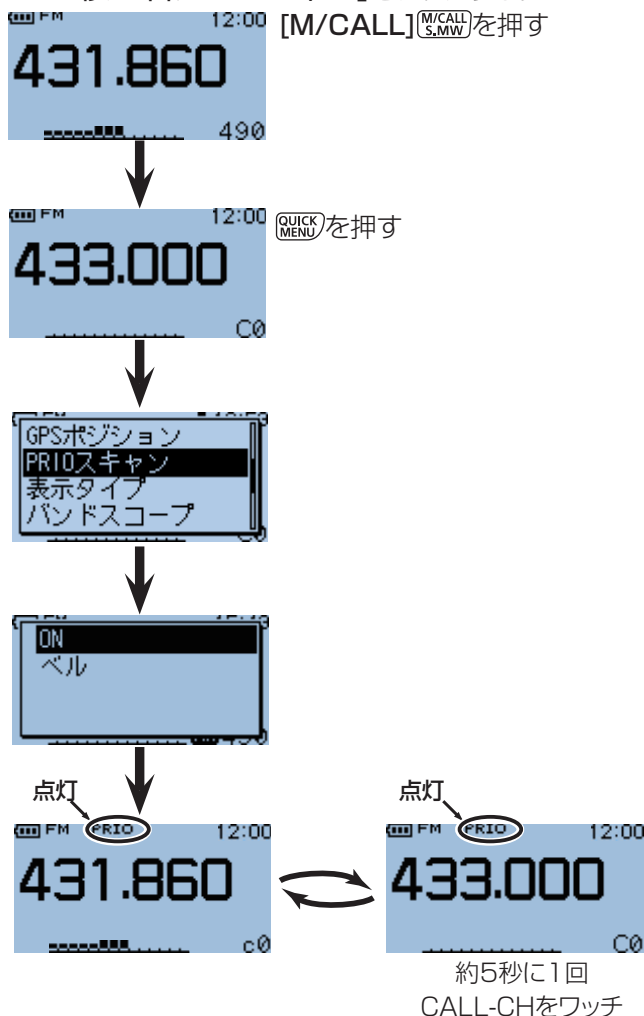
VFO周波数を受信しながら、指定したCALL-CH(プライオリティーチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)を押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、VFOモードで受信する周波数を設定します。
- ③ **[M/CALL]** (M/CALL S.MW)を押して、CALL-CHモードにします。
- ④ **[DIAL]**を回して、ワッチしたいCALL-CHを選択します。
- ⑤ **[QUICK MENU]**を押します。
- ⑥ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
- ⑦ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。



- “PRIO”表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
- **[CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押すと、プライオリティースキャンが解除されます。

例：VFOモードで431.860MHzを受信しながら、5秒に1回、CALL-CH「C0」をワッチする。



【ご参考】

CALL-CHを指定してから、VFO周波数を設定しても同様に動作します。

(次ページにつづく)

9 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とコールチャンネル(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

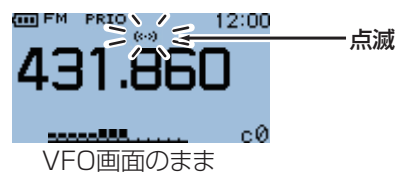
プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスクリーンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

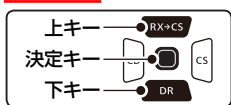
プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(●)”が点滅します。



■ VFOスキャンとM-CH

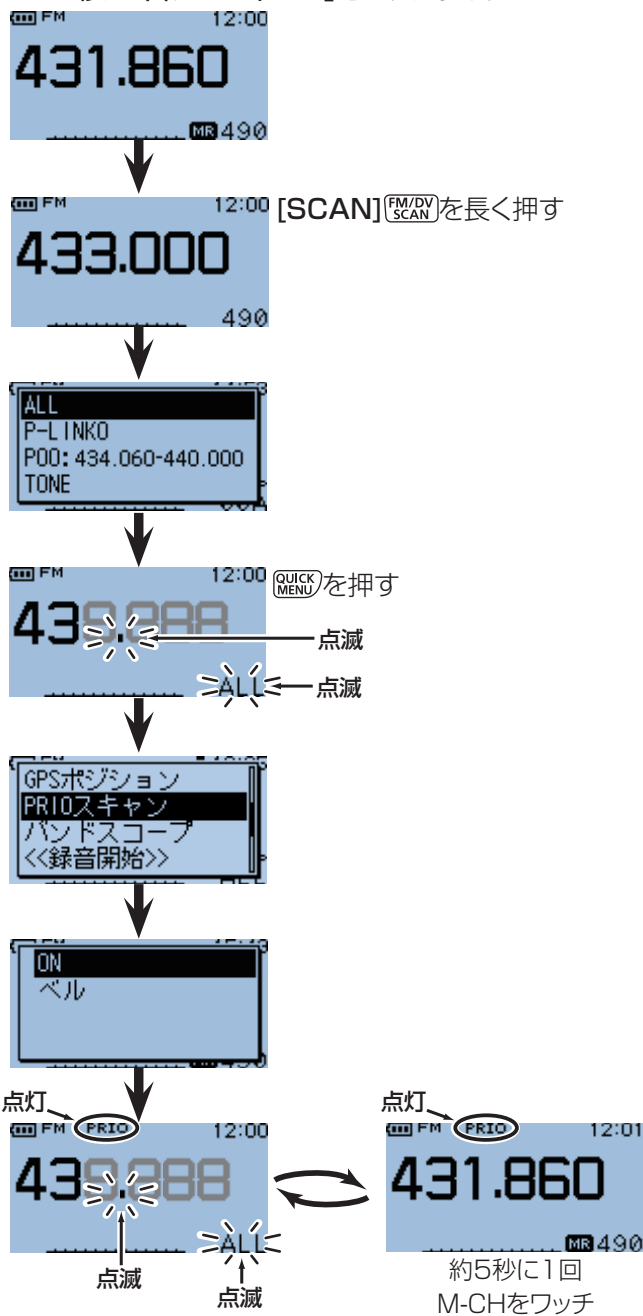
VFOスキャンをしながら、指定したM-CH(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[M/CALL]** (^{M/CALL}_{S.MW})を押して、メモリーモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、ワッチしたいM-CHを選択します。
- ③ **[V/MHz]** (^{V/MHz}_{CLR LOW})を押して、VFOモードにします。
- ④ **[FM/DV]** (^{FM/DV}_{SCAN})を押して、電波型式を選択します。
- ⑤ **[SCAN]** (^{FM/DV}_{SCAN})を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ⑥ **上下キー**を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー**を押してVFOスキャン(※P8-4)をスタートします。



- ⑦ **[QUICK MENU]**を押します。
- ⑧ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
- ⑨ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
 - スキャンの設定に関係なく、スキャン中にVFO周波数で信号を受信しても、約5秒ごとにM-CHをワッチします。
 - [CLR]** (^{V/MHz}_{CLR LOW})を押すと、プライオリティースキャンとVFOスキャンが同時に解除されます。

例：FMモードでオールスキャンをしながら、5秒に1回、M-CH「490」をワッチする。



【ご参考】

プライオリティースキャンを開始してから、VFOスキャンを開始しても同様に動作します。

(次ページにつづく)

9 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとM-CH(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



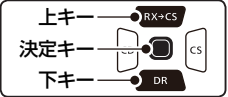
●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFOスキャンが継続したままベルマーク“(●)”が点滅します。

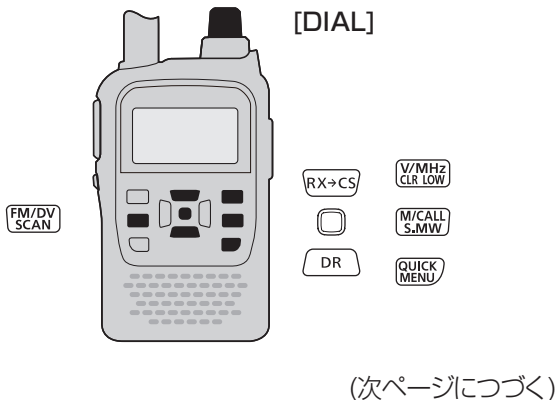
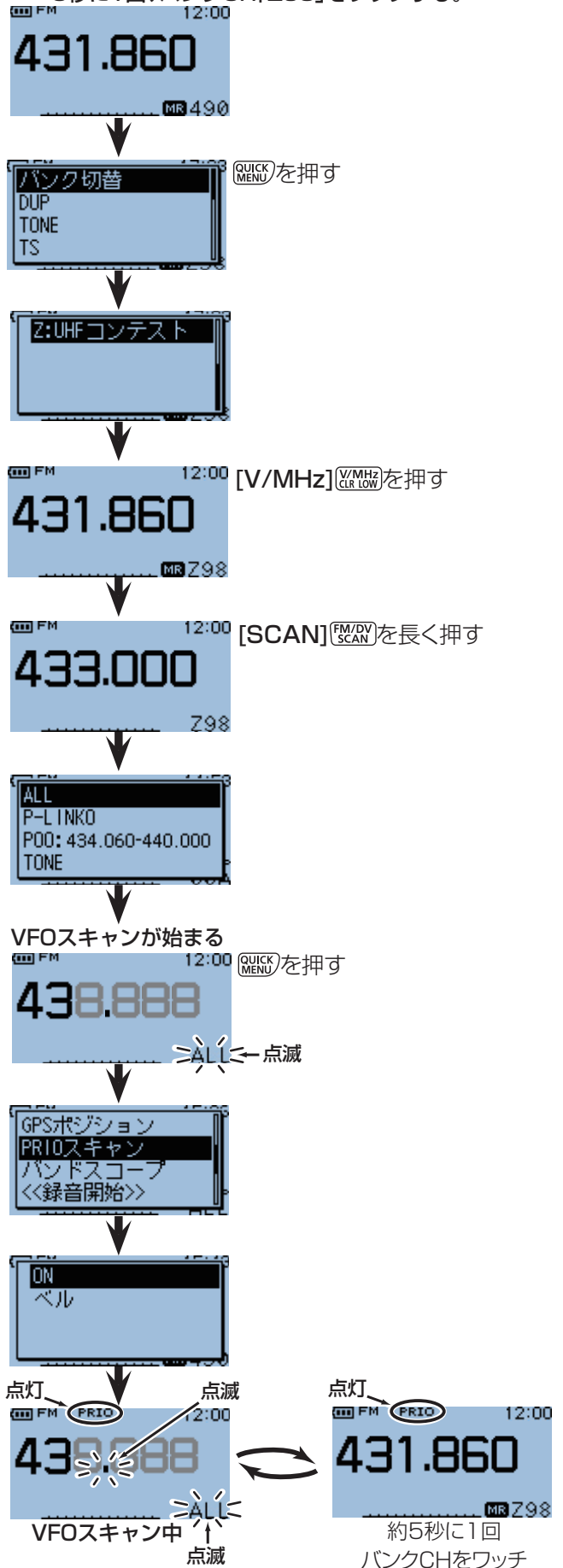


■ VFOスキャンとバンクチャンネル

VFOスキャンをしながら、指定したバンクCH(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[M/CALL]** (M/CALL S,MW) を押して、メモリーモードにします。
 - ② **[QUICK MENU]** を押します。
 - ③ **上下キー** を押して、“バンク切替”を選択し、**決定キー** を押します。
 - M-CHが登録されているバンクの一覧が表示されます。
 - ④ **上下キー** を押して、ワッチしたいバンクCHのあるバンクを選択し、**決定キー** を押します。
- 
- ⑤ **[DIAL]** を回して、ワッチしたいバンクCHを選択します。
 - ⑥ **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW) を押して、VFOモードにします。
 - ⑦ **[FM/DV]** (FM/DV SCAN) を押して、電波型式を選択します。
 - ⑧ **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く(ピツ、ピーと鳴るまで)押します。
 - ⑨ **上下キー** を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー** を押してVFOスキャン(☞P8-4)をスタートします。
 - ⑩ **[QUICK MENU]** を押します。
 - ⑪ **上下キー** を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー** を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
 - ⑫ **上下キー** で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー** を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
 - スキャンの設定に関係なく、スキャン中にVFO周波数で信号を受信しても、約5秒ごとにバンクCHをワッチします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW) を押すと、プライオリティースキャンとVFOスキャンが同時に解除されます。

例：FMモードでオールスキャンをしながら、5秒に1回、バンクCH「Z98」をワッチする。



9 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとバンクチャンネル(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

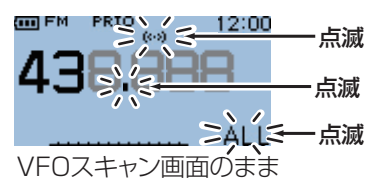
プライオリティチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFOスキャンが継続したままベルマーク“(●)”が点滅します。



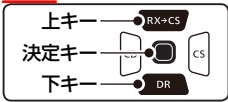
【ご参考】

プライオリティースキャンを開始してから、VFOスキャンを開始しても同様に動作します。

■ VFOスキャンとコールチャンネル

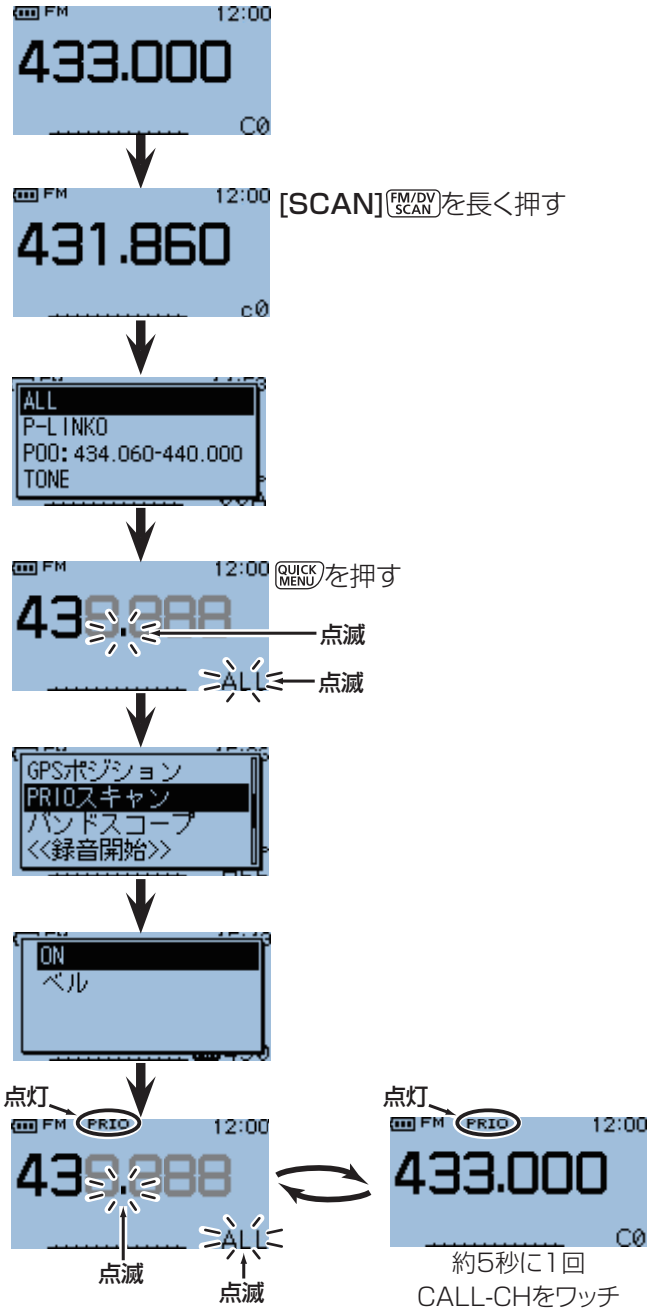
VFOスキャンをしながら、指定したCALL-CH(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[M/CALL]** (M/CALL S.MW)を押して、CALL-CHモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、ワッチしたいCALL-CHを選択します。
- ③ **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)を押して、VFOモードにします。
- ④ **[FM/DV]** (FM/DV SCAN)を押して、電波型式を選択します。
- ⑤ **[SCAN]** (FM/DV SCAN)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ⑥ **上下キー**を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー**を押してVFOスキャン(※P8-4)をスタートします。
- ⑦ **QUICK MENU**を押します。



- ⑧ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
- ⑨ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
 - スキャンの設定に関係なく、スキャン中にVFO周波数で信号を受信しても、約5秒ごとにCALL-CHをワッチします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押すと、プライオリティースキャンとVFOスキャンが同時に解除されます。

例：FMモードでオールスキャンをしながら、5秒に1回、CALL-CH「CO」をワッチする。



【ご参考】
 プライオリティースキャンを開始してから、VFOスキャンを開始しても同様に動作します。

(次ページにつづく)

9 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとコールチャンネル(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

プライオリティチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

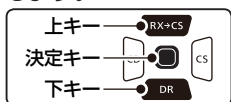
プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFOスキャンが継続したままベルマーク“(●)”が点滅します。



■ VFO周波数とメモリスキャン

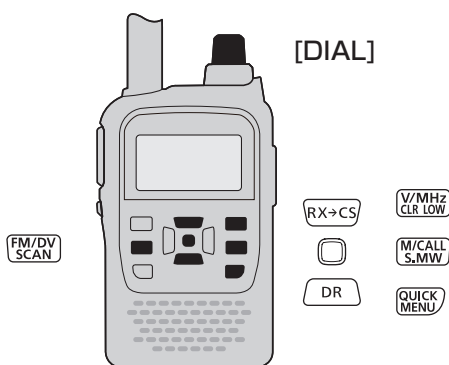
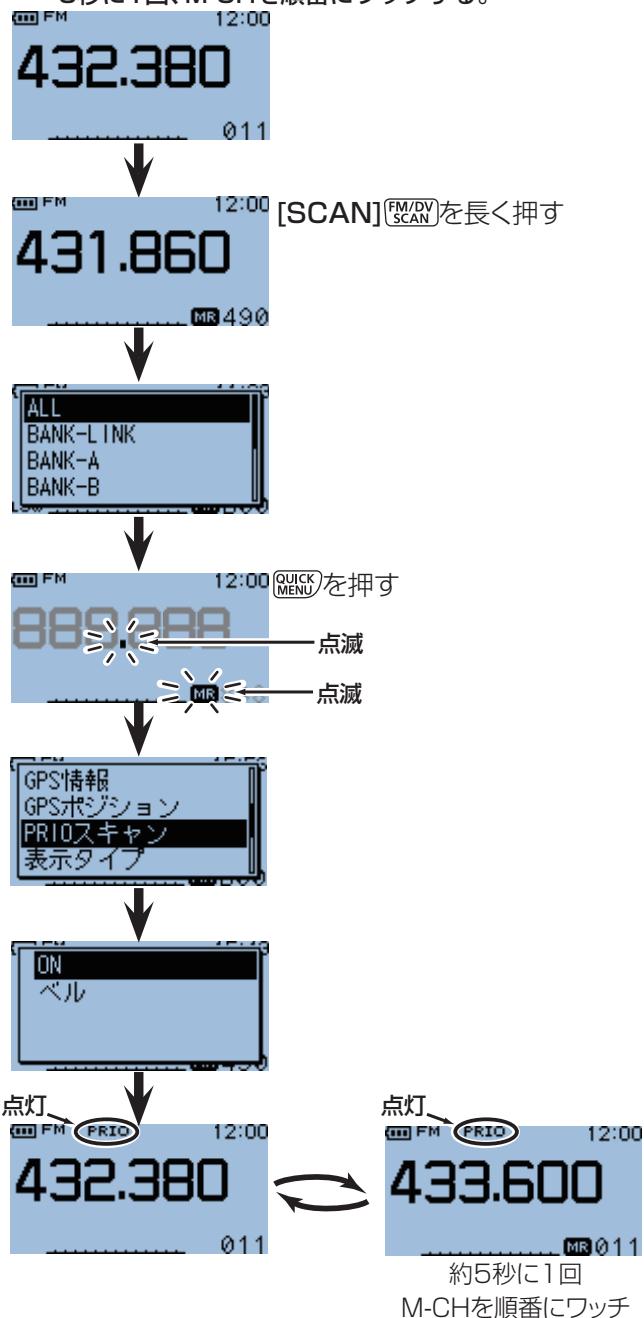
VFO周波数を受信しながら、M-CH(プライオリティーチャンネル)を約5秒に1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)を押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、VFOモードで受信する周波数を設定します。
- ③ **[M/CALL]** (M/CALL S.MW)を押して、メモリーモードにします。
- ④ **[SCAN]** (FM/DV SCAN)を長く(ピツ、ピーと鳴るまで)押しします。
- ⑤ **上下キー**を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー**を押してメモリスキャン(☞P8-7)をスタートします。



- ⑥ **QUICK MENU**を押します。
- ⑦ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
- ⑧ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押すと、プライオリティスキャンが解除されます。

例：VFOモードで432.380MHzを受信しながら、5秒に1回、M-CHを順番にワッチする。



9 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とメモリースキャン(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

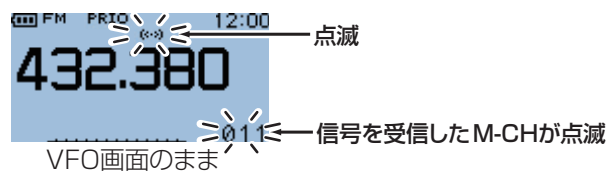
プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスクリーンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面のままベルマーク“(●)”が点滅します。

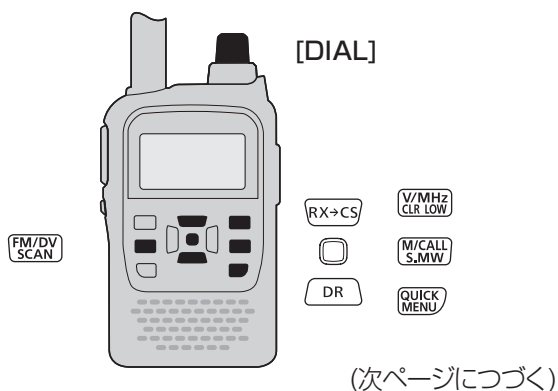


■ VFO周波数とバンクスキャン

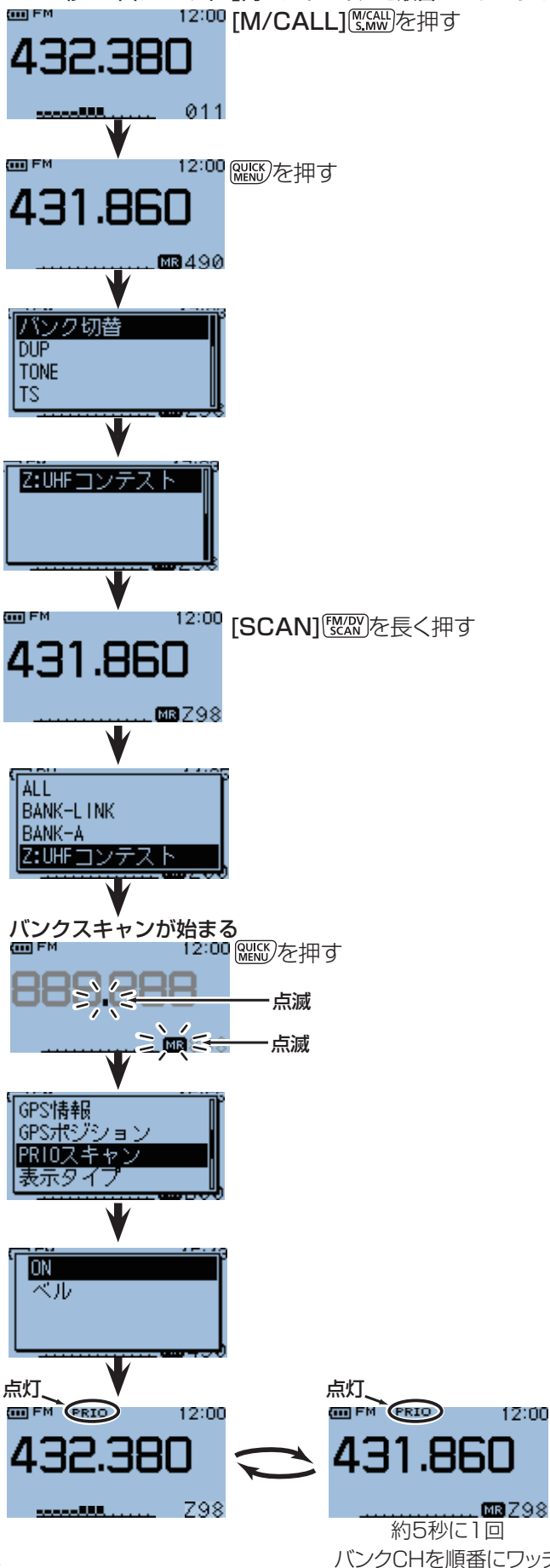
VFO周波数を受信しながら、バンクCH(プライオリティーチャンネル)を約5秒に1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

※ M-CHが2つ以上登録されているバンクがない場合は動作しません。

- ① **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)を押して、VFOモードにします。
 - ② **[DIAL]**を回して、VFOモードで受信する周波数を設定します。
 - ③ **[M/CALL]** (M/CALL S.MW)を押して、メモリーモードにします。
 - ④ **[QUICK MENU]**を押します。
 - ⑤ **上下キー**を押して、“バンク切替”を選択し、**決定キー**を押します。
 - M-CHが登録されているバンクの一覧が表示されます。
-
- ⑥ **上下キー**を押していずれかのバンク(「OFF」以外)を選択し、**決定キー**を押します。
 - ⑦ **[SCAN]** (FM/DV SCAN)を長く押します。
 - ⑧ **上下キー**を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー**を押してバンクスキャン(※P8-8)をスタートします。
 - ⑨ **[QUICK MENU]**を押します。
 - ⑩ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
 - ⑪ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
 - **[CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押すと、プライオリティースキャンが解除されます。



例：VFOモードで432.380MHzを受信しながら、5秒に1回、バンク[Z]内のチャンネルを順番にワッチする。



9 プライオリティースキャン

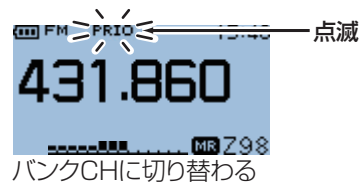
■ VFO周波数とバンクスキャン(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

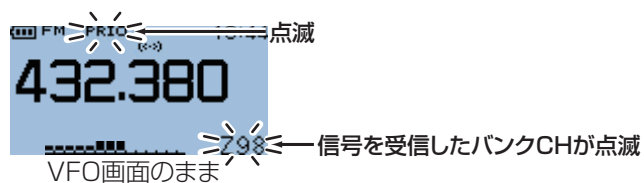
プライオリティチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

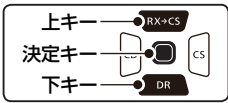
プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面のままベルマーク“(●)”が点滅します。



■ VFOスキャンとメモリスキャン

VFOスキャンをしながら、M-CH(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

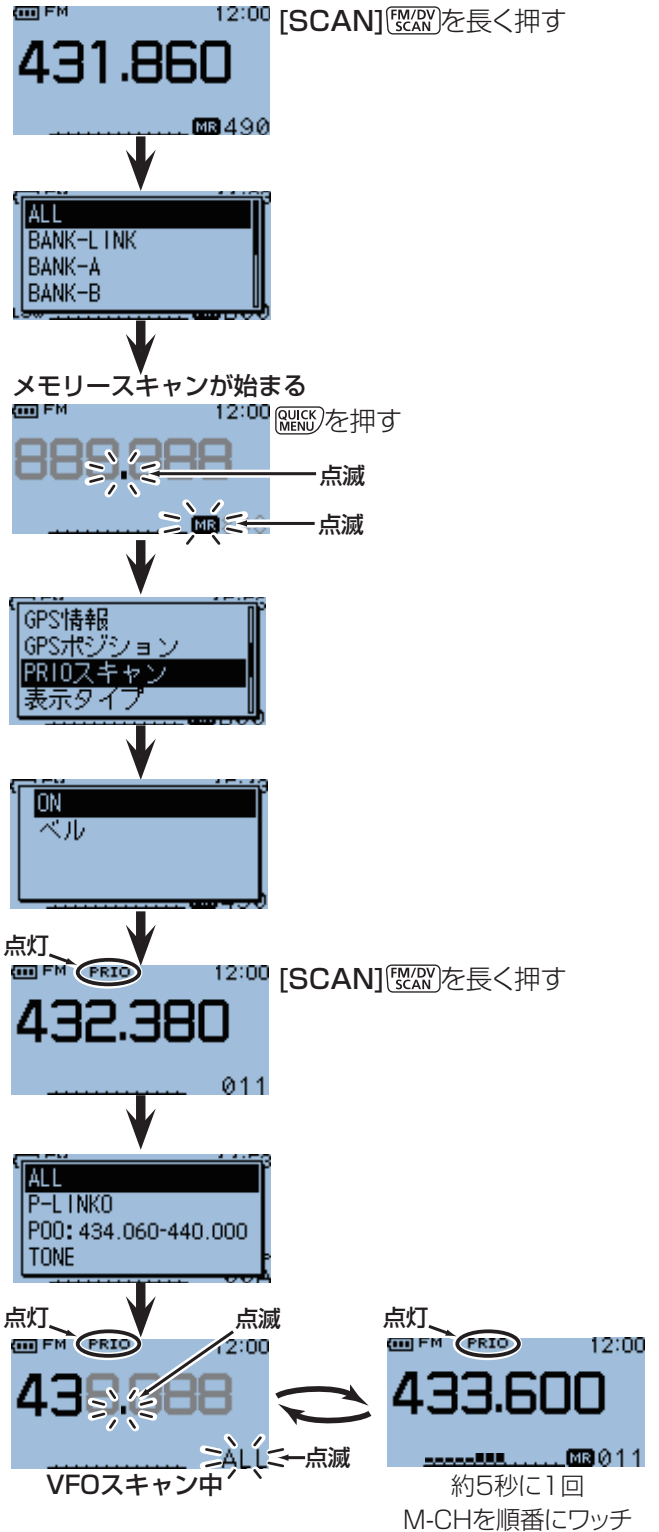
- ① **[M/CALL]** (M/CALL S.MW) を押して、メモリーモードにします。
- ② **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く(ピツ、ピーと鳴るまで)押します。
- ③ **上下キー** を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー** を押してメモリスキャン(☞P8-7)をスタートします。



- ④ **[QUICK MENU]** を押します。
- ⑤ **上下キー** を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー** を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
- ⑥ **上下キー** で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー** を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、**[VFO周波数とメモリスキャンのプライオリティースキャン]**(☞P9-15)がスタートします。
- ⑦ **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く(ピツ、ピーと鳴るまで)押します。
- ⑧ **上下キー** を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー** を押してVFOスキャン(☞P8-4)をスタートします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW) を押すと、プライオリティースキャンとVFOスキャンが同時に解除されます。



例：VFOでフルスキャンをしながら、5秒に1回、M-CHを順番にワッチする。
[SCAN] (FM/DV SCAN) を長く押す



[ご参考]
[SCAN] (FM/DV SCAN) を押しながら **[DIAL]** を回してスキャンタイプを選択することができます。この場合は、**[SCAN]** (FM/DV SCAN) をはなすと同時にスキャンがスタートします。

(次ページにつづく)

9 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとメモリースキャン(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFOスキャンが継続したままベルマーク“(●)”が点滅します。



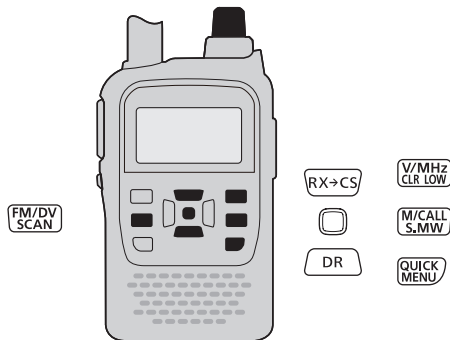
■ VFOスキャンとバンクスキャン

VFOスキャンをしながら、バンクCH(プライオリティーチャンネル)を約5秒に1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[FM/CALL]** (^{M/CALL}_{S,MW})を押して、メモリーモードにします。
 - ② **[QUICK MENU]**を押します。
 - ③ **上下キー**を押して、“バンク切替”を選択し、**決定キー**を押します。
 - M-CHが登録されているバンクの一覧が表示されます。
- 上キー → **[RX+CS]**

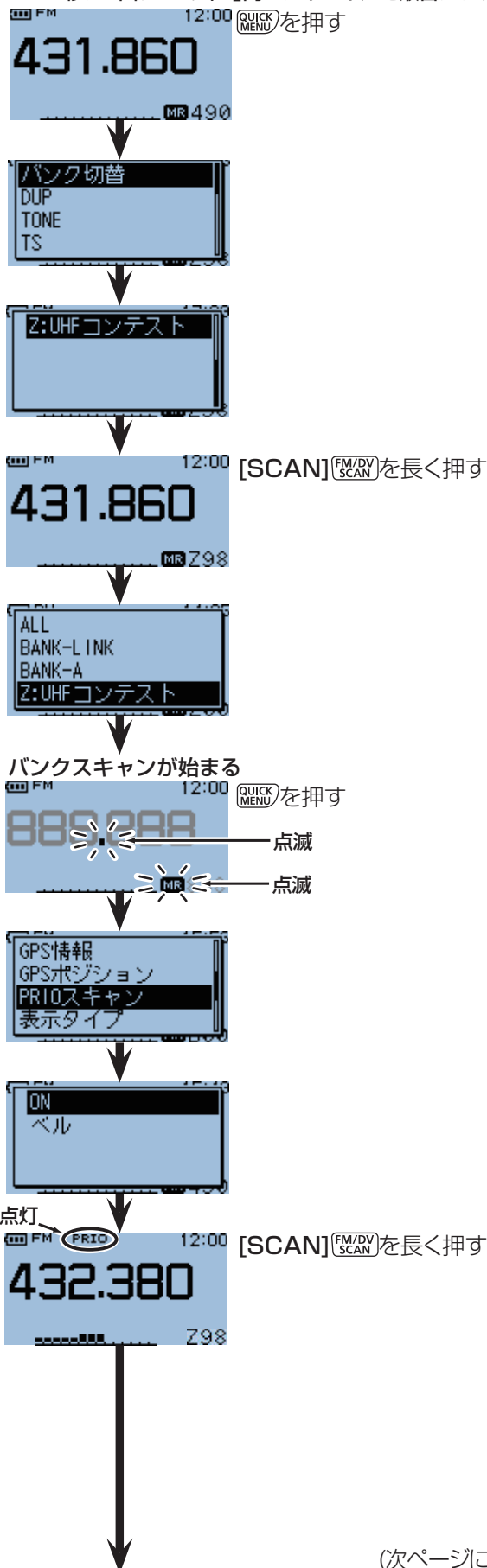
決定キー → **[CS]**

下キー → **[DR]**
- ④ **上下キー**を押していずれかのバンク(「OFF」以外)を選択し、**決定キー**を押します。
 - ⑤ **[SCAN]** (^{FM/DV}_{SCAN})を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - ⑥ **上下キー**を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー**を押してバンクスキャン(☞P8-7)をスタートします。
 - ⑦ **[QUICK MENU]**を押します。
 - ⑧ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク“(・)”が点滅します。
 - ⑨ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、「VFO周波数とバンクスキャンのプライオリティースキャン」(☞P9-17)がスタートします。
 - ⑩ **[SCAN]** (^{FM/DV}_{SCAN})を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - ⑪ **上下キー**を押してスキャンタイプを選択し、**決定キー**を押してVFOスキャン(☞P8-4)をスタートします。
 - [CLR]** (^{V/MHZ}_{CLR LOW})を押すと、プライオリティースキャンとVFOスキャンが同時に解除されます。



【ご参考】
[SCAN] (^{FM/DV}_{SCAN})を押しながら**[DIAL]**を回してスキャンタイプを選択することができます。この場合は、**[SCAN]** (^{FM/DV}_{SCAN})をはなすと同時にスキャンがスタートします。

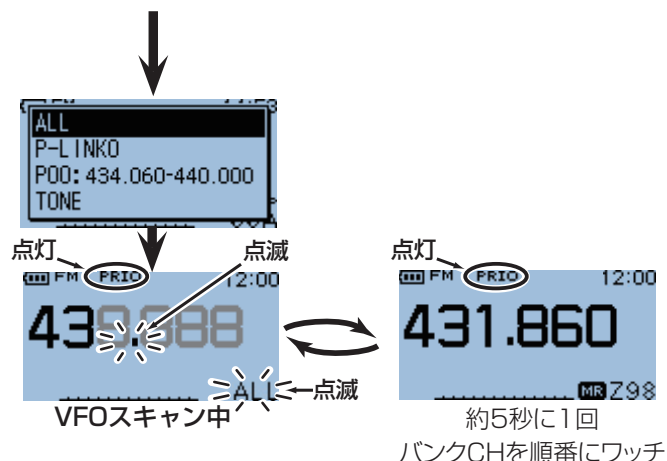
例：VFOでフルスキャンをしながら、5秒に1回、バンク「Z」内のチャンネルを順番にワッチする。



(次ページにつづく)

9 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとバンクスキャン(つづき)

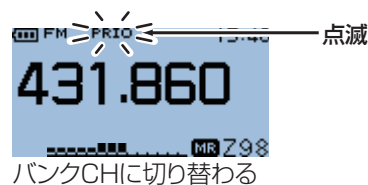


信号を受信すると

●「ON」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、バンクCH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

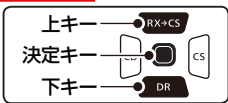
プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFOスキャンが継続したままベルマーク“(●)”が点滅します。



■ DRモードとVFO周波数

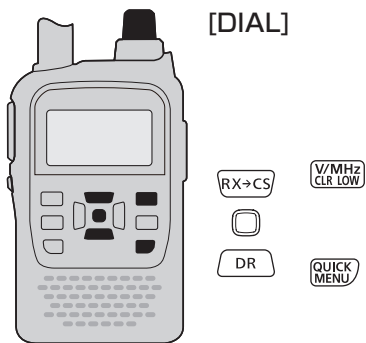
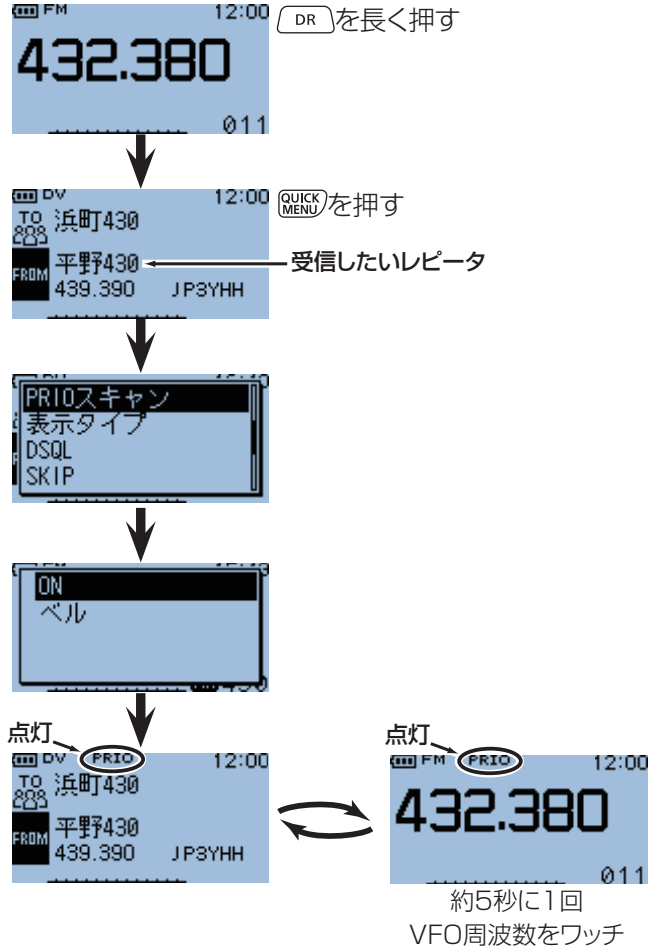
DRモードでレピータを受信しながら、VFO周波数(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[V/MHz]** (V/MHz CLR LOW)を押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、VFOモードで受信する周波数を設定します。
- ③ **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DRモードにします。
- ④ **上下キー**で「FROM」(アクセスレピータ)を選択します。



- ⑤ **[DIAL]**を回して、受信したいレピータを選択します。
- ⑥ **[QUICK MENU]**を押します。
- ⑦ **上下キー**を押して、「PRIOスキャン」を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、VFO画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面で「PRIO」が点滅します。
- ⑧ **上下キー**で「ON」または「ベル」を選択し、**決定キー**を押します。
 - 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押すと、プライオリティスキャンが解除されます。

例：DRモードでレピータを受信しながら、5秒に1回、VFOモードで432.380MHzをワッチする。
[DR]を長く押す



9 プライオリティスキャン

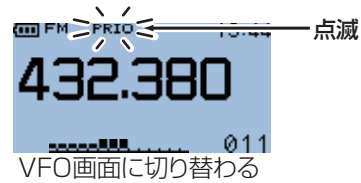
■ DRモードとVFO周波数(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

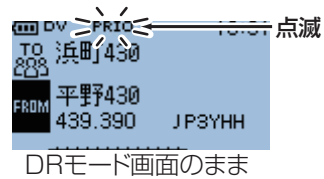
プライオリティチャンネルで信号を受信すると、VFO画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面のまま「PRIO」が点滅します。

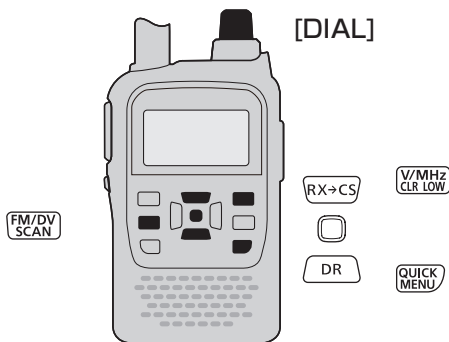
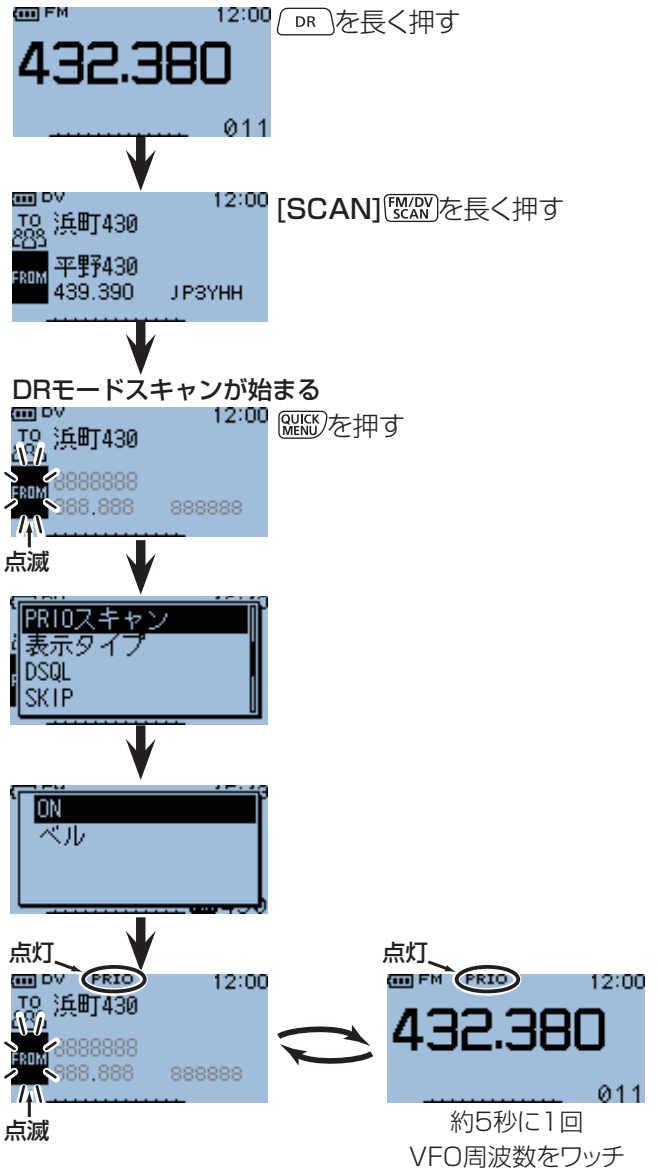


■ DRモードスキャンとVFO周波数

DRモードでレピータをスキャンしながら、VFO周波数(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[V/MHz]** (**V/MHz CLR LOW**) を押して、VFOモードにします。
 - ② **[DIAL]** を回して、VFOモードで受信する周波数を設定します。
 - ③ **[DR]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DRモードにします。
 - ④ **[SCAN]** (**FM/DV SCAN**) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードスキャンがスタートします。
 - ⑤ **[QUICK MENU]** を押します。
 - ⑥ **上下キー** を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー** を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、VFO画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面で“PRIO”が点滅します。
-
- ⑦ **上下キー** で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー** を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - スキャンの設定に関係なく、DRモードスキャン中にDRモードで信号を受信しても、約5秒ごとにVFO周波数をワッチします。
 - [CLR]** (**V/MHz CLR LOW**) を押すと、プライオリティスキャンとDRモードスキャンが同時に解除されます。

例：DRモードでレピータをスキャンしながら、5秒に1回、VFOモードで432.380MHzをワッチする。
[DR] を長く押す




9 プライオリティースキャン

■ DRモードスキャンとVFO周波数(つづき)

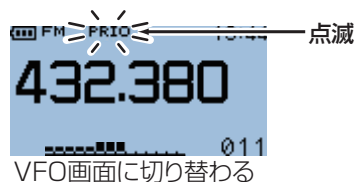
信号を受信すると

●「ON」選択時

プライオリティチャンネルで信号を受信すると、VFO画面に切り替わります。

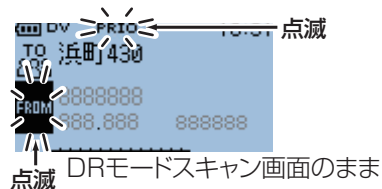
●[CLR]  を押すと、プライオリティースキャンが再開します。もう一度押すとスキャンが解除されます。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

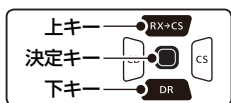
プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモードスキャンが継続したまま“PRIO”が点滅します。



■ DRモードとコールチャンネル

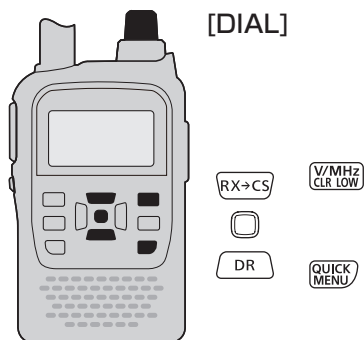
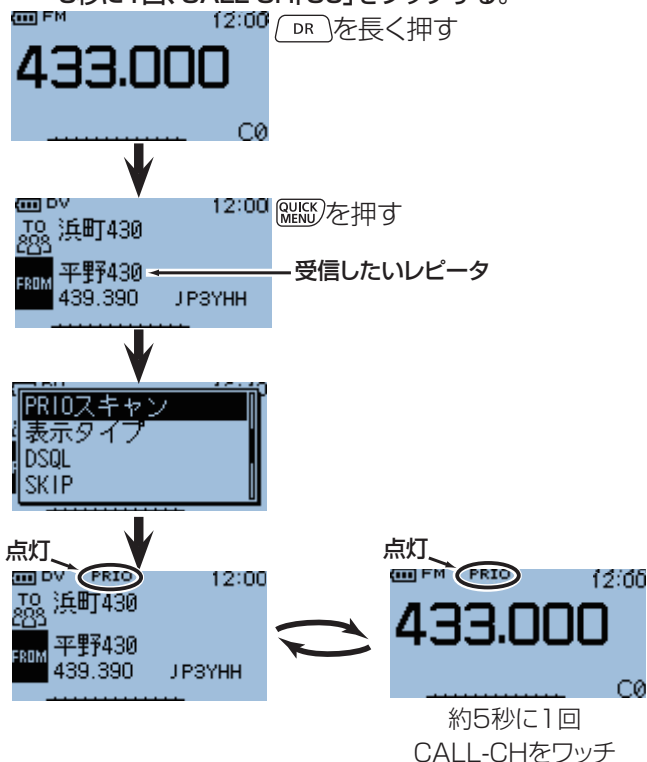
DRモードでレピータを受信しながら、CALL-CH(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[M/CALL]** (M/CALL S,MW) を押して、CALL-CHモードにします。
- ② **[DR]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DRモードにします。
- ③ **上下キー** で「FROM」(アクセスレピータ)を選択します。
- ④ **[DIAL]** を回して、受信したいレピータを選択します。



- ⑤ **[QUICK MENU]** を押します。
- ⑥ **上下キー** を押して、「PRIOスキャン」を選択し、**決定キー** を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面で“PRIO”が点滅します。
- ⑦ **上下キー** で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー** を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW) を押すと、プライオリティスキャンが解除されます。

例：DRモードでレピータを受信しながら、5秒に1回、CALL-CH[CO]をワッチする。



9 プライオリティスキャン

■ DRモードとコールチャンネル(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

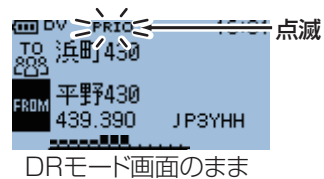
プライオリティチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

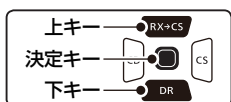
プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面のまま「PRIO」が点滅します。



■ DRモードスキャンとコールチャンネル

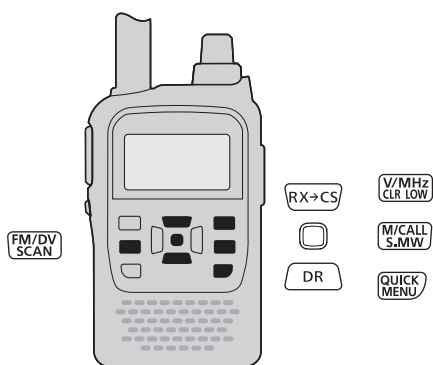
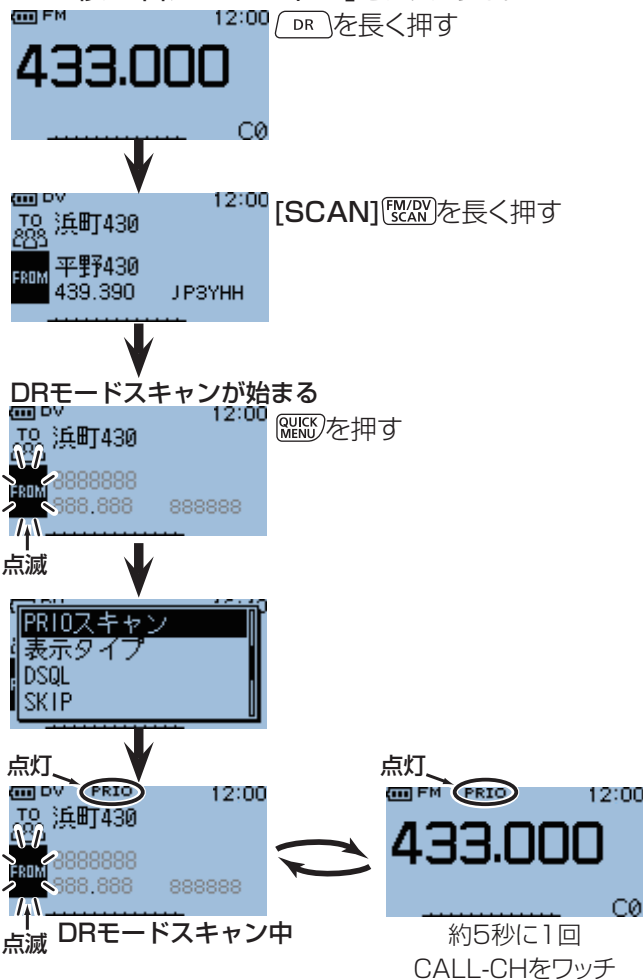
DRモードで、レピータをスキャンしながら、CALL-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[M/CALL]** (M/CALL S.MW) を押して、CALL-CHモードにします。
- ② **[DR]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DRモードにします。
- ③ **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードスキャンがスタートします。
- ④ **[QUICK MENU]** を押します。
- ⑤ **上下キー** を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー** を押します。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面で“PRIO”が点滅します。



- ⑥ **上下キー** で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー** を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
 - スキャンの設定に関係なく、DRモードスキャン中にDRモードで信号を受信しても、約5秒ごとにCALL-CHをワッチします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW) を押すと、プライオリティースキャンとDRモードスキャンが同時に解除されます。

例：DRモードでレピータをスキャンしながら、5秒に1回、CALL-CH「C0」をワッチする。



9 プライオリティースキャン

■ DRモードスキャンとコールチャンネル(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。

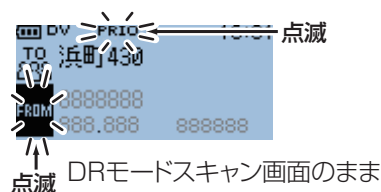
●[CLR]_(CLR/LOW)を押すと、プライオリティースキャンが再開します。もう一度押すとスキャンが解除されます。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

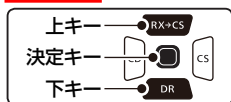
プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモードスキャンが継続したまま“PRIO”が点滅します。



■ DRモードとM-CH

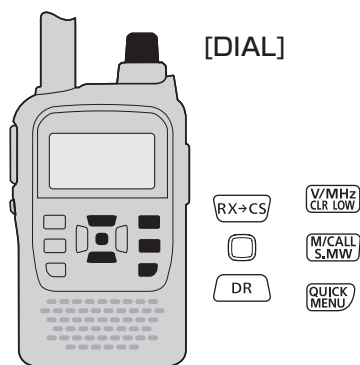
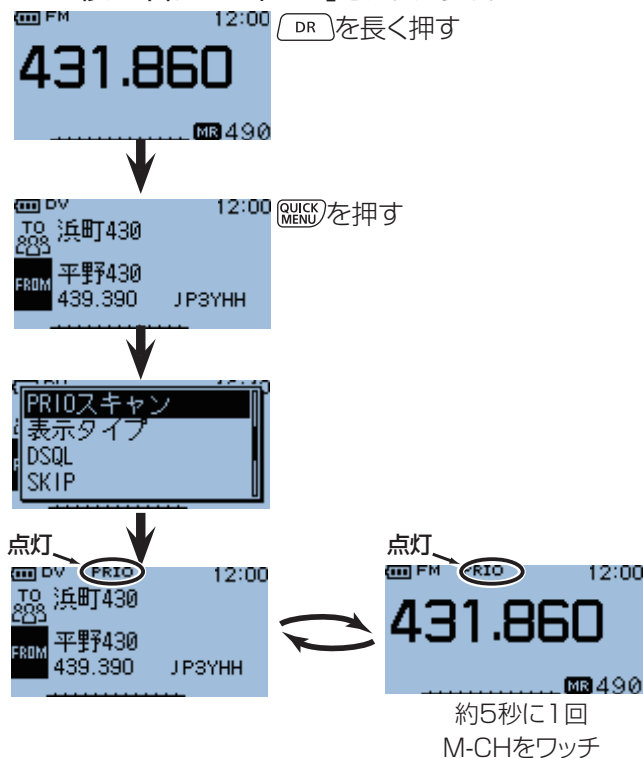
DRモードでレピータを受信しながら、M-CH(プライオリティチャンネル)を約5秒に1回ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[M/CALL]** (M/CALL S.MW)を押して、メモリーモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、ワッチしたいM-CHを選択します。
- ③ **[DR]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DRモードにします。
- ④ **上下キー**で**[FROM]**(アクセスレピータ)を選択します。



- ⑤ **[DIAL]**を回して、受信したいレピータを選択します。
- ⑥ **[QUICK MENU]**を押します。
- ⑦ **上下キー**を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー**を押します。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、CALL-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面で“PRIO”が点滅します。
- ⑧ **上下キー**で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー**を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW)を押すと、プライオリティスキャンが解除されます。

例：DRモードでレピータを受信しながら、5秒に1回、M-CH「490」をワッチする。



(次ページにつづく)

9 プライオリティスキャン

■ DRモードとM-CH(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

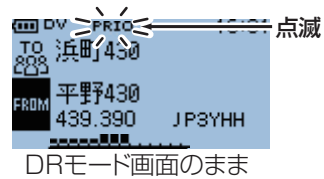
プライオリティチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

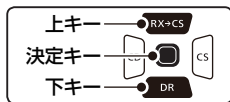
プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面のまま「PRIO」が点滅します。



■ DRモードスキャンとM-CH

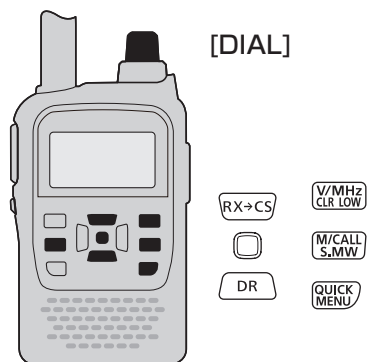
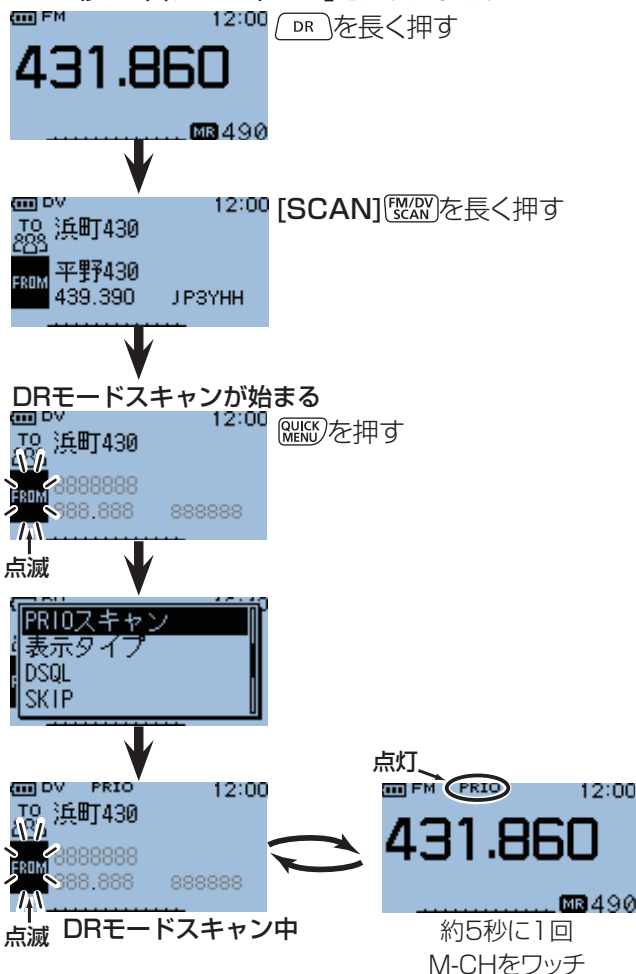
DRモードでレピータをスキャンしながら、M-CHをワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① **[M/CALL]** (M/CALL S.MW) を押して、メモリーモードにします。
- ② **[DIAL]** を回して、ワッチしたいM-CHを選択します。
- ③ **[DR]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DRモードにします。
- ④ **[SCAN]** (FM/DV SCAN) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - DRモードスキャンがスタートします。
- ⑤ **[QUICK MENU]** を押します。
- ⑥ **上下キー** を押して、“PRIOスキャン”を選択し、**決定キー** を押します。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモード画面で“PRIO”が点滅します。



- ⑦ **上下キー** で“ON”または“ベル”を選択し、**決定キー** を押します。
 - “PRIO”表示が点灯して、プライオリティスキャンがスタートします。
 - スキャンの設定に関係なく、DRモードスキャン中にDRモードで信号を受信しても、約5秒ごとにM-CHをワッチします。
 - [CLR]** (V/MHz CLR LOW) を押すと、プライオリティスキャンとDRモードスキャンが同時に解除されます。

例：DRモードでレピータをスキャンしながら、5秒に1回、M-CH「490」をワッチする。




9 プライオリティースキャン

■ DRモードスキャンとM-CH(つづき)

信号を受信すると

●「ON」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、M-CH画面に切り替わります。

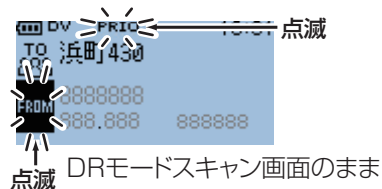
●[CLR]  を押すと、プライオリティースキャンが再開します。もう一度押すとスキャンが解除されます。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P10-13)



●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRモードスキャンが継続したまま“PRIO”が点滅します。



■ 各設定項目と初期値について	10-2
■ DUP/トーン設定について	10-11
■ スキャン設定について	10-13
■ 音声メモ(録音/再生機能)について	10-16
■ GPSについて	10-20
■ コールサインについて	10-34
■ 受信履歴について	10-36
■ DVメモリーについて	10-38
■ 自局設定について	10-40
■ DV設定について	10-41
■ スピーチについて	10-45
■ DTMF/T-CALLについて	10-46
■ 機能設定について	10-47
■ ディスプレイ設定について	10-52
■ サウンド設定について	10-56
■ 時間設定について	10-57
■ SDカードについて	10-59

10 MENU画面について

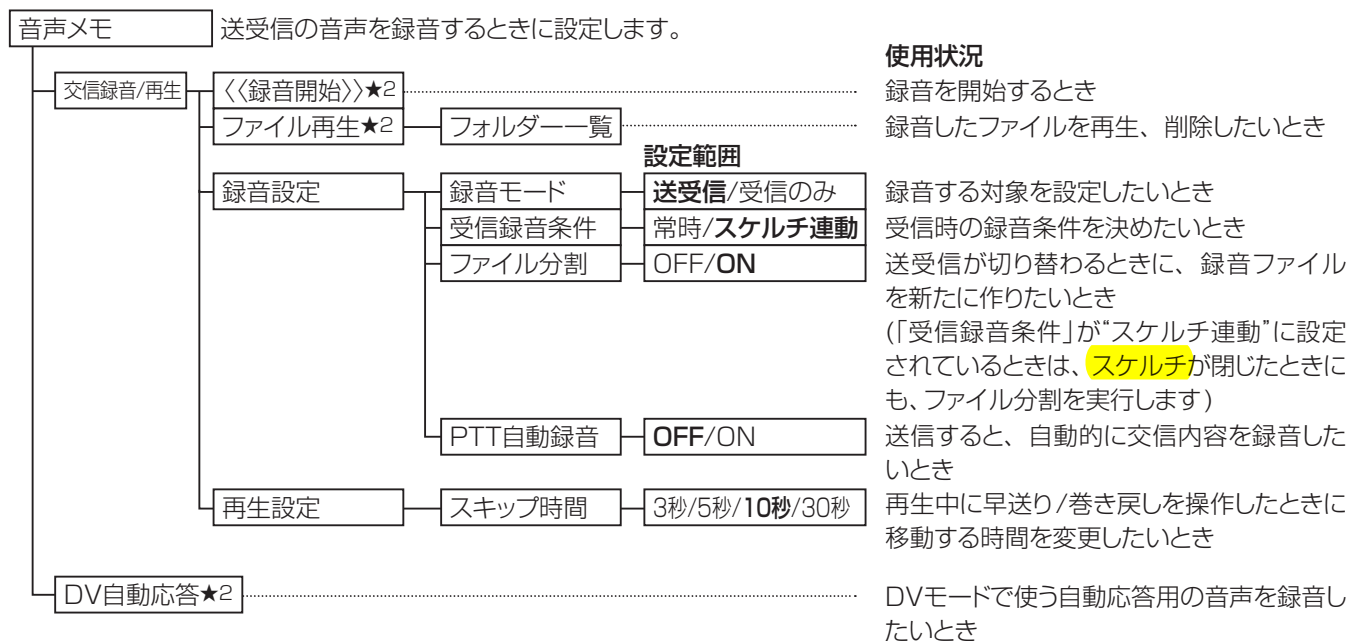
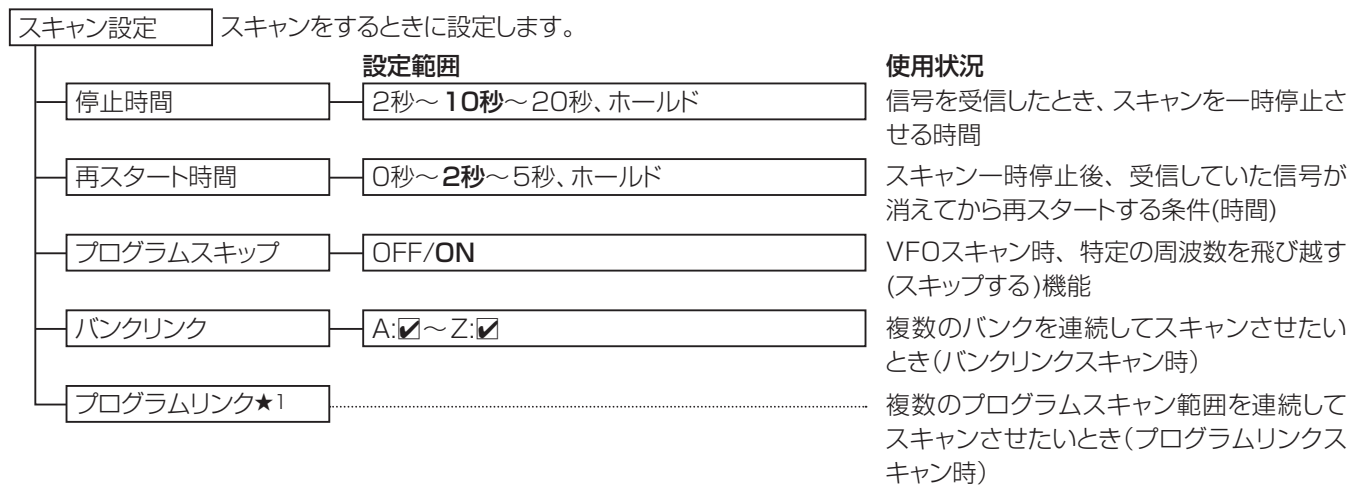
■ 各設定項目と初期値について

※太字は、工場出荷時の状態で表示される各項目の初期値です。

各項目の名称をクリックすると、詳細な説明ページに移ります。

DUP/トーン設定		レピータ運用、デュプレックス運用や各種トーン機能を運用するときに設定します。	
	設定範囲		使用状況
オフセット周波数	0.000.00～ 5.000.00 ～59.995.00		送信周波数と受信周波数の差(シフト幅)を設定するとき
レピータトーン周波数	67.0～ 88.5 ～254.1		レピータアクセスに必要なトーン信号の周波数(トーンエンコーダー)を設定するとき
TSQL周波数	67.0～ 88.5 ～254.1		FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使うトーンスケルチ機能で使用するトーンエンコーダー/デコーダーの周波数を設定するとき
トーンバースト	OFF /ON		トーンスケルチ機能使用時に、[PTT]をはなしたとき、相手のスピーカーから一瞬出る「ザッ」というノイズ(雑音)を抑える機能
DTCSコード	023 ～754		FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使うDTCSスケルチ機能で使用するDTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定するとき
DTCS極性	Both N /TN-RR/TR-RN/Both R		DTCSエンコーダー/デコーダーで使うDTCSコードの極性を設定するとき
デジタルコード	00 ～99		DVモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使うデジタルコードスケルチ機能で使用するデジタルコードを設定するとき

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。



★1 プリセットされた内容は、10-14ページをご覧ください。
 ★2 あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

10 MENU画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態で表示される各項目の初期値です。



★2 あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

コールサイン DVモードで運用時の設定状態を確認したり、設定したりできます

UR : CQCQCQ、R1 : -----、R2 : -----、MY : -----

使用状況

DRモード以外でDVモードを運用したいとき
DRモードでコールサインを確認したいとき

受信履歴 DVモードで受信履歴を確認できます

なし

使用状況

受信履歴を見たいとき

DVメモリー DVモードやDRモードで運用する相手局やレピータの情報を保存します

相手局コールサイン **1:ICOM ARC、2:ならやまARC自動**

レピータリスト★1

【ご注意】
説明に使用しているレピータリストは、お客様の無線機にプリセットされた内容と異なる場合がありますのでご了承ください。

01:関東	関東エリアのレピータ情報を保存しています
02:東海	東海エリアのレピータ情報を保存しています
03:近畿	近畿エリアのレピータ情報を保存しています
04:中国	中国エリアのレピータ情報を保存しています
05:四国	四国エリアのレピータ情報を保存しています
06:九州	九州エリアのレピータ情報を保存しています
07:東北	東北エリアのレピータ情報を保存しています
08:北海道	北海道エリアのレピータ情報を保存しています
09:北陸	北陸エリアのレピータ情報を保存しています
10:信越	信越エリアのレピータ情報を保存しています
11:シンプレックス	シンプレックス通信用の情報を保存しています
12:オセアニア	オセアニアのレピータ情報を保存しています
13:アメリカ	アメリカのレピータ情報を保存しています
14:カナダ	カナダのレピータ情報を保存しています
15:ラテンアメリカ	ラテンアメリカのレピータ情報を保存しています
16:東ヨーロッパ	東ヨーロッパのレピータ情報を保存しています
17:西ヨーロッパ	西ヨーロッパのレピータ情報を保存しています
18:南ヨーロッパ	南ヨーロッパのレピータ情報を保存しています
19:北ヨーロッパ	北ヨーロッパのレピータ情報を保存しています
20:アジア・アフリカ	アジア・アフリカのレピータ情報を保存しています

使用状況

個人局を登録したいとき

自局設定 DVモードで運用するために自局のコールサインを登録します

自局コールサイン

送信メッセージ

設定範囲

1:~6:

OFF/1:~5:

使用状況

自局コールサインの登録、選択をしたいとき
メッセージを送信したいとき

★1 プリセットされた内容は、4-39ページをご覧ください。

10 MENU画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態が表示される各項目の初期値です。

DV設定	DVモードで運用するときに設定します		設定範囲	使用状況
トーンコントロール	受信音質(低音)	カット/標準/強調	カット/標準/強調	受信時の音質(低音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
	受信音質(高音)	カット/標準/強調	カット/標準/強調	受信時の音質(高音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
	受信バースト	OFF/ON	OFF/ON	受信時の音質(低音)をさらに強調したいとき
	送信音質(低音)	カット/標準/強調	カット/標準/強調	送信時の音質(低音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
	送信音質(高音)	カット/標準/強調	カット/標準/強調	送信時の音質(高音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
自動応答	OFF/ON/音声	OFF/ON/音声	自局宛の信号を受信すると、自動で応答したいとき	
DVデータ送信	PTT/オート	PTT/オート	パソコンでDVデータを入力すると、自動で送信する設定に変更したいとき	
デジタルモニター	オート/デジタル/アナログ	オート/デジタル/アナログ	DVモードでモニターしたときのモード設定	
デジタルレピータセット	OFF/ON	OFF/ON	レピータコールサインの設定がアクセスしたレピータと一致しない場合、正しいレピータコールサインを自動で設定したいとき	
着信コールサイン登録	OFF/オート	OFF/オート	DRモード以外でDVモード運用時、自局宛の信号を受信したときに相手局(UR)のコールサインを自動で設定するとき	
着信レピータコールサイン登録	OFF/オート	OFF/オート	DRモード以外でDVモード運用時、自局宛の信号を受信したときにレピータ局(R1、R2)のコールサインを自動で設定するとき	
DV自動検出	OFF/ON	OFF/ON	DVの同期信号を検出できなかったとき、FMモードで受信したいとき	
受信履歴記録(RPT)	全て/最新のみ	全て/最新のみ	レピータからの履歴を受信履歴に残したいとき	
BK	OFF/ON	OFF/ON	デジタルコールサインスケルチで通信している2局に対して同時に呼びかけたいとき ※電源を入れなおすと、解除(OFF)されます	
EMR	OFF/ON	OFF/ON	全局に対して、緊急呼び出しをしたいとき	
EMR AFLレベル	0~19~39	0~19~39	EMR信号を受信したときの音量を設定したいとき	

※太字は、工場出荷時の状態で表示される各項目の初期値です。

スピーチ		音声アナウンスについて設定します		
		設定範囲		使用状況
受信コールサインスピーチ		OFF/ ON (カーチャック) /ON (全て)		受信した相手局のコールサインを自動で読み上げるとき
RX>CSスピーチ		OFF/ ON		RX>CS で応答したとき、相手局のコールサインを自動で読み上げるとき
スピーチ言語		英語/ 日本語		音声アナウンスの発音言語
アルファベット		標準 /フォネティックコード		「アルファ、ブラボー、チャーリー…」の読み上げに変更したいとき
スピーチ速度		遅い/ 速い		読み上げる速度を変更したいとき
スピーチレベル		0~ 7 ~9		読み上げる音量を変更したいとき

DTMF/T-CALL		DTMFメモリー機能について設定します		
		設定範囲		使用状況
DTMFメモリー		T-CALL/ d0 :~d9:/dA:~dD:/d*/:d#:		DTMF信号を保存したいとき
DTMFスピード		100ms /200ms/300ms/500ms		DTMF信号を送出する時間を変更するとき

10 MENU画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

機能設定		各種機能を設定します	設定範囲	使用状況
	パワーセーブ		OFF/ オート(短) /オート(中)/オート(長)	電池の消費電流を抑えて少しでも長く運用したいとき
	モニター		プッシュ /ホールド	[SQL]操作時の動作を変更したいとき
	ダイヤル加速		OFF/ ON	[DIAL]、[VOL]の可変速度を変更したいとき
	オートレピータ		OFF/ ON	周波数が レピータ の周波数帯に設定されたとき、DUP/TONEを自動で設定したいとき
	シンプルマイク		シンプル/ ノーマル1 /ノーマル2	HM-75LSで操作できる機能を変更するとき
	キーロック		ノーマル /SQL除く/VOL除く/全て	キーロック時に、[SQL]や[VOL]もロックしたいとき
	PTTロック		OFF/ ON	[PTT]操作による送信を禁止したいとき
	ビジーロックアウト		OFF/ ON	受信中だけ、[PTT]による送信を禁止したいとき
	タイムアウトタイマー		OFF/1分/3分/ 5分 /10分/15分/30分	連続送信できる時間を制限したいとき
	マイクゲイン(内部)		1~ 3 ~4	内蔵マイクの感度を調整したいとき(数字の小さいほど感度が低く声が小さい)
	マイクゲイン(外部)		1~ 2 ~4	外部マイクの感度を調整したいとき(数字の小さいほど感度が低く声が小さい)
	データスピード		4800bps/ 9600bps	[DATA]ジャックに接続された外部機器間との伝送速度を設定したいとき
VOX	VOX		OFF/ ON	ヘッドセット使用時に、マイクロホンに向かって呼びかけるだけで、送信されるようにしたいとき
	VOXゲイン		OFF/1~ 5 ~10	ヘッドセットのマイク感度の設定を変更したいとき ※感度が設定値以上になると送信、設定値以下になると送信を停止します
	VOXディレイ		0.5秒 /1.0秒/1.5秒/2.0秒/2.5秒/3.0秒	VOX機能使用時、音声入力が無くなってからも送信状態を保持する時間
	VOXタイムアウトタイマー		OFF/1分/2分/ 3分 /4分/5分/10分/15分	VOX機能使用時、連続で送信する時間を制限したいとき
	ヘッドセット選択		HS-95/ その他	VOX機能で使用するヘッドセットを変更したいとき
CI-V	CI-Vアドレス		01~ 84 ~DF	外部コントロールするときのアドレスを設定するとき
	CI-Vボーレート		300/1200/4800/9600/19200/ オート	パソコンと接続して通信するときの速度を設定したいとき
	CI-Vトランシーブ		OFF/ ON	外部機器と連動して制御したいとき

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

ディスプレイ設定 表示関係を変更するときに設定します

	設定範囲	使用状況
バックライト	OFF/ON/オート/オート(外部電源:ON)	ディスプレイやキーの照明(点灯)方法を変更したいとき
バックライトタイマー	5秒/10秒	バックライトの点灯時間を変更したいとき
LCDディマー	明るい/暗い	バックライトの明るさを変更したいとき
LCDコントラスト	1~8~16	表示の濃淡を変更したいとき(淡い~濃い)
ビジーLED	OFF/ON	電池の消費電流を抑えるため、受信時のランプを消灯させたいとき
受信コールサイン表示	OFF/オート/オート(受信ホールド)	DV信号受信時に、相手局コールサインの表示のしかたを変更したいとき
受信メッセージ表示	OFF/オート	DVモードで受信したメッセージを表示したいとき
DV受信バックライト	OFF/ON	DV信号受信時にバックライトを点灯させたくないとき
送信コールサイン表示	OFF/相手局/自局	DVモードで送信時の表示内容(自局または相手局のコールサイン)を変更したいとき
スクロール速度	遅い/速い	スクロール速度を変更したいとき
オープニングメッセージ	OFF/ON	電源を入れたときのオープニングメッセージを表示したいとき
電圧表示	OFF/ON	電源を入れたときに電圧を表示したいとき
表示言語	英語/日本語	設定項目の表示言語を変更したいとき ※「システム言語」の設定が優先されます。
システム言語	英語/日本語	本製品で使える言語を変更したいとき

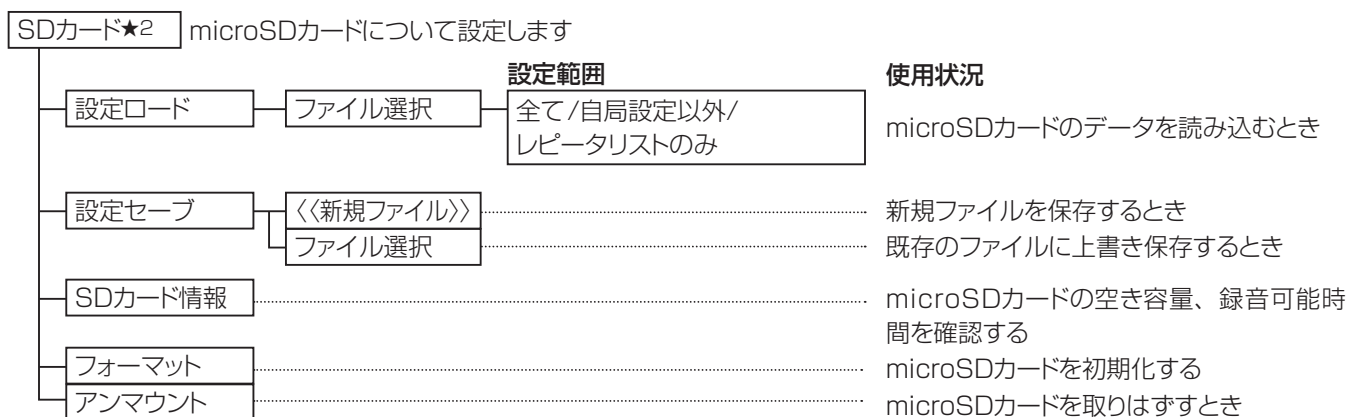
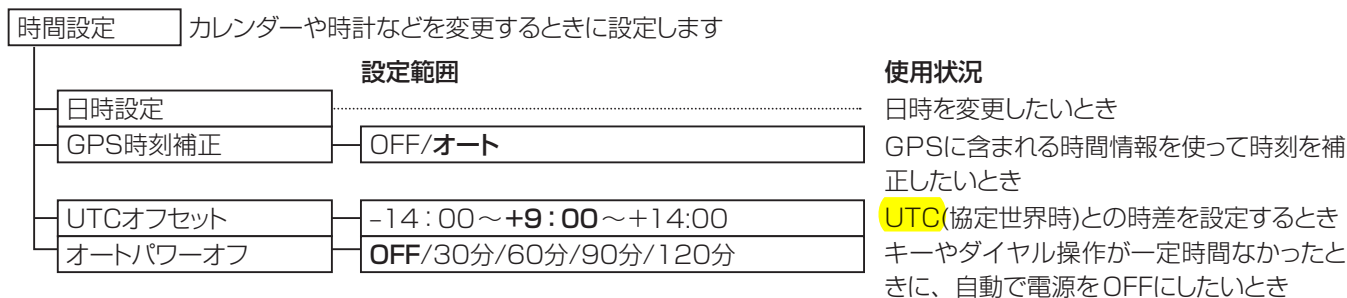
サウンド設定 操作音などを変更するときに設定します

	設定範囲	使用状況
ビープレベル	0~3~9	キー操作時やポケットビープ機能動作時の音量を変更したいとき
BEEP/VOLレベル連動	OFF/ON	操作音と受信音の音量を別々に設定したいとき
操作音	OFF/ON	キー操作音や各種機能動作時のビープ音を出したくないとき
スキャンストップビープ	OFF/ON	スキャン一時停止時にビープ音を鳴らしたいとき
スタンバイビープ	OFF/ON/ON(自局宛て:高音)	DVモード時に、相手局が話し終わったあとに鳴る「ピツ」という音を消したいとき
スコープAF出力	OFF/ON	バンドスコープ機能使用時、スイープ中の受信音を出したくないとき

10 MENU画面について

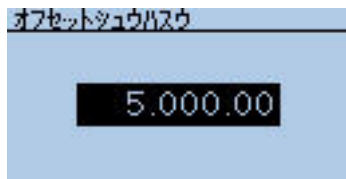
■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態で表示される各項目の初期値です。



★2 あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

■ DUP/トーン設定について



オフセット周波数

(初期設定：5.000.00)

DUP/トーン設定 > オフセット周波数(オフセットシユウハスウ)

レピータ運用やデュプレックス運用時に使用するシフト幅を設定します。

- 0.000.00～59.995.00 (MHz)の範囲で設定する

※VFOモードで設定しているチューニングステップで、シフト幅が切り替わります。
(☞冊子版取扱説明書の19ページ)

※[V/MHz] (CLR/MHz)を押すごとに、1MHzステップと10MHzステップを切り替えます。

※シフト方向(DUP+/DUP-)は、QUICK MENU画面で設定します。(☞P1-5)



レピータトーン周波数

(初期設定：88.5)

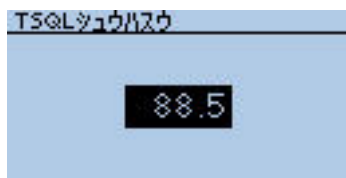
DUP/トーン設定 > レピータトーン周波数(レピータトーンシユウハスウ)

レピータ運用などで使用するレピータトーン(トーンエンコーダー)の周波数(Hz)を設定します。

- 67.0～254.1 (50波)の中から選択する(下表参照)

トーン周波数(Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	



TSQL周波数

(初期設定：88.5)

DUP/トーン設定 > TSQL周波数(TSQLシユウハスウ)

トーンスケルチ運用で使用するトーンエンコーダー/デコーダーの周波数(Hz)を設定します。

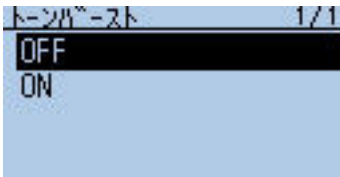
- 67.0～254.1 (50波)の中から選択する(下表参照)

トーン周波数(Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

10 MENU画面について

■ DUP/トーン設定について(つづき)



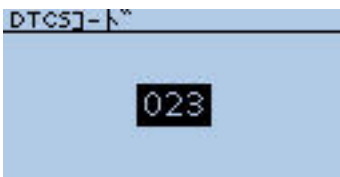
トーンバースト

(初期設定：OFF)

DUP/トーン設定 > トーンバースト(トーンバースト)

トーンスケルチ運用時、送信から受信に切り替えたときに通話相手のスピーカーから一瞬出る「ザツ」という不快なノイズ(雑音)を抑える機能です。

- OFF : トーンバースト機能を無効にする
- ON : トーンバースト機能を有効にする



DTCSコード

(初期設定：023)

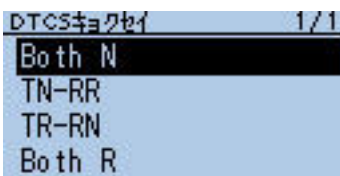
DUP/トーン設定 > DTCSコード(DTCSコード)

DTCSスケルチ運用で使用するDTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定します。

- 023～754(104コード)の中から選択する(下表参照)

DTCSコード

023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	



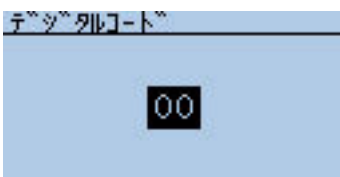
DTCS極性

(初期設定：Both N)

DUP/トーン設定 > DTCS極性(DTCSキョクセイ)

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、コードの送または検出の位相を設定します。

- Both N : 送信/受信とも反転しない
- TN-RR : 送信側は反転しないで、受信側を反転する
- TR-RN : 送信側を反転し、受信側は反転しない
- Both R : 送信/受信とも反転する



デジタルコード

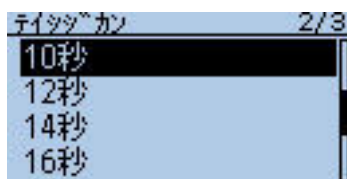
(初期設定：00)

DUP/トーン設定 > デジタルコード(デジタルコード)

デジタルコードスケルチ運用に使用するコードを設定します。

- 00～99の範囲で設定する

■ スキャン設定について



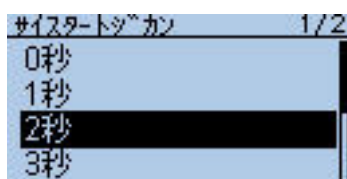
停止時間

(初期設定：10秒)

スキャン設定 > 停止時間(テイジジカン)

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎると再スタートします。

- 2秒～20秒(2秒ステップ)
 - ：停止中に信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再スタートする
- ホールド：信号を受信中は一時停止をつづけ、信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再スタートする



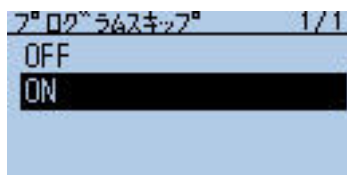
再スタート時間

(初期設定：2秒)

スキャン設定 > 再スタート時間(サイスタートジカン)

スキャンが一時停止後、受信信号が途切れてからの再スタートの条件(時間)を設定する項目です。

- 0秒：信号がなくなると同時に再スタートする
- 1秒～5秒：信号がなくなると1秒～5秒の各設定時間後に、再スタートする
- ホールド：信号がなくなっても一時停止状態を保持する
 - ※再スタートするときは、[DIAL]を操作します。
 - ※「停止時間」が2秒～20秒の場合、スキャン一時停止タイマーを優先して再スタートします。



プログラムスキップ

(初期設定：ON)

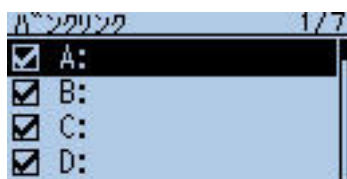
スキャン設定 > プログラムスキップ(プログラムスキップ)

VFOスキャン時に、「PSKIP」を指定したM-CHの登録周波数を飛び越す(スキップする)、プログラムスキップ機能を設定します。

- OFF：プログラムスキップスキャンを運用しない
- ON：VFOモードのスキャン時に、「PSKIP」を指定しているM-CHの登録周波数をスキップする



スキップ設定ON時
(チャンネル番号の上に「PSKIP」を表示)



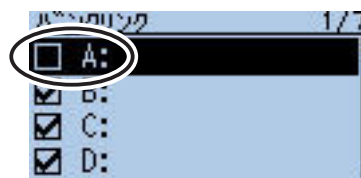
バンクリンク

(初期設定：A:☑～Z:☑)

スキャン設定 > バンクリンク(バンクリンク)

バンクリンクスキャンで、リンクするバンクを選択します。

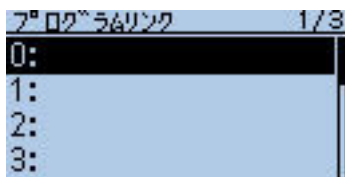
- A～Zの中から選択し、決定キーを押してリンク機能を「ON/OFF」する



(AバンクをOFFに設定)

10 MENU画面について

■ スキャン設定について(つづき)



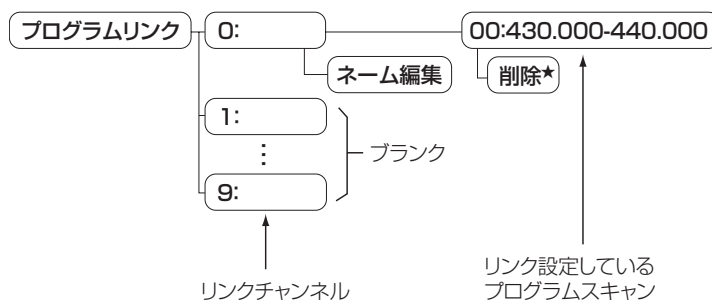
プログラムリンク

(初期設定：下図参照)

スキャン設定 > プログラムリンク(プログラムリンク)

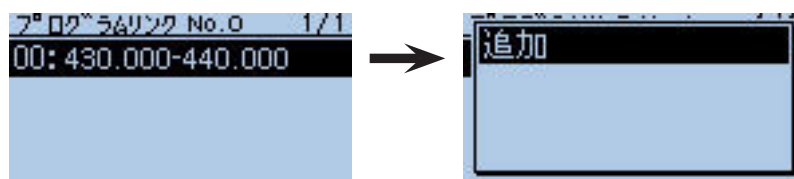
プログラムリンクスキャンで、複数のプログラムスキャン(00~24)をリンクチャンネル(0~9)に設定します。

工場出荷時のプログラムリンク階層

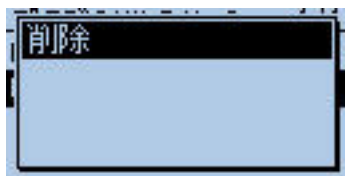
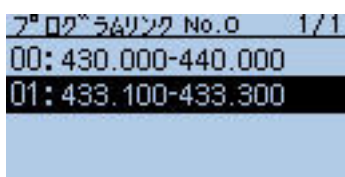
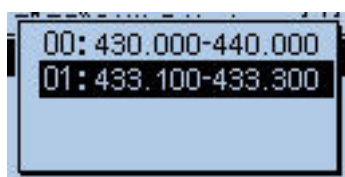
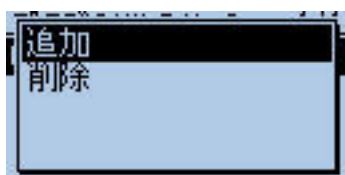


工場出荷時、「プログラムリンク No.0」に、「00:430.000-440.000」をリンク設定しています。

★プログラムスキャン(※P7-2)を複数設定すると、リンクを追加できます。

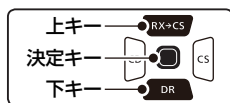


※2組以上のプログラムスキャン(※P7-4)が書き込まれていないとき、または選択したリンクチャンネルに追加できるプログラムスキャン(00~24)がないときは、「追加」が表示されません。



〈リンク設定のしかた〉

① 上下キーでリンクチャンネル(0~9)を選択し、**決定キー**を押します。



② **QUICK MENU**を押します。

③ 上下キーで「追加」を選択し、**決定キー**を押します。

④ 上下キーで登録されているプログラムスキャン(00~24)を選択し、**決定キー**を押します。(例 01:433.100-433.300)

⑤ **[MENU]** **MENU**を押すと、MENU画面を解除します。

〈リンク解除のしかた〉

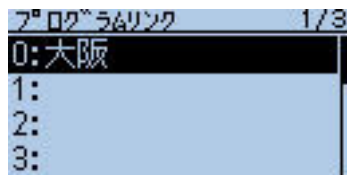
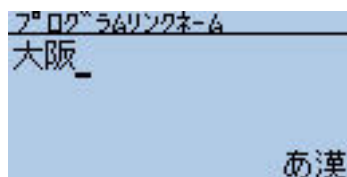
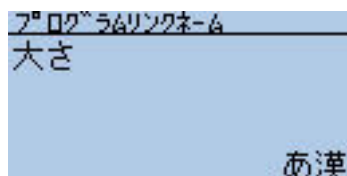
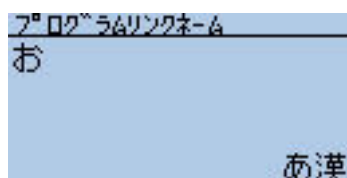
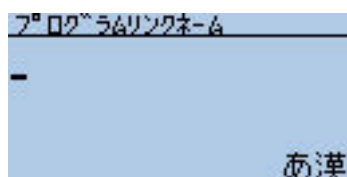
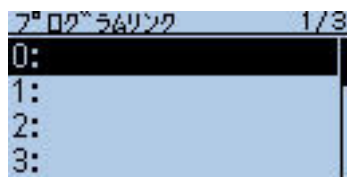
① 上下キーでリンクチャンネル(0~9)を選択し、**決定キー**を押します。

② 上下キーでリンクされているプログラムスキャン(00~24)を選択します。(例 01:433.100-433.300)

③ **QUICK MENU**を押します。

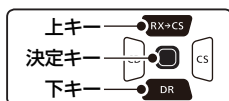
④ 上下キーで「削除」を選択し、**決定キー**を押します。

⑤ **[MENU]** **MENU**を押すと、MENU画面を解除します。



〈リンクネームの編集〉

① 上下キーでリンクチャンネル(0～9)を選択します。

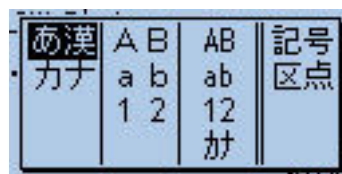


② **QUICK** を押します。

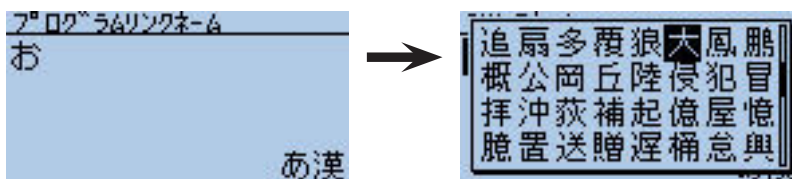
③ **決定キー** を押して、編集モードに入ります。

④ **[DIAL]** を回し、1桁目の文字を選択します。(例 お)

- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、および記号です。
- 文字を選択していない状態で **QUICK** を押すと、入力モード選択画面を表示します。
上下キーで入力モードを選択し、**決定キー** で確定します。



- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、**QUICK** を押すと、文字一覧を表示します。
文字を選択し、**決定キー** で確定します。(例 お→大)



- **[CLR]** (**CLR** **LOW**) を押すと、選択した文字を削除できます。
カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。
また、**[CLR]** (**CLR** **LOW**) を押しつづけると、連続して削除できます。
- **[DR]** を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。
- 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、**QUICK** を押すと選択できます。
- ※“カナ”入力の場合は、文字を選択して、**QUICK** を押すごとに切り替わります。

⑤ **[D]** または **[S]** を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

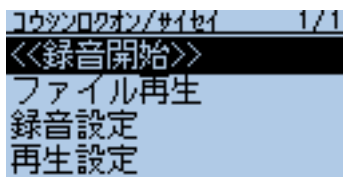
⑥ 手順④、⑤を繰り返し、全角8文字(半角16文字)文字以内(スペース含む)でネームを入力します。(例 2桁: 阪)

⑦ **決定キー** を押して、ネームを登録します。

⑧ **[MENU]** (**MENU** **LOW**) を押すと、MENU画面を解除します。

10 MENU画面について

■ 音声メモ(録音/再生機能)について



《録音開始》

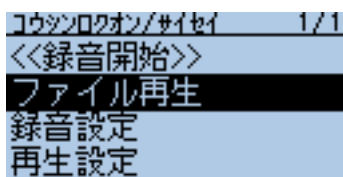
音声メモ > 交信録音/再生 > 《録音開始》

決定キーを押すと、「録音を開始しました。」を表示して、交信内容(音声)の録音を開始します。

録音中は、「《録音停止》」が表示されます。

※あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

※一度録音を開始すると、録音停止操作をするまでは電源を入れなおしても録音状態は保持されます。



ファイル再生

音声メモ > 交信録音/再生 > ファイル再生(ファイルサイセイ)

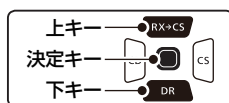
microSDカードに保存された交信内容(音声)を再生するときに操作します。

決定キーを押すと、microSDカードに保存されたファイルが格納されているフォルダーを表示します。

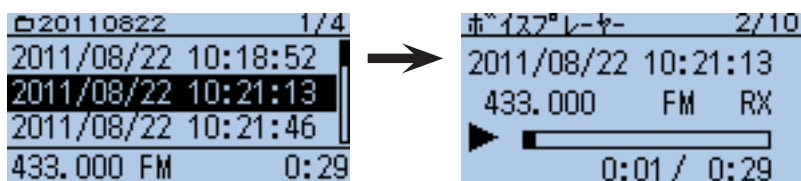
※あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

《再生のしかた》

- ① 上下キーで再生したいファイルが格納されているフォルダーを選択して、決定キーを押します。



- ② 上下キーで再生したいファイルを選択し、決定キーを押します。



- 「ボイスプレーヤー」画面を表示して、選択したファイルを再生します。
 - 早送りや巻き戻しのしかたなどは、「再生中の操作について」(P6-5)をご覧ください。
- ③ [MENU] (MENU) または [CLR] (CLR) を押すと、再生を停止します。
 - ファイル一覧表示に戻ります。

【ご参考】

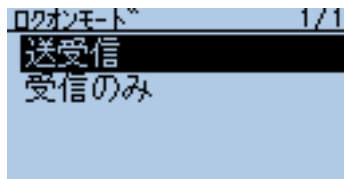
◎ microSDカードに作成されるフォルダー名は、下記のようになります。

例) 2011年9月1日の録音：20110901

◎ フォルダーの中に作成されるファイル名は、下記のようになります。

例) 2011年9月1日15時30分00秒の録音：20110901_153000

- 録音した音声は、Wav形式のファイルで保存されます。
※ID-31上では、拡張子は表示されません。
- microSDカードに保存された音声は、パソコンでも再生できます。



録音モード

(初期設定：送受信)

音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > 録音モード(ロクオンモード)

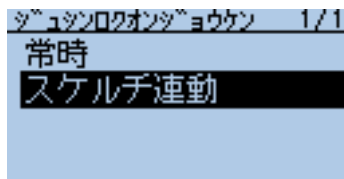
工場出荷時、相手局からの受信信号、自局の送信信号の両方を録音できるように設定されています。

- 送受信：送信と受信の音声をmicroSDカードに録音する
- 受信のみ：受信した音声だけをmicroSDカードに録音する

【録音中に送信したとき】

「ファイル分割」の設定が“OFF”のときは、録音を一時停止する

「ファイル分割」の設定が“ON”のときは、新しいファイルを作成する



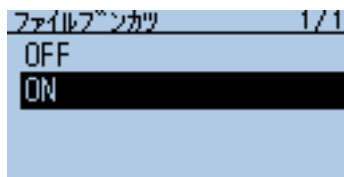
受信録音条件

(初期設定：スケルチ連動)

音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > 受信録音条件(ジューシンロクオンジョウケン)

受信時にスケルチの状態に連動して録音するかどうか設定します。

- 常時：受信信号の有無に関わらず録音する
- スケルチ連動：信号を受信しているあいだ(スケルチが開いているあいだ)だけ録音する
※スケルチが閉じた直後は、2秒間録音を継続します。



ファイル分割

(初期設定：ON)

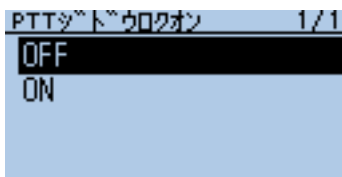
音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > ファイル分割(ファイルブンカツ)

録音を開始したときに作成されるファイルについて設定します。

- OFF：録音を開始すると、作成されたファイルに録音をつづける
※ファイル容量が2GBを超えるときは、新しく作成されたファイルで録音をつづけます。
- ON：送信→受信、受信→送信に切り替わったとき、およびスケルチがいったん閉じたとき(受信録音条件がスケルチ連動のときのみ)、新しいファイルが作成されて録音する

10 MENU画面について

■ 音声メモ(録音/再生機能)について(つづき)



PTT自動録音

(初期設定：OFF)

音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > PTT自動録音(PTTジドウロクオン)

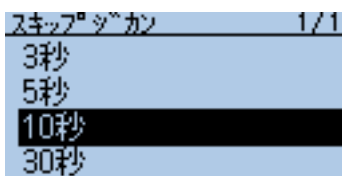
[PTT]を押すと、交信内容(音声)の録音を開始する機能です。

※スピーカーマイクロホン、VOX機能、CI-Vからの送信でも自動録音を開始できます。

- OFF：[PTT]を押しても、録音をしない
- ON：[PTT]で録音を開始し、以下の条件で録音状態を停止する

【停止条件】

- ◎ [PTT]をはなしてから、10秒以上送信しないとき
- ◎ [PTT]をはなしてから、10秒以上受信信号がないとき
- ◎ [PTT]をはなしてから、周波数、運用モードを変更したとき



スキップ時間

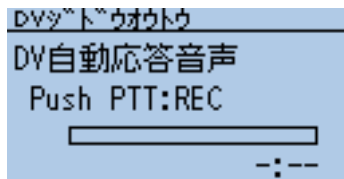
(初期設定：10秒)

音声メモ > 交信録音/再生 > 再生設定 > スキップ時間(スキップジカン)

録音した交信内容(音声)の再生中、早送りや巻き戻しをしたときに移動する時間を設定します。

- 3秒/5秒/10秒/30秒から選択する

※早送りや巻き戻しのしかたなどは、「再生中の操作について」(P6-5)をご覧ください。



DV自動応答

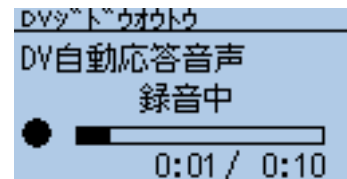
音声メモ > DV自動応答 > (DVジドウオウトウ)

自動応答機能(☞P4-10)で送出する応答用音声を最大10秒録音できます。
 ※あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

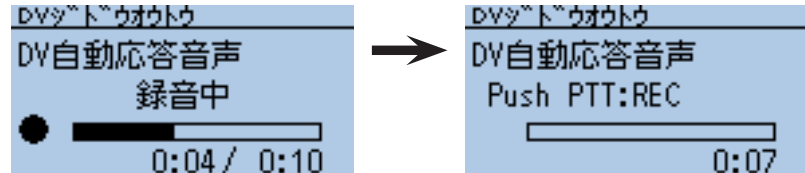
〈録音のしかた〉

① [PTT]を押しながら、内蔵マイクに向かって、自動応答で送りたい内容を話します。

※内蔵マイクと口元は約5cmはなし、普通の大きさの声で話してください。

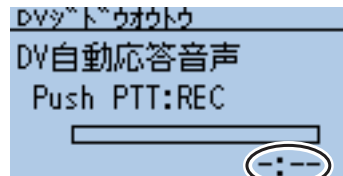


② [PTT]をはなすか、録音時間が10秒を超えると録音を停止します。

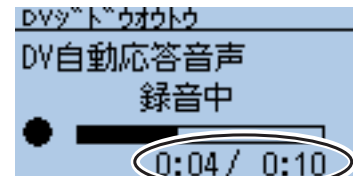


【ご参考】

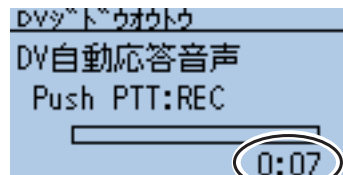
録音状態により、下記のように時間表示が異なります。



未録音時
(録音ファイルが存在しないとき)



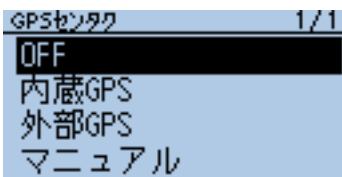
現在の録音時間/最大録音時間
(録音中)



録音時間(録音停止時)

10 MENU画面について

■ GPSについて



GPS選択

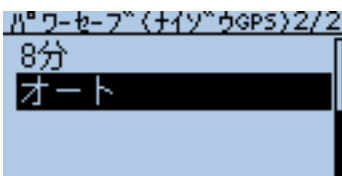
(初期設定：OFF)

GPS > GPS設定 > GPS選択(GPSセンタク)

自局の位置情報を取得する方法を設定します。

- OFF : GPSレシーバーからの位置情報を使用しない
- 内蔵GPS : 本製品に内蔵のGPSレシーバーからの位置情報を自動で取得する
- 外部GPS : 本製品に接続したGPSレシーバーからの位置情報を自動で取得する
- マニュアル : 自局の位置情報(緯度/経度/高度)を手動で入力する

※“外部GPS”に設定すると、簡易データ通信(☞P4-12)ができませんのでご注意ください。



パワーセーブ(内蔵GPS)

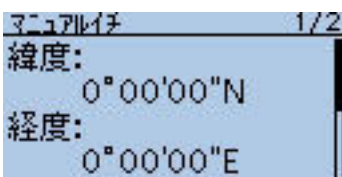
(初期設定：オート)

GPS > GPS設定 > パワーセーブ(内蔵GPS)(パワーセーブ(ナイズウGPS))

未測位状態が5分つづくとき一時的に内蔵GPSの電源を切る、パワーセーブ機能を設定します。

設定した時間を経過すると、衛星の捕捉を再開し、また未測位状態が5分つづけば、繰り返し内蔵GPSの電源を切ります。

- OFF : 内蔵GPSの電源を切らない
- 1分 : 未測位状態が5分つづくとき、1分内蔵GPSの電源を切る
- 2分 : 未測位状態が5分つづくとき、2分内蔵GPSの電源を切る
- 4分 : 未測位状態が5分つづくとき、4分内蔵GPSの電源を切る
- 8分 : 未測位状態が5分つづくとき、8分内蔵GPSの電源を切る
- オート : 未測位状態が5分つづくとき、1回目は1分、2回目は2分、3回目は4分、4回目以降8分内蔵GPSの電源を切る



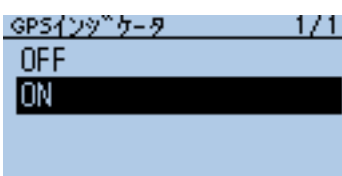
マニュアル位置

(初期設定：緯度：0°00'00"N 経度：0°00'00"E 高度：-----m)

GPS > GPS設定 > マニュアル位置(マニュアルイチ)

自局の位置情報として、緯度経度、高度を手動で入力します。

※「GPSセンタク」画面で“内蔵GPS”や“外部GPS”を設定し、GPSレシーバーからの位置情報を取得できているときは、QUICK MENU画面の“GPSから取り込み”を選択すると、測位した自局の位置情報をコピーできます。(☞P5-2)



GPSインジケータ

(初期設定：ON)

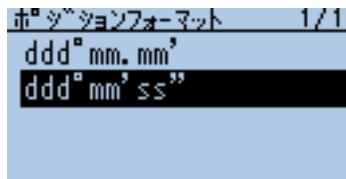
GPS > GPS設定 > GPSインジケータ(GPSインジケータ)

画面上部に表示される、自局位置の測位状況を示すGPSインジケータ(☞)について設定します。

- OFF : 測位状況に関わらず、GPSインジケータを表示しない
- ON : 測位状況に応じて、GPSインジケータが消灯/点滅/点灯する

GPS選択	未接続時	接続/未測位時	接続/測位中
内蔵GPS	—	点滅	点灯
外部GPS	消灯	点滅	点灯

※マニュアル設定時は表示しません。

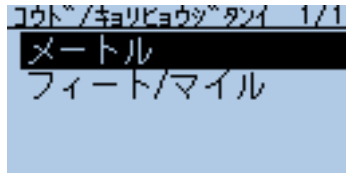


ポジションフォーマット (初期設定：ddd° mm' ss'')

GPS > GPS設定 > ポジションフォーマット(ポジションフォーマット)

画面に表示する位置情報の表示形式を設定します。

- ddd° mm.mm' : 位置情報を「度/分(小数点)」で表示する
- ddd° mm' ss'' : 位置情報を「度/分/秒」で表示する

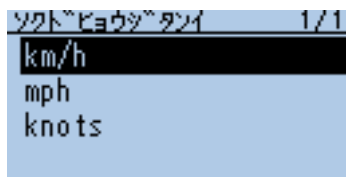


高度/距離表示単位 (初期設定：メートル)

GPS > GPS設定 > 高度/距離表示単位(コウド/キョリヒョウジタンイ)

高度や相手局との距離を示す長さの表示単位を設定します。

- メートル : メートル法で表示する
- フィート/マイル : ヤード・ポンド法で表示する

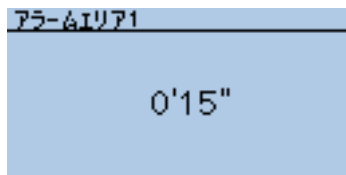


速度表示単位 (初期設定：km/h)

GPS > GPS設定 > 速度表示単位(ソクドヒョウジタンイ)

移動速度の表示単位を設定します。

- km/h : メートル法で表示する
- mph : ヤード・ポンド法で表示する
- knots : 船の速度の単位(ノット)で表示する



アラームエリア1 (初期設定：0'15'')

GPS > GPS設定 > アラームエリア1(アラームエリア1)

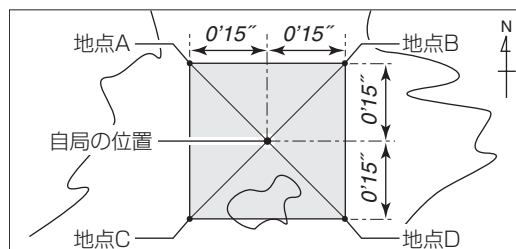
GPSアラームを鳴らす範囲を設定します。

自局の現在地を中心に、東西南北にそれぞれ設定した値(距離)の範囲(正方形)を監視し、GPSアラームを設定した局がその範囲に入るとアラームが鳴ります。
 ※GPSアラームを“全て”、または“A:~Z:”(メモリーバンク)に設定しているときに有効な機能です。(※P5-14)

位置情報の表示形式は「ポジションフォーマット」画面の設定によります。

- ddd° mm.mm' 表示形式の場合
0.08' ~ 59.99' の範囲(0.01' ステップ)で設定する
- ddd° mm' ss'' 表示形式の場合
0' 05" ~ 59' 59" の範囲(0' 01" ステップ)で設定する

【例】 自局の位置 : 35°00' 00" N/135°00' 00" E
 アラームエリア1: 0' 15" (初期設定値)



地点Aの位置 : 35°00' 15" N/134°59' 45" E

地点Bの位置 : 35°00' 15" N/135°00' 15" E

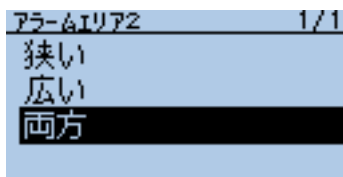
地点Cの位置 : 34°59' 45" N/134°59' 45" E

地点Dの位置 : 34°59' 45" N/135°00' 15" E

上図のエリア(網掛け部)に対象となる局が入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

10 MENU画面について

■ GPSについて(つづき)



アラームエリア2

(初期設定：両方)

GPS > GPS設定 > アラームエリア2(アラームエリア2)

GPSアラームを鳴らす範囲を設定します。

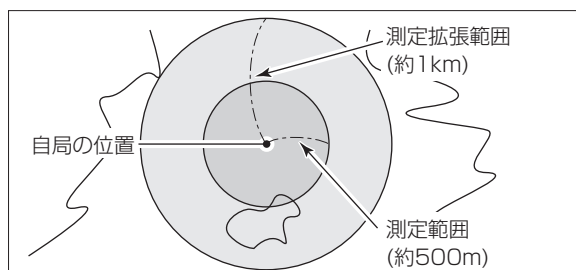
自局の現在地を中心に、設定された値(距離)の範囲(円形)を監視し、GPSアラームを設定した局がその範囲に入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

※GPSアラームを“受信”、または特定のGPSメモリーチャンネルに設定しているときに有効な機能です。(※P5-15)

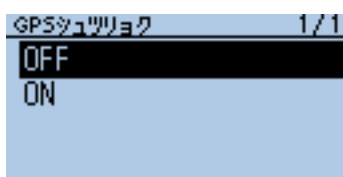
- 狭い：GPSアラームを設定した局が半径約500m圏内に入ると、ビープ音が3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
- 広い：GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入ると、ビープ音が3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
- 両方：GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入ると、ビープ音が1回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
半径約500m圏内に入るとビープ音を3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する

なお、500m圏内から出て約1km以内にいる場合は、GPSアラーム表示だけが点滅する

【例】



上図のエリア(網掛け部)に対象となる局が入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。



GPS出力

(初期設定：OFF)

GPS > GPS設定 > GPS出力(GPSシュツリョク)

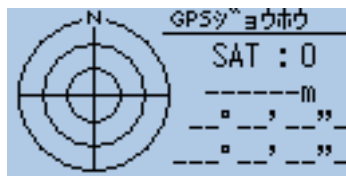
本製品に内蔵のGPSレシーバー、または本製品に接続したGPSレシーバーからの位置情報を[DATA]ジャックから出力するための設定です。

- OFF：[DATA]ジャックからGPSデータを出力しない
- ON：[DATA]ジャックからGPSデータを出力する

【ご参考】

「GPSセンタク」画面で“OFF”や“マニュアル”を設定すると、[DATA]ジャックからは何も出力しません。

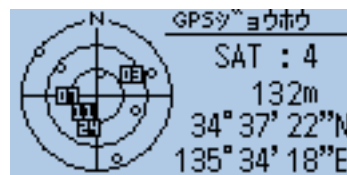
また、[DATA]ジャックから簡易データ(※P4-12)を出力したい場合は、この設定を“OFF”にします。



GPS情報

GPS > GPS情報(GPSジョウホウ)

GPS衛星の存在する方位/仰角、衛星番号や受信状態を表示します。(P5-7)

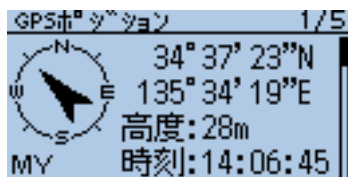


例：追尾衛星4個

○(白丸)	未追尾衛星
通常文字(例：01)	追尾衛星(信号弱)
反転文字(例： 01)	追尾衛星(信号強)
SAT	追尾衛星数(0～12)
高度	-----m(未測位/2D(追尾衛星3個)/ 測位結果(追尾衛星4個以上))
緯度	--°--'---"- (未測位)/測位結果
経度	---°--'---"- (未測位)/測位結果

10 MENU画面について

■ GPSについて(つづき)

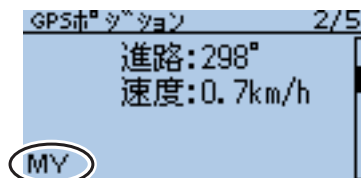


GPSポジション

GPS > GPSポジション(GPSポジション)

自局、相手局、GPSアラーム設定の位置情報を表示します。(☞P5-3)

上下キーを押すと、画面がスクロールして、「MY」画面、「RX」画面、「MEM」画面を確認できます。



「MY」画面

「MY」画面(自局の位置情報)

コンパス★	自局の進行方向
緯度	自局の緯度
経度	自局の経度
高度★	自局の高度
GL★	自局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケーター
時刻	GPSで受信している現在の時刻
進路	自局の進行方向(角度)
速度	自局の移動速度

※マニュアルで自局の位置情報を設定(☞P10-21)しているときは、緯度、経度、高度、GL(グリッド・ロケーター)、時刻(内部時計)を表示します。

「RX」画面(相手局の位置情報)

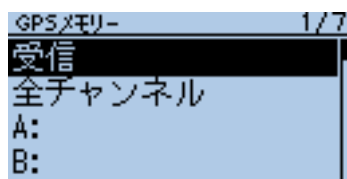
コンパス★	自局から見た相手局の方向
コールサイン	相手局のコールサイン
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
距離★	相手局との距離
GL★	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケーター
SSID	相手局のSSID(GPS-Aのみ)
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
高度	相手局の高度
GPS-Aシンボル	相手局のGPS-Aシンボル(GPS-Aのみ)

※自局の位置情報がない場合は表示しません。

「MEM」画面(GPSアラーム設定の位置情報)

コンパス★	自局から見たGPSメモリーの方向
緯度	GPSメモリーに設定した緯度
経度	GPSメモリーに設定した経度
距離★	自局との距離
GL★	GPSメモリーに設定した緯度/経度から計算したグリッド・ロケーター
GPSメモリーネーム	GPSメモリーに設定しているネーム

★印は、QUICK MENU画面で表示を切り替えられる項目です。



GPSメモリー

GPS > GPSメモリー (GPSメモリー)

GPSポジション(☞P10-24)や受信履歴(☞P10-36)の位置情報、よく利用する場所の位置情報の追加など、最大100CHまでGPSメモリーを登録できます。

GPSメモリーの表示内容

受信	—
全チャンネル	登録されているすべてのGPSメモリー
A～Z:バンクネーム	各バンクに登録されているGPSメモリー

※QUICK MENU画面で、GPSアラート設定を“ON/OFF”できます。
(☞P5-14)

GPSメモリーのバンク(A～Z)

バンクネーム	バンクの名称(全角8文字/半角16文字以内)
--------	------------------------

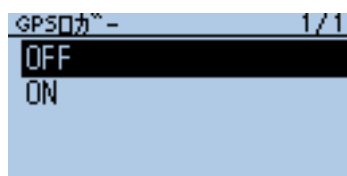
※QUICK MENU画面で、バンクネームを編集できます。(☞P5-12)

GPSメモリーチャンネル(00～99)

GPSメモリーネーム	GPSメモリーチャンネルの名称 (全角8文字/半角16文字以内)
日付	登録した日付
時間	登録した時間
緯度	登録位置(緯度)
経度	登録位置(経度)
バンク	所属しているバンクとバンクの名称

※「GPSポジション」画面から相手局の位置情報を登録したときは、相手局のコールサインがGPSメモリーネームになります。

GPSメモリーネームなど、GPSメモリーの内容はQUICK MENU画面で編集できます。(☞P5-8～P5-11)



GPSロガー

(初期設定：OFF)

GPS > GPSロガー > GPSロガー (GPSロガー)

本製品に内蔵のGPSレシーバー、または本製品に接続したGPSレシーバーからの位置情報を記録するための設定です。

- OFF : GPSレシーバーからの位置情報を記録しない
- ON : GPSレシーバーからの位置情報を記録する

※あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、記録されません。

【ご参考】

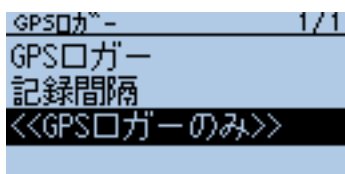
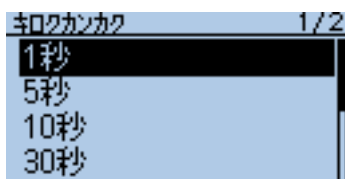
“ON”に設定すると、1秒ごとに4種類のセンテンス(GGA/RMC/GSA/VTG)をNMEAセンテンス形式で、microSDカードにログデータを保存します。保存されるログデータのファイル名は、下記ようになります。

例) 2011年9月1日15時30分00秒から記録を開始した場合：

20110901_153000

10 MENU画面について

■ GPSについて(つづき)



記録間隔

(初期設定：1秒)

GPS > GPSロガー > 記録間隔(キログカンカク)

GPSロガー機能を“ON”に設定したとき、記録する間隔を設定します。

- 1秒/5秒/10秒/30秒/60秒から選択する

<<GPSロガーのみ>>

GPS > GPSロガー > <<GPSロガーのみ>>

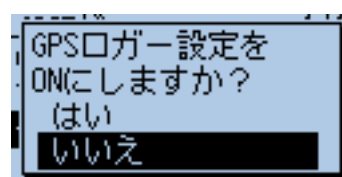
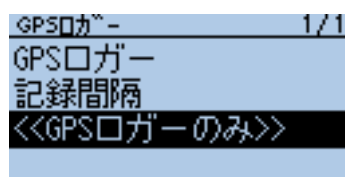
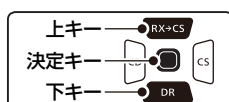
GPSロガー機能だけ動作する専用モードに切り替えられます。

※あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けて、「GPSセンタク」画面で“内蔵GPS”や“外部GPS”を設定しておいてください。

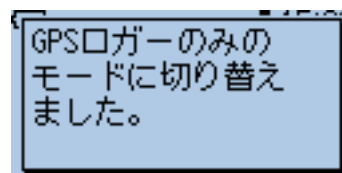
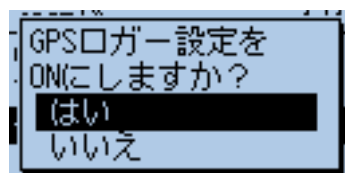
※専用モード中は、無線機として使用できません。

<切り替えかた>

- ① 決定キーを押します。

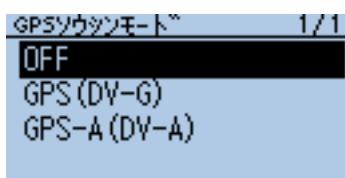


- ② 上下キーで“はい”を選択し、決定キーを押します。



※あらかじめGPSロガー機能を“ON”に設定しているときは、決定キーを押すだけで、専用モードに切り替わります。

※専用モードを解除するときは、電源を入れなおしてください。



GPS送信モード

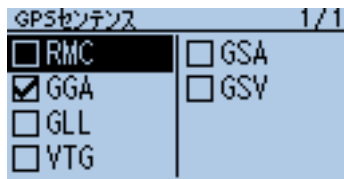
(初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード(GPSソウシンモード)

DVモード運用時、GPSを利用して位置情報を送出するGPS送信モードを設定します。

- OFF : GPSの位置情報を送出しない
- GPS (DV-G) : NMEA方式で、GPSの位置情報を送出する (GPSモード)
- GPS-A (DV-A) : D-PRSに対応する形式で、GPSの位置情報を送出する (GPS-Aモード)

※“GPS (DV-G)”や“GPS-A (DV-A)”に設定すると、簡易データ通信(☞P4-12)ができませんのでご注意ください。



GPSセンテンス

(初期設定：GGA)

GPS > GPS送信モード > GPS (DV-G) > GPSセンテンス (GPSセンテンス)

GPSモードで位置情報を送出するセンテンスを選択します。

本製品で使用できるGPSセンテンスは、“RMC”、“GGA”、“GLL”、“VTG”、“GSA”、“GSV”の6種類ですが、同時に設定できるのは4種類までです。

※「GPSジドウソウシン」画面で“5秒”に設定したあと、4種類のGPSセンテンスを選択すると、“10秒”に自動補正されます。(※P10-33)

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、“VTG”、“GSA”、“GSV”のセンテンスは送出されません。

※「GPSソウシンモード」画面で“OFF”や“GPS-A(DV-A)”を設定しているときは、この項目は表示されません。

ご注意

本製品でGSVセンテンスをONにしてGPSメッセージを送信すると、GSVセンテンス非対応の機種(IC-2820G/DG、ID-800/D、ID-91、IC-U1、IC-V1、ID-1)ではGPSメッセージを正しく表示できません。
この場合は、GSVセンテンスをOFFにしてください。

【ご参考】

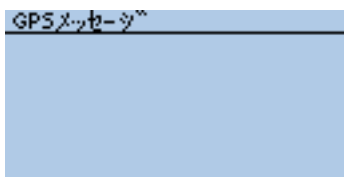
各センテンスで送出される情報について

センテンス	緯度 /経度	高度	協定世界時 (UTC)	年月日	測位 状態	2D /3D	進路 (真北)	速度 (ノット)
RMC	○		○	○	○			
GGA	○	○	○		○			
GLL	○		○		○			
VTG							○	○
GSA					○	○		
GSV								

センテンス	上記以外の情報
RMC	磁気偏差、測位モード
GGA	使用衛星数、HDOP、ジオイド高、DGPS補正情報エイジ、DGPS基準局ID
GLL	測位モード
VTG	進路(磁北)、速度(km/h)、測位モード
GSA	受信衛星PRN番号、PDOP、HDOP、VDOP
GSV	メッセージ総数、メッセージ番号、可視衛星数、衛星情報(衛星番号、仰角、方位角、S/N比)

10 MENU画面について

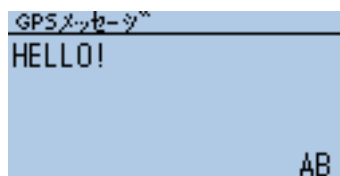
■ GPSについて(つづき)



GPSメッセージ

GPS > GPS送信モード > GPS (DV-G) > GPSメッセージ(GPSメッセージ)

GPSモードで送信するメッセージを20文字(半角カタカナ、英数字、記号)まで入力できます。(※P5-9)

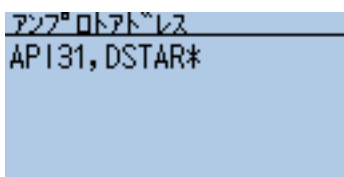


送信メッセージ編集画面

※「GPSソウシンモード」画面で“OFF”や“GPS-A(DV-A)”を設定しているときは、この項目は表示されません。

【ご参考】

GPSモードでメッセージを送信しないときは、QUICK MENU画面で入力したメッセージを削除してください。

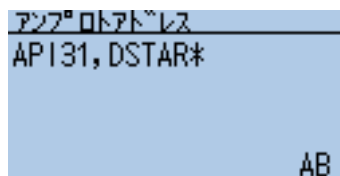


アンプロトアドレス

(初期設定：API31,DSTAR*)

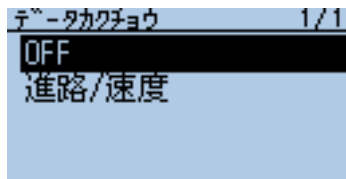
GPS > GPS送信モード > GPS-A(DV-A) > アンプロトアドレス(アンプロトアドレス)

GPS-Aモードで使用するアンプロトアドレスを56文字(半角カタカナ、英数字、記号)まで入力できます。



アンプロトアドレス編集画面

※「GPSソウシンモード」画面で“OFF”や“GPS(DV-G)”を設定しているときは、この項目は表示されません。



データ拡張

(初期設定：OFF)

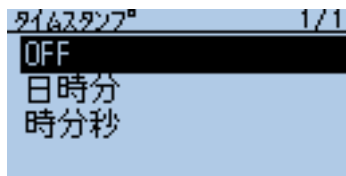
GPS > GPS送信モード > GPS-A(DV-A) > データ拡張(データカクチョウ)

GPS-Aモードで無線機本体の位置情報とともに、進路方向と速度情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- OFF : 進路/速度情報を送出しない
- 進路/速度 : 進路/速度情報を送出する

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、送出されません。

※[GPSソウシンモード]画面で“OFF”や“GPS(DV-G)”を設定しているときは、この項目は表示されません。



タイムスタンプ

(初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード > GPS-A(DV-A) > タイムスタンプ(タイムスタンプ)

GPS-Aモードで位置情報とともに、GPSより取得した時間情報(UTC表示)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- OFF : 時間情報を送出しない
- 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、送出されません。

※[GPSソウシンモード]画面で“OFF”や“GPS(DV-G)”を設定しているときは、この項目は表示されません。



高度

(初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード > GPS-A(DV-A) > 高度(コウド)

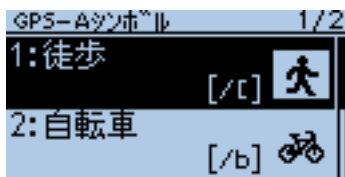
GPS-Aモードで位置情報とともに、GPSより取得した高度情報の送出を設定します。

- OFF : 高度情報を送出しない
- ON : 高度情報を送出する

※[GPSソウシンモード]画面で“OFF”や“GPS(DV-G)”を設定しているときは、この項目は表示されません。

10 MENU画面について

■ GPSについて(つづき)



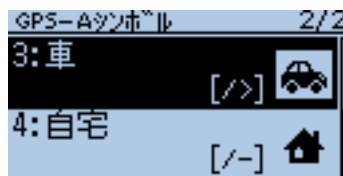
GPS-Aシンボル

(初期設定: 徒歩)

GPS > GPS送信モード > GPS-A(DV-A) > GPS-Aシンボル(GPS-Aシンボル)

GPS-Aシンボルは、自局の運用形態を伝えるためのアイコンです。
 選択したGPS-Aシンボルチャンネル(1～4)に設定されたGPS-Aシンボルが、
GPS-Aモードで位置情報とともに送出されます。

※GPS-Aシンボルチャンネルを切り替えるときは、**上下キー**で選択し、**決定キー**を押します。



「3: 車」選択時

※「GPSソウシンモード」画面で“OFF”や“GPS(DV-G)”を設定しているときは、この項目は表示されません。

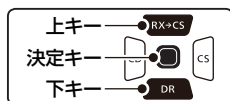
GPS-Aシンボルチャンネルについて

GPS-Aシンボルチャンネルは4チャンネルあり、それぞれにGPS-Aシンボルを設定できます。

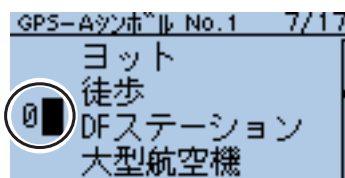
設定するGPS-Aシンボルは、本製品に登録されたGPS-Aシンボルから選択する方法(※P10-31)と任意のGPS-Aシンボル(2文字)を入力する方法があります。

〈任意のGPS-Aシンボル(2文字)を使用する場合〉

- ① 上下キーでGPS-Aシンボルチャンネル(1～4)を選択します。

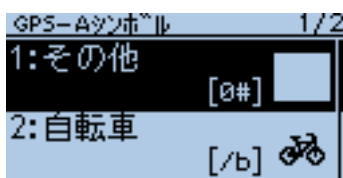


- ② **QUICK MENU** を押し、“シンボルの編集”で**決定キー**を押します。
 ③ **QUICK MENU** を押します。
 ④ 上下キーで“直接入力”を選択して、**決定キー**を押します。
 ⑤ **[DIAL]** を回して、1桁目の文字を選択します。
 ● 1桁目に入力できる文字は、「/」と「¥」、英数字だけです。
 ⑥ **[D]** を押してカーソルを2桁目に移動します。



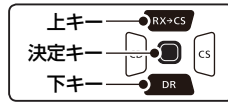
2桁目選択時

- ⑦ **[DIAL]** を回して、2桁目の文字を選択し、**決定キー**を押します。
 ● 2桁目に入力できる文字は、英数字と記号です。
 ⑧ **決定キー**を押して、手順①で選択したチャンネルのGPS-Aシンボルを確定します。
 ⑨ **決定キー**を押して、手順①で選択したチャンネルを確定します。

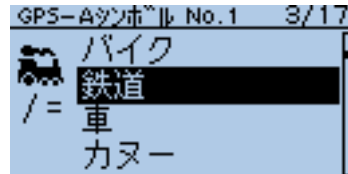


〈登録済のGPS-Aシンボルを使用する場合〉

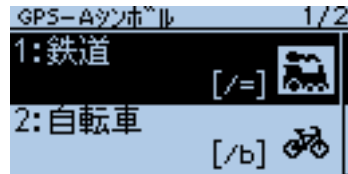
- ① 上下キーでGPS-Aシンボルチャンネル(1～4)を選択します。



- ② **QUICK MENU** を押し、“シンボルの編集”で決定キーを押します。
 ③ 上下キーでGPS-Aシンボルを選択します。



- ④ 決定キーを押して、手順①で選択したチャンネルのGPS-Aシンボルを確定します。
 ⑤ 決定キーを押して、手順①で選択したチャンネルを確定します。



「1：鉄道」選択時

【ご参考】

下記は本製品で使用できるGPS-Aシンボルと名称です。

	警察署		警察		グライダー		衛星
	小型飛行機		RV		病院		晴れ
	赤十字		スペースシャトル		ジープ		無線機
	自宅		SSTV		トラック		飛行機
	×		バス		ノード		RACES
	赤いドット		ATV		犬		強風警告の旗
	火災		ウェザーサービス		ボート		ハムショップ
	キャンプ場		ヘリコプター		大型トレーラー		工事現場
	バイク		ヨット		バン		速度表示
	鉄道		徒歩		八木ANT@QTH		三角形
	車		DFステーション		自宅HF		スモールサークル
	カヌー		大型航空機		?印		船(オーバーレイ)
	アイボール		パラボラアンテナ		サークル		竜巻
	学校		救急車		公園		トラック(オーバーレイ)
	PCユーザー		自転車		車(オーバーレイ)		バン(オーバーレイ)
	気球		消防車		灯台		事故/交通障害

10 MENU画面について

■ GPSについて(つづき)



SSID

(初期設定：---)

GPS > GPS送信モード > GPS-A(DV-A) > SSID (SSID)

自局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS[®]に準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを“-”に置換する
 ※スペース以降に文字がない場合は、“-”に置換せず、スペースを削除する
 例： JA3YUA → JA3YUA
 JA3YUA_A → JA3YUA_A
- (-0) : SSIDを付加しない
 ※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
 例： JA3YUA → JA3YUA
 JA3YUA_A → JA3YUA
- -1 ~ -15 : “-1”から“-15”のSSIDを付加する
 ※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-9)を付加する
 例： JA3YUA → JA3YUA_9
 JA3YUA_A → JA3YUA_9
- -A ~ -Z : “-A”から“-Z”のSSIDを付加する
 ※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-Z)を付加する
 例： JA3YUA → JA3YUA_Z
 JA3YUA_A → JA3YUA_Z

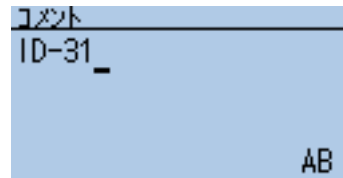
※「GPSソウシンモード」画面で“OFF”や“GPS(DV-G)”を設定しているときは、この項目は表示されません。



コメント

GPS > GPS送信モード > GPS-A(DV-A) > コメント(コメント)

GPS-Aモードで位置情報とともに送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

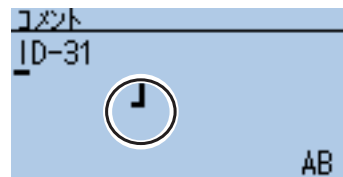


コメント編集画面(43文字以内の場合)

データ拡張(☞P10-29)と高度(☞P10-29)の設定により、コメントに入力できる文字数は異なります。

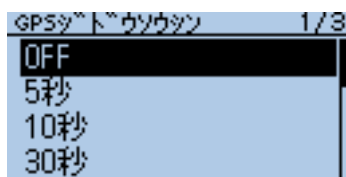
データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	OFF	43文字以内(初期値)
OFF	ON	35文字以内
進路/速度	OFF	36文字以内
進路/速度	ON	28文字以内

※下図のように、“J”(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、“J”以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。



有効範囲表示(28文字以内の場合)

※「GPSソウシンモード」画面で“OFF”や“GPS(DV-G)”を設定しているときは、この項目は表示されません。



GPS自動送信

(初期設定：OFF)

GPS > GPS自動送信(GPSジドウソウシン)

GPSからの位置情報を一定間隔で自動的に送出するGPS自動送信タイマーを設定します。

- OFF : 自局の位置情報を自動送出しない
- 5秒～30分 : 自局のコールサインを設定し、「GPSソウシンモード」画面で“GPS(DV-G)”または“GPS-A(DV-A)”にすると、設定した時間(5秒/10秒/30秒/1分/3分/5分/10分/30分)ごとに位置情報を送出する

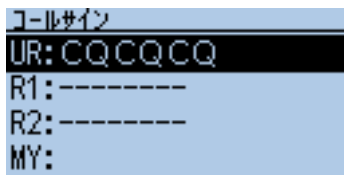
※GPSセンテンス(☞P10-27)を4種類選択した場合は、“5秒”を設定できません。

※“OFF”に設定したときは、[PTT]を押すと自局の位置情報を送出できます。

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、送出されません。

10 MENU画面について

■ コールサインについて



コールサイン

コールサイン(コールサイン)

デジタル通信時に必要なコールサインの確認、または設定する画面です。
 ※DRモード以外では、この画面でデジタル通信時に必要なコールサインを設定します。

シンプレックス運用時(DVモード)

“UR” (P3-5)、“MY” (P2-4)のコールサインだけ設定できます。

レピータ運用時(DV/DRモード)

DRモード時は“MY” (P2-4)のコールサインだけ設定できます。

〈レピータ運用を設定するときは〉

DVモードで、自分がいる場所から平野430(JP3YHH)*にアクセスし、浜町430(JP1YIU)からエリアCQを出す場合を例に説明します。

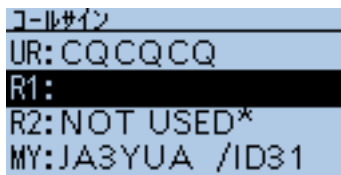
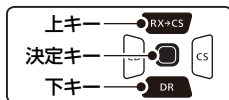
★コールサインの設定をはじめる前に、アクセスするレピータの周波数やデュプレックスを設定しておいてください。(P1章)

【ご参考】

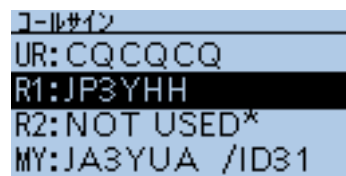
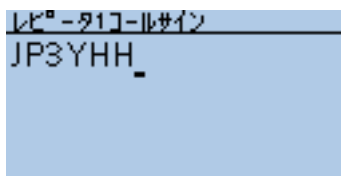
デジタルレピータセット機能(P10-42)を使用すると、レピータのコールサインを自動的に設定できます。

1. コールサイン(R1)を設定する

- ① DVモード時、上下キーで“R1”を選択して、**QUICK MENU**を押します。



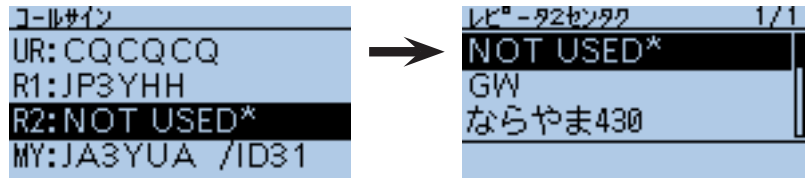
- ② 上下キーで“編集”を選択して、決定キーを押します。
 ③ [DIAL]を回し、1桁目の文字を選択します。
 ● 入力できる文字は、英数字(A～Z、0～9)と「/」です。
 ④ @またはⓈを押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
 ⑤ 手順③、④を繰り返す、8文字以内(スペース含む)でレピータのコールサインを入力します。(例 JP3YHH)
 ⑥ 決定キーを押して、入力したレピータのコールサインを確定します。



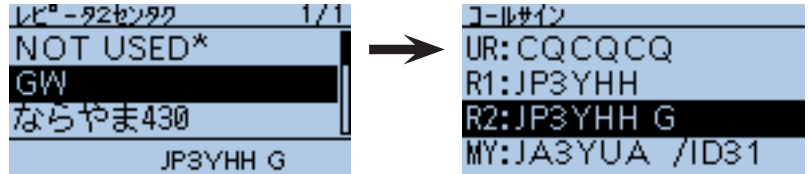
(P次ページにつづく)

2. ゲートウェイ局(R2)を設定する

①上下キーで“R2”を選択して、決定キーを押します。



②上下キーで“GW”を選択して、決定キーを押します。



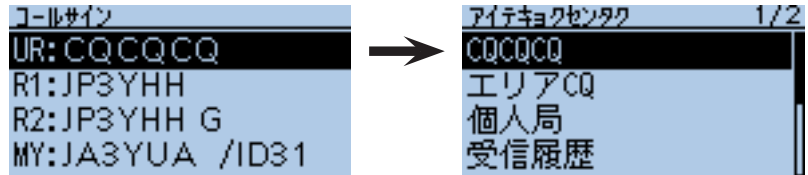
※コールサインを直接編集するときは、手順①で(QUICK)を押します。

「レピータ2 センタク」画面について

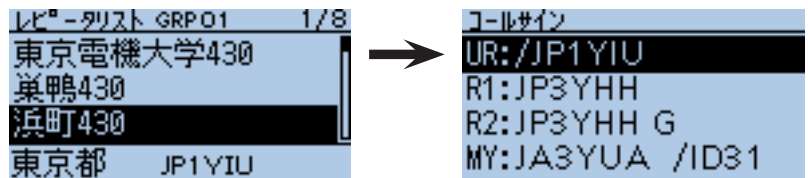
NOT USED*	R2を未使用にする場合（山掛け通信）
GW	レピータリストより、R1のGWコールサインを設定する場合（ゲートウェイ通信）
レピータネーム	R1と同じゾーンからレピータを選択する場合

3. 相手局のコールサイン(UR)を設定する

①上下キーで“UR”を選択して、決定キーを押します。



- ②上下キーで“エリアCQ”を選択して、決定キーを押します。
- ③上下キーで“O1:関東”を選択して、決定キーを押します。
- ④上下キーで“浜町430”を選択して、決定キーを押します。



※コールサインを直接編集するときは、手順①で(QUICK)を押します。

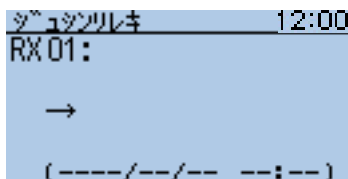
「アイテキョクセンタク」画面について

CQCQCQ	不特定呼び出し(CQCQCQ)を設定する
エリアCQ*	レピータリストからエリアCQを設定する
個人局	相手局コールサインメモリの個人局から選択する
受信履歴	受信履歴から選択する
送信履歴	送信したレピータ/個人局から選択する

★ シンプレックス運用時は表示されません。

10 MENU画面について

■ 受信履歴について



受信履歴

受信履歴(ジュンリキ)

DVモードの信号を受信した場合、その信号を送信した局や使用されたレピータのコールサインなど、最大40件の受信履歴を記憶できます。

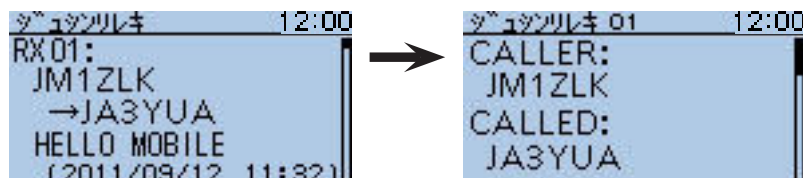
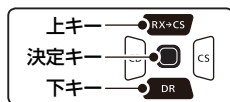
※電源をOFFしても履歴は消去されません。

上下キーで記憶された受信履歴(RX01～RX40)を確認できます。



〈受信履歴内容を確認するときは〉

① 上下キーで受信履歴(RX01～RX40)を選択して、決定キーを押します。



- ② 上下キーで受信履歴内容(P10-37表参照)を切り替えます。
- 相手局のGPS情報を受信しているときは、受信日時のあとに表示されます。
 - 受信した相手局のコールサインやGPS情報、レピータのコールサインを登録するときは、登録したい内容を表示させてから、**[QUICK MENU]**を押します。
- ③ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。

受信履歴内容

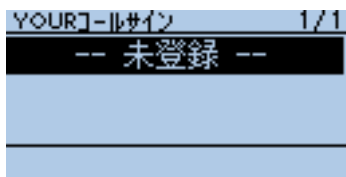
CALLER★ ¹	送信局のコールサインとメモ
CALLED★ ¹	送信局に呼び出された局のコールサイン
RXRPT1★ ¹	送信局から見たアクセスレピータのコールサイン (ゲートウェイ通信で呼び出された場合はGW局)
RXRPT2★ ¹	自局が直接受信したレピータのコールサイン
受信メッセージ	送信局から受信したメッセージ
受信日時	受信した日時
コンパス★ ²	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
距離★ ²	相手局との距離
GPS-Aシンボル	相手局のGPS-Aシンボル(GPS-Aのみ)
SSID	相手局のSSID (GPS-Aのみ)
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
高度	相手局の高度
GPSメッセージ	受信したGPSメッセージ(GPS)またはコメント(GPS-A)

★1 QUICK MENU画面で、ネーム表示に切り替えられる項目です。

★2 自局の位置情報がない場合は表示しません。

10 MENU画面について

■ DVメモリーについて

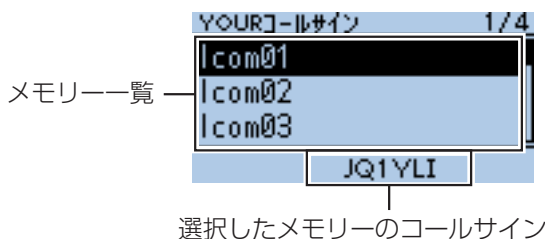


相手局コールサイン

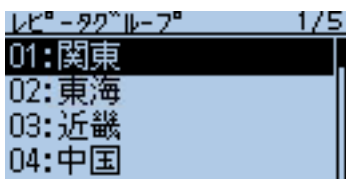
DVメモリー > 相手局コールサイン(YOURコールサイン)

D-STAR®システムを使用して、呼び出したい相手局(個人局)のコールサインを最大200件登録できます。

登録した相手局のコールサインやネームは、個人局一覧や受信履歴に表示されます。



※受信履歴からも、相手局(個人局)のコールサインを登録できます。(P3-5)
 ※相手局(個人局)のコールサイン新規追加、登録した内容の編集や移動(並び替え)方法については、4-35ページ～4-38ページをご覧ください。

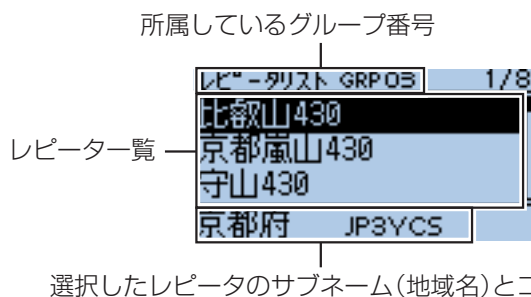


レピータリスト

DVメモリー > レピータリスト(レピータグループ)

レピータの情報をレピータリストに登録しておくことで、交信するときの設定が簡単になります。

最大700件のレピータ情報を20グループに分けて登録できます。



ご注意

本製品は、お客様が快適に運用していただくために、レピータリストをプリセットして出荷していますが、オールリセットすると、プリセットの内容をすべて消去しますのでご注意ください。

ご参考

- レピータのコールサインや周波数などの情報については、一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)ホームページで閲覧できます。
 JARLホームページ <http://www.jarl.or.jp/>
- レピータリストや各種コールサイン、メモリーなどが簡単に入力できるクロージングソフトウェア(CS-31:付属のCDに同梱)もご利用ください。
- プリセットの内容については弊社ホームページからダウンロードできます。
 アイコムホームページ
<http://www.icom.co.jp/d-starsite/>

レピータグループ(01～20)

グループネーム	グループの名称(全角8文字/半角16文字以内)
---------	-------------------------

※QUICK MENU画面で、SKIP設定を“ON/OFF”できます。(P4-32)

レピータリスト

ネーム	レピータの名称(全角8文字/半角16文字以内)
サブネーム★ ¹	レピータのサブネーム(全角4文字/半角8文字以内)
コールサイン	レピータのコールサイン
GWコールサイン	ゲートウェイコールサイン
グループ	所属しているグループ番号と名称
USE(FROM)	アクセスレピータの使用(DRモード時の[FROM])を設定
周波数★ ²	アクセスレピータの周波数
DUP★ ²	デュプレックス(シフト方向)の設定
オフセット周波数★ ²	レピータのオフセット周波数
位置情報	レピータ位置情報の有無と精度(無し/だいたい/正確)
緯度★ ³	レピータ設置位置の緯度
経度★ ³	レピータ設置位置の経度
UTCオフセット	レピータがある地域のUTCオフセット時間(協定世界時差)

※QUICK MENU画面で、SKIP設定を“ON/OFF”できます。(P4-32)

★¹ プリセット時は、都道府県名が入力されています。

★² USE(FROM)が、“YES”の場合だけ使用します。

★³ レピータの位置情報がある場合だけ使用します。

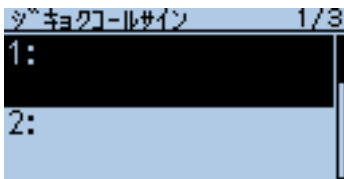
【ご参考】

シンプレックス通信用として登録する場合は、下表を参考に設定してください。

ネーム	任意の名称(全角8文字/半角16文字以内)
サブネーム	任意のサブネーム(全角4文字/半角8文字以内)
コールサイン	ブランク(空白)
GWコールサイン	—
グループ	任意のグループ
USE(FROM)	YES
周波数	シンプレックス通信時の周波数
DUP	OFF
オフセット周波数	—
位置情報	—
緯度	—
経度	—
UTCオフセット	—

10 MENU画面について

■ 自局設定について

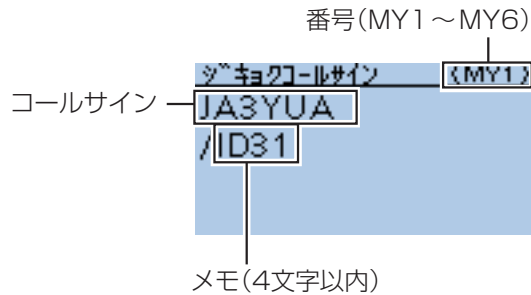


自局コールサイン

自局設定 > 自局コールサイン(ジキョクコールサイン)

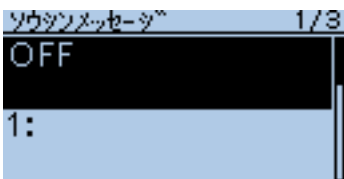
D-STAR®システムで使用する、自局のコールサインを最大6件(MY1～MY6)登録できます。

コールサイン(8文字以内)のあとに、入力できるメモ(4文字以内)には、名前やリグ名、移動運用先などを登録します。



※自局コールサインの登録方法については、2-4ページをご覧ください。

※自局のコールサインを切り替えるときは、**上下キー**で選択し、**決定キー**を押します。

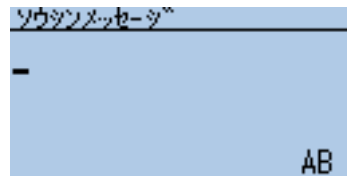


送信メッセージ

自局設定 > 送信メッセージ(ソウシンメッセージ)

DVモードで音声通信しながら、同時に最大20文字(半角カタカナ、英数字、記号)のメッセージを送信できます。

送信するメッセージは、5個登録できます。



送信メッセージ編集画面

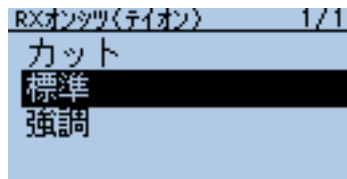
※送信メッセージの登録方法については、4-2ページをご覧ください。

※送信メッセージを切り替えるときは、**上下キー**で選択し、**決定キー**を押します。

【ご参考】

登録したメッセージを送信しないときは、“OFF”を選択してください。

■ DV設定について



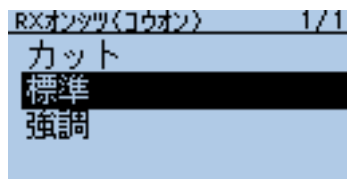
受信音質(低音)

(初期設定：標準)

DV設定 > トーンコントロール > 受信音質(低音)(RXオンシツ(テイオン))

受信音質の低音レベルを設定します。

- カット : 低音を減衰させる
- 標準 : 低音を補正しない
- 強調 : 低音を強調させる



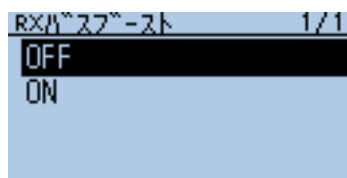
受信音質(高音)

(初期設定：標準)

DV設定 > トーンコントロール > 受信音質(高音)(RXオンシツ(コウオン))

受信音質の高音レベルを設定します。

- カット : 高音を減衰させる
- 標準 : 高音を補正しない
- 強調 : 高音を強調させる



受信バスブースト

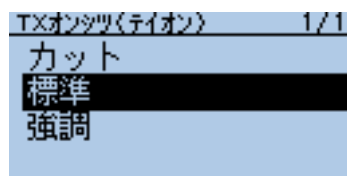
(初期設定：OFF)

DV設定 > トーンコントロール > 受信バスブースト(RXバスブースト)

疑似的に低音を強調する、バスブースト機能を設定します。

※小さなスピーカーでも低音が強調されます。

- OFF : 低音を強調させない
- ON : 低音を強調させる



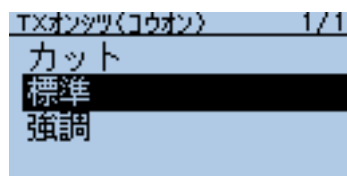
送信音質(低音)

(初期設定：標準)

DV設定 > トーンコントロール > 送信音質(低音)(TXオンシツ(テイオン))

送信音質の低音レベルを設定します。

- カット : 低音を減衰させる
- 標準 : 低音を補正しない
- 強調 : 低音を強調させる



送信音質(高音)

(初期設定：標準)

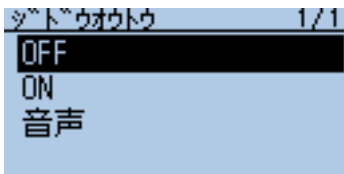
DV設定 > トーンコントロール > 送信音質(高音)(TXオンシツ(コウオン))

送信音質の高音レベルを設定します。

- カット : 高音を減衰させる
- 標準 : 高音を補正しない
- 強調 : 高音を強調させる

10 MENU画面について

■ DV設定について(つづき)



自動応答

(初期設定：OFF)

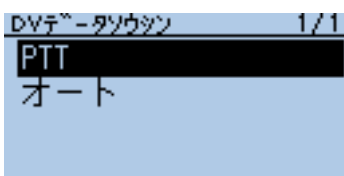
DV設定 > 自動応答(ジドウオウトウ)

DVモード運用時、自局宛の呼び出しがあったとき、呼び出してきた相手局のコールサインを一時的に設定して自動応答するか、しないかを設定します。

- OFF : 自動応答しない
- ON : 自局のコールサインを送出して、自動応答する
- 音声 : 自局のコールサインと、microSDカードに録音された自動応答用の音声(最大10秒)を自動で送信する
 ※送信される内容は、モニターできます。
 ※microSDカードをID-31に取り付けていないときや、自動応答用のファイルがないときは、自局のコールサインだけを送出して自動応答します。

※自動応答機能を使用しているときは、パワーセーブ機能が停止します。

※自動応答中に[PTT]を押すと、自動的に“OFF”に変更されます。



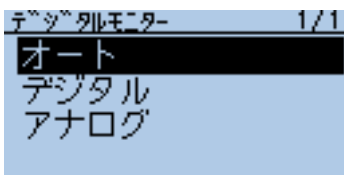
DVデータ送信

(初期設定：オート)

DV設定 > DVデータ送信(DVデータソウシン)

DVモード運用時、簡易データを送信する方法を設定します。

- PTT : [PTT]を押したとき送出する
- オート : データが[DATA]ジャックから入力されると、自動で送信する



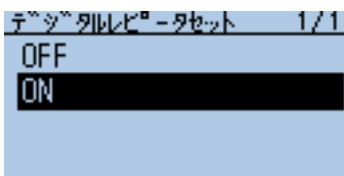
デジタルモニター

(初期設定：オート)

DV設定 > デジタルモニター(デジタルモニター)

DVモード運用時、[SQL]キーを押してモニター機能を動作させたときの受信モード(電波型式)を選択します。

- オート : DVモードの信号を検出するまではFMモードで受信し、DVモードの信号を検出すると、DVモードで受信する
- デジタル : DVモードで受信する
- アナログ : FMモードで受信する



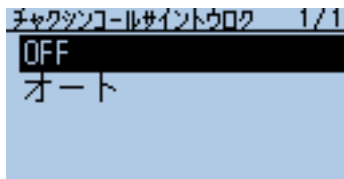
デジタルレピータセット

(初期設定：ON)

DV設定 > デジタルレピータセット(デジタルレピータセット)

アクセスしたレピータのコールサインが自局で設定しているものと異なる場合、レピータのダウンリンク信号に含まれるレピータコールサインを自動的に設定する機能です。

- OFF : 自動設定しない
- ON : アクセスしたレピータのコールサインを自動で設定する



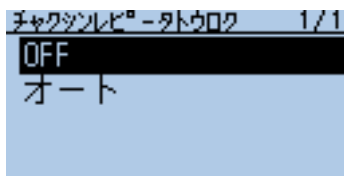
着信コールサイン登録

(初期設定：OFF)

DV設定 > 着信コールサイン登録(チャクシンコールサイン登録)

DRモード以外で自局宛の信号を受信したときに、呼び出してきた相手局のコールサインを自動で [UR] に設定する機能です。

- OFF : 自動設定しない
- オート : 受信した相手局のコールサインを自動的に [UR] に設定する。



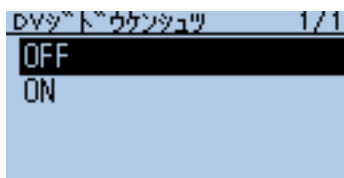
着信レピータコールサイン登録

(初期設定：OFF)

DV設定 > 着信レピータコールサイン登録(チャクシンレピータ登録)

DRモード以外で自局宛の信号を受信したときに、その信号に含まれるレピータのコールサインを自動で [R1] (RPT1) / [R2] (RPT2) に設定する機能です。

- OFF : 自動設定しない
- オート : 受信したレピータのコールサインを、自動で [R1] (RPT1) / [R2] (RPT2) に設定する



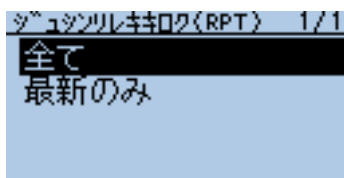
DV自動検出

(初期設定：OFF)

DV設定 > DV自動検出(DVジドウケンシュツ)

DVモードで信号を受信中、または待ち受け中にDVモード以外の信号を受けた場合、自動的にFMモードに切り替える機能です。

- OFF : FMモードに切り替えない
- ON : 自動的にFMモードに切り替える



受信履歴記録(RPT)

(初期設定：全て)

DV設定 > 受信履歴記録(RPT)(ジュシンリレキキログ(RPT))

応答がなかった信号や中継できなかった信号を受信したときに、すべての履歴を残すか、最後の1件だけ履歴を残すかを設定します。

- 全て : すべての履歴を残す
- 最新のみ : 最後の1件だけ履歴を残す

※本製品は最大40件まで受信履歴を記憶できます。

10 MENU画面について

■ DV設定について(つづき)



BK (初期設定：OFF)

DV設定 > BK(BK)

デジタルコールサインスケルチ(DSQL)で通信している2局に対して、同時に呼びかけるための機能です。

- OFF : BK機能を使用しない
- ON : BK機能を使用する

※電源を入れなおすと、設定が“OFF”になります。



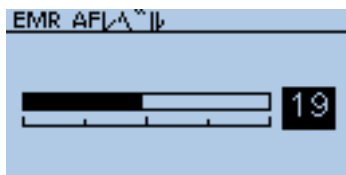
EMR (初期設定：OFF)

DV設定 > EMR(EMR)

デジタルスケルチの状態に関わらず、一定レベルまで音量を自動的に上げて通信できるようにする機能です。

- OFF : EMR機能を使用しない
- ON : EMR機能を使用する

※電源を入れなおすと、設定が“OFF”になります。



EMR AFLレベル (初期設定：19)

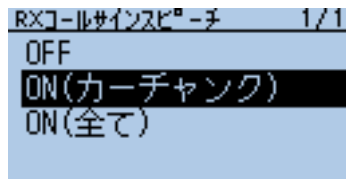
DV設定 > EMR AFLレベル(EMR AFLレベル)

EMR(Enhanced Monitor Request)信号を受信したときの通話音量レベルを設定します。

- 0～39 : 0(鳴らさない)～1(最小)～39(最大)から選択

※[VOL]で設定している音量の方が大きい場合は、その音量で通話が聞こえます。

■ スピーチについて

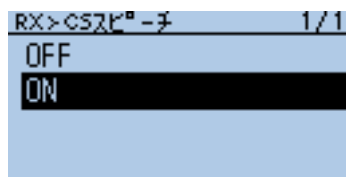


受信コールサインスピーチ (初期設定：ON(カーチャック))

スピーチ > 受信コールサインスピーチ(RXコールサインスピーチ)

受信した相手局のコールサインを読み上げるスピーチ機能を設定します。

- OFF : 受信したコールサインを読み上げない
- ON(カーチャック) : 短いDV信号(カーチャック)を受信した時、コールサインをスピーチする
- ON(全て) : 受信時間に関係なくコールサインをスピーチする

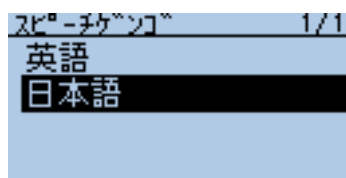


RX>CSスピーチ (初期設定：ON)

スピーチ > RX>CSスピーチ(RX>CSスピーチ)

[RX>CS]を押して応答設定したとき、設定した相手局のコールサインを読み上げる機能です。

- OFF : 相手局のコールサインを読み上げない
- ON : 相手局のコールサインを読み上げる

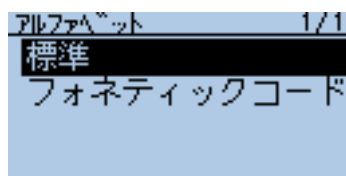


スピーチ言語 (初期設定：日本語)

スピーチ > スピーチ言語(スピーチゲンゴ)

スピーチ機能の発音言語を選択します。

- 英語 : 発音が英語
- 日本語 : 発音が日本語(数字は英語読み)

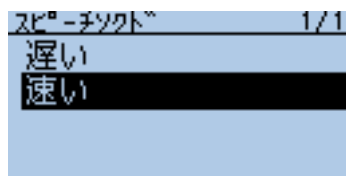


アルファベット (初期設定：標準)

スピーチ > アルファベット(アルファベット)

アルファベットの読み上げかたを選択します。

- 標準 : 通常の発音
(例: エー、ビー、シー)
- フォネティックコード : フォネティックコードによる発音
(例: アルファ、ブラボー、チャーリー)

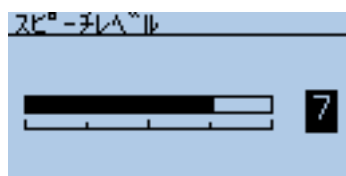


スピーチ速度 (初期設定：速い)

スピーチ > スピーチ速度(スピーチソクド)

読み上げる速度を選択します。

- 遅い : ゆっくり読み上げる
- 速い : 速く読み上げる



スピーチレベル (初期設定：7)

スピーチ > スピーチレベル(スピーチレベル)

読み上げる音量を設定します。

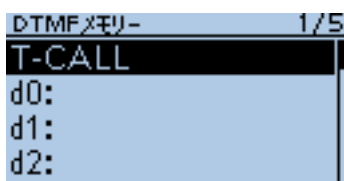
- 0～9 : 0(読み上げない)～1(最小)～9(最大)のあいだで設定

※[VOL]による音量設定にあわせてスピーチ音量も変化します。

10 MENU画面について

■ DTMF/T-CALLについて

トーン運用時に使用するDTMFコードの登録や設定をします。
詳細については、11-2ページ～11-6ページを参照ください。



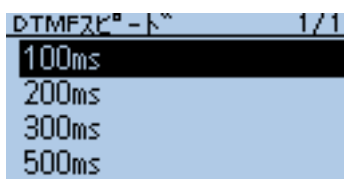
DTMFメモリー

(初期設定：d0)

DTMF/T-CALL > DTMFメモリー (DTMFメモリー)

DTMFメモリーチャンネルの一覧です。

- T-CALL : 1750Hzのトーン信号
- d0～d# : DTMFメモリーチャンネルの一覧



DTMFスピード

(初期設定：100ms)

DTMF/T-CALL > DTMFスピード (DTMFスピード)

DTMFコードの1桁あたりの送出スピードを選択します。

- 100ms～500ms : 100/200/300/500ミリ秒から選択

■ 機能設定について

パワーセーブ	1/1
OFF	
オート(短)	
オート(中)	
オート(長)	

パワーセーブ

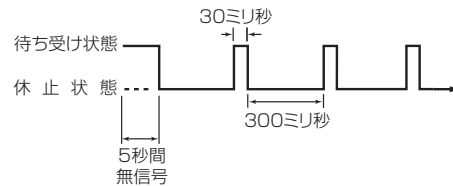
(初期設定：オート(短))

機能設定 > パワーセーブ(パワーセーブ)

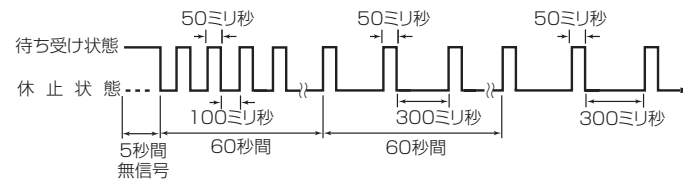
受信回路を間欠動作させることで電池の消費を抑える、パワーセーブ機能を設定します。

- OFF : パワーセーブなし
- オート(短) : パワーセーブ期間「短」

<FM/FM-Nモード時>

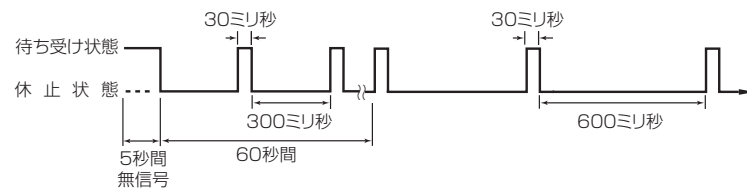


<DVモード時>

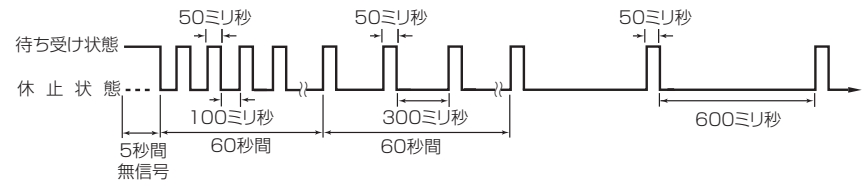


- オート(中) : パワーセーブ期間「中」

<FM/FM-Nモード時>

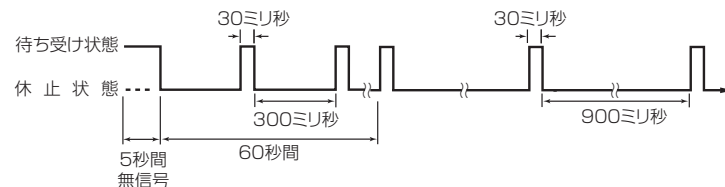


<DVモード時>

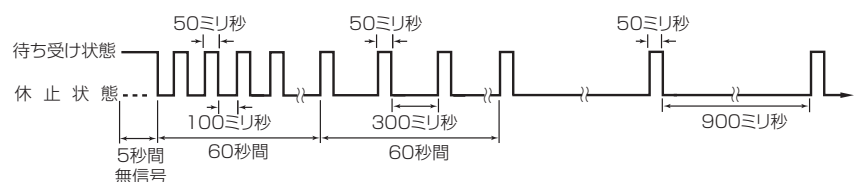


- オート(長) : パワーセーブ期間「長」

<FM/FM-Nモード時>



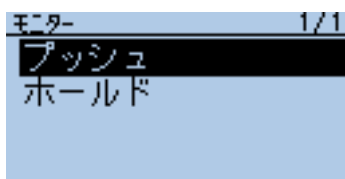
<DVモード時>



※外部電源使用時、DV自動応答設定時は、パワーセーブは動作しません。

10 MENU画面について

■ 機能設定について(つづき)



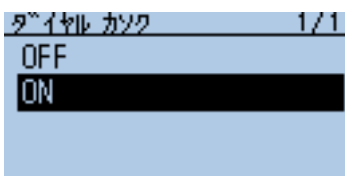
モニター

(初期設定：プッシュ)

機能設定 > モニター(モニター)

モニター機能(冊子版取扱説明書の21ページ)の動作を選択します。

- プッシュ：[SQL]を押しているあいだだけ、スケルチが開く
- ホールド：[SQL]を押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする



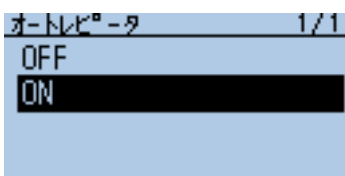
ダイヤル加速

(初期設定：ON)

機能設定 > ダイヤル加速(ダイヤルカソク)

[DIAL]を速く回したときに、さらにスピードアップするダイヤル加速機能を選択します。

- OFF：[DIAL]を回す速度に合わせる
- ON：スピードアップする



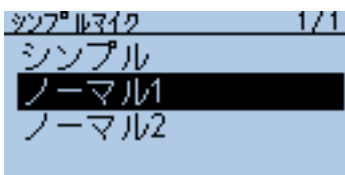
オートレピータ

(初期設定：ON)

機能設定 > オートレピータ(オートレピータ)

レピータ運用のための、トーンエンコーダーとデブプレックスを自動的に設定する、オートレピータ機能を設定します。

- OFF：オートレピータ機能を動作させない
- ON：オートレピータ機能を動作させる



シンプルマイク

(初期設定：ノーマル1)

機能設定 > シンプルマイク(シンプルマイク)

別売品のHM-75LS(リモコン機能付きスピーカーマイクロホン)使用時に、必要最小限のリモコン機能を設定します。

- シンプル：

[A]	モニター機能を“ON/OFF”
[B]	CALL-CHの呼び出し
[▲]	M-CHの000CHを呼び出す
[▼]	M-CHの001CHを呼び出す
- ノーマル1：

[A]	CALL-CHの呼び出し
[B]	VFO/メモリーモードの切り替え
[▲]	VFO時の周波数またはメモリーモード時のM-CHをアップ
[▼]	VFO時の周波数またはメモリーモード時のM-CHをダウン
- ノーマル2：

[A]	モニター機能の“ON/OFF”
[B]	VFO/メモリーモードの切り替え
[▲]	VFO時の周波数またはメモリーモード時のM-CHをアップ
[▼]	VFO時の周波数またはメモリーモード時のM-CHをダウン

【ご参考】

下記の状態では、シンプルマイク機能の設定に関わらず、以下のように動作します。

- モニター機能動作時：

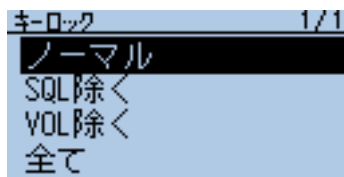
[A]	—
[B]	—
[▲]	音量を上げる
[▼]	音量を下げる

●送信時:

[A]	T-CALL (1750Hzトーン信号)を送出する
[B]	—
[▲]	—
[▼]	—

●DRモード時:

[A]	TO(相手局コールサイン/レピータコールサイン)の呼び出し
[B]	FROM(アクセスレピータコールサイン)の呼び出し
[▲]	表示項目をアップ切り替え
[▼]	表示項目をダウン切り替え

**キーロック**

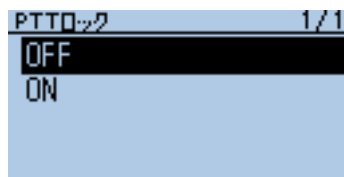
(初期設定：ノーマル)

機能設定 > キーロック(キーロック)

ツマミおよびキーの操作を無効にするキーロック機能を設定する項目です。

- ノーマル : [VOL]と[SQL]以外のキーをロックする
- SQL除く : [SQL]以外のキーをロックする
- VOL除く : [VOL]以外のキーをロックする
- 全て : すべてのキーをロックする

※いずれの場合も [PTT]と外部マイクのキーはロックされません。

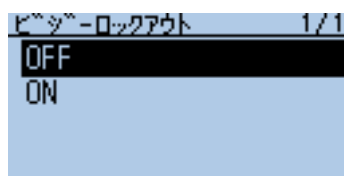
**PTTロック**

(初期設定：OFF)

機能設定 > PTTロック(PTTロック)

[PTT]による送信禁止を“ON/OFF”します。

- OFF : [PTT]を押すと送信する
- ON : [PTT]を押しても送信しない

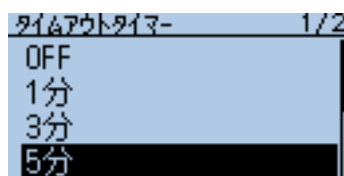
**ビジーロックアウト**

(初期設定：OFF)

機能設定 > ビジーロックアウト(ビジーロックアウト)

信号を受信している状態での送信の許可/禁止を設定します。

- OFF : 信号を受信していても送信できる
- ON : 信号を受信していると送信できない

**タイムアウトタイマー**

(初期設定：5分)

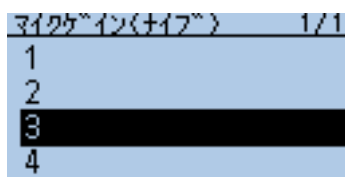
機能設定 > タイムアウトタイマー(タイムアウトタイマー)

連続して送信できる時間を設定します。

- OFF : 制限時間なし
- 1分～30分: 1/3/5/10/15/30分の中から選択

10 MENU画面について

■ 機能設定について(つづき)



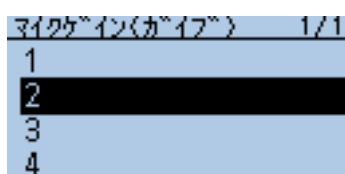
マイクゲイン(内部)

(初期設定：3)

機能設定 > マイクゲイン(内部)(マイクゲイン(ナイブ))

内部マイクの感度を切り替えます。

- 1～4 : 1(最低)/2/3/4(最高)の中から内部マイクの感度を選択



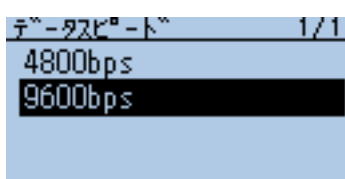
マイクゲイン(外部)

(初期設定：2)

機能設定 > マイクゲイン(外部)(マイクゲイン(ガイブ))

外部マイクの感度を切り替えます。

- 1～4 : 1(最低)/2/3/4(最高)の中から外部マイクの感度を選択



データスピード

(初期設定：9600bps)

機能設定 > データスピード(データスピード)

本製品の [DATA] ジャックの通信速度を設定します。

下記の通信速度を設定したいときに変更します。

- ・簡易データ通信の通信速度(☞P4-12)
- ・GPS出力機能の出力データの通信速度(☞P10-22)
- ・市販のGPSを接続するときの通信速度(☞P5-2, P10-20)

- 4800bps : [DATA] ジャックに接続した機器と、4800bpsで通信する
- 9600bps : [DATA] ジャックに接続した機器と、9600bpsで通信する



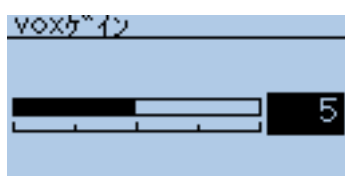
VOX

(初期設定：OFF)

機能設定 > VOX > VOX(VOX)

マイクからの音声によって送受信を自動的に切り替える、VOX機能を設定します。

- OFF : VOX機能を使用しない
- ON : VOX機能を使用する



VOXゲイン

(初期設定：5)

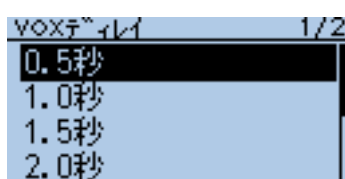
機能設定 > VOX > VOXゲイン(VOXゲイン)

VOX感度を1～10の10段階で設定します。(☞冊子版取扱説明書の49ページ)

ゲイン(感度)を上げると小さな声でも送信しますが、まわりの雑音によって誤送信しやすくなります。

ゲインを下げると大きな声でないと送信しませんが、誤送信しにくくなります。

- OFF : VOX機能が動作しない
- 1～10 : VOXゲインを設定



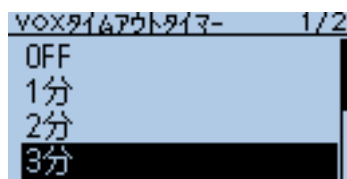
VOXディレイ

(初期設定：0.5秒)

機能設定 > VOX > VOXディレイ設定(VOXディレイ)

VOX機能使用時に、送信状態から受信状態に切り替わるまでの復帰時間を設定します。

- 0.5秒～3.0秒 : 0.5/1.0/1.5/2.0/2.5/3.0秒の中から選択

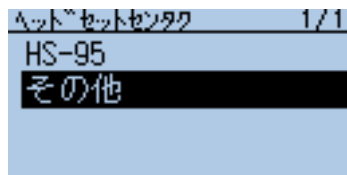


VOXタイムアウトタイマー (初期設定：3分)

機能設定 > VOX > VOXタイムアウトタイマー (VOXタイムアウトタイマー)

VOX機能使用時に、連続して送信できる時間を設定します。

- OFF : 送信時間を制限しない
- 1分～15分 : 1/2/3/4/5/10/15分の中から選択

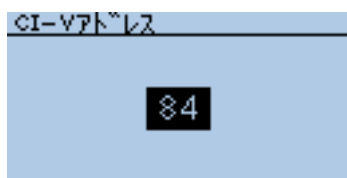


ヘッドセット選択 (初期設定：その他)

機能設定 > VOX > ヘッドセット選択(ヘッドセットセンタク)

VOX機能に使用するヘッドセットを設定します。

- HS-95 : HS-95を使用する場合
- その他 : HS-95以外を使用する場合

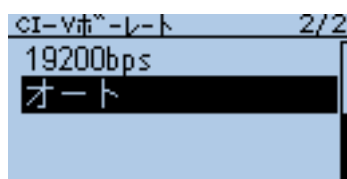


CI-Vアドレス (初期設定：84)

機能設定 > CI-V > CI-Vアドレス(CI-Vアドレス)

CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのアドレスを設定します。

- 01～DF : 01～DF(16進数)の中から選択

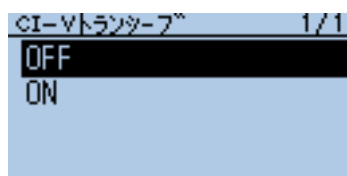


CI-Vボーレート (初期設定：オート)

機能設定 > CI-V > CI-Vボーレート(CI-Vボーレート)

CI-Vシステムを利用して、本製品を外部制御するときのボーレートを設定します。

- 300bps～19200bps : 300/1200/4800/9600/19200bpsの中から選択
- オート : 接続機器からのデータのボーレートに自動設定



CI-Vトランシーブ (初期設定：OFF)

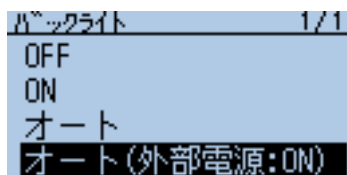
機能設定 > CI-V > CI-Vトランシーブ(CI-Vトランシーブ)

別売品のCT-17を利用してパソコンから外部制御するとき、ほかの無線機などに連動してID-31の周波数や電波型式などを変更するときを設定します。

- OFF : ほかの無線機と連動させない
- ON : ほかの無線機と設定の変更を連動させる
※接続しているほかのCI-V搭載無線機の設定内容が変更されたときは、自動的にID-31の設定内容も変更されます。

10 MENU画面について

■ ディスプレイ設定について




バックライト (初期設定：オート(外部電源:ON))

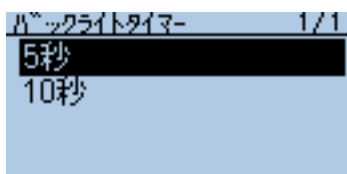
ディスプレイ設定 > バックライト(バックライト)

ディスプレイやキーの照明を点灯する機能です。

- OFF : 点灯しない
- ON : 常時点灯する
- オート : キーや[DIAL]を操作したときに自動で点灯する
バックライトタイマーの設定にしたがって消灯する
※外部電源使用時でも消灯します。
- オート(外部電源:ON) : バッテリーパック/バッテリーケース使用時は、キーや[DIAL]を操作したときに自動で点灯する
バックライトタイマーの設定にしたがって消灯する
※外部電源使用時は常時点灯します。

※GPSロガー専用モード中は、“ON”または“オート(外部電源:ON)”に設定しても、“オート”の設定で動作します。

※“オート”または“オート(外部電源:ON)”が選択されているとき、を短く押すと5秒間バックライトが点灯します。

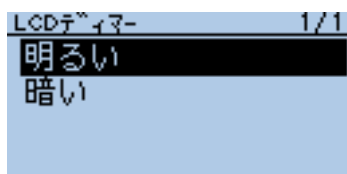


バックライトタイマー (初期設定：5秒)

ディスプレイ設定 > バックライトタイマー(バックライトタイマー)

バックライトを“オート”または“オート(外部電源:ON)”に設定したとき、消灯するまでの時間を設定します。

- 5秒 : 点灯後、5秒間操作しない状態がつづく、自動的に消灯する
- 10秒 : 点灯後、10秒間操作しない状態がつづく、自動的に消灯する

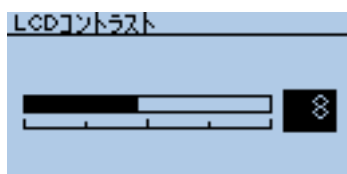


LCDディマー (初期設定：明るい)

ディスプレイ設定 > LCDディマー(LCDディマー)

バックライトの明るさを選択します。

- 明るい : バックライトを明るめに設定
- 暗い : バックライトを暗めに設定

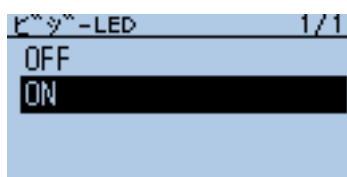


LCDコントラスト (初期設定：8)

ディスプレイ設定 > LCDコントラスト(LCDコントラスト)

表示のコントラスト(濃淡)を16段階で設定します。

- 1(淡)～16(濃) : 1(淡い)～16(濃い)で選択

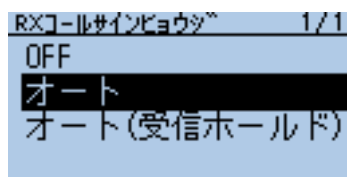


ビジーLED (初期設定：ON)

ディスプレイ設定 > ビジーLED(ビジーLED)

消費電流を抑えるため、受信表示ランプの点灯/非点灯の条件を設定します。

- OFF : 信号の受信、およびスケルチの開閉に関係なく点灯しない
- ON : 信号を受信、またはスケルチが開く(受信モニター機能など)と点灯する



受信コールサイン表示

(初期設定：オート)

ディスプレイ設定 > 受信コールサイン表示(RXコールサインヒョウジ)

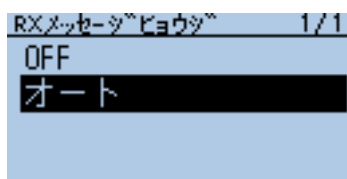
DVモード運用時に、呼び出してきた相手局のコールサインをディスプレイに表示する機能です。

- OFF : 受信してもコールサインを表示しない
- オート : 相手局のコールサインをスクロール表示する
- オート(受信ホールド) : 相手局のコールサインをスクロール表示し、受信しているあいだ表示しておく



コールサイン「JM1ZLK」から呼び出しを受けた状態

※相手局のコールサインとネームが登録されている場合は、コールサインにつづいてネームを“()”付きで表示します。



受信メッセージ表示

(初期設定：オート)

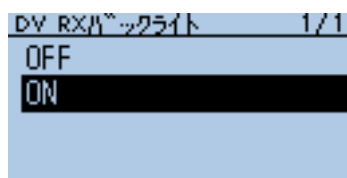
ディスプレイ設定 > 受信メッセージ表示(RXメッセージヒョウジ)

DVモード運用時に受信したメッセージの表示設定です。

- OFF : メッセージを表示しない
- オート : メッセージをスクロール表示する



「OSAKA スズキ」というメッセージを受信した状態



DV受信バックライト

(初期設定：ON)

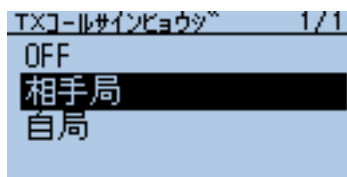
ディスプレイ設定 > DV受信バックライト(DV RXバックライト)

DVモード運用時にコールサインやメッセージを受信したとき、バックライトを点灯させる機能です。

- OFF : コールサインやメッセージを受信してもバックライトを点灯しない
- ON : コールサインやメッセージを受信するとバックライトを点灯する
 ※“ON”を選択するときは、「バックライト」(P10-52)を、“オート”か“オート(外部電源:ON)”に設定してください。

10 MENU画面について

■ ディスプレイ設定について(つづき)



送信コールサイン表示

(初期設定：相手局)

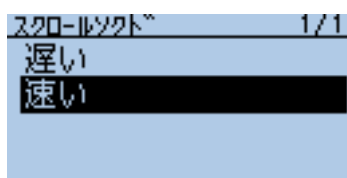
ディスプレイ設定 > 送信コールサイン表示(TXコールサインビョウジ)

DVモードで送信するとき、コールサインをスクロール表示する機能です。

- OFF : 送信時にコールサインを表示しない
- 相手局 : 送信時に相手局のコールサインを表示する
※DRモード時を除き、相手局のコールサインと名前が登録されている場合は、コールサインにつづいて名前を“()”付きで表示します。
- 自局 : 送信時に自局のコールサインを表示する



(相手局表示の場合)



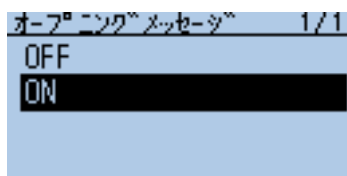
スクロール速度

(初期設定：速い)

ディスプレイ設定 > スクロール速度(スクロールソクド)

MENU画面の項目名やコールサインなどがスクロールする速さを選択します。

- 遅い : ゆっくりスクロールする
- 速い : 速くスクロールする(「遅い」の約2倍の速さです)



オープニングメッセージ

(初期設定：ON)

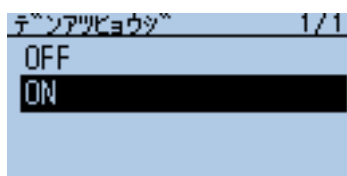
ディスプレイ設定 > オープニングメッセージ(オープニングメッセージ)

電源投入時に弊社ロゴと製品名、自局のコールサインを表示する、オープニング画面を表示するかしないかを選択します。

- OFF : 電源投入時、オープニング画面を表示しない
- ON : 電源投入時、オープニング画面を表示する



※自局のコールサインが登録されていない場合、コールサインは表示されません。



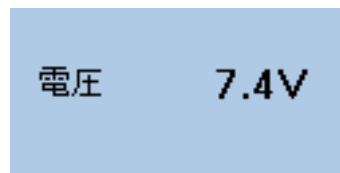
電圧表示

(初期設定：ON)

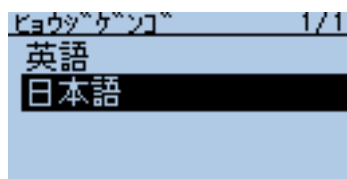
ディスプレイ設定 > 電圧表示(デンアツビョウジ)

電源投入時に電源電圧を表示するかしないかを選択します。

- OFF : 電源電圧を表示しない
- ON : 電源電圧を表示する
※外部電源電圧が15.6V以上のときは、“HI Voltage”と表示されます。



(電源電圧 7.4Vの場合)



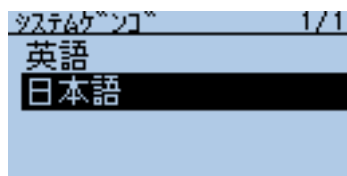
表示言語

(初期設定：日本語)

ディスプレイ設定 > 表示言語(ヒョウジゲンゴ)

DRモードの選択画面やMENU画面の項目名の言語を選択します。

- 英語 : 英語表示
- 日本語 : 日本語表示



システム言語

(初期設定：日本語)

ディスプレイ設定 > システム言語(システムゲンゴ)

使用できる文字の種類を選択します。

- 英語 : ネームなどの文字列編集に、半角英数、英文記号だけを使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12	1234567890
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥] ^_`{ }~。「」、・ー°

- 日本語 : ネームなどの文字列編集に、半角英数と英文記号に加え、全角文字(ひらがな、カタカナ、漢字)、和文記号が使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ■
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz■
12(全角/半角)	1234567890■
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワヲンー■
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとな にぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりる れるわをんー■ (ひらがな1文字選択後、 QUICK MENU で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、 すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字(漢字など) や記号を入力できます。

※ ■ はスペースです

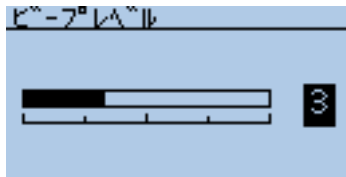
【ご注意】

「システム言語」を「日本語」から「英語」に変えた場合、日本語を使って入力されたネームの表示や編集ができなくなります。入力に使われた、ひらがな、カタカナ、漢字、和文記号は、すべて「=」で表示されます。

「システム言語」を「日本語」に戻すと、ふたたび表示や編集ができるようになります。

10 MENU画面について

■ サウンド設定について



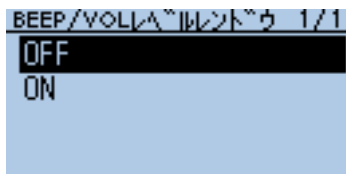
ビープレベル

(初期設定：3)

サウンド設定 > ビープレベル(ビープレベル)

キー操作時に鳴る、ビープ音の大きさを設定します。

- 0～9 : 0(鳴らさない)～1(最小)～9(最大)の中から選択



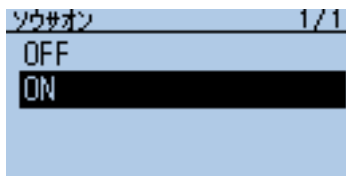
BEEP/VOLレベル連動

(初期設定：OFF)

サウンド設定 > BEEP/VOLレベル連動(BEEP/VOLレベルリンク)

[VOL]による音量設定にあわせてビープ音量を設定する機能です。

- OFF : [VOL]による音量設定でビープ音量は変化しない
- ON : [VOL]による音量設定にあわせてビープ音量を設定する



操作音

(初期設定：ON)

サウンド設定 > 操作音(ソウサオン)

キー操作時にビープ音を鳴らす機能です。

- OFF : キー操作時にビープ音を鳴らさない
- ON : キー操作時にビープ音を鳴らす



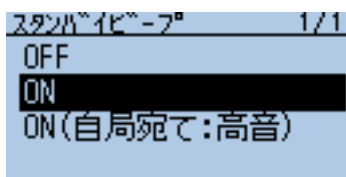
スキャンストップビープ

(初期設定：OFF)

サウンド設定 > スキャンストップビープ(スキャンストップビープ)

スキャン動作中に信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビープ音を鳴らす機能です。

- OFF : ビープ音を鳴らさない
- ON : ビープ音を鳴らす



スタンバイビープ

(初期設定：ON)

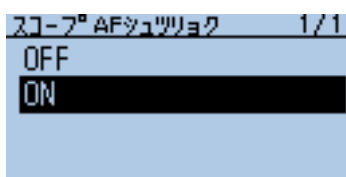
サウンド設定 > スタンバイビープ(スタンバイビープ)

DVモード運用時、終話ビープ(スタンバイビープ)を鳴らして終話がわかるようにする機能です。

- OFF : スタンバイビープを鳴らさない
- ON : スタンバイビープを鳴らす
- ON(自局宛て:高音) : スタンバイビープを鳴らす
さらに、ほかの交信の終話と区別できるように、自局宛の呼び出しの終話には高いビープ音が鳴る

※「操作音」の設定が“OFF”であっても、スタンバイビープは鳴ります。

※スタンバイビープの音量は、「ビープレベル」の設定に準じます。



スコープAF出力

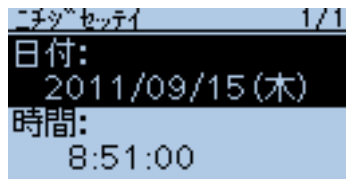
(初期設定：ON)

サウンド設定 > スコープAF出力(スコープAFシュツリョク)

バンドスコープ機能で、スイープ中の周波数の受信音声を入力する機能です。

- OFF : スイープ中の周波数の受信音声を入力しない
- ON : スイープ中の周波数の受信音声を入力する

■ 時間設定について



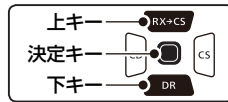
日時設定

時間設定 > 日時設定(デジタルセッテイ)

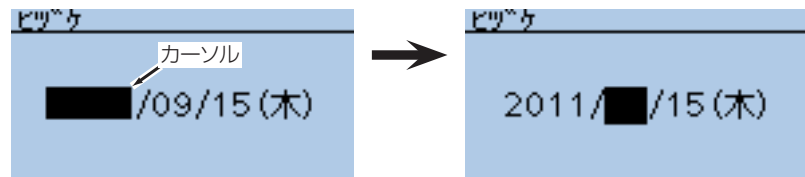
日付と、画面の右上に表示される時刻(24時間表記)を手動で設定します。

〈日付をあわせるときは〉

- ① 上下キーで“日付”を選択し、決定キーを押します。

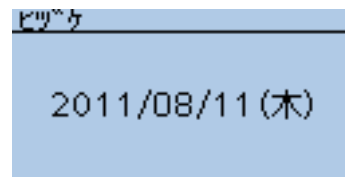


- ② [D]と[C]でカーソルを移動させて、項目(年/月/日)を選択します。



- ③ [DIAL]を回して数字を選択します。

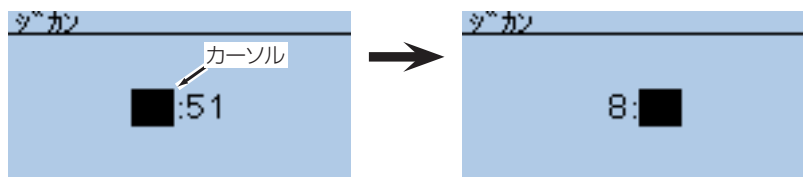
- ④ 手順②と③を繰り返して「年」、「月」、「日」を入力し、決定キーを押します。



〈時刻をあわせるときは〉

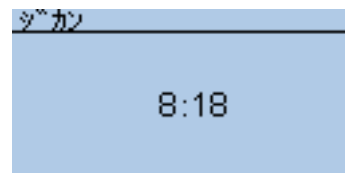
- ① 上下キーで“時間”を選択し、決定キーを押します。

- ② [D]と[C]でカーソルを移動させて項目(時/分)を選択します。



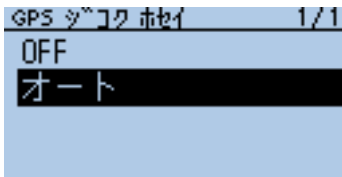
- ③ [DIAL]を回して数字を選択します。

- ④ 手順②と③を繰り返して「時」と「分」を入力したら、決定キーを押します。



10 MENU画面について

■ 時間設定について(つづき)



GPS時刻補正

(初期設定：オート)

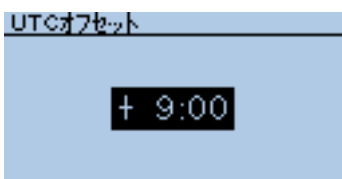
時間設定 > GPS時刻補正(GPSジコクホセイ)

GPSセンテンスに含まれる時刻情報を使用して時刻を補正する機能です。GPSから受けたUTC時間と、設定された「UTCオフセット」から時刻を算出します。

- OFF : 時刻を自動補正しない
- オート: 時刻を自動補正する

※GPSの電波を受信していないあいだは、補正されません。

※「UTCオフセット」が正しく設定されていないと、正確に補正されません。



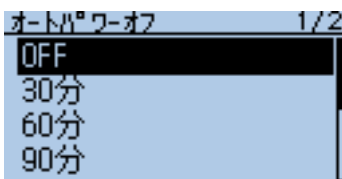
UTCオフセット

(初期設定：+9:00)

時間設定 > UTCオフセット(UTCオフセット)

現地時間とUTC時間(協定世界時)の差(オフセット時間)を5分間隔で設定します。

- 14:00～+14:00 : オフセット時間を、-14:00時間～+14:00時間のあいだで設定する



オートパワーオフ

(初期設定：OFF)

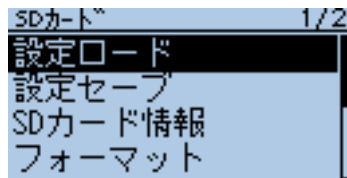
時間設定 > オートパワーオフ(オートパワーオフ)

何も操作しない状態が一定時間つづくとき自動的に電源を切る、オートパワーオフ機能を設定します。

- OFF : オートパワーオフ機能が動作しない
- 30分～120分 : 自動的に電源が切れる時間を、30分/60分/90分/120分から選択する

■ SDカードについて

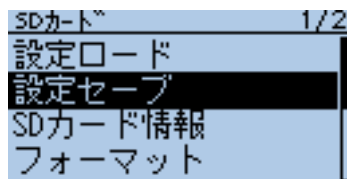
microSDカードの設定や操作をする項目です。
詳細については、本書12章を参照ください。



設定ロード

SDカード > 設定ロード

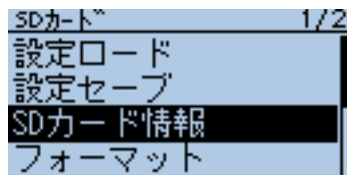
設定ファイルを読み込むときに、一覧から選択します。



設定セーブ

SDカード > 設定セーブ

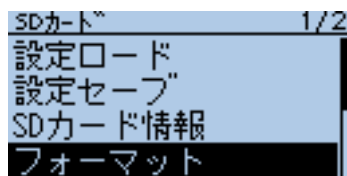
設定ファイルを保存します。



SDカード情報

SDカード > SDカード情報

microSDカードの空き容量、録音可能時間を確認します。



フォーマット

SDカード > フォーマット

microSDカードを初期化します。



アンマウント

SDカード > アンマウント

本製品の電源を入れた状態でmicroSDカードを取りはずすときの、アンマウント処理をします。





■ DTMFメモリー機能の使いかた	11-2
◇ DTMFメモリーの書き込みかた	11-2
◇ DTMFコードの送出手かた	11-4
◇ DTMFスピードの設定	11-5
◇ DTMFメモリーの消去のしかた	11-6
■ トーンスケルチ機能	11-7
◇ トーン周波数を設定して、交信するには	11-7
■ DTCSコードスケルチ機能とは	11-9
◇ DTCSコードを設定して、交信するには	11-9
■ クローニングについて	11-11
◇ 市販のmicroSDカードを使ったPC間クローン	11-14
◇ 別売品のケーブルを使ったPC間クローン	11-14
◇ 市販のケーブルを使った本体間クローン	11-15
■ CI-Vについて	11-16
◇ CI-Vのデータ設定について	11-16
◇ パソコンとの接続	11-16

11 各種機能の使いかた

■ DTMFメモリー機能の使いかた

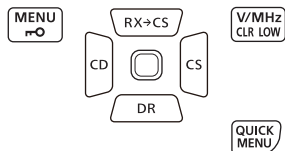
最大24桁のDTMFコードを、16チャンネルのDTMFメモリーに記憶できます。

◇ DTMFメモリーの書き込みかた

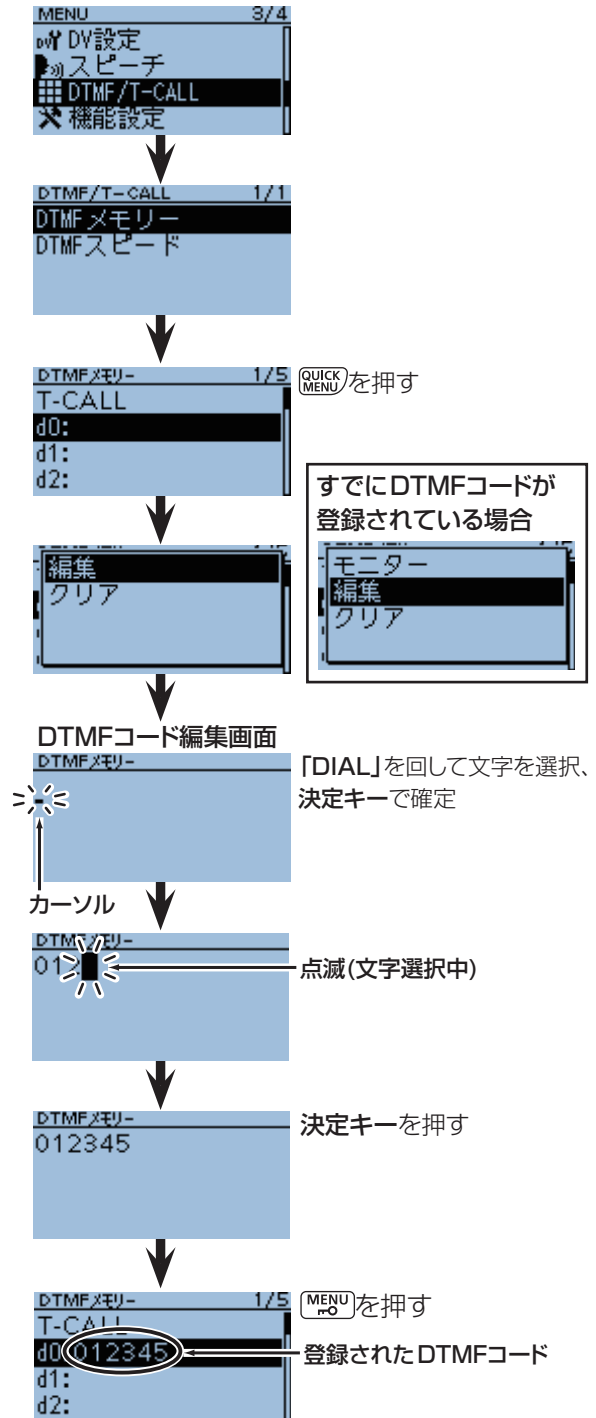
- ① **[MENU]**  を押します。
 - ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して、「DTMFメモリー」画面を表示します。
 - DTMFメモリーチャンネルの一覧("d0"~"d#")が表示されます。
-
- ③ **上下キー**でDTMFコードを登録するチャンネルを選択し、**QUICK MENU**を押します。
 - ④ “編集”を選択し、**決定キー**を押して、編集モードに入ります。
 - ⑤ **[DIAL]**を回して文字を選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返してコードを入力します。
 - [@]**または**[CS]**を押すとカーソルが移動し、文字を入れる桁が選択できます。
※カーソルが行端(右端)にある場合は、それ以上右に移動しません。
 - [CLR]**  を押すと、カーソルで選択した文字を削除できます。
 - カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。
また、**[CLR]**  を押しつづけると、連続して削除できます。
 - ⑥ すべての桁を入力したら、**決定キー**を押します。
 - 入力したチャンネルにDTMFコードが登録され、「DTMFメモリー」画面に戻ります。
 - ⑦ **[MENU]**  を押してMENU画面を解除します。



[DIAL]



例：DTMFメモリーチャンネル「d0」に、DTMFコード「012345」を書き込む。

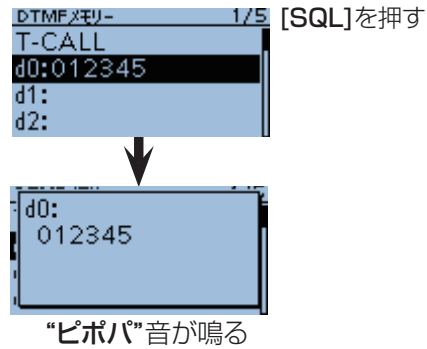


- DTMFメモリー機能の使いかた
- ◇ DTMFメモリーの書き込みかた(つづき)

登録したDTMFコードをモニターするには

「DTMFメモリー」画面で、モニターしたいDTMFコードを選択してから [SQL] を押すと、DTMFコードの“ピポパ”音が鳴ります。



- 「DTMFメモリー」画面で  を押して“モニター”を選択し、決定キーを押してもモニターできます。

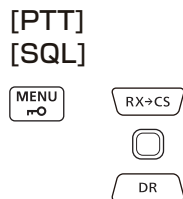
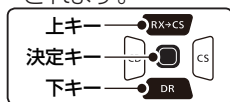


11 各種機能の使いかた

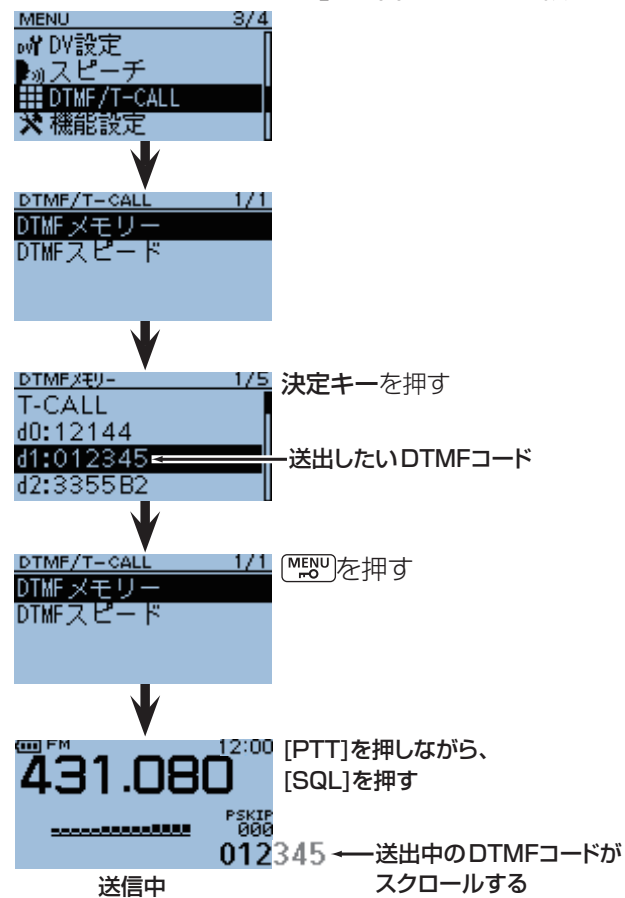
■ DTMFメモリー機能の使いかた(つづき)

◇ DTMFコードの送出しかた

- ① **[MENU]**  を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して、「DTMFメモリー」画面を表示します。
 - DTMFメモリーチャンネルの一覧("d0"~"d#")が表示されます。
- ③ **上下キー**で送出したいDTMFメモリーチャンネルを選択し、**決定キー**を押します。
 - “ピピッ”と鳴り、選択したDTMFメモリーチャンネルが、送出するDTMFコードとして設定されます。
- ④ **[MENU]**  を押してMENU画面を解除します。
- ⑤ **[PTT]**を押しながら**[SQL]**を押すと、手順③で選択したDTMFコードが送出されます。
 - 途中で**[PTT]**をはなしても、DTMFコードを送出し終えるまでは送信状態がつづきます。



例：DTMFメモリーチャンネル「d1」に登録されている、DTMFコード「012345」を送出コードとして設定する。




1750Hzトーン周波数について

- 「DTMFメモリー」画面で、「T-CALL」を選択すると、1750Hzのトーン周波数が設定されます。
- [PTT]**を押しながら**[SQL]**を押すと、**[SQL]**を押しているあいだだけ1750Hzのトーンを送出します。
 - ・スピーカーからも1750Hzのトーンが聞こえます。

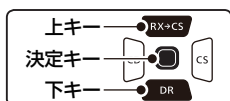
■ DTMFメモリー機能の使いかた(つづき)

◇ DTMFスピードの設定

DTMFコードの1桁あたりの送出スピードは約100ミリ秒に初期設定されていますが、変更できます。

- ① **[MENU]** を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して、「DTMFスピード」画面を表示します。

- 100ms : 1桁あたり約100ミリ秒で送出
- 200ms : 1桁あたり約200ミリ秒で送出
- 300ms : 1桁あたり約300ミリ秒で送出
- 500ms : 1桁あたり約500ミリ秒で送出

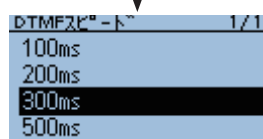
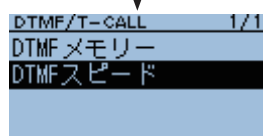
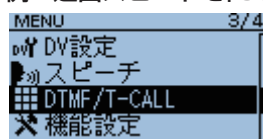


- ③ **上下キー**で送出スピードを選択し、**決定キー**を押します。

- 送出スピードが設定されます。

- ④ **[MENU]** を押してMENU画面を解除します。

例：送出スピードを「300ミリ秒」に設定する。



MENU


RX→CS




DR

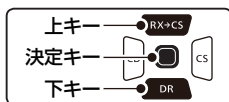
11 各種機能の使いかた


■ DTMFメモリー機能の使いかた(つづき)

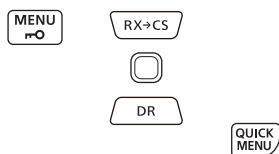
◇ DTMFメモリーの消去のしかた

不要になったDTMFメモリーを消去できます。

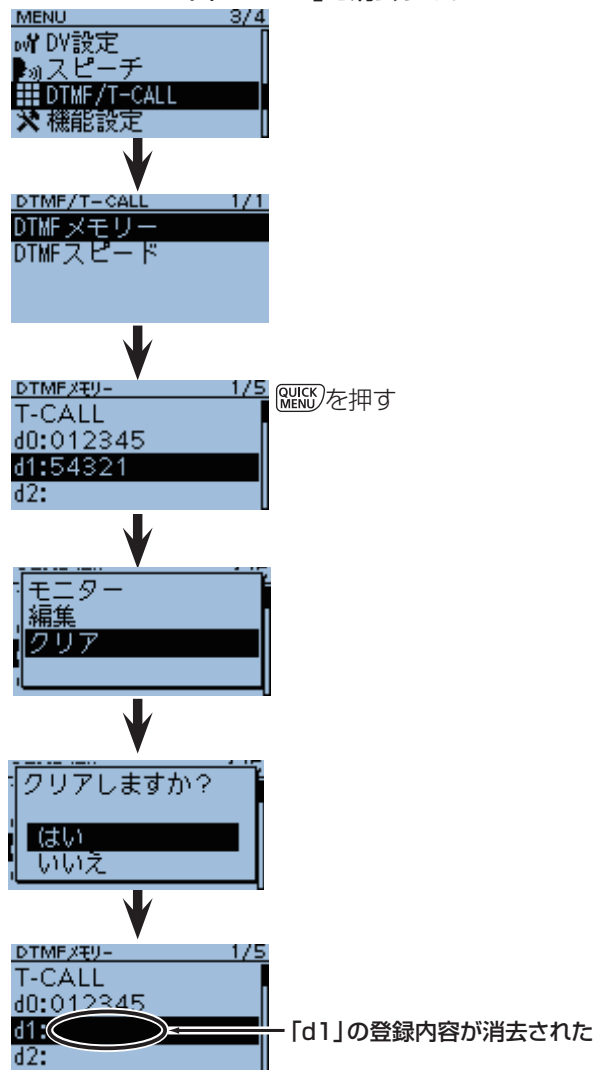
- ① **[MENU]**  を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して、「DTMFメモリー」画面を表示します。
 - DTMFメモリーチャンネルの一覧("d0"～"d#")が表示されます。



- ③ **上下キー**で消去したいDTMFメモリーチャンネルを選択し、**QUICK MENU**を押します。
- ④ **上下キー**で“クリア”を選択し、**決定キー**を押します。
- ⑤ **上下キー**で“はい”を選択し、**決定キー**を押します。
 - 選択したDTMFメモリーが消去されます。
- ⑥ **[MENU]**  を押してMENU画面を解除します。



例：DTMFメモリーチャンネル「d1」に登録されている、DTMFコード「54321」を消去する。






■ トーンスケルチ機能

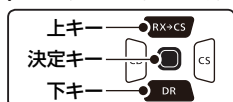
自局が設定したトーン周波数(初期値:88.5Hz)と同じトーン周波数を受信したときだけ、**スケルチ**が開いて受信できる機能です。

FMモードまたはFMナローモードで、特定の相手局と交信するとき、この機能を設定することで、快適な待ち受け受信ができます。

また、自局が設定したトーン周波数を受信したときだけ、スケルチが開かない逆トーンスケルチ(TSQL-R:受信時だけ)も用途にあわせてご利用ください。


◇ トーン周波数を設定して、交信するには

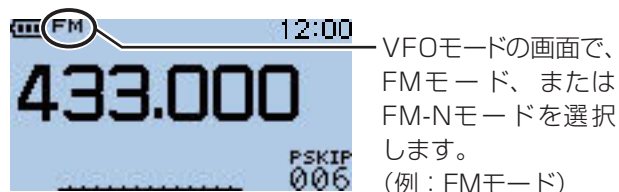
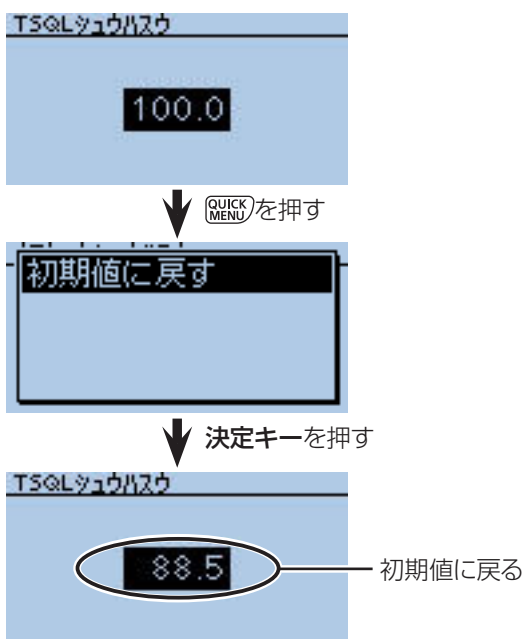
- ① [V/MHz]  を押して、VFOモードを選択します。
- ② [FM/DV]  を繰り返し押して、FMモード、またはFM-Nモードを選択します。
- ③ [DIAL] を回して、運用周波数を選択します。
- ④ [MENU]  を押します。
 - MENU画面を表示します。
- ⑤ 上下キーで選択、**決定キー**で確定の操作を繰り返し、[TSQLシュウハスウ]画面を表示します。



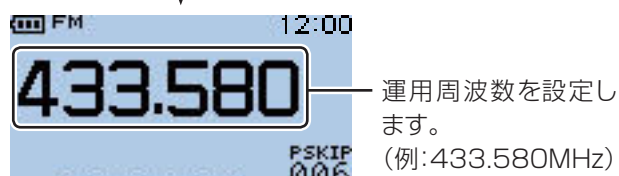
●設定されているTSQL周波数が表示されます。

- ⑥ [DIAL] を回して、TSQL周波数が選択できたら、**決定キー**を押します。
(設定例：100.0Hz)
●67.0Hz～254.1Hzの範囲で設定します。
(次ページの手順⑦につづく)

【ご参考に】 TSQL周波数を初期値に戻すには
上記の手順⑥で  を押して、**決定キー**を押すと、「ピピッ」と鳴って初期値に戻ります。

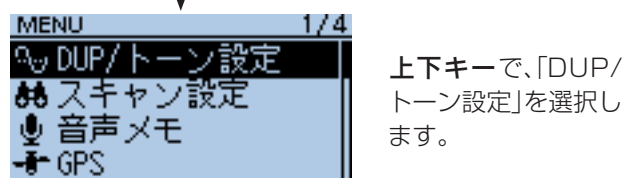


[DIAL] を回します。



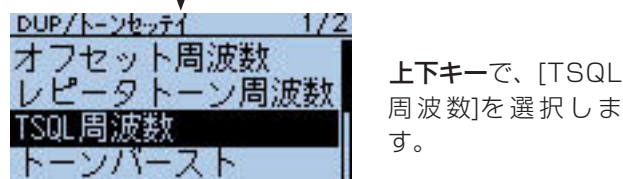
運用周波数を設定します。
(例:433.580MHz)

[MENU]  を押します。



上下キーで、「DUP/トーン設定」を選択します。

決定キーを押します。



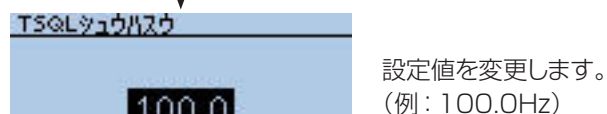
上下キーで、[TSQL周波数]を選択します。

決定キーを押します。



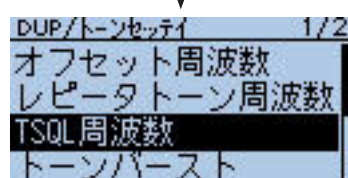
現在設定されているTSQL周波数

[DIAL] を回します。



設定値を変更します。
(例:100.0Hz)

決定キーを押します。



(次ページの手順⑦につづく)

11 各種機能の使いかた

■ トーンスケルチ機能

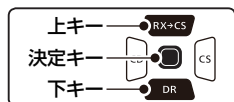
◇ トーン周波数を設定して、交信するには(つづき)

⑦ [MENU] (MENU) を押して、VFOモードの画面に戻ります。

⑧ [QUICK MENU] を押します。

- QUICK MENU画面が表示されます。

⑨ 上下キーで“TONE”を選択し、決定キーを押します。



⑩ 上下キーで“TSQL ((.))”、または“TSQL”を選択します。

- TSQL ((.)) : トーンスケルチ機能のポケットビープをONにします。
 - TSQL : トーンスケルチ機能をONにします。
- ※逆トーンスケルチで待ち受けする場合は、“TSQL-R”を選択します。

⑪ 決定キーを押すと、トーンスケルチを設定して、VFO画面に戻ります。

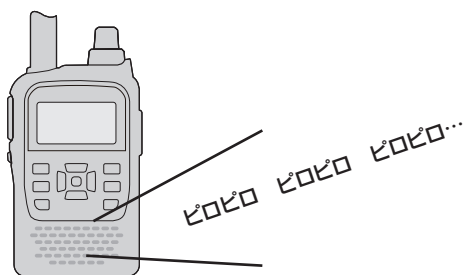
⑫ [PTT] を押しながら、相手局を呼び出して、トーンスケルチ機能を使用していないときと同様に交信します。

【ご参考に】呼び出しを受けるとビープ音を鳴らすには
上記の手順⑩で、“TSQL ((.))”を選択したときは、トーンスケルチ機能で待ち受け受信中に呼び出しを受けると、ポケットビープが約30秒鳴りつづけるとともに、“((.))”を点滅してお知らせします。

※呼び出しを受けたら、30秒以内に[PTT]を押して通話するか、決定キーを押すと、ポケットビープ機能は解除(“(.)”が消灯する)され、トーンスケルチ機能が動作します。

また、30秒経過しても何も操作をしなかった場合、ポケットビープは自動停止して、“((.))”の点滅だけになります。

- “TSQL ((.))”で呼び出しを受けたときの動作

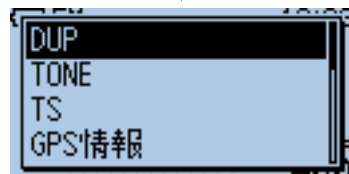


↓ (前ページの手順⑥からのつづき)



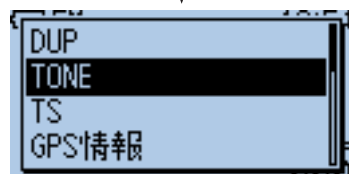
VFOモードの画面で、FMモード、またはFM-Nモードが選択された状態に戻る。(例：FMモード)

↓ [QUICK MENU] を押します。



QUICK MENU画面が表示されます。

↓

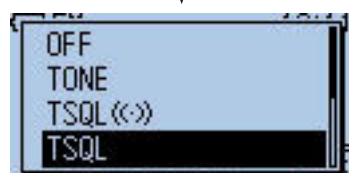


上下キーで、「TONE」を選択します。

↓ 決定キーを押します。

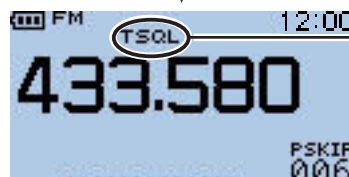


↓



上下キーで、「TSQL」を選択します。(例：TSQL)

↓ 決定キーを押します。



“TSQL”が表示されます。
※手順⑩で逆トーンスケルチを選択時は、“TSQL-R”を表示します。




■ DTCSコードスケルチ機能とは

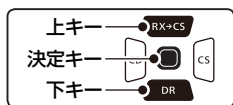
自局が設定したDTCSコード(初期値:023)と同じDTCSコードで受信したときだけ、**スケルチ**が開いて受信できる機能です。

FMモードまたはFMナローモードで、特定の相手局と交信するとき、この機能を設定することで、快適な待ち受け受信ができます。


また、自局が設定したDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開かない逆DTCSスケルチ(DTCS-R:受信時だけ)も用途にあわせてご利用ください。

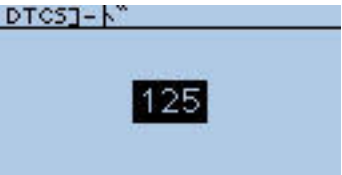
◇ DTCSコードを設定して、交信するには


- ① [V/MHz]  を押して、VFOモードを選択します。
- ② [FM/DV]  を繰り返し押して、FMモード、またはFM-Nモードを選択します。
- ③ [DIAL] を回して、運用周波数を選択します。
- ④  を押します。
 - MENU画面を表示します。
- ⑤ 上下キーで選択、決定キーで確定の操作を繰り返して、「DTCSコード」画面を表示します。
 - 設定されているDTCSコードが表示されます。




- ⑥ [DIAL] を回して、DTCSコードが選択できたら、決定キーを押します。
(設定例：125)
●023～754の範囲で設定します。
(次ページの手順⑦につづく)

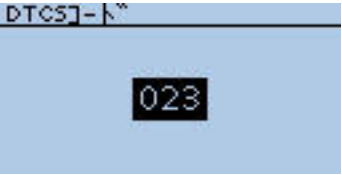

【ご参考に】 DTCSコードを初期値に戻すには
上記の手順⑥で  を押して、決定キーを押すと、「ビピッ」と鳴って初期値に戻ります。



↓  を押す




↓ 決定キーを押す

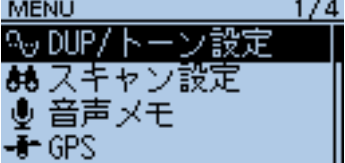
VFOモードの画面で、FMモード、またはFM-Nモードを選択します。
(例：FMモード)

↓ [DIAL] を回します。



運用周波数を設定します。
(例：433.580MHz)

↓  を押します。



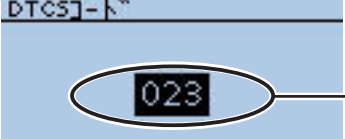
上下キーで、「DUP/トーン設定」を選択します。

↓ 決定キーを押します。



上下キーで、「DTCSコード」を選択します。

↓ 決定キーを押します。



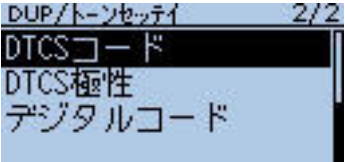
現在設定されているDTCSコード

↓ [DIAL] を回します。



設定値を変更します。
(例：125)

↓ 決定キーを押します。



(次ページの手順⑦につづく)

11 各種機能の使いかた

■ DTCSコードスケルチ機能とは

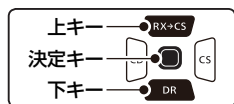
◇ DTCSコードを設定して、交信するには(つづき)

⑦ **[MENU]**を押して、VFOモードの画面に戻ります。

⑧ **[QUICK MENU]**を押します。

- QUICK MENU画面が表示されます。

⑨ 上下キーで“TONE”を選択し、決定キーを押します。



⑩ 上下キーで“DTCS ((.))”、または“DTCS”を選択します。

- DTCS ((.)) :DTCSコードスケルチ機能のポケットビープをONにします。
- DTCS :DTCSコードスケルチ機能をONにします。

※逆DTCSスケルチで待ち受けする場合は、“DTCS-R”を選択します。

⑪ 決定キーを押すと、DTCSスケルチを設定して、VFO画面に戻ります。

⑫ **[PTT]**を押しながら、相手局を呼び出して、DTCSコードスケルチ機能を使用していないときと同様に交信します。

【ご参考に】呼び出しを受けるとビープ音を鳴らすには上記の手順⑩で、“DTCS ((.))”を選択したときは、DTCSコードスケルチ機能で待ち受け受信中に呼び出しを受けると、ポケットビープが約30秒鳴りつづけるとともに、“((.))”を点滅してお知らせします。

※呼び出しを受けたら、30秒以内に**[PTT]**を押して通話するか、決定キーを押すと、ポケットビープ機能は解除(“(.)”が消灯する)され、DTCSコードスケルチ機能が動作します。

また、30秒経過しても何も操作をしなかった場合、ポケットビープは自動停止して、“((.))”の点滅だけになります。

- “DTCS ((.))”で呼び出しを受けたときの動作



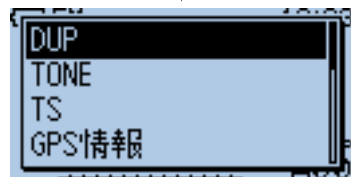
ピロピロ ピロピロ ピロピロ...

↓ (前ページの手順⑥からのつづき)



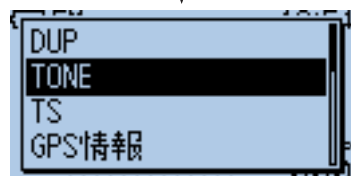
VFOモードの画面で、FMモード、またはFM-Nモードが選択された状態に戻る。(例：FMモード)

↓ **[QUICK MENU]**を押します。



QUICK MENU画面が表示されます。

↓



上下キーで、「TONE」を選択します。

↓ 決定キーを押します。

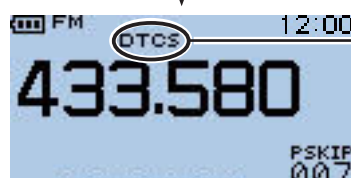


↓



上下キーで、「DTCS」を選択します。(例：DTCS)

↓ 決定キーを押します。



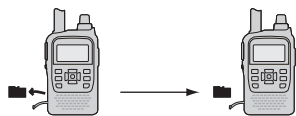
“DTCS”が表示されます。

※手順⑩で逆DTCSスケルチを選択時は、“DTCS-R”を表示します。

■ クローニングについて

クローニングとは、1台のID-31のメモリーチャンネルや設定内容を、ほかのID-31にコピーする機能です。
 本体間クローニングのほかにパソコンを使ってクローニングする方法があります。

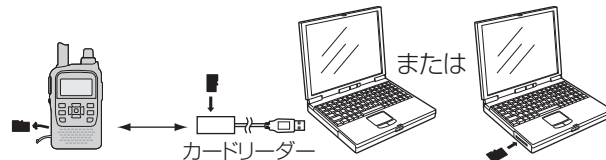
● 市販のmicroSDカードを使った本体間クローン(本ページ)



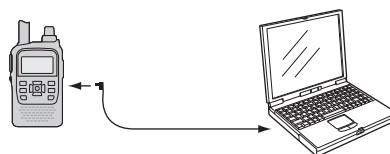
● 市販のケーブルを使った本体間クローン(☞P11-14)



● 市販のmicroSDカードを使ったPC間クローン(☞11-13)



● 別売品のケーブルを使ったPC間クローン(☞P11-13)



◇ 市販のmicroSDカードを使った本体間クローン

市販のmicroSDカードを使って本製品(親機)から本製品(子機)にクローニングする方法を説明します。
 本製品に設定したメモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストをmicroSDカードに保存できます。

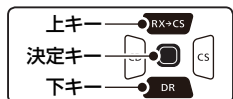
microSDカードに録音した録音データは、クローニングするデータに含まれません。

親機のmicroSDカードをそのまま子機に取り付けるか、パソコンを使って録音データを子機のmicroSDカードにコピーすると、子機側でも再生できます。

※あらかじめカードは取り付けられているものとして説明します。

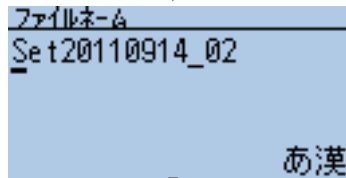
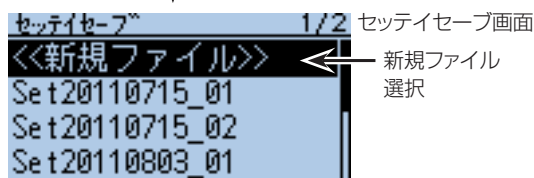
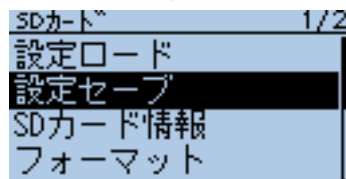
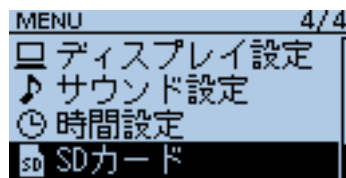
1. 親機の設定データをmicroSDカードに保存する

- ① [MENU] を押します。
- ② 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「セッテイセーブ」画面を表示します。



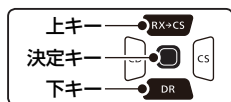
- ③ 上下キーで「<<新規ファイル>>」を選択し、決定キーを押すと、「ファイルネーム」画面を表示します。
 - ファイル名は、SetIにつづいて、作成する年(y)、月(m)、日(d)、作成番号の順に「Setyyyyymmdd_作成番号」となります。
 - ファイル名を変更する場合は、「設定ファイル名を変更して保存する」をご覧ください。(☞P12-7)

(次のページへ)



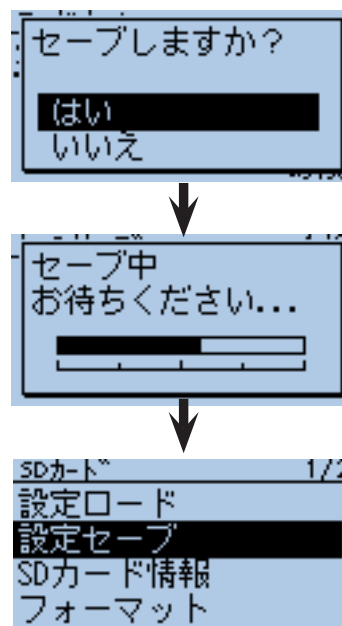
11 各種機能の使いかた

- ④ 決定キーを押すと、ファイル名を決定し、「セーブしますか？」画面を表示します。
- ⑤ 上下キーで“はい”を選択して、決定キーを押すと、設定データを保存します。



●保存中、進行状況を表示します。保存が完了すると、「SDカード」画面を表示します

- ⑥ [MENU] を押すと、MENU画面を解除します。



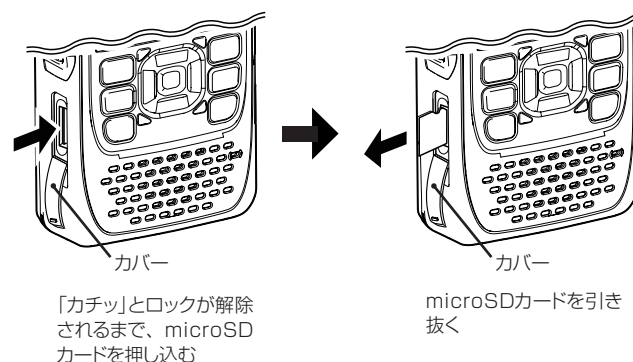
2. 親機のmicroSDカードを取りはずし、子機に取り付ける

- ⑦ 親機の(電源)を長く押して、電源を切ります。
- ⑧ 右の図のように親機の[micro SD]スロットからmicroSDカードを取りはずします。
- ⑨ 親機から取りはずしたmicroSDカードを子機の[micro SD]スロットに挿入し、(電源)を長く押して電源を入れます。

【ご注意】

microSDカードを逆向きに挿入したり、無理やり挿入したりしないでください。
カードやスロットが破損する原因になります。

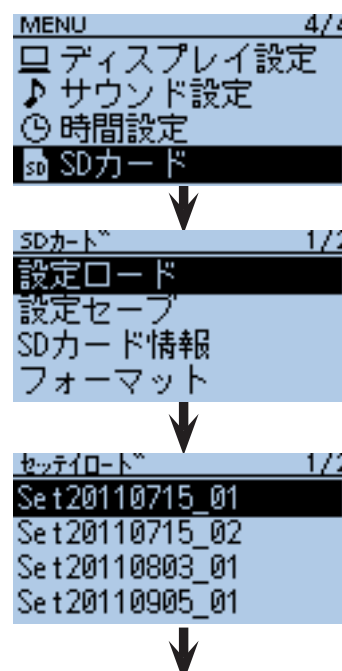
- 親機のmicroSDカードを取りはずすとき



3. 子機に設定データを読み込ませる

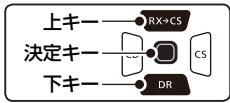
- ⑩ [MENU] を押します。
- ⑪ 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「セッテイロード」画面を表示します。

(次のページへ)



■ クローニングについて(つづき)

- ⑫ 上下キーで本製品に読み込む設定ファイルを選択して、**決定キー**を押すと、「**ファイルロード**」画面を表示します。



- ⑬ 上下キーで読み込む内容を選択します。読み込む内容は、下記から選択できます。

- **全て** :メモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストを本製品に読み込ませます。
 - **自局設定以外** :メモリーチャンネル、MENU画面内の「**自局設定**」以外の設定項目、レピータリストを本製品に読み込ませます。
 - **レピータリストのみ** :レピータリストだけを本製品に読み込ませます。
- ⑭ **決定キー**を押すと、ファイル名を決定し、「**レピータのSKIP設定を残しますか?**」画面を表示します。

- ⑮ 上下キーで“はい”または“いいえ”を選択します。

- “はい”を選択すると、レピータリストのスキップ設定(☞P4-32)を保持します。

- ⑯ **決定キー**を押すと、「**ロードしますか?**」画面を表示します。

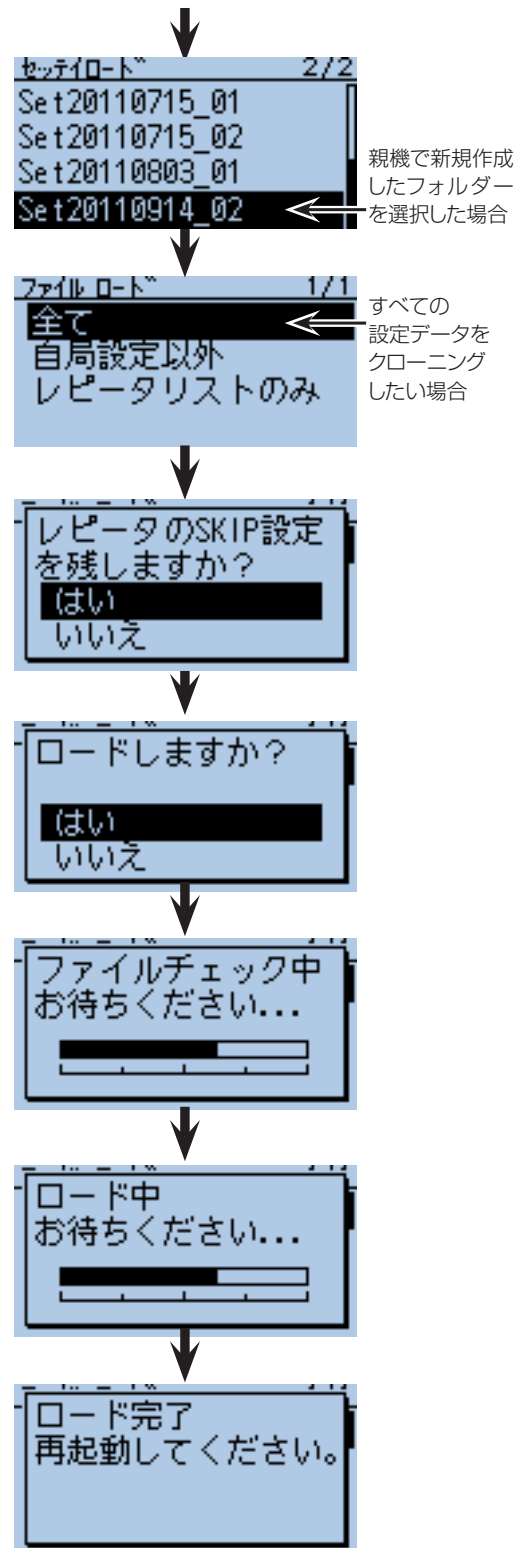
- ⑰ 上下キーで“はい”を選択して、**決定キー**を押すと、ファイルチェックを開始します。

- ファイルチェック中、「**ファイルチェック中**」画面を表示し、進行状況を表示します。

- ⑱ ファイルチェック後、設定データの読み込みを開始します。

- 読み込み中、「**ロード中**」画面を表示し、進行状況を表示します。

- ⑲ 読み込みが完了すると、「**ロード完了**」画面を表示します。読み込んだデータを有効にするため、電源を入れなおしてください。



電源を入れなおすとクローニング完了

11 各種機能の使いかた

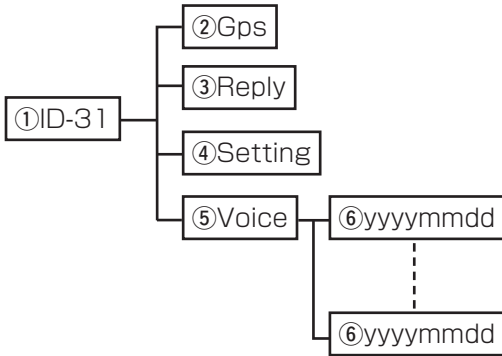
■ クローニングについて(つづき)

◇ 市販のmicroSDカードを使ったPC間クローン

市販のmicroSDカードを使って、パソコンでクローニングできます。

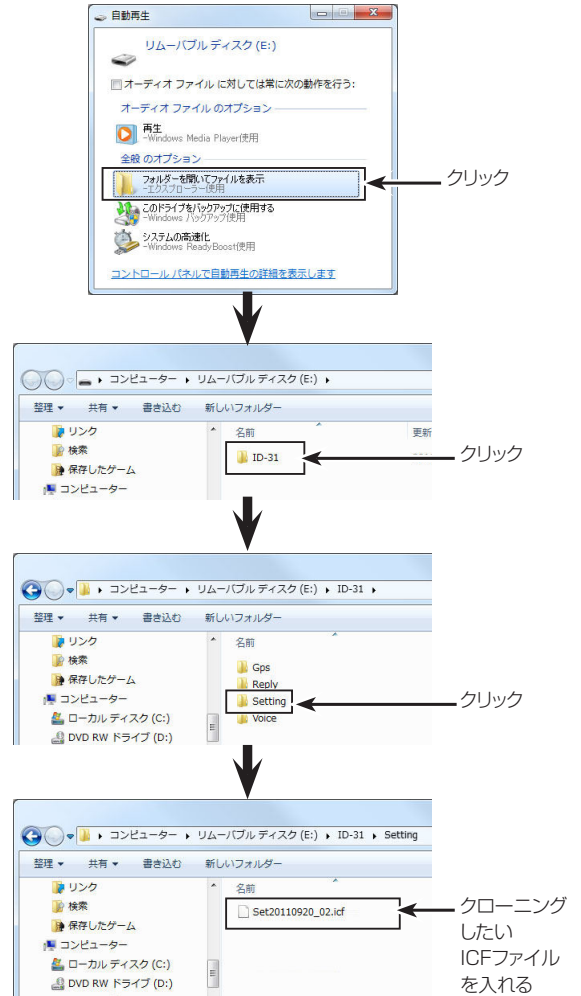
CS-31(同梱CDに収録)で設定したメモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストをICFファイルで保存し、microSDカードの「ID-31」フォルダーの中にある、「Setting」フォルダーにそのICFファイルを入れます。

microSDカードの階層(※P12-11)



ICFファイルの入ったカードを本体に取り付けてロードするとクローニングが完了です。

● microSDカード接続図



◇ 別売品のケーブルを使ったPC間クローン

CS-31(同梱CDに収録)とOPC-2218LU(別売品)を使って、パソコンでクローニングできます。

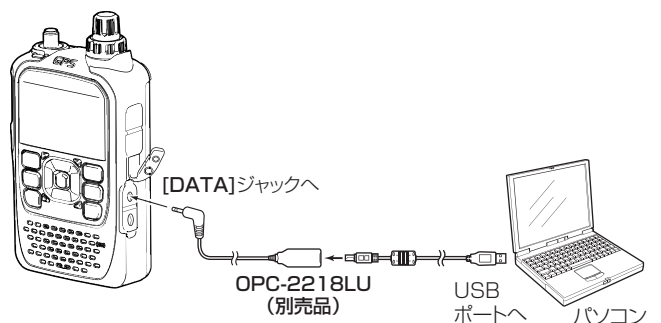
詳しくは、同梱CDに収録されている「CS-31 取扱説明書」、アイコムホームページにある「OPC-2218LU 取扱説明書」をご覧ください。

ご注意

OPC-2218LUをお使いになる場合、MENU画面内の「DVデータソウシン」画面の設定(※P10-42)を“PTT”にしてからクローニングを開始してください。“オート”にすると自動で送信することがあります。

DV設定 > DVデータ送信

● ケーブル接続図



■ クローニングについて(つづき)

◇ 市販のケーブルを使った本体間クローン

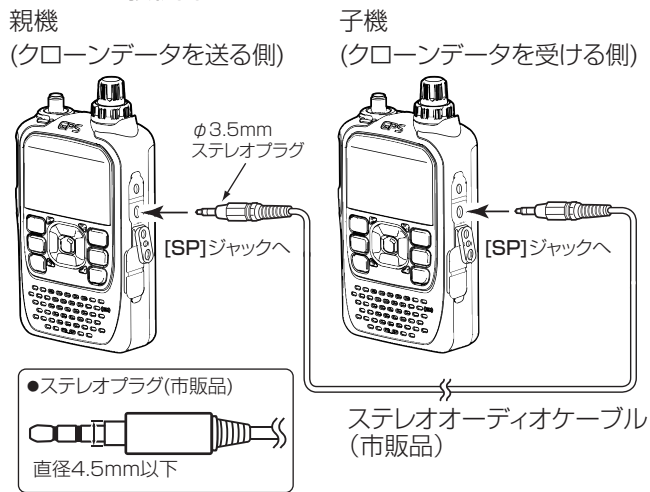
2台のID-31(親機と子機)を直接ケーブルで接続して使うクローニングです。

市販のステレオオーディオケーブル(φ3.5mm)をご用意ください。

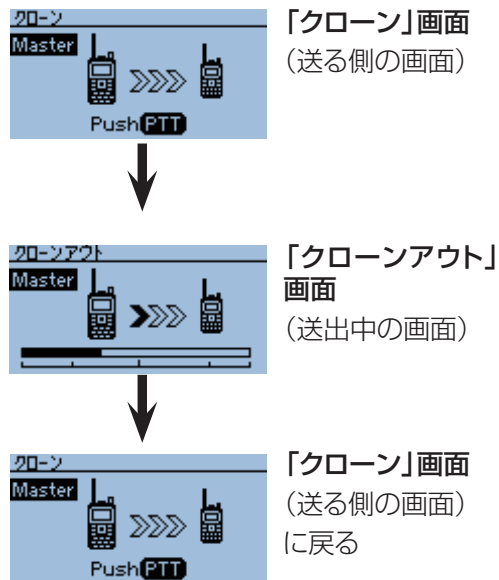
※お使いのケーブルによっては、使用できないものがあります。

- ① クローニングデータを送る側(親機)とクローニングデータを受け取る側(子機)の電源を切ります。
- ② 右図のように、親機と子機を接続します。
- ③ 子機の **[M/CALL]** [M/CALL S.MW] と **[FM/DV]** [FM/DV SCAN] を押しながら **[ON]** を押します。
 - 「クローン」(受ける側の画面)を表示します。
- ④ 親機の **[M/CALL]** [M/CALL S.MW] と **[MENU]** [MENU PRO] を押しながら **[ON]** を押します。
 - 「クローン」(送る側の画面)を表示します。
- ⑤ **[PTT]** を押すとクローニングが始まります。
 - 子機側では「クローン イン」を表示します。
 - 親機側では「クローン アウト」を表示します。
- ⑥ クローニングが完了すると、親機側で「クローン」(送出力の画面)に戻ります。
 - 子機側では「クローン エンド」を表示します。
 - クローニングデータを書き込みたい子機がほかにもある場合は接続して、**[PTT]** を押します。
- ⑦ 子機の電源を入れなおすと、クローニングした内容で運用できます。

● ケーブル接続図



● 親機側の画面



11 各種機能の使いかた

■ CI-Vについて

◇ CI-Vのデータ設定について

CI-Vシステムを利用して外部コントロールするとき、本製品のアドレス、ボーレート、トランシーブ“ON/OFF”のデータが必要になります。

これらの項目は、MENU画面で設定します。(※P10-51)

機能設定 > CI-V

◇ パソコンとの接続

ID-31にパソコンを接続することにより、運用周波数やモードを外部制御できます。

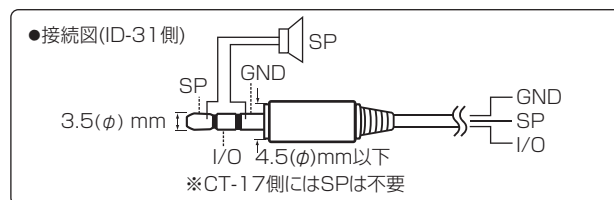
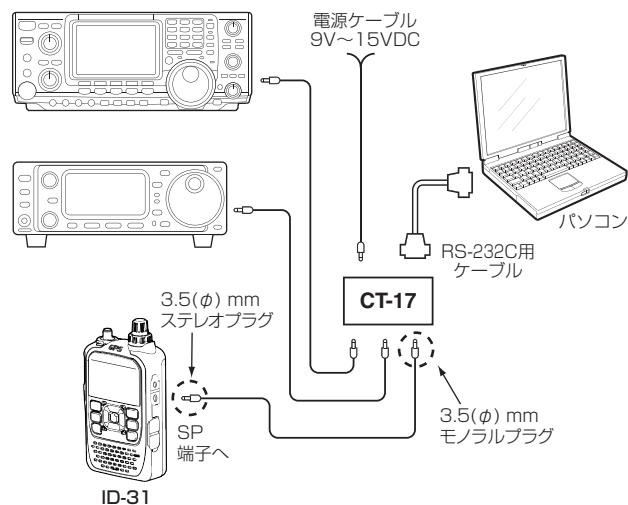
コントロールは、ICOM Communication Interface V(CI-V: シーアイファイブ)によるシリアル方式です。

別売品のCT-17(CI-Vレベルコンバーター)を使用することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパソコンが接続でき、外部コントロールができます。

パソコンでアイコムの無線機や受信機を制御する方法は、CT-17に添付の取扱説明書をご覧ください。

※ 右図に示すケーブルで接続してください。

CT-17を付属のケーブルで接続すると、受信音は聞こえませんが、ご注意ください。



● CI-Vの基本フォーマットについて

(1) コントローラー(パソコン) → 無線機(ID-31)

① プリアンブル		② 受信アドレス		③ 送信アドレス		④ コマンド		⑤ サブコマンド		⑥ データエリア								⑦ ポストアンブル			
F	E	F	E	8	4	E	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	F	D

(2) 無線機 → コントローラー

① プリアンブル		② 受信アドレス		③ 送信アドレス		④ コマンド		⑤ サブコマンド		⑥ データエリア								⑦ ポストアンブル			
F	E	F	E	E	0	8	4	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	F	D

①プリアンブル : データのはじめに挿入する同期用のコードで、16進の“FE”を2回送出します。

②受信アドレス/③送信アドレス

: ID-31の初期アドレスは“84(16進)”とし、コントローラーを“E0”としたときの例を示しています。

④コマンド : コントロールできる機能を16進2桁でコマンドとしています。(※P11-17)

⑤サブコマンド : コマンド補足命令として16進2桁を用います。(※P11-17)

⑥データエリア : 周波数データなどをセットするエリアで、データにより可変長としています。

⑦ポストアンブル : コントロールの終わりを示すコードで、16進の“FD”とします。

■ CI-Vについて(つづき)

● コマンド一覧

コマンド	サブ	データ	動作	
00		P11-18 参照	周波数データの設定(トランシーブ)	
01		P11-18 参照	運用モードの設定(トランシーブ)	
03		P11-18 参照	表示周波数の読み込み	
04		P11-18 参照	表示モードの読み込み	
05		P11-18 参照	周波数データの設定	
06		P11-18 参照	モードの設定	
0C		P11-18 参照	オフセット周波数の読み込み(注1)	
0D		P11-18 参照	オフセット周波数を設定	
0F			現在のデュプレックスの読み込み ※10=シンプレックス、11=DUP-、12=DUP+	
	10		シンプレックスモードに設定	
	11		デュプレックス“-”モードに設定	
	12		デュプレックス“+”モードに設定	
14*	01	P11-18 参照	AFゲイン(音量)の設定	
	03	P11-18 参照	SQLレベルの設定	
	0A	P11-18 参照	RF POWERの設定	
	0B	P11-18 参照	外部MICゲインの設定	
	16	P11-18 参照	VOXゲインの設定	
15	01	00	SQLの状態(Close)の読み込み	
		01	SQLの状態(Open)の読み込み	
	02	0000~0255	Sメーターレベルの読み込み ※0000=S0、0170=S9	
16*	42	00	TONE OFFの設定	
		01	TONE ONの設定	
	43	00	トーンスケルチOFFの設定	
		01	トーンスケルチTSQLの設定	
		02	トーンスケルチTSQL-Rの設定	
	46	00	VOX OFFの設定	
		01	VOX ONの設定	
	4B	00		DTCS OFFの設定
				DTCS ONの設定
				DTCS-R ONの設定
		5B	00	DV DSQL/CSQL OFFの設定
			01	DV DSQL ONの設定
			02	DV CSQL ONの設定
18	00		電源をOFFにする	
	01		電源をONにする(注2)	
19	00		本体のIDコードを読み込む	

コマンド	サブ	データ	動作		
1B*	00	P11-18 参照	レピータ用トーン周波数の設定		
	01	P11-18 参照	トーンスケルチ用トーン周波数の設定		
	02	P11-18 参照	DTCSコードの設定		
	07	P11-19 参照	DV CSQLコードの設定		
1C*	00	00	送受信の切り替え 受信		
		01	送受信の切り替え 送信		
1F*	00	P11-19 参照	DV MYコールサインの読み出し/設定		
	01	P11-19 参照	DV TXコールサインの読み出し/設定		
	02	P11-19 参照	DV TXメッセージの読み出し/設定		
20	00	00*	00/01 (注3)	DV RXコールサインデータの出力設定 ※00=OFF、01=ON	
		01	P11-20 参照	DV RXコールサインのトランシーブ	
		02	P11-20 参照	DV RXコールサインの読み出し	
		01	00*	00/01 (注3)	DV RXメッセージの出力設定 ※00=OFF、01=ON
			01	P11-20 参照	DV RXメッセージのトランシーブ
			02	P11-20 参照	DV RXメッセージの読み出し
	02	00*	00/01 (注3)	DV RX ステータスの出力設定 ※00=OFF、01=ON	
		01	P11-19 参照	DV RXステータスのトランシーブ	
		02	P11-19 参照	DV RXステータスの読み出し	

※ [*]マークの項目は読み込み/設定ができます。

注1: 100Hz未満は切り捨てます。

注2: 電源ONコマンド(18 01)を送る場合、基本フォーマットの前に「FE」を連続して送る必要があります。

下記は、基本フォーマットの前に必要な「FE」の個数の目安です。

- 19200bps : 50個
- 9600bps : 26個
- 4800bps : 14個
- 1200bps : 5個
- 300bps : 3個

例: 4800bpsで通信している場合

		① プリアンブル		② 受信アドレス		③ 送信アドレス		④ コマンド		⑤ サブコマンド		⑦ ポストアンブル			
F	E	F	E	F	E	8	4	E	0	1	8	0	1	F	D

×14

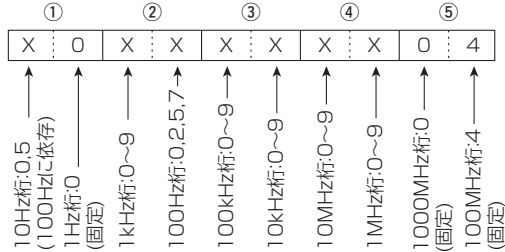
注3: データの出力設定は、いったん電源を切るとOFFに戻ります。

11 各種機能の使いかた

■ CI-Vについて(つづき)

●受信周波数のデータ設定

コマンド：00、03、05



※10Hz桁は、100Hz桁が2または7であれば5固定となり、そのほかは0固定になります。

●運用モードのデータ設定

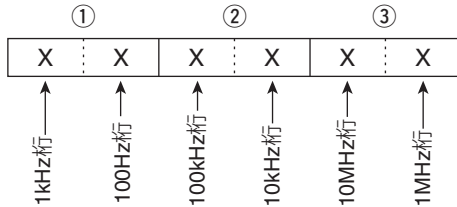
コマンド：01、04、06



運用モード	① モード	② フィルター設定
FM	05	01
FM-N	05	02
DV	17	01

●オフセット周波数のデータ設定

コマンド：0C、0D



●音量のデータ設定

コマンド：1401

VOL0	VOL1	VOL2	VOL3	VOL4
0000~0005	0006~0012	0013~0018	0019~0025	0026~0031
VOL5	VOL6	VOL7	VOL8	VOL9
0032~0037	0038~0044	0045~0050	0051~0057	0058~0063
VOL10	VOL11	VOL12	VOL13	VOL14
0064~0069	0070~0076	0077~0082	0083~0089	0090~0095
VOL15	VOL16	VOL17	VOL18	VOL19
0096~0101	0102~0108	0109~0114	0115~0121	0122~0127
VOL20	VOL21	VOL22	VOL23	VOL24
0128~0133	0134~0140	0141~0146	0147~0153	0154~0159
VOL25	VOL26	VOL27	VOL28	VOL29
0160~0165	0166~0172	0173~0178	0179~0185	0186~0191
VOL30	VOL31	VOL32	VOL33	VOL34
0192~0197	0198~0204	0205~0210	0211~0217	0218~0223
VOL35	VOL36	VOL37	VOL38	VOL39
0224~0229	0230~0236	0237~0242	0243~0249	0250~0255

●スケルチレベルのデータ設定

コマンド：1403

OPEN	AUTO	LEVEL1	LEVEL2	LEVEL3
0000~0022	0023~0046	0047~0069	0070~0092	0093~0115
LEVEL4	LEVEL5	LEVEL6	LEVEL7	LEVEL8
0116~0139	0140~0162	0163~0185	0186~0208	0209~0232
LEVEL9	0233~0255			

●RF POWERのデータ設定

コマンド：140A

S-LOW	LOW	MID	HIGH
0000~0063	0064~0127	0128~0191	0192~0255

●外部MICゲインのデータ設定

コマンド：140B

1	2	3	4
0000~0063	0064~0127	0128~0191	0192~0255

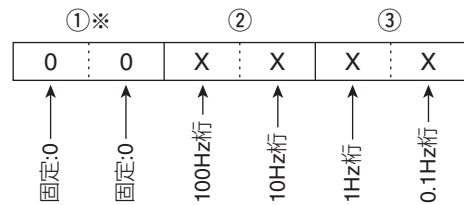
●VOXゲインのデータ設定

コマンド：1416

OFF	1	2	3	4
0000~0022	0023~0046	0047~0069	0070~0092	0093~0115
5	6	7	8	9
0116~0139	0140~0162	0163~0185	0186~0208	0209~0232
10	0233~0255			

●レピータートーン/トーンスケルチ周波数データ

コマンド：1B 00、1B 01

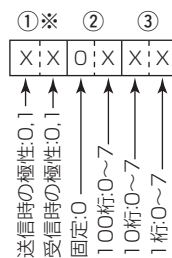


※周波数を設定するときは、入力不要

トーン周波数一覧については10-11ページをご参照ください。

●DTCSコード/極性のデータ設定

コマンド：1B 02



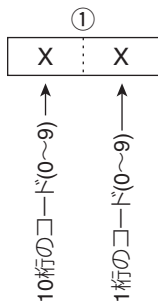
※ 極性を反転しないときは0、反転するときは1を設定してください。

※ DTCSコード一覧については10-12ページをご参照ください。

■ CI-Vについて(つづき)

● DV CSQLコードの設定

コマンド: 1B 07



● DV MYコールサインデータ

コマンド: 1F 00

全12文字

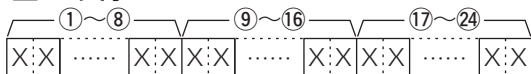


- ①～⑧: 自局のコールサイン(8文字以内)
- ⑨～⑫: メモ(4文字以内)

● DV TXコールサインデータ

コマンド: 1F 01

全24文字



- ①～⑧: URコールサイン
 - ⑨～⑯: アクセスレピータ(R1)のコールサイン
 - ⑰～⑳: ゲートウェイ局(R2)のコールサイン
- 全8文字

コールサインの入力文字コード

キャラクタ	ASCIIコード	説明
0～9	30～39	数字
A～Z	41～5A	英字(大文字)
(スペース)	20	語間(文末以降はデータなしと同じ)
/	2F	記号

● DV TXメッセージデータ

コマンド: 1F 02

全20文字

FF: TXメッセージOFF

各種入力文字一覧データ

キャラクタ	ASCIIコード	種類	キャラクタ	ASCIIコード	種類
0～9	30～39	数字	'	27	記号
A～Z	41～5A	英字	`	60	記号
a～z	61～7A	英字	^	5E	記号
ア～ン	B1～DD	かか	+	2B	記号
ヲ	A6	かか	-	2D	記号
ア～ツ	A7～AF	かか	*	2A	記号
スペース	20	スペース	/	2F	記号
ゝ	DE	記号	.	2E	記号
。 (dot)	DF	記号	,	2C	記号
— (dash)	B0	記号	:	3A	記号
、 (comma)	A4	記号	;	3B	記号
。 (dot)	A1	記号	=	3D	記号
・ (dot)	A5	記号	<	3C	記号
「 (left quote)	A2	記号	>	3E	記号
」 (right quote)	A3	記号	(28	記号
! (exclamation)	21	記号)	29	記号
# (hash)	23	記号	[5B	記号
\$ (dollar)	24	記号]	5D	記号
% (percent)	25	記号	{	7B	記号
& (amp)	26	記号	}	7D	記号
¥ (yen)	5C	記号		7C	記号
? (question)	3F	記号	=	5F	記号
" (quote)	22	記号	_	7E	記号
			@	40	記号

● DV RXステータスデータ

コマンド: 20 0201、20 0202

データ	機能	説明
bit7	0 (0固定)	—
bit6	0/1 通話状態	DV変調受信中のとき1 (DSQL/CSQL設定とは関係なし)
bit5	0/1 終話理由	ユーザー操作で終話したとき1
bit4	0/1 着信状態	受信音が聞こえるとき1
bit3	0/1 BK受信状態	BK点減中のとき1
bit2	0/1 EMR受信状態	EMR点減中のとき1
bit1	0/1 DV以外受信	DV FM点減中のとき1
bit0	0/1 パケットロス状態	パケットロス表示中のとき1

11 各種機能の使いかた

■ CI-Vについて(つづき)

● DV RX コールサインデータ

コマンド: 20 0001、20 0002

①ヘッダフラグデータ(1バイト目)

データ	説明	
bit7 (0固定)	—	
bit6 (0固定)	—	
bit5 (0固定)	—	
bit4 0/1	0=音声、1=データ	
bit3 0/1	0=直接、1=中継	
bit2 0/1	0=割り込みなし、1=割り込みあり	
bit1 0/1	0=データ、1=制御	
bit0 0/1	0=通常通信、1=緊急通信	

②ヘッダフラグデータ(2バイト目)

データ			機能	説明
bit2	bit1	bit0		
1	1	1	レピータ局制御	レピータ局の制御モード
1	1	0	自動応答	自動応答時に使用
1	0	1	(未使用)	(未使用)
1	0	0	再送	再送要求フラグ
0	1	1	ACK	ACKフラグ
0	1	0	応答なし	応答なしフラグ
0	0	1	中継不可	中継不可フラグ
0	0	0	NULL	NULL

③～⑩：CALLERのコールサイン(全8文字)

⑪～⑭：CALLERのコールサイン以降のメモ(全4文字)

⑮～⑲：CALLEDのコールサイン(全8文字)

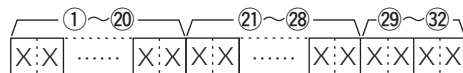
⑳～㉓：RXRPT1のコールサイン(全8文字)

㉔～㉗：RXRPT2のコールサイン(全8文字)

※ FF：電源ON後、一度もコールサインを受信していないとき

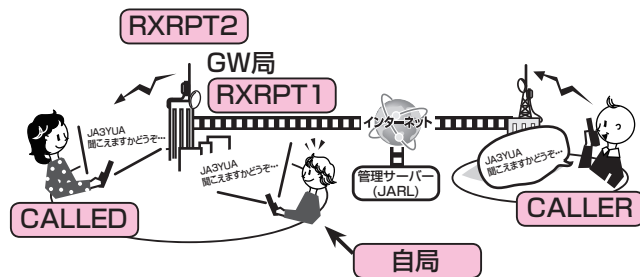
● DV RXメッセージデータ

コマンド: 20 0101、20 0102



※ FF：電源ON後、一度もコールサインを受信していないとき

(例：ゲートウェイ通信で受信した場合)



CALLER：送信局のコールサイン

CALLED：送信局に呼び出された局のコールサイン

RXRPT1：送信局から見たアクセスレピータのコールサイン

※ゲートウェイ通信で呼び出された場合は、自局が直接受信したレピータのゲートウェイ局

RXRPT2：自局が直接受信したレピータのコールサイン

■ microSDカードについて	12-2
■ microSDカードに保存できるデータ	12-2
◇ microSDカードを取り付けるとき	12-3
■ microSDカードの取り付け/取りはずしについて	12-3
◇ microSDカードを取りはずすとき	12-4
■ 設定データをmicroSDカードに保存する	12-5
■ 設定ファイル名を変更して保存する	12-7
■ microSDカードに保存した設定データを本製品に読み込む	12-9
■ microSDカードのデータをパソコンにバックアップする	12-11
◇ microSDカードの階層について	12-11
◇ パソコンにデータをバックアップする	12-12
■ レピータリストを更新するには	12-13

12 microSD カードの使いかた

■ microSDカードについて

microSDカード、microSDHCカードは本製品に付属されていませんので、市販品をお買い求めください。

本製品では、2GBまでのmicroSDカード、および32GBまでのmicroSDHCカードをお使いいただけます。

当社の基準で動作確認しているmicroSDカード、microSDHCカードは、下表のとおりです。

(2012年2月現在)

メーカー名	カードの種類	容量
SanDisk®	microSD	2GB
	microSDHC	4GB
		8GB
		16GB
		32GB

※以降、microSDカード、microSDHCカードは、microSDカードと記載します。

※フォーマット済みmicroSDカードをご使用の場合は、そのままでもご使用いただけますが、本製品の性能を発揮させるために、本製品でフォーマットしてご使用いただくことをおすすめします。

【ご注意】

- ◎ microSDカードお使いの前に、microSDカードの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ◎ データの書き込み中、読み込み中、再生中、保存中、クローニング中に、microSDカードを取りはずしたり、バッテリーパックをはずしたり、本製品の電源を切らないでください。
microSDカードのデータ破損や消去の原因になります。
- ◎ 使用するmicroSDカードの容量が大きくなるほど、認識するまでに時間がかかりますので、ご注意ください。
- ◎ microSDカードを落下させたり、振動や衝撃を与えたりしないでください。
microSDカードのデータ破損や消去の原因になります。
- ◎ 長時間お使いになると、microSDカードが温くなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◎ microSDカードには寿命があり、長期間使用すると書き込みや消去などができなくなる場合があります。
- ◎ microSDカードのデータ破損による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ microSDカードに保存できるデータ

保存できるデータは次のとおりです。

◎ メモリーなどの設定データ

本製品に登録したメモリーデータ、レピータリストなどを保存できます。

◎ 交信内容

相手局との交信内容(音声)を保存できます。

◎ DVモードでの自動応答用音声

DVモードでの、自動応答用音声を保存できます。

◎ GPSで受信した位置情報

GPSで受信した位置情報を軌跡として、ログファイルに保存できます。

■ microSDカードの取り付け/取りはずしについて

◇ microSDカードを取り付けるとき

- ① 本製品の電源を“OFF”にします。
- ② 側面の[**micro SD**]スロットのカバーを開きます。
- ③ microSDカードの端子を前面にして、[**micro SD**]スロットに挿入し、「カチッ」とロックされるまで押し込んでください。
※このとき、microSDカードの端子に触れないでください。
- ④ 側面の[**micro SD**]スロットのカバーを閉じてください。



【ご注意】

本製品にmicroSDカードを取り付けたあと、防水性能を保持するために、[**micro SD**]スロットのカバーを正しく閉じてください。

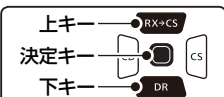
隙間が開かないように閉じる

正しい状態 誤った状態

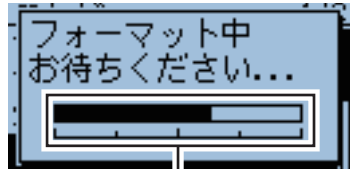
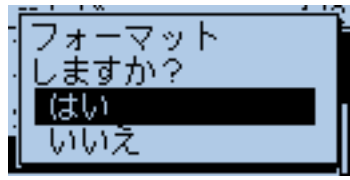
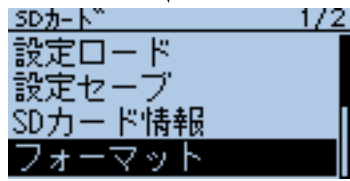
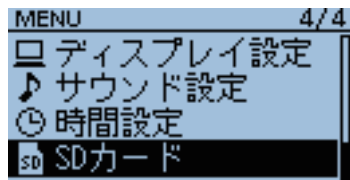
【ご注意】
microSDカードを逆向きに挿入したり、無理やり挿入したりしないでください。
カードやスロットが破損する原因になります。

- ※ 新しいmicroSDカードをお使いになるときは、下記の手順でmicroSDカードをフォーマット(初期化)してください。
- ※ フォーマット(初期化)すると、microSDカード内のすべてのデータが消去されます。

- ① 本製品の電源を“ON”にします。
- ② **[MENU]** を押します。
- ③ **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「SDカード」画面を選択します。



- ④ **上下キー**で“フォーマット”を選択して、**決定キー**で確定します。
●「フォーマットしますか?」画面が表示されます。
- ⑤ **上下キー**で“はい”を選択して、**決定キー**で確定します。
●フォーマットを開始し、フォーマットの進行状況を表示します。
- ⑥ フォーマットが完了すると、MENU画面に戻ります。
[MENU] を押して、MENU画面を解除します。



フォーマットの進行状況を表示

■ 設定データをmicroSDカードに保存する

本製品に設定したメモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストをmicroSDカードに保存できます。

設定データをmicroSDカードに保存しておく、本製品をリセットしたときなどに、もとの運用状態に戻すときに便利です。

【ご参考】

設定データは、クローニングソフトウェア(CS-31)で使用しているファイル形式(ICFファイル)でmicroSDカードに保存されます。

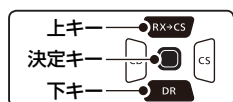
microSDカードに保存した設定データをパソコンに取り込んで、クローニングソフトウェアで編集することもできます。

設定データは、新規ファイルに保存するか、すでに作成したファイルに上書き保存ができます。

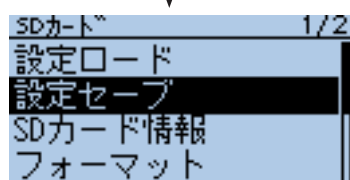
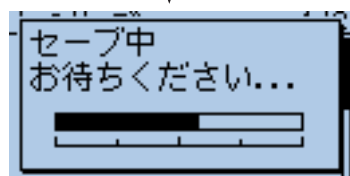
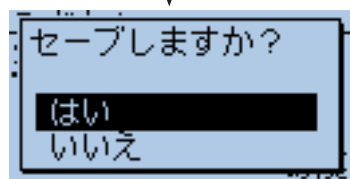
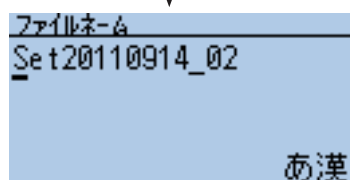
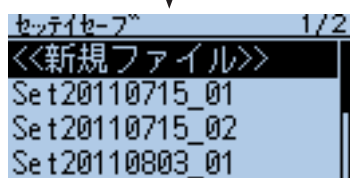
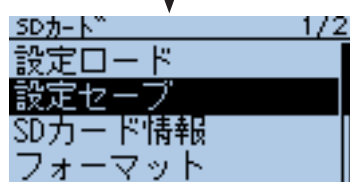
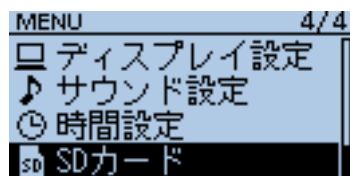
【新規ファイルに保存する場合】

- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「**セッテイセーブ**」画面を表示します。

SDカード > 設定セーブ



- ③ **上下キー**で“**新規ファイル**”を選択して、**決定キー**を押すと、「**ファイルネーム**」画面を表示します。
 - ファイル名は、Setにつづいて、作成する年(y)、月(m)、日(d)、作成番号の順に「Setyyyyymmdd_作成番号」となります。
 - ファイル名を変更する場合は、「設定ファイル名を変更して保存する」をご覧ください。(P12-7)
- ④ **決定キー**を押すと、ファイル名を決定し、「**セーブしますか?**」画面を表示します。
- ⑤ **上下キー**で“**はい**”を選択して、**決定キー**を押すと、設定データを保存します。
 - 保存中、進行状況を表示します。保存が完了すると、「**SDカード**」画面を表示します
- ⑥ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。




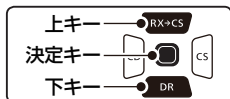
12 microSD カードの使いかた


■ 設定データをmicroSDカードに保存する(つづき)

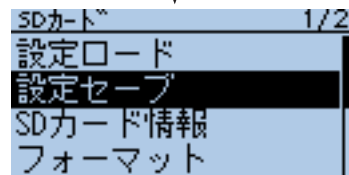
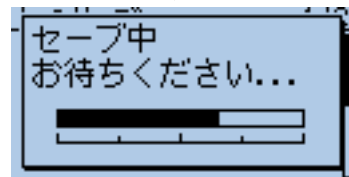
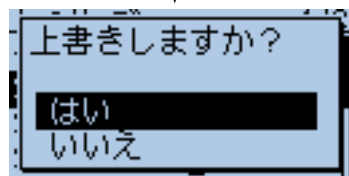
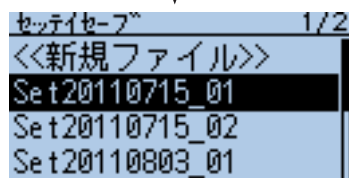
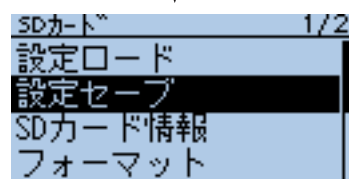
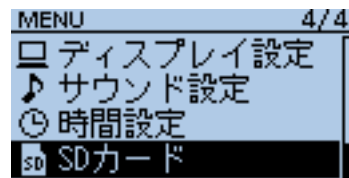
【上書き保存する場合】

(例:Set20110715_01に上書き保存する場合)


- ① **[MENU]**  を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「**セッテイセーブ**」画面を表示します。

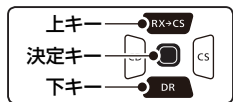





- ③ **上下キー**で上書き保存したいファイルを選択します。
(例:Set20110715_01を選択)
- ④ **決定キー**を押すと、上書き保存するファイルを決定し、「**上書きしますか?**」画面を表示します。
- ⑤ **上下キー**で“はい”を選択して、**決定キー**を押すと、設定データを上書き保存します。
 - 保存中、進行状況を表示します。保存が完了すると、「**SDカード**」画面を表示します
- ⑥ **[MENU]**  を押すと、MENU画面を解除します。



■ 設定ファイル名を変更して保存する

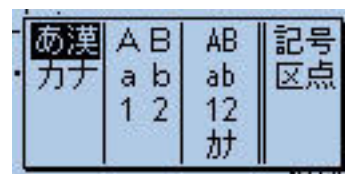
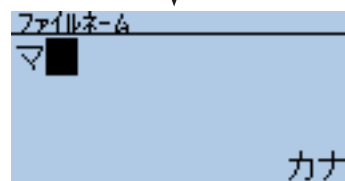
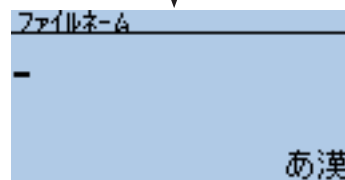
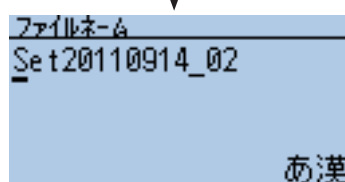
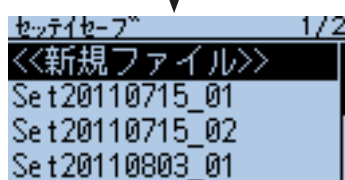
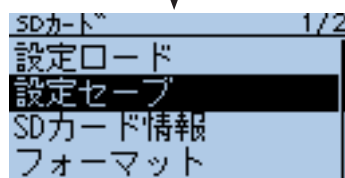
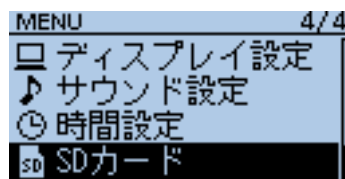
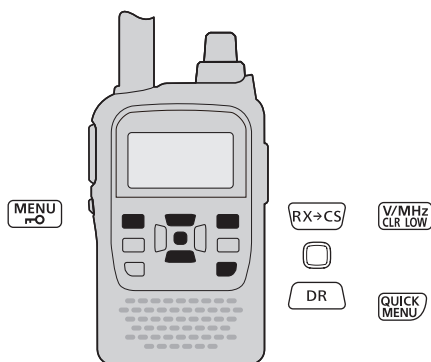
- ① **[MENU]**  を押します。
- ② **上下キー** で選択、**決定キー** で確定、の操作を繰り返して「**セッテイセーブ**」画面を表示します。



- ③ **上下キー** で“**新規ファイル**”を選択して、**決定キー** を押すと、「**ファイルネーム**」画面を表示します。
- ④ **[CLR]**  を押して、入力されている文字を削除します。
 - **[CLR]**  を押すと、選択した文字を削除できます。カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。
 - また、**[CLR]**  を押しつづけると、連続して削除できます。

- ⑤ **[DIAL]** を回し、1桁目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 文字を選択していない状態や、入力文字を再度カーソル選択した状態で **[MENU]** を押すと、入力モード選択画面を表示します。
 - **上下キー** で入力モードを選択し、**決定キー** で確定します。
 - 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、**[QUICK MENU]** を押すと、文字一覧を表示します。
 - **[DR]** を押すと、選択した文字の前にスペースを挿入します。
 - 促音(っ)、拗音(あいうえおやゆよ)の入力は、文字を選択して、**[QUICK MENU]** を押すと選択できます。
 - ※ “カナ” 入力の場合は、文字を選択して、**[QUICK MENU]** を押すごとに切り替わります。

(次のページにつづく)



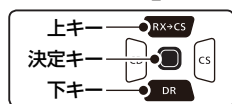
入力モード選択画面

12 microSD カードの使いかた

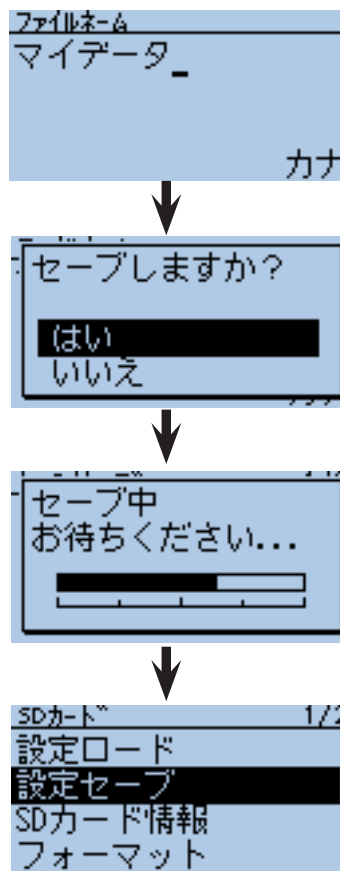
■ 設定ファイル名を変更して保存する(つづき)

- ⑥ **ⓐ**または**ⓑ**を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑦ 手順⑤～⑥を繰り返し、全角7文字(半角14文字)以内(スペースを含む)で設定ファイル名を入力します。
(入力例: マイデータ)
- ⑧ 設定ファイル名の入力完了したら、**決定キー**を押します。
- ⑨ **決定キー**を押すと、ファイル名を決定し、「セーブしますか?」画面を表示します。
- ⑩ **上下キー**で“はい”を選択して、**決定キー**を押すと、設定ファイルを保存します。

- 保存中、進行状況を表示します。保存が完了すると、「SDカード」画面を表示します



- ⑪ **[MENU]** **[MENU]**を押すと、MENU画面を解除します。



入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワヲン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつと なにぬねのはひふへほまみむめもやゆよらり るろわをん (ひらがな1文字選択後、 [QUICK] で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、 すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字(漢字など) や記号を入力できます。

※ ■ はスペースです

※ ファイル名に使用できない文字がありますので、ご注意ください。

■ microSDカードに保存した設定データを本製品に読み込む

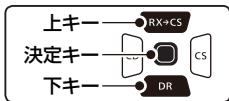
microSDカードに保存したメモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストなどを本製品に設定できます。

メモリーチャンネルやレピータリストなどを、ほかのID-31にコピーして運用するときなどに便利な機能です。

設定データを本製品に読み込ませる前に、現在の設定データをmicroSDカードに保存しておくことをおすすめします。

(例: Set20110715_01のすべての設定データを読み込む場合)

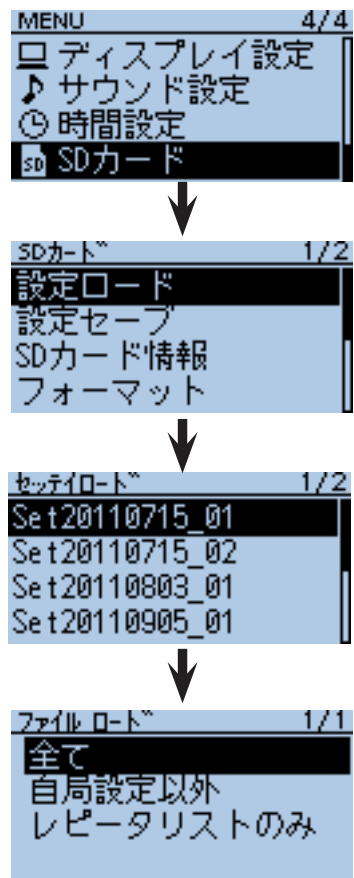
- ① **[MENU]** **[MENU]**を押します。
- ② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して「**セッテイロード**」画面を表示します。



- ③ **上下キー**で本製品に読み込む設定データを選択して、**決定キー**を押すと、「**ファイルロード**」画面を表示します。
- ④ **上下キー**で読み込む内容を、下記から選択します。

- **全て** :メモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストを本製品に読み込ませます。
- **自局設定以外** :メモリーチャンネル、MENU画面内の「自局設定」以外の設定項目、レピータリストを本製品に読み込ませます。
- **レピータリストのみ** :レピータリストだけを本製品に読み込ませます。

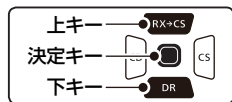
(次のページにつづく)



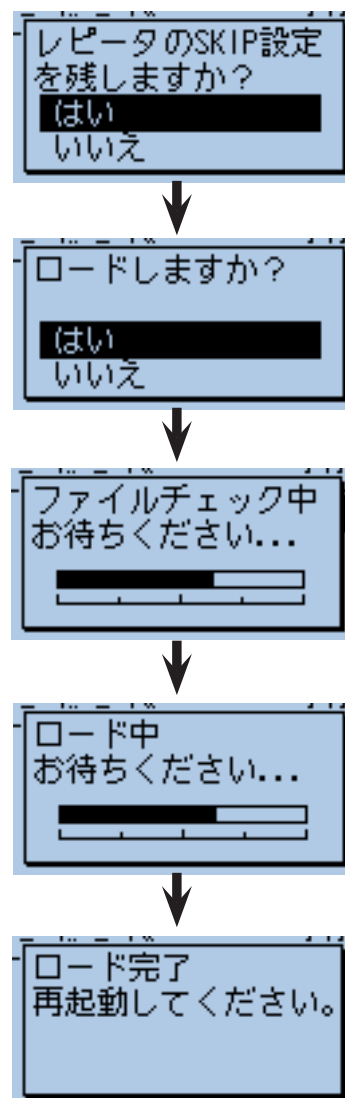
12 microSD カードの使いかた

■ microSDカードに保存した設定データを本製品に読み込む(つづき)

- ⑤ **決定キー**を押すと、ファイル名を決定し、「**レピータのSKIP設定を残しますか?**」画面を表示します。
- ⑥ **上下キー**で“はい”または“いいえ”を選択します。



- “はい”を選択すると、レピータリストのスキップ設定 (P4-32)を保持します。
- ⑦ **決定キー**を押すと、「**ロードしますか?**」画面を表示します。
 - ⑧ **上下キー**で“はい”を選択して、**決定キー**を押すと、ファイルチェックを開始します。
 - ファイルチェック中、「**ファイルチェック中**」画面を表示し、進行状況を表示します。
 - ⑨ ファイルチェック後、設定データの読み込みを開始します。
 - 読み込み中、「**ロード中**」画面を表示し、進行状況を表示します。
 - ⑩ 読み込みが完了すると、「**ロード完了**」画面を表示します。読み込んだデータを有効にするため、**電源**を入れなおしてください。



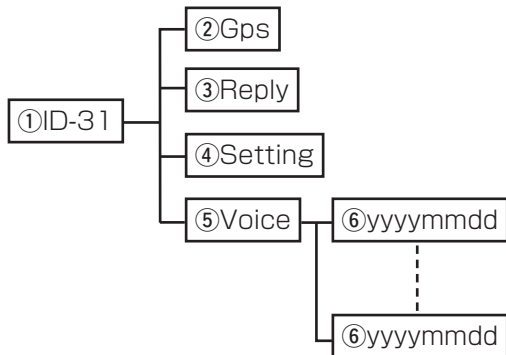
■ microSDカードのデータをパソコンにバックアップする

microSDカードに保存したデータを、パソコンにバックアップしておくと、誤ってmicroSDカード内のデータを削除したときでもデータを復活できます。

お使いになるパソコンにあわせて、microSDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)などを別途ご用意ください。

◇ microSDカードの階層について

microSDカードの階層は次のようになっています。



①ID-31 フォルダー

本製品で作成されるフォルダーは、すべてID-31フォルダー内に作成されます。

②Gpsフォルダー

GPSロガーデータが格納されます。

③Replyフォルダー

DV自動応答データが格納されます。

④Settingフォルダー

本製品の設定データ(icfファイル)が格納されます。

⑤Voiceフォルダー

Voiceフォルダー内に録音した年月日フォルダーが作成されます。

⑥yyyyymmddフォルダー

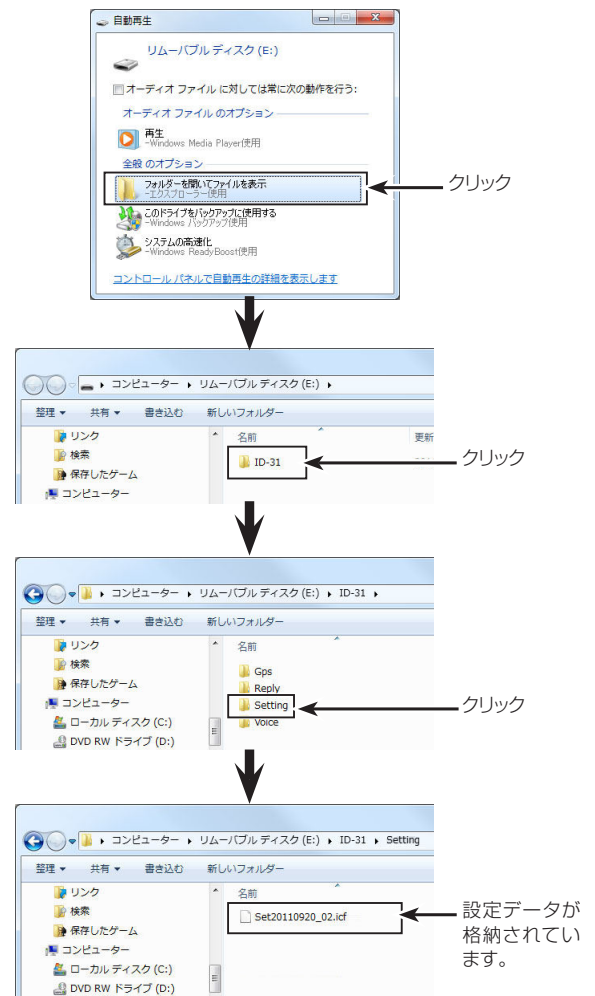
録音した交信内容が格納されます。

- フォルダー名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「yyyyymmdd」となります。

(次のページにつづく)

(例: 設定データを確認する場合)

microSDカードをパソコンに読み込むと下の画面が表示されます。



12 microSD カードの使いかた

■ microSDカードのデータをパソコンにバックアップするとき(つづき)

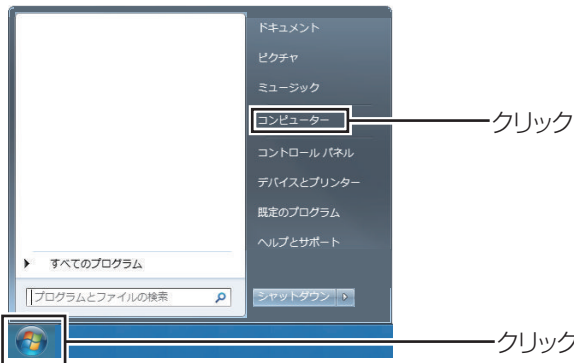
◇ パソコンにデータをバックアップする

※Windows 7を例に説明します。

① パソコンにmicroSDカードドライブが搭載されている場合は、ドライブにmicroSDカードを挿入します。

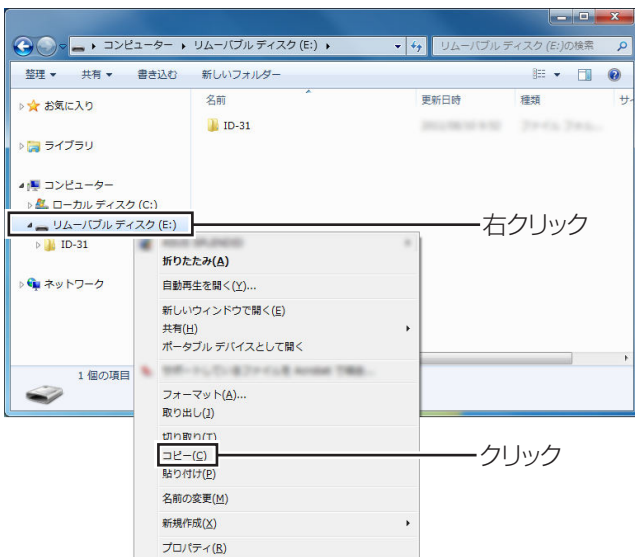
※パソコンにmicroSDカードドライブが搭載されていない場合は、microSDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)をパソコンに接続し、メモリーカードリーダーにmicroSDカードを挿入します。

② パソコンの<スタート>ボタンをクリックし、[コンピューター]をクリックします



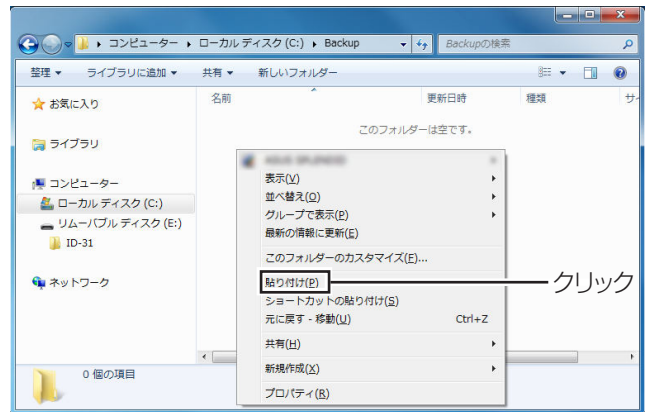
③ [リムーバブル ディスク]にマウスポインターを合わせて、右クリックします。

④ [コピー(C)]をクリックします。



⑤ ハードディスクのデータを保存したいフォルダー内で、右クリックし、[貼り付け(P)]をクリックすると、microSDカード内のデータを、ハードディスクにコピーします。

(例:Cドライブ内の「Backup」フォルダーにコピーするとき)



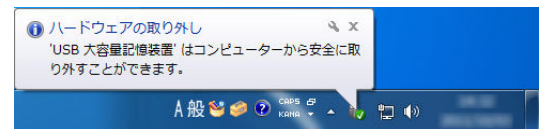
⑥ microSDカードをパソコンから取りはずすときは、タスクバーのmicroSDカードに該当するアイコン(下の画面では「USB2.0 Card Reader」のアイコン)をクリックします。

※画面は、メモリーカードリーダーを取り付けたときの場合です。



⑦ 「ハードウェアの取り外し」情報が表示されてから、microSDカードをパソコンから取りはずしてください。

※画面は、メモリーカードリーダーを取り付けたときの場合です。



■ レピータリストを更新するには

本製品には、D-STAR®がすぐにはじめられるように、使用できる各レピータのコールサインが登録されています。

レピータが開設されると、最新のレピータリストが弊社ホームページに公開されます。

ここでは、microSDカードを使用して、更新する手順を説明します。

1. 最新のレピータリストを入手する

- ① 弊社ホームページ(個人のお客様→はじめよう、楽しもう、D-STAR®→ダウンロード)にアクセスします。
- ② 「CS-31 専用レピータリスト」をクリックし、ZIPファイルをダウンロードします。
 - ダウンロード先に指定した場所(例:デスクトップ)に圧縮ファイル(例:31_Rptlist_J_yymmdd.zip)が保存されます。
- ③ ダウンロードしたファイルを右クリックし、「すべて展開(T) ...」をクリックするとファイルが解凍され、ダウンロードしたファイルと同じ場所(例:デスクトップ)にフォルダー(例:31_RptList_J_yymmdd)が作成されます。

更新日により異なります。

弊社D-STAR®サイトのサポート情報のダウンロード画面

※ここにID-31用のレピータリストがアップされます。

※表示のしかたは変わる場合があります。

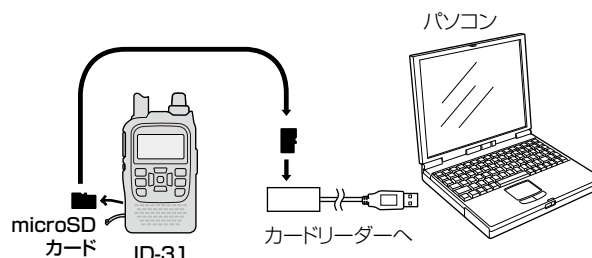


2. microSDカードをパソコンに接続する

- ④ microSDカードを、パソコンと接続されたmicroSDカードスロット、またはカードリーダーに装着します。

※本製品に一度も装着していないmicroSDカードを使用する場合は、あらかじめ本製品で初期化(☞P12-3)してください。

microSDカードの取り付け、取りはずし方法については、12-3ページをご覧ください。



3. 最新のレピータリストをフォルダーにコピーする

- ⑤ パソコン(例:デスクトップ)上に生成されたフォルダー(例:31_Rptlist_J_yymmdd)をダブルクリックします。
- ⑥ フォルダの中にあるICFファイル(例:31_JPN_yymmdd.icf)だけを、microSDカードの[ID-31]フォルダの中にある[Setting]フォルダにコピーします。



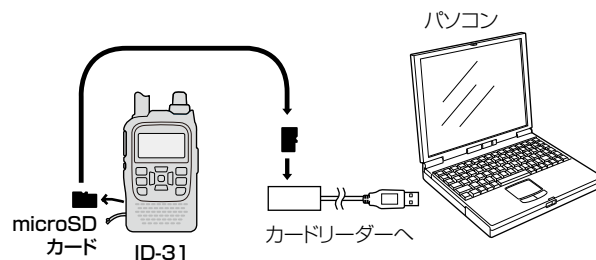
12 microSD カードの使いかた

■ レピータリストを更新するには(つづき)

4. microSDカードを本製品に取り付ける

⑦ microSDカードを、パソコンからはずし、ID-31に取り付けます。

microSDカードの取り付け方法については、12-3ページをご覧ください。

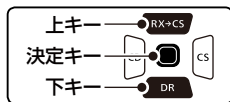


設定データを本製品に読み込ませる前に、現在の設定データをmicroSDカードに保存しておくことをおすすめします。

5. レピータリストを本製品に入れて更新する

⑧ [MENU] (MENU) を押します。

⑨ 上下キーで選択、決定キーで確定、の操作を繰り返して「設定ロード」画面を表示します。
SDカード > 設定ロード

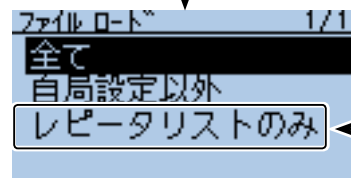
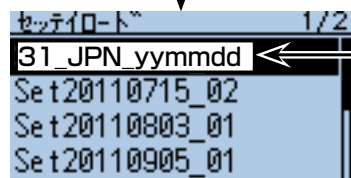
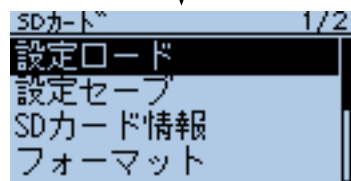
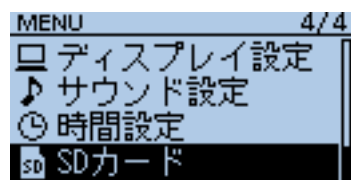


⑩ 上下キーで本製品に読み込むICFファイル(例:31_JPN_yymmdd.icf)を選択して、決定キーを押すと、「ファイルロード」画面を表示します。

⑪ 上下キーで“レピータリストのみ”を選択して決定キーを押します。

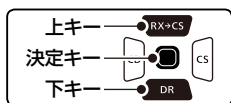
※レピータリストだけを本製品に読み込ませます。

(次のページへ)



■ レピータリストを更新するには(つづき)

- ⑫ 決定キーを押すと、ファイル名を決定し、「レピータのSKIP設定を残しますか？」画面を表示します。



- ⑬ 上下キーで“はい”または“いいえ”を選択します。

- “はい”を選択すると、レピータリストのスキップ設定 (P4-32) を保持します。

- ⑭ 決定キーを押すと、「ロードしますか？」画面を表示します。

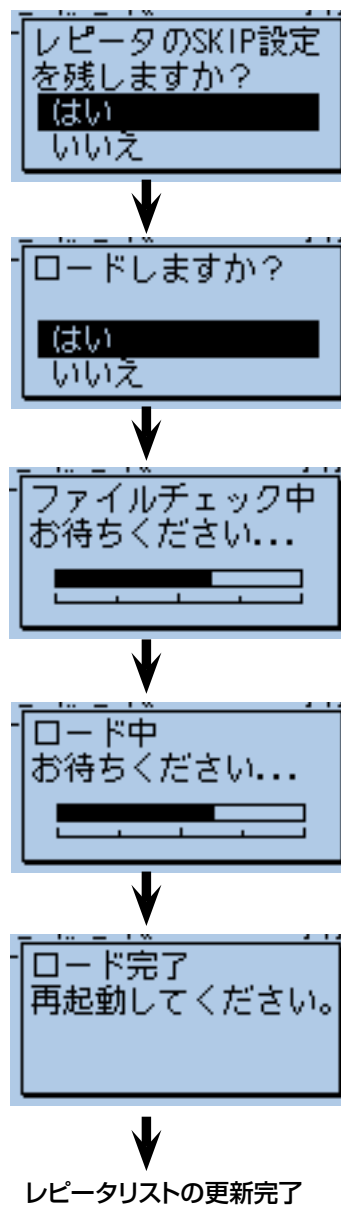
- ⑮ 上下キーで“はい”を選択して、決定キーを押すと、ファイルチェックを開始します。

- ファイルチェック中、「ファイルチェック中」画面を表示し、進行状況を表示します。

- ⑯ ファイルチェック後、設定データの読み込みを開始します。

- 読み込み中、「ロード中」画面を表示し、進行状況を表示します。

- ⑰ 読み込みが完了すると、「ロード完了」画面を表示します。読み込んだデータを有効にするため、電源を入れなおしてください。



故障と思われるときでも、もう一度下表にしたがって点検、確認してください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(冊子版取扱説明書に記載)までお問い合わせください。

◇ D-STAR®運用時

現象	原因	処置	参照
呼び出し後、レピータから何もメッセージが返ってこない(Sメーターも振らない)	<ul style="list-style-type: none"> ◎アクセスするレピータの設定が間違っている ◎レピータの周波数が間違っている(またはデュプレックスの設定が間違っている) ◎レピータのエリアからはずれている(または電波がレピータに届いていない) 	<ul style="list-style-type: none"> ●アクセスするレピータを正しく「FROM」に設定する ●レピータの周波数(またはデュプレックス設定)を正しく設定する ●電波の届くレピータにアクセスする 	P3-7 P1-2、P1-5 P3-9、P3-12
呼び出し後、「UR?」とアクセスレピータのコールサインを表示する	◎アクセスレピータまで電波は届いたが、3秒以内に相手局から応答がなかった	●少し時間を空けてから再度呼び出す	P3-19、
呼び出し後、「RX」または「RPT?」とGWレピータのコールサインを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ◎自局のコールサインが未設定 ◎自局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なる ◎相手局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録または登録内容が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自局のコールサインを設定する ●自局のコールサインをD-STAR管理サーバーに登録する、または登録内容を確認する ●相手局のコールサインの登録状況をD-STAR管理サーバーで確認する 	P2-4、P3-4、P3-5 「D-STAR管理サーバー登録について」(別紙)を参照する
呼び出し後、「RPT?」と呼び出し先レピータコールサインを表示する	◎呼び出し先のレピータにつながらない、または使用中	●少し時間を空けてから再度呼び出す	P3-19
呼び出し後、「RPT?」とアクセスレピータコールサインを表示する	◎レピータコールサインの設定が間違っている	●レピータコールサインを正しく設定する	P3-18、P4-17
[DR]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押ししても、DRモードに切り替わらない	◎レピータの情報がなくなっている	<ul style="list-style-type: none"> ●クローニングソフトウェアCS-31(フリーウェア)でレピータの情報を入れる ●直接無線機でレピータの情報を登録する 	P11-11～ P11-15、P12-9 P4-19
受信中の相手の音声「ケロケロ」「キュロキュロ」音になった	◎伝搬状況が悪くなっている	●伝搬状況のよい場所に移動する	—
[RX→CS]を押して応答しようとしたら、エラービープが鳴り、応答できない	◎コールサインを正しく受信していない	●再度相手が送信するのを待つ	—
ゲートウェイ通信ができない	◎コールサインを一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)に登録していない	●コールサインを一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)に登録する	「D-STAR管理サーバー登録について」(別紙)を参照する
DRモードでシンプルレックス通信ができない	<ul style="list-style-type: none"> ◎レピータリストの「コールサイン」項目に任意のコールサインが入力されている ◎デュプレックスを設定している ◎レピータの周波数が登録されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●レピータリストの「コールサイン」項目をブランクに設定する ●レピータリストの「DUP」項目をOFFに設定する ●シンプルレックス通信ができる周波数を登録する 	P4-24 冊子版取扱説明書の24ページ
デジタルコードスケルチ(CSQL)ができない	◎デジタルコードと間違えてDTCSコードを設定している	●デジタルコードを設定する	P10-12

困ったときは

◇ GPSロガー運用時

現象	原因	処置	参照
GPS受信ができない	◎“外部GPS”を選択して、外部GPSレシーバーを接続していない	●外部GPSレシーバーを接続するか、“内蔵GPS”を選択する	P5-2
	◎“マニュアル”を選択している ◎GPSからの信号を受信できていない	●“内蔵GPS”を選択する ●GPSからの信号を受信できる場所に移動する	P5-2

◇ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作して動作がおかしくなったときは、パースシャルリセット、またはオールリセット操作をしてください。

記憶しているデータがすべて消去されるオールリセット操作については、下記の「オールリセット」ボタンをクリックしてください。

◎パースシャルリセット操作をすると、下記のデータはそのまま残ります。

- メモリーチャンネルデータ
- スキャンエッジ
- コールチャンネル
- コールサインデータ
- メッセージデータ
- DTMFメモリー
- GPSメモリー
- レピータリスト




←クリック

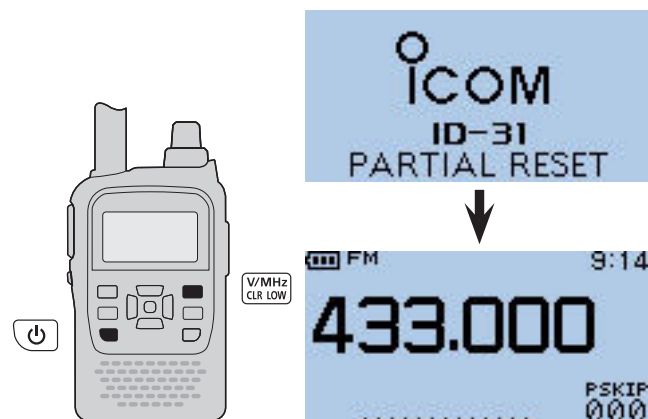
◎オールリセット操作をすると、レピータリストを含め、記憶しているデータはすべて消去され、変更した設定はすべて初期設定に戻ります。

そのため、オールリセット操作後は、レピータリストを再登録するまで、**DRモード**を運用できませんので、ご注意ください。

※ご購入時に登録されていたデータも含まれます。

◇ パースシャルリセットのしかた

- ①  を長く押し、いったん電源を切ります。
- ② **[V/MHz]**  を押しながら、 を長く押し電源を入れます。
 - “PARTIAL RESET”を表示したあと、初期表示になります。



番号

1つ前のファイルの頭出し(ファイルに戻す)をするとき	6-5
1つ前のファイルを再生するとき.....	6-5
1750Hzトーン周波数について.....	11-4

B

BEEP/VOLレベル連動.....	10-56
BK.....	10-44
BK通信の使いかた.....	4-6
BK(割り込み)通信の運用.....	4-6

C

CI-Vアドレス.....	10-51
CI-Vトランシーブ.....	10-51
CI-Vについて.....	11-16
CI-Vの基本フォーマットについて.....	11-16
CI-Vのデータ設定について.....	11-16
CI-Vボーレート.....	10-51

D

D-PRSとは.....	5-18
DRモードスキャン時のスキップ設定.....	4-32
DRモードスキャンとM-CH.....	9-33
DRモードスキャンとVFO周波数.....	9-25
DRモードスキャンとコールチャンネル.....	9-29
DRモードで設定した内容をメモリーに書き込む.....	4-19
DRモードでできること.....	2-2
DRモードとM-CH.....	9-31
DRモードとVFO周波数.....	9-23
DRモードとコールチャンネル.....	9-27
DRモードとは.....	2-2
D-STAR管理サーバーで識別登録をする.....	4-40
D-STAR®とは.....	2-2
DTCS極性.....	10-12
DTCSコード.....	10-12
DTCSコード/極性のデータ設定.....	11-18
DTCSコードスケルチ機能とは.....	11-9
DTCSコードを初期値に戻すには.....	11-9
DTCSコードを設定して、交信するには.....	11-9
DTMF/T-CALLについて.....	10-46
DTMFコードの送出のしかた.....	11-4
DTMFスピード.....	10-46
DTMFスピードの設定.....	11-5
DTMFメモリー.....	10-46
DTMFメモリー機能の使いかた.....	11-2
DTMFメモリーの書き込みかた.....	11-2
DTMFメモリーの消去のしかた.....	11-6
DUP/トーン設定について.....	10-11

DV CSQLコードの設定.....	11-19
DV MYコールサインデータ.....	11-19
DV RX コールサインデータ.....	11-20
DV RXステータスデータ.....	11-19
DV RXメッセージデータ.....	11-20
DV TXコールサインデータ.....	11-19
DV TXメッセージデータ.....	11-19
DV自動応答.....	10-19
DV自動検出.....	10-43
DV自動検出機能について.....	4-9
DV受信バックライト.....	10-53
DV設定について.....	10-41
DVデータ送信.....	10-42
DVメモリーについて.....	10-38

E

EMR.....	10-44
EMR AFレベル.....	10-44
EMR信号受信時の音量を調整する.....	4-8
EMRモードの運用.....	4-7

F

「FROM」の各種設定方法.....	3-7
「FROM」を「DRモードスキャン」から設定する.....	3-12
「FROM」を「送信履歴」から設定する.....	3-11
「FROM」を「最寄レピータ」から設定する.....	3-9
「FROM」を「レピータリスト」から設定する.....	3-8

G

GPS-Aシンボル.....	10-30
GPS-Aデータの送信.....	5-18
GPS-Aの使用手順.....	5-18
GPS-Aの設定.....	5-19
GPSアラームを設定する.....	5-14
GPSインジケータ.....	10-20
GPS時刻補正.....	10-58
GPS自動送信.....	10-33
GPS自動送信の設定.....	5-24
GPS出力.....	10-22
GPS情報.....	10-23
GPS情報(天空図)を確認する.....	5-7
GPS選択.....	10-20
GPSセンテンス.....	10-27
GPSセンテンスの設定.....	5-16
GPS送信モード.....	10-26
GPSデータの送信.....	5-16
GPSデータをGPSメモリーに新規登録する.....	5-8
GPSデータを削除する.....	5-13
GPSについて.....	10-20

アンマウント…………… 10-59

い

一時停止するとき…………… 6-5
位置情報の表示…………… 5-3
位置情報を確認する…………… 5-3

う

運用モードのデータ設定…………… 11-18

お

応答設定時に相手局のコールサインを読み上げるには
…………… 4-14
オートパワーオフ…………… 10-58
オートレピータ…………… 10-48
オートレピータ機能での交信…………… 1-2
オープニングメッセージ…………… 10-54
オフセット周波数…………… 10-11
オフセット周波数の設定…………… 1-4
オフセット周波数のデータ設定…………… 11-18
オフセット周波数を初期値に戻すには…………… 1-4
親機側の画面…………… 11-15
音量のデータ設定…………… 11-18

か

書き込み後のオートインクリメントについて…………… 7-5
各モードのスキャンについて…………… 8-2
簡易データ通信について…………… 4-12
簡易データ通信の操作…………… 4-12

き

キーロック…………… 10-49
聞こえてきた局に応答するには…………… 3-4
軌跡情報をパソコンで確認する…………… 5-27
機能設定について…………… 10-47
記録間隔…………… 10-26
記録間隔を設定する…………… 5-26

く

グリッド・ロケータを表示する…………… 5-4
グループごとにレピータをスキップ設定する…………… 4-32
クローニングについて…………… 11-11

け

ゲートウェイ通信…………… 2-2
ゲートウェイ通信でCQを出す…………… 3-3
ゲートウェイ通信のしかた…………… 3-3
ケーブル接続図…………… 11-15

こ

交信内容(音声)をmicroSDカードに録音する…………… 6-2
高度…………… 10-29
高度/距離表示単位…………… 10-21
コールサインについて…………… 10-34
コールサインの設定を確認する…………… 4-19
コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた…………… 7-3
個別にレピータをスキップ設定する…………… 4-32
コマンド一覧…………… 11-17
コメント…………… 10-33
コンパス方向を変更する…………… 5-5

さ

再スタート時間…………… 10-13
再生中の操作について…………… 6-5
再生用ソフトウェア…………… 6-18
サウンド設定について…………… 10-56

し

自局コールサイン…………… 10-40
自局コールサインの登録…………… 2-4
自局設定について…………… 10-40
自局または受信した局の位置情報を保存する…………… 5-6
時刻をあわせるときは…………… 10-57
システム言語…………… 10-55
自動応答…………… 10-42
自動応答機能の使いかた…………… 4-10
自動応答用の音声を録音する…………… 4-11
市販のmicroSDカードを使ったPC間クローン…………… 11-14
市販のmicroSDカードを使った本体間クローン…………… 11-11
市販のケーブルを使った本体間クローン…………… 11-15
受信音質(高音)…………… 10-41
受信音質(低音)…………… 10-41
受信コールサインスピーチ…………… 10-45
受信コールサイン表示…………… 10-53
受信したコールサインを確認する…………… 4-5
受信時に相手局のコールサインを読み上げるには…………… 4-13
受信周波数のデータ設定…………… 11-18
受信信号の有無に関わらず録音するとき…………… 6-12
受信バスブースト…………… 10-41
受信メッセージ表示…………… 10-53
受信モードについて…………… 8-3
受信履歴から相手局のコールサインを登録する…………… 3-5
受信履歴からレピータ情報を登録する…………… 4-30
受信履歴記録(RPT)…………… 10-43
受信履歴内容を確認するときは…………… 10-36
受信履歴について…………… 10-36
受信履歴のコールサインをネーム表示に切り替える
…………… 4-30

さくいん

受信履歴を削除するには	4-5	送信音質(高音)	10-41
受信履歴を呼び出して確認する	4-5	送信音質(低音)	10-41
受信録音条件	10-17	送信コールサイン表示	10-54
出荷時のレピータリストについて	4-39	送信時のオフバンド表示について	1-5
信号を受信すると	8-3	送信、受信を1つのファイルに保存する	6-13
シンプルマイク	10-48	送信するまでの流れ	2-3
シンプルックス通信	2-2	送信するメッセージを登録する	4-2
シンプルックス通信でCQを出す	3-20	送信メッセージ	10-40
シンプルックス通信のしかた	3-20	送信メッセージを選択する	4-3
		速度表示単位	10-21
す			
スキップ機能について	8-3	た	
スキップ時間	10-18	タイムアウトタイマー	10-49
スキップ時間を変更する	6-6	タイムスタンプ	10-29
スキップ周波数の解除	8-6	ダイヤル加速	10-48
スキップ周波数の登録	8-6	ち	
スキップ周波数の登録と解除について	8-6	地図ソフトで自局の位置を確認する	5-23
スキップチャンネルの指定と解除のしかた	8-10	着信コールサイン登録	10-43
スキャンストップ時のビーブ音設定	8-3	着信レピータ登録	10-43
スキャンストップビーブ	10-56	チューニングステップについて(VFOスキャン)	8-3
スキャン設定について	10-13	つ	
スキャン中の[DIAL]操作について	8-3	通信ソフトウェアの設定について	4-12
スキャン中のスケルチ調整	8-3	次のファイルの頭出し(ファイルを送る)をするとき	6-5
スキャンについて	8-2	次のファイルを再生するとき	6-5
スキャンネームが登録されている場合	8-5	て	
スキャンネームについて(VFOスキャン)	8-3	停止時間	10-13
スキャンネームを入力する	7-10	ディスプレイ設定について	10-52
スクロール速度	10-54	データ拡張	10-29
スケルチレベルのデータ設定	11-18	データスピード	10-50
スコープAF出力	10-56	デジタルコード	10-12
スタンバイビーブ	10-56	デジタルコードスケルチ機能	4-17
スピーチ機能の使いかた	4-13	デジタルコードスケルチを設定する	4-18
スピーチ言語	10-45	デジタルコードスケルチをポケットビーブで待ち受け受信しているとき	4-18
スピーチ速度	10-45	デジタルコールサインスケルチ機能	4-17
スピーチについて	10-45	デジタルコールサインスケルチを設定する	4-17
スピーチの発音を日本語から英語に変更するには	4-15	デジタルコールサインスケルチをポケットビーブで待ち受け受信しているとき	4-17
スピーチレベル	10-45	デジタルモニター	10-42
すべてのGPSメモリーを削除する	5-13	デジタルレピータセット	10-42
すべてのフォルダーを一括消去する	6-11	デュプレックス(DUP)スキャン	8-2
せ			
設定セーブ	10-59	デュプレックス運用について	1-4
設定データをmicroSDカードに保存する	12-5	デュプレックスモードで交信する	1-5
設定ファイル名を変更して保存する	12-7	デュプレックスモードの設定	1-5
設定ロード	10-59	電圧表示	10-54
選択したフォルダーを消去する	6-10		
そ			
操作音	10-56		

と

登録したDTMFコードをモニターするには	11-3
登録したメッセージを削除する	4-4
トーン周波数を設定して、交信するには	11-7
トーンスキャン	8-2
トーンスケルチ機能	11-7
トーンバースト	10-12

に

日時設定	10-57
------	-------

は

パソコンとの接続	11-16
パソコンにデータをバックアップする	12-12
パソコンの接続について	4-12
バックライト	10-52
バックライトタイマー	10-52
早送りするとき	6-5
パワーセーブ	10-47
パワーセーブ(内蔵GPS)	10-20
バンクネームを入力する	7-10
バンクリンク	10-13

ひ

ビープレベル	10-56
ビジーLED	10-52
ビジーロックアウト	10-49
日付をあわせるときは	10-57
表示言語	10-55
表示タイプ	4-8、7-12

ふ

ファイル再生	10-16
ファイル情報を確認する	6-15
ファイル分割	10-17
フォルダー内のすべて交信内容(音声)を一括消去する	6-9
フォーマット	10-59
フォルダー情報を確認する	6-16
複数のD-STAR®機を運用するには	4-40
プライオリティースキャンについて	9-2
プログラムスキップ	10-13
プログラムリンク	10-14

へ

ヘッドセット選択	10-51
別売品のケーブルを使ったPC間クローン	11-14

ほ

ボイスプレーヤー画面について	6-7
ボイスメモリーを使用する	6-1
ポジションフォーマット	10-21

ま

マイクゲイン(外部)	10-50
マイクゲイン(内部)	10-50
巻き戻しするとき	6-5
マニュアル位置	10-20

め

迷惑な設定	4-42
メッセージ機能の使いかた	4-2
メッセージのスクロール表示について	4-3
メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた	7-4
メモリークリア(消去)のしかた	7-13
メモリースキャン	8-2
メモリースキャンの操作	8-7
メモリーチャンネル(M-CH)の内容	7-2
メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する	7-7
メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた	7-3
メモリーチャンネルについて	7-2
メモリー内容をVFOに転送して使うには	7-5
メモリーネームの表示について	7-12
メモリーバンクスキャン	8-2
メモリーバンク/スキャンネームの使いかた	7-10
メモリーバンクスキャンの操作	8-8
メモリーモードでD-STAR®を運用するには	4-19
メモリーモードのスキャン	8-7

も

モニター	10-48
------	-------

や

山掛け通信	2-2
山掛け通信でCQを出す	3-2
山掛け通信のしかた	3-2

よ

呼び出しを受けるとビープ音を鳴らすには	11-10
読み上げ音量を変更するには	4-16
読み上げ速度を遅くするには	4-16
読み上げ方法を「アルファ、ブラボー、チャーリー…」(フォネティックコード)に変更する	4-15

さくいん

り

- リンク設定のしかた…………… 10-14
- リンクネームの編集…………… 10-15

れ

- レピータが表示される順番を並べ替える…………… 4-31
- レピータ局の中継が必要かどうかを確認する…………… 1-3
- レピータ局を介して交信する…………… 1-3
- レピータ周波数の設定…………… 1-2
- レピータ詳細表示について…………… 4-34
- レピータトーン周波数…………… 10-11
- レピータトーン/トーンスケルチ周波数データ …… 11-18
- レピータのグループネームを登録するには…………… 4-33
- レピータリスト…………… 10-38, 10-39
- レピータリストについて…………… 4-20
- レピータリストに登録できる設定項目一覧…………… 4-20
- レピータリストにレピータ情報を登録する…………… 4-21
- レピータリストにレピータを新規登録する…………… 4-21
- レピータリストのレピータ情報を削除する…………… 4-29
- レピータリストのレピータ情報を編集する…………… 4-28

ろ

- 録音開始…………… 10-16
- 録音した交信内容(音声)を消去する…………… 6-8
- 録音した交信内容をパソコンで再生する…………… 6-18
- 録音した内容を聞く…………… 4-11
- 録音内容を削除したい場合は…………… 4-11
- 録音モード…………… 10-17
- 録音モードを変更する…………… 6-3
- 録音を開始するとき…………… 6-2
- 録音を停止するとき…………… 6-2

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32